(財)八尾市文化財調査研究会報告 10

小阪合遺跡

—八尾都市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査—

〈昭和57年度　第1次調査報告書〉

1987年

(財)八尾市文化財調査研究会

小 阪 合 遺 跡

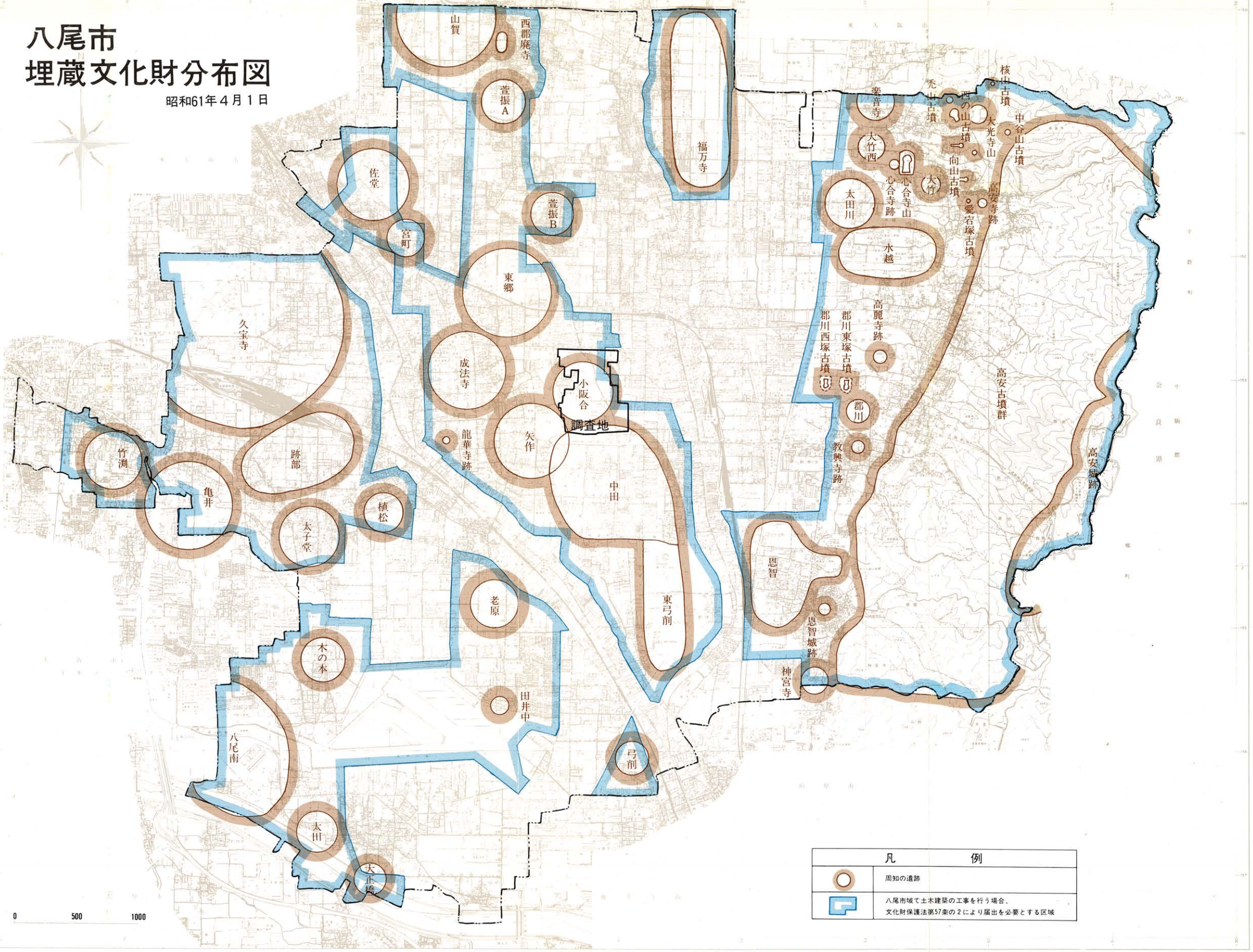
—八尾都市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査—
〈昭和57年度　第1次調査報告書〉

1987年

(財)八尾市文化財調査研究会

八尾市
埋蔵文化財分布図

昭和61年４月１日



凡例	
	周知の遺跡
	八尾市域て土木建築の工事を行う場合、 文化財保護法第57条の２により届出を必要とする区域

（昭和57年４月撮影）

424

430

433

434

435

502

496

A－Ⅳ地区河川３　424.430墨書土器・433.434.435墨書人面土器
A－Ⅱ･21･22地区河川１　496墨書土器・502墨書人面土器

序　　文

八尾市は、古くより旧大和川のもたらす豊かな水と、肥沃な土壌を基盤に、多くの人々が生活してきた地域で、先人の残した生活の跡を偲ぶことのできる遺物、遺構は何事にもかえ難い遺産であり、後世に伝えるべき国民共有の財産であります。

今回、報告の運びとなりました小阪合遺跡は、本市の中央部に位置し、八尾都市計画事業南小阪合土地区画整理事業（以下「区画整理事業」という）にともなう発掘調査であります。当区画整理事業区域は、面積30haの平坦地で、北は都市計画道路の平野中高安線、南は曙川土地区画整理事業区域（施行済）、東及び西は既存の集落に接しているのでありまして、当区域は道路の未整備から市街化が遅れ、加えて周辺地区の急激な公共施設の整備を見るに及んで、市街化の動向が顕著化してきたのであります。この様な背景の中で、市街化を計画的に進めるため、基盤整備として同事業を施行、昭和56年３月認可がなされ、昭和65年３月までの施行期間を以て事業が進められているのであります。

何分にも今回の調査は、当調査研究会が発足当初のこともあり、何かと戸惑いもありましたが、ここに、昭和57年度に実施した第１次調査の報告書が刊行できました。この間、大阪府をはじめ、八尾市区画整理事務所、並びに八尾市教育委員会、更にはこの調査に関与くださいました関係各位に、深甚なる感謝を申しあげます。今後、この報告書が広く文化財保護にご活用いただければ、この上もない幸せに存じます。今後共、当調査研究会に対し、尚一層のご指導とご協力をお願い申しあげます。尚、引き続いて年度を追って発刊いたす予定であることを附記します。

昭和62年３月

財団法人八尾市文化財調査研究会
理事長　　山　脇　悦　司

例　　言

1．本書は、八尾市南小阪合町・青山町・山本町南に所在する八尾都市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴う昭和57年第1次調査の報告書である。

1．本書で報告する小阪合遺跡の発掘調査は、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾都市整備室南小阪合土地区画整理事務所の委託を受けて実施したものである。

1．本書に要した費用は全て南小阪合土地区画整理事務所が負担した。

1．本書の発掘調査の期間は、昭和57年11月27日～昭和58年3月15日までである。なお、出土遺物の整理作業及び報文作成業務は、昭和59年度第4次調査終了後の昭和59年11月1日～昭和60年3月25日までである。

1．本調査並びに報告書に関係した者は下記のとおりである。

理事長　山脇悦司

事務局長　岡田繁春（昭和57年7月1日～同年8月31日）
松井一雄（昭和57年9月1日～昭和58年6月30日）
児玉生一（昭和58年7月1日～昭和61年3月31日）
市森管萱（昭和61年4月1日以降現在に至る）

事務員　森本よしの
中谷暁子

調査員　高萩千秋

1．第6章胎土分析については、八尾市立刑部小学校教諭奥田尚氏、八尾市教育委員会文化財室米田敏幸氏の御協力をいただいた。

1．本調査の参加諸氏は、駒沢敦・野田雅彦・中野慶太・笹井伸彦・香林浩道・山西嘉彦・中野健太郎・松永浩司・小川克則・毛尾明彦・清間一仁・津田考一・須場一行・西辻正信・香林貴法・徳谷貢正・中川暁・南艸俊幸・松村一・池田まゆみ・木曽直美・坂上弘子・中村百合・河野宏子であり、内業整理は上記に加えて北尾耕三・米野茂幸・西森忠幸・佐藤佳三・中西由紀子・汲田明子・岩本多貴子・徳谷久美子・寺川恵子・北村教江・堂園ゆり子・横山妙子・大黒静子・横山真鶴・中西隆子の協力を得た。

1．本調査に関わる土木工事は㈱東海アナースが請負った。

1．本書の執筆は高萩が担当したが、第5章出土遺物観察表は木曽・岩本、第6章胎土分析は奥田氏が行った。

1．本書の作成にあたり、遺物写真撮影は高萩、トレースは北尾・山西が行った。

1．全体の編集構成は、全員が協同で行った。

凡　　例

1．実測図の縮尺率は、遺構は1/60・1/80・1/100を基本とし、遺物は土器・埴輪等を1/4、井戸の木枠を1/8に統一した。

1．遺構実測図の方位は、全て真北を示している。

1．遺構番号は、発掘調査時で付したそのままの番号で記載した。

1．遺物実測図は、断面の表示によって次のように分類した。弥生式土器•土師器•黒色土器・瓦・埴輪－白、須恵器－黒、木製品－斜線で表した。

1．本書掲載の地図は、国土地理院発行の1/25000・八尾市発行の1/2500・1/1000を使用した。

1．本書で用いた高さの基準は東京湾の平均海面で、ＴＰと略して記載した。

1．本調査に際しては、写真・実測図の他にカラースライドも多数作成している。市民の方々が、広く利用されることを希望する。

本　文　目　次

八尾市埋蔵文化財分布図
巻頭図版　航空写真
巻頭図版　出土遺物
序文
例言
凡例
第１章　調査の目的と経過…… 1
第２章　地理・歴史的環境…… 4
第３章　調査の概要…… 7
　第１節　調査の方法…… 7
　第２節　地区割…… 7
第４章　調査の結果…… 8
　第１節　基本層序…… 8
　第２節　地区の概要……13
　第３節　弥生時代後期の遺構・遺物（第２調査面）……15
　第４節　古墳時代前期の遺構・遺物（第２調査面）……24
　第５節　古墳時代中期の遺構・遺物（第１調査面）……53
　第６節　奈良～平安時代の遺構・遺物（第１調査面）……65
　第７節　中世～近世の遺構・遺物（第１調査面）……98
　第８節　遺物包含層…… 102
第５章　出土遺物観察表…… 133
第６章　土器胎土中の砂礫観察…… 216
　第１節　はじめに…… 216
　第２節　類型区分…… 216
　第３節　類型の特徴…… 217
　第４節　砂礫種構成から推定される砂礫の採取地…… 222
第７章　まとめ…… 230

挿　図　目　次

第１図　調査地位置図……3
第２図　地形分類図……5
第３図　第１次調査地地区割図……9•10
第４図　断面図……11•12
第５図　Ａ－Ⅲｄ地区ＳＫ23平断面図……15
第６図　Ａ－Ⅲｄ地区ＳＫ23遺物実測図……15
第７図　22ｋ地区ＳＫ36平断面図……16
第８図　22ｋ地区ＳＫ36出土遺物実測図……17
第９図　22ｋ地区ＳＫ37平断面図……18
第10図　22ｋ地区ＳＫ37出土遺物実測図……18
第11図　Ａ－Ⅲｄ地区ＳＰ31出土遺物実測図……19
第12図　Ａ－Ⅲｇ地区ＳＤ26出土遺物実測図……21
第13図　22ｊ地区ＳＤ109・ＳＤ110平面図……22
第14図　Ａ－Ⅲｆ地区ＳＤ28・22地区ＳＤ109・ＳＤ110出土遺物実測図……22
第15図　22ｌ地区落ち込み11出土遺物実測図……23
第16図　Ａ－Ⅰｂ地区ＳＫ２平面図……24
第17図　Ａ－Ⅰｂ地区ＳＫ２出土遺物実測図……25
第18図　Ａ－Ⅰｃ地区ＳＥ１平断面図……26
第19図　Ａ－Ⅰｃ地区ＳＥ１出土遺物・木枠実測図１……28
第20図　Ａ－Ⅰｃ地区ＳＥ１木枠実測図２……29
第21図　Ａ－Ⅰｃ地区ＳＥ１木枠実測図３……30
第22図　Ａ－Ⅰｃ地区ＳＥ１木枠実測図４……31
第23図　Ａ－Ⅰｃ地区ＳＥ１木枠実測図５……32
第24図　Ａ－Ⅰｃ地区ＳＥ１木枠実測図６……33
第25図　Ａ－Ⅰｂ地区落ち込み１出土遺物実測図……34
第26図　Ａ－Ⅲａ地区落ち込み７平断面図……35
第27図　Ａ－Ⅲａ地区落ち込み７出土遺物実測図１……42
第28図　Ａ－Ⅲａ地区落ち込み７出土遺物実測図２……43
第29図　Ａ－Ⅲａ地区落ち込み７出土遺物実測図３……44

第30図　A－Ⅲa地区落ち込み7出土遺物実測図4……45
第31図　A－Ⅲa地区落ち込み7出土遺物実測図5……46
第32図　A－Ⅲa地区落ち込み7出土遺物実測図6……47
第33図　A－Ⅲa地区落ち込み7出土遺物実測図7……48
第34図　A－Ⅲa地区落ち込み7出土遺物実測図8……49
第35図　A－Ⅲa地区落ち込み7出土遺物実測図9……50
第36図　A－Ⅲa地区落ち込み7出土遺物実測図10……51
第37図　A－Ⅲa地区落ち込み7出土遺物実測図11……52
第38図　A－Ⅲc地区SK12平断面図……54
第39図　A－Ⅲc地区SK12出土遺物実測図……54
第40図　A－Ⅲd地区SK13平断面図……55
第41図　A－Ⅲd地区SK13出土遺物実測図……55
第42図　A－Ⅲd地区SK14平面図……55
第43図　A－Ⅲd地区SK14出土遺物実測図……56
第44図　A－Ⅲb地区SK21平断面図……58
第45図　A－Ⅲd地区SK22平断面図……58
第46図　A－Ⅱe地区落ち込み4出土遺物実測図……59
第47図　A－Ⅱf地区落ち込み5出土遺物実測図……60
第48図　A－Ⅱf地区落ち込み5出土遺物実測図……61
第49図　A－Ⅱd・e地区落ち込み6出土遺物実測図……61
第50図　22g・h地区落ち込み9出土遺物実測図……62
第51図　A－Ⅱg・h地区SD17・SD18出土遺物実測図……63
第52図　A－Ⅱg・h地区SD17・SD18出土遺物実測図……64
第53図　A－Ⅲa地区SB1平断面図……65
第54図　A－Ⅲe地区SB2平断面図……66
第55図　A－Ⅲb地区SE2平断面図……70
第56図　A－Ⅲb地区SE2出土遺物・木枠実測図1……71
第57図　A－Ⅲb地区SE2木枠実測図2……72
第58図　A－Ⅲb地区SE2木枠実測図3……73
第59図　A－Ⅲb地区SE2木枠実測図4……74
第60図　A－Ⅲb地区SE2木枠実測図5……75
第61図　A－Ⅲb地区SE2木枠実測図6……76

第62図　A－Ⅲb地区ＳＥ２木枠実測図７……77
第63図　A－Ⅲb地区ＳＥ２木枠実測図８……78
第64図　A－Ⅲb地区ＳＥ２木枠実測図９……79
第65図　A－Ⅲb地区ＳＥ２木枠実測図10……80
第66図　A－Ⅲb地区ＳＥ２木枠実測図11……81
第67図　A－Ⅲb地区ＳＥ２木枠実測図12……82
第68図　A－Ⅲb地区ＳＥ２木枠実測図13……83
第69図　22c地区ＳＫ５平断面図……84
第70図　A－Ⅲc地区落ち込み８出土遺物実測図……86
第71図　A－Ⅳa～c地区河川３出土遺物実測図……91
第72図　A－Ⅱa・21・22a地区河川１出土遺物実測図１……93
第73図　A－Ⅱa・21・22a地区河川１出土遺物実測図２……94
第74図　A－Ⅱa・21・22a地区河川１出土遺物実測図３……95
第75図　A－Ⅱa・21・22a地区河川１出土遺物実測図４……96
第76図　A－Ⅱa・21・22a地区河川１出土遺物実測図５……97
第77図　22a地区ＳＥ４平断面図……98
第78図　A－Ⅰ・A－Ⅱ地区遺物包含層出土遺物実測図……103
第79図　A－Ⅲ地区遺物包含層出土遺物実測図１……104
第80図　A－Ⅲ地区遺物包含層出土遺物実測図２……105
第81図　A－Ⅲ地区遺物包含層出土遺物実測図３……106
第82図　A－Ⅲ・A－Ⅳ地区遺物包含層出土遺物実測図……107
第83図　21地区遺物包含層出土遺物実測図……108
第84図　22地区遺物包含層出土遺物実測図……109
第85図　A－Ⅰ地区第１調査面遺構平面図……111・112
第86図　A－Ⅰ地区第２調査面遺構平面図……111・112
第87図　A－Ⅱ地区第１調査面遺構平面図……113・114
第88図　A－Ⅲ地区第１調査面遺構平面図……115・116
第89図　A－Ⅲ地区第２調査面遺構平面図……117・118
第90図　A－Ⅳ地区第１調査面遺構平面図……119・120
第91図　A－Ⅳ地区第２調査面遺構平面図……121・122
第92図　A－Ⅴ地区第１調査面遺構平面図……123・124
第93図　21地区第１調査面遺構平面図……125・126

第94図　22地区第１調査面遺構平面図…… 127・128
第95図　22地区第２調査面遺構平面図…… 129・130
第96図　Ｃ－Ⅱ地区第１調査面遺構平面図…… 131・132

表　目　次

第１表　弥生時代後期のピット一覧表……19
第２表　ＳＥ１木枠観察表……27
第３表　ＳＥ２木枠観察表…… 68・69
第４表　奈良～平安時代のピット一覧表……89
第５表　中近世の溝一覧表…… 100
第６表　中近世の溝一覧表…… 101
第７表　砂礫による類型区分と器種…… 222
第８表　砂礫種の構成……224～229

図　版　目　次

図版一　　調査地全景（航空写真）

図版二　　Ａ－Ⅰ地区　1　第２調査面（東より）

　　2　ＳＥ１（東より）

図版三　　同　　上　1　ＳＫ２（南より）

　　2　第１調査面（東より）

図版四　　Ａ－Ⅱ地区　1　全景（東より）

　　2　ＳＤ17（東より）

図版五　　同　　上　1　ＳＫ３・ＳＫ４・ＳＤ６・ＳＤ７・ＳＤ８（北より）

　　2　河川１（北東より）

図版六　　Ａ－Ⅲ地区　1　第２調査面全景（東より）

図版七　　同　　上　1　ｈ地区遺構状況（南より）

　　2　落ち込み７（東より）

図版八　　同　　上　1　ｅ地区遺構状況（南より）

　　2　第１調査面全景（東より）

図版九　　同　　上　1　ＳＫ12（南より）

　　2　ＳＫ13（東より）

図版十　　同　　上　1　ＳＫ14（東より）

　　2　ＳＫ14（南より）

図版十一　　同　　上　1　ＳＢ１（東より）

　　2　ＳＢ２（西より）

図版十二　　同　　上　1　ＳＥ２（北より）

　　2　ＳＥ２木枠出土状況（北より）

図版十三　　Ａ－Ⅳ地区　1　第２調査面全景（西より）

　　2　河川３（西より）

図版十四　　同　　上　1　ＳＤ56（南西より）

　　2　第１調査面全景（西より）

図版十五　　Ａ－Ⅴ地区　1　全景（西より）

図版十六　　21　地　区　1　北部全景（南より）

　　2　南部全景（北より）

図版十七　22　地　区　1　第２調査面西部全景（東より）
　　2　第２調査面東部全景（西より）
図版十八　同　上　1　ＳＫ35（北より）
　　2　ＳＫ36（北より）
図版十九　同　上　1　ＳＫ37土器出土状況（東より）
　　2　ＳＫ37（北より）
図版二十　同　上　1　第１調査面西部全景（東より）
　　2　第１調査面東部全景（西より）
図版二十一　同　上　1　ＳＫ５（北より）
　　2　ＳＥ４（北より）
図版二十二　Ｃ－Ⅱ地区　1　全景（南より）
図版二十三　出土遺物　ＳＫ36　8・9・14　ＳＫ37　15　ＳＤ26　18
図版二十四　同　上　ＳＥ１　39・40　落ち込み１　43　ＳＫ２　44・46～49
図版二十五　同　上　ＳＫ２　51・55　落ち込み７　59・60・65～67
図版二十六　同　上　落ち込み７
図版二十七　同　上　落ち込み７
図版二十八　同　上　落ち込み７
図版二十九　同　上　落ち込み７
図版三十　同　上　落ち込み７
図版三十一　同　上　落ち込み７
図版三十二　同　上　落ち込み７
図版三十三　同　上　落ち込み７
図版三十四　同　上　落ち込み７
図版三十五　同　上　落ち込み７
図版三十六　同　上　ＳＫ12　253　ＳＫ13　265　ＳＫ14　270～275
図版三十七　同　上　ＳＫ14
図版三十八　同　上　落ち込み５
図版三十九　同　上　落ち込み５　305・306・307・333　ＳＤ17　338・344・351
図版四十　同　上　ＳＤ17　353・357～362・366　落ち込み９　375・376
図版四十一　同　上　ＳＥ２
図版四十二　同　上　落ち込み８
図版四十三　同　上　河川３

図版四十四　出土遺物　河川１

図版四十五　同　　上　河川１

図版四十六　同　　上　河川１

図版四十七　同　　上　河川１

図版四十八　同　　上　河川１

図版四十九　同　　上　Ａ－Ⅰ地区包含層　516・517　Ａ－Ⅱ地区包含層　523・528・540

Ａ－Ⅲ地区包含層　543・549・552

図版五十　　同　　上　Ａ－Ⅳ地区包含層

図版五十一　同　　上　21地区包含層

図版五十二　同　　上　22地区包含層

図版五十三　井戸の木枠材　ＳＥ１

図版五十四　同　　上　ＳＥ１

図版五十五　同　　上　ＳＥ１

図版五十六　同　　上　ＳＥ１

図版五十七　同　　上　ＳＥ１

図版五十八　同　　上　ＳＥ１

図版五十九　同　　上　ＳＥ２

図版六十　　同　　上　ＳＥ２

図版六十一　同　　上　ＳＥ２

図版六十二　同　　上　ＳＥ２

図版六十三　同　　上　ＳＥ２

図版六十四　同　　上　ＳＥ２

図版六十五　同　　上　ＳＥ２

図版六十六　同　　上　ＳＥ２

第１章　調査の目的と経過

八尾市南小阪合町・青山町・若草町一帯に所在する小阪合遺跡は、昭和30年に若草町で実施した大阪府住宅供給公社建設工事に際し、古墳時代の著しい土器の出土[註1]をみることが発端である。一方、昭和49年度の中田遺跡範囲確認調査では、青山町３丁目付近の試掘調査において、古墳時代の遺物包含層[註2]が確認されている。その後、八尾市教育委員会文化財室（以下「文化財室」と略称する）が、数回の試掘調査において土器片をわずかに出土しているだけで、当遺跡の実態は把握されていなかった。

このような状況下、八尾市は当該地が八尾市の中心部に位置しながら、主として道路未整備から市街化が遅れているのに対し、周辺地域の急速な公共施設の整備や当該地における無計画な宅地化が顕著化してきた。

この様な背景の中で市街化を計画的に進めるために、基盤整備として土地区画整理事業の計画が、昭和56年３月31日認可され、同年４月１日に決定された。この計画は、既に宅地化された各所を配慮して、幹線道路東大阪中央線（以下、「中央線」と略称する）を軸にして区画街路網を設置し、供給処理施設・児童公園等を設けるというものである。

昭和56年８月５日、八尾都市整備室南小阪合土地区画整理事務所（以下、「区画整理事務所」と略称する）は、文化財室に八尾都市整理事業南小阪合土地区画整理事業（以下、「区画整理」と略称する）を計画している旨の事前協議書を送付した。文化財室は、当該計画地が「周知の遺跡」であること、また、南部は、昭和47年～昭和49年にかけて中田遺跡調査会が行った曙川北区土地区画整理事業に伴う発掘調査[註3]で、弥生時代～中世に至る遺構と、それに伴う遺物が多量に出土しているなどを考慮し、事前に文化財室で試掘調査を実施することとなった。

昭和56年10月23日～同年10月24日に、ポンプ場・中央線の計画予定地内に計９ケ所の試掘孔をあけ、断面観察を行った結果、表土下（盛土部を除外した耕土面より）0.3～0.6ｍを測る土層内に弥生時代～中世に至る土器片を確認した。同年12月１日、文化財室は区画整理事務所と、当該計画地の遺跡保存について協議を行った。その結果、計画の変更は困難であることから、文化庁に当該事業計画書を通知するとともに、工事によって遺構・遺物の破壊・消滅が予想される部分に対処すべく資料の作成を目的として実施することになった。

昭和57年７月１日に財団法人八尾市文化財調査研究会（以下、「当研究会」と略称する）が発足し、市内における埋蔵文化財発掘調査業務を担当することになり、再度当該計画地の調査について、当研究会を交え三者協議を行った。しかし、当研究会は同年度に八尾空港内整備事業に伴う大規模な発掘調査・市内一円における発掘調査等で、人員不足であるため、幹線街路・

区画街路等の八尾市事業計画だけを当研究会が担当し、ポンプ場施設関係等の大阪府事業計画については大阪府教育委員会で実施することになった。

これによって、当研究会が実施する調査について、文化財室と区画整理事務所の三者で協議を重ねた。区画整理事務所は、当該計画地が現在民有地で農作物等を生産しうるため、補償費・他換地・年度予算等の理由により、4年ないし5年間で区分して調査することに対し、文化財室・当研究会ともに合意した。昭和57年10月25日、第1次調査として、青山町4丁目内の青山線予定地と南小阪合町1丁目内の中央線予定地の一部について、当研究会は協定書に基づく三者契約を締結し、同年11月8日、発掘調査に着手した。調査は、民有地の補償や農地の水利等の問題による調査区の縮少・区画街路21号線と22号線の追加・遺跡の埋没深度などにより、数回にわたり契約変更を重ねながら、昭和58年3月25日、現地における調査を終了した。

内業整理については、昭和59年6月15日～同年11月15日の第4次調査が終了後引き続き、昭和60年3月末日まで協定書を契約し、第1次調査の報告書作成作業を行った。この内業整理が実施されるまでには、昭和57年度から当研究会が断続的に実施した第4次調査の発掘調査[註4]。大阪府教育委員会が昭和58・59年度に実施したポンプ場等の発掘調査[註5]。文化財室が昭和59年度に実施した関西電力の鉄塔建設工事に伴う発掘調査[註6]で、当遺跡が弥生時代後期から中近世に至る遺構・遺物が検出され、当遺跡が広範囲の遺跡であることが明らかになってきた。

なお、報告書は、昭和61年度事業として昭和57年度の第1次調査を刊行した。

註

註1　八尾市役所市史編纂室『八尾市史』1958

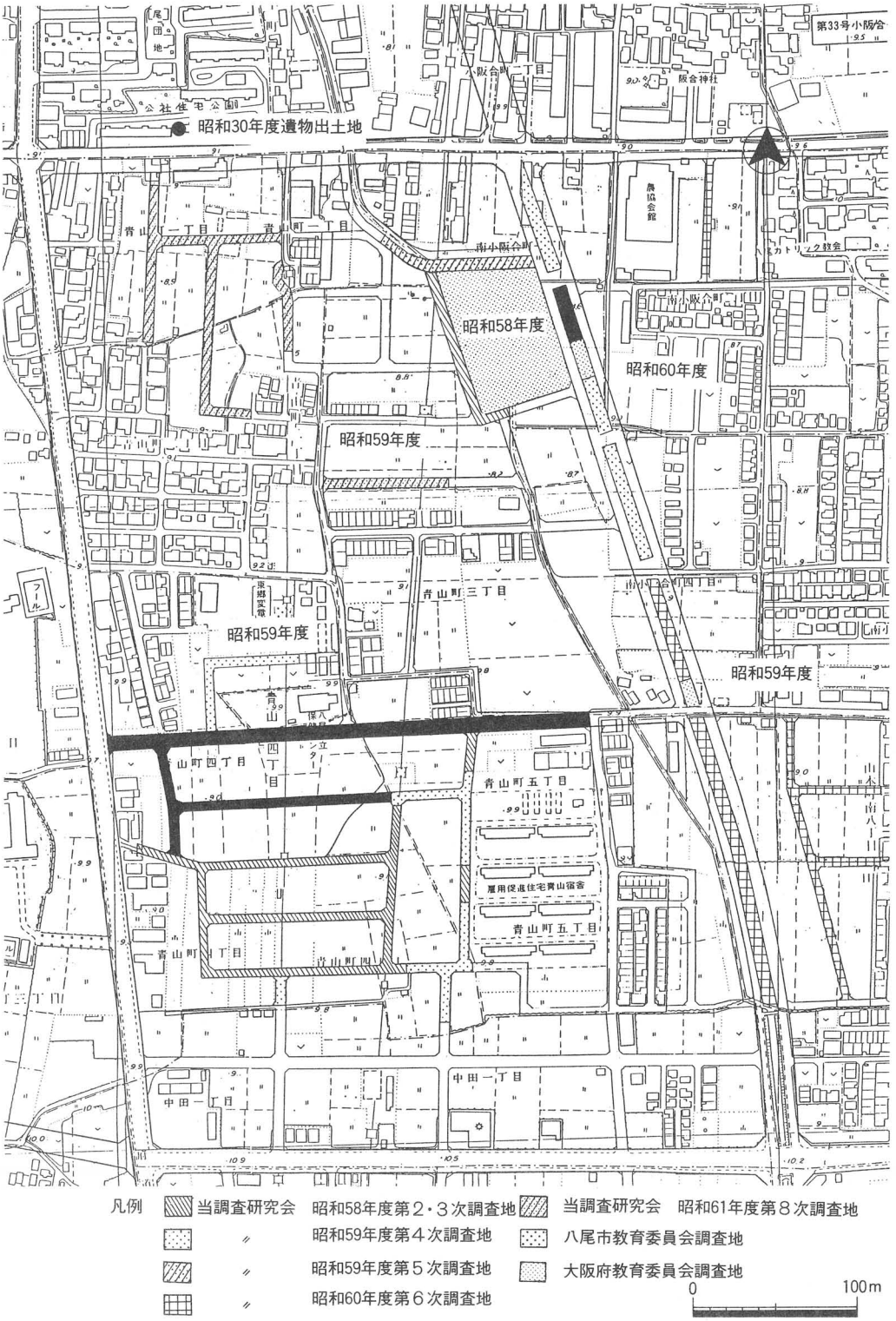
註2　八尾市教育委員会『中田遺跡調査報告Ⅱ』1975

註3　中田遺跡調査会『中田遺跡《北区》発掘調査概要』1975

註4　○（財）八尾市文化財調査研究会「小阪合遺跡」『昭和58年度事業概要報告』：（財）八尾市文化財調査研究会報告5　1984
○（財）八尾市文化財調査研究会「小阪合遺跡(第4次調査)」『昭和59年度事業概要報告』：(財)八尾市文化財調査研究会報告7　1958

註5　○昭和58年度に南小阪合町1丁目で、小阪合ポンプ場建設に伴う発掘調査を実施している。
○昭和59年度に南小阪合町4丁目で、都市計画事業寝屋川南部流域下水道工事に伴う発掘調査を実施している。

註6　八尾市教育委員会「小阪合遺跡の調査〈青山町4丁目4〉」『八尾市内遺跡昭和59年度発掘調査報告書』：八尾市文化財調査報告11　1985


昭和30年度遺物出土地
昭和58年度
昭和60年度
昭和59年度
昭和59年度
昭和59年度
昭和59年度
青山町三丁目
青山町五丁目
青山町五丁目
青山町四丁目
青山町一丁目
中田一丁目
中田一丁目
雇用促進住宅青山宿舎
南小阪合町
南小阪合町四丁目
小阪合町一丁目
阪合神社
農協会館
カトリック教会
第33号小阪合
公社住宅公園
尾団地
凡例
当調査研究会 昭和58年度第2・3次調査地
〃 昭和59年度第4次調査地
〃 昭和59年度第5次調査地
〃 昭和60年度第6次調査地
当調査研究会 昭和61年度第8次調査地
八尾市教育委員会調査地
大阪府教育委員会調査地
0
100m

第1図　調査地位置図

第2章　地理・歴史的環境

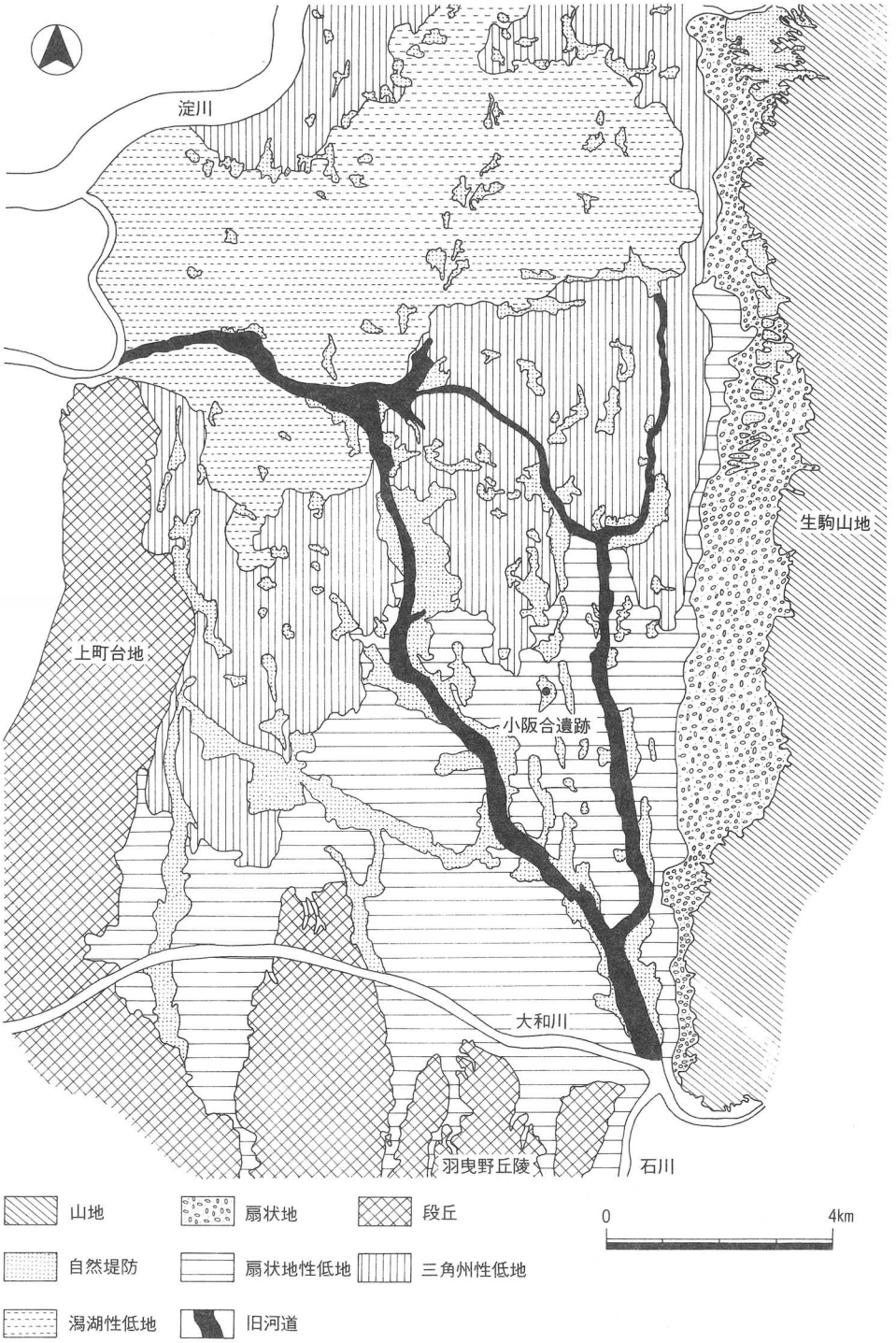
八尾市は、現在の行政区画された大阪府の東部に位置し、東は奈良県生駒郡平群町・三郷町西は大阪市平野区、南は柏原市・藤井寺市、南西の一部は松原市、北は東大阪市と接する。小阪合遺跡は、この八尾市の中央部に位置する南小阪合町・青山町・若草町に所在する。標高8～9mを計り、北西方向に蛇行しながら穏やかに流れる楠根川を狭んだ両岸の沖積地上に立地する遺跡である。

当遺跡の地形は、東を生駒山地、西を上町台地、南を羽曳野丘陵、北を淀川に囲まれたデルタ地帯の沖積平野であるいわゆる狭義でいう河内平野に位置する。

河内平野の形成は、奈良盆地の水を集め、生駒山地と金剛山地の境にあたる亀ノ瀬の狭隘部から大阪府の柏原市に達する。ここで金剛山地を水源とした石川と合流し、北流する旧大和川(恩智川・玉串川・長瀬川・平野川等の中小河川)と、淀川などのたび重なる氾濫による堆積作用と海水準昇降による侵食基面の移動の相互作用によって形成されていった。古代には河内平野の北方に河内湖が存在していた。その後、幾多の氾濫により土砂が堆積し陸地化する。1704年（宝永元年）に行った大和川付替工事で、羽曳野丘陵の北端部・上町台地を横断する。現在大阪市と堺市の境界をなし大阪湾に注ぐ新大和川によって、河内平野におけるたび重なる氾濫が激減し、現在の景観に至っている。

さて、河内平野に人々が住み始めたのは、羽曳野丘陵先端部に位置する八尾市八尾南遺跡・大阪市長原遺跡で旧石器時代の石器が確認されているが、まだこの時代は生駒山西麓の扇状地上や羽曳野丘陵に点在していたと考えられる。縄文時代は八尾市恩智遺跡・羽曳野丘陵先端部に位置する藤井寺市国府遺跡が前期～晩期に至るまで存続する他、生駒山西麓の東大阪市縄手遺跡・上町台地北端部の大阪市森の宮遺跡が中期～晩期に至る遺跡があげられる。また、後期以降は八尾市八尾南遺跡・大阪市長原遺跡・柏原市船橋遺跡などである。最近の調査では沖積地上に立地する八尾市山賀・新家・久宝寺・亀井各遺跡などで晩期の土器片が出土している。しかし、まだこの時代は河内平野の周辺に位置する生駒山西麓の扇状地・上町台地・羽曳野丘陵を居住地とし、狩猟・漁撈等の生活空間の場としていただけだと考えられる。

この河内平野に人間が定住しはじめたのは、中国大陸より伝来してきた稲作農耕文化の影響と河内湖へ流入する豊富な水を湛える沖積平野の低湿地が水稲栽培に適していることも相俟って、農耕集落が増加し発展して行ったと考えられるのは弥生時代以降である。この時代は農耕等の生産向上に伴い貧富の階級が生まれ、原始国家が形成されて行ったと考えられている。八尾では山賀・美園・亀井・田井中・跡部・東弓削各遺跡が前期～中期にかけて出現する。その


淀川
生駒山地
上町台地
小阪合遺跡
大和川
羽曳野丘陵
石川
山地
扇状地
段丘
0
4km
自然堤防
扇状地性低地
三角州性低地
潟湖性低地
旧河道

第2図　地形分類図

後、当沖積地が大きな展開を繰り拡げるのは弥生時代後期～古墳時代前期であると考えられる。この時代の遺跡は上記の遺跡の他に八尾市中田・成法寺・東郷・萱振・佐堂・久宝寺各遺跡などがあげられる。

古墳時代に入ると農耕の生産が一層発達し、共に死者を埋葬する壮大な墳墓を築造している。それは今でもその姿を数多く残す。八尾市では心合寺山・向山・東塚・西塚の前方後円墳や高安千塚の群集墳などがあげられる。そして、沖積地上における近年の調査では集落遺構・生産遺構と同様に埋没または削平された古墳が多数発見されている地域である。たとえば八尾市亀井・萱振両遺跡・隣接する大阪市長原遺跡などがあげられる。

歴史時代には律令国家体制のもとで国郡里の制が行われ、大阪府では摂津国・河内国・和泉国に分けられる。当遺跡は河内国の若江郡に属し、条里制土地区画の大規模な開発がなされた。現在の小阪合町２丁目には延喜式内社の一つである坂合神社がある。

〔参考文献〕

○八尾市役所「八尾市史」　1958
○八尾市教育委員会「昭和51・52年度埋蔵文化財発掘調査年報」　八尾市文化財調査報告４　1979
○八尾市教育委員会　「昭和53・54年度埋蔵文化財発掘調査年報」　八尾市文化財調査報告７　1981
○八尾市教育委員会　「東弓削遺跡」八尾市文化財調査報告３　1975
○八尾市教育委員会「大竹遺跡」八尾市文化財調査報告５　1980
○中田遺跡調査会　「中田遺跡《北区》発掘調査概要」
○中田遺跡調査センター　「中田遺跡調査報告Ⅰ」　1974
○八尾市教育委員会　「中田遺跡調査報告Ⅱ」　1975
○八尾市南遺跡調査会　「八尾南遺跡」－大阪市高速電気軌道２号線建設事業に伴う発掘調査報告書－1981
○大阪府庁「大阪府史第１巻古代編Ⅰ」大阪府編　1978
○大阪府教育委員会　「国府遺跡発掘調査概要Ⅷ」　1978
○瓜生堂遺跡調査会　「恩智遺跡Ⅰ・Ⅱ」　1980
○瓜生堂遺跡調査会　「恩智遺跡Ⅲ」　1981
○大阪市文化財協会　「長原遺跡発掘調査報告Ⅱ」－大阪市高速電気軌道２号線延長工事に伴う発掘調査報告書－　1982
○大阪市文化財協会　「長原遺跡発掘調査報告Ⅲ」－(仮称)大阪市立第８養護学校建設に伴う発掘調査報告書－　1983
○長原遺跡調査会　「長原遺跡発掘調査報告」－大阪市交通局地下鉄谷町線延長工事　第31・32工区の発掘調査－　1978　同改訂版　(財)大阪市文化財協会　1982
○(財)八尾市文化財調査研究会　「成法寺遺跡」－八尾市光南町１丁目29番地の調査－　(財)八尾市文化財調査研究会報告３　1983
○(財)八尾市文化財調査研究会　「八尾市埋蔵文化財発掘調査概要　1980・1981年度」　(財)八尾市文化財調査研究会報告２　1983
○(財)八尾市文化財調査研究会　「昭和58年度事業概要報告」　(財)八尾市文化財調査研究会報告５　1984

第３章　調査の概要

第１節　調査の方法

調査は、八尾市の中心部に位置する南小阪合町１丁目・同町４丁目・青山町３丁目・同町５丁目と南小阪合町２丁目・同町５丁目・青山町１丁目・同町２丁目・山本町南８丁目の各一部を対象として、総面積約300,000㎡におよぶ広範囲の幹線街路・区画街路網等の計画に伴う事前発掘調査である。だが、施工期間が数年に分割して行うため、発掘調査もそれと合わすことで実施した。

今回の調査は、昭和57年度第１次調査として、青山町４丁目の中央部に位置する青山線（Ａ地区）・21号線（21地区）・22号線（22地区）と、南小阪合町１丁目に位置する中央線（Ｃ地区）の一部である道路敷面下の予定地を対象に行った。

文化財室が実施した試掘調査の結果、表土下0.3～0.6m（ＴＰ＋8.0～8.3m）の間に遺構が埋没していると認められたので、調査の方法として、オープンカット工法（いわゆる素掘り調査）を行うこととなった。掘削は第２層の床土下面まで約0.3mを機械掘削し、以下は人力による掘削・精査を行った。検出した遺構については、できるかぎり平面実測図（Ｓ＝1/5・1/10・1/20）・断面実測図（Ｓ＝1/20）の作成と写真撮影などの記録保存を実施した。これに伴い出土した遺物は、地区ごとに採取し、現場事務所にて洗浄・ネーミングを行った。

第２節　地区割

調査地区は、面積が広範囲で、網目状で細長いトレンチである。地区割は、昭和47年～49年に行った曙川北区土地区画整理事業に伴う中田遺跡の発掘調査で、検出した遺構の関連を把握する目的などの諸条件を考慮して、中田遺跡の調査で使用された地区割プラン図のＤ－Ⅲラインを基準点として、東西・北方に割り付けを行った。地区名は、南北方向の中央線を北よりＣ－Ⅰ～Ｃ－Ⅵ地区に大区分し、東西方向の青山線を西よりＡ－Ⅰ～Ａ－Ⅴ地区に大区分し、区画街路は計画街路番号をそのまま活用した。

そして、これらの各地区を基準点から10m間隔でさらに細分し、東西方向のトレンチは西よりａ・ｂ・ｃ・・、南北方向のトレンチは北よりａ・ｂ・ｃ・・と付す。

これに基づき、第１次調査を実施した（第３図）。

第４章　調査の結果

第１節　基本層序

調査地区は、前章でも叙説したが、北西流する楠根川を挟む沖積低地上に位置し、幾度もなく氾濫を繰り返した地である。調査は東西・南北方向に細長いＡ地区・21地区・22地区と北東方約350mも離れているＣ－Ⅱ地区を行った。

この様な状況において土層の様相が、各地区によって大きく異なることがあるが、総合的な観点からみた普遍的な基本層序について、以下、各層ごとに概説を行う（第４図）。

第１層表土0.1～0.2m、調査前まで水田耕作されていた耕土である。なお、Ａ－Ⅲ地区の一部に厚さ約0.5mとＡ－Ⅴ地区は厚さ約１ｍの盛土により整地されていた。

第２層淡灰褐色～暗灰褐色のシルト粘土0.1～0.3m、耕土の床土と考えられる。

第３層暗灰褐色粘土0.1～0.4m、上面で近世以降と思われる水田耕作に関連する小溝を検出した。土層内からは中世～近世の遺物が摩滅した細片をわずかに出土した。なお、Ａ－Ⅲ地区の西側と22地区にはない。

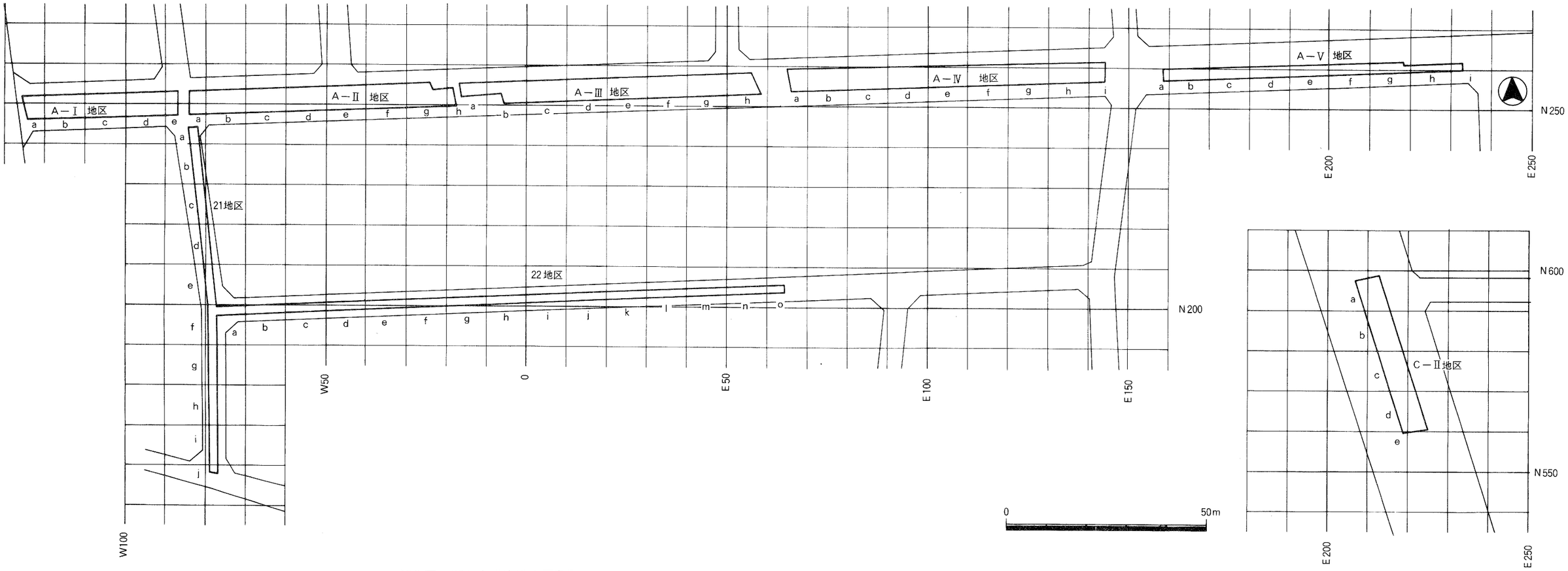
第４層灰褐色粗砂混じり粘土0.1～0.2m、この上面で東西・南北方向の小溝が全地区で検出した。特にＡ－Ⅳ地区・22地区で多く検出した。

第５層暗灰色粘土・黄褐色微砂混じり粘土0.1～0.2m、古墳時代中期～平安時代の遺物を包含する。

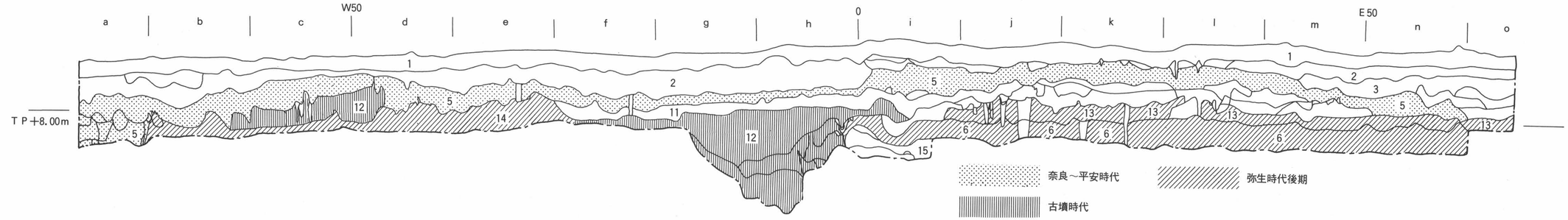
第６層暗灰茶色シルト混じり粘土0.1～0.5m、この上面をベースとして、古墳時代中期～平安時代の遺構が検出した。土層内からは弥生時代後期～古墳時代前期の遺物を包含する。

第７層淡茶灰色砂粘土0.2～0.4m、この上面で弥生時代～古墳時代前期の遺構が検出した。Ａ－Ⅳ・Ａ－Ⅴ地区では確認されない。また、Ａ－Ⅰ・Ａ－Ⅱ地区は砂質土層が相当の厚みで堆積する河川跡と考えられる土層である。

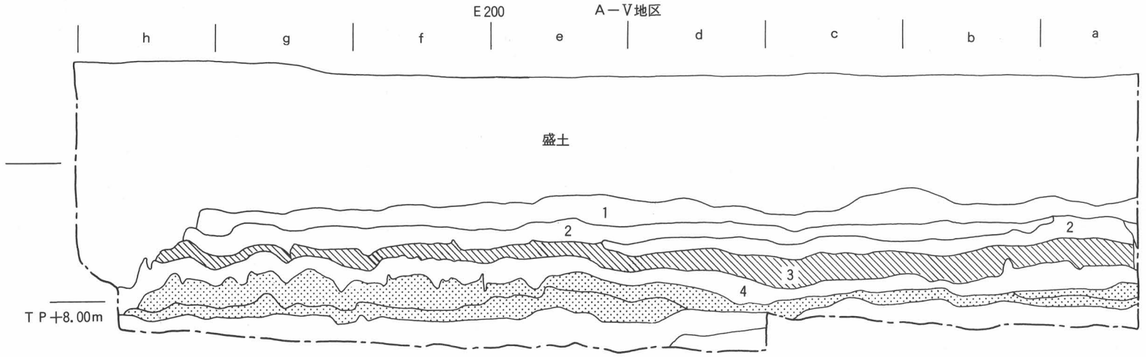
だが、Ｃ－Ⅱ地区は、北東へ約350m離れている調査地区であるため、前述した基本層序とは若干異なる。第１層～第３層まではほぼ同層の堆積であるが、第４層黄灰褐色粘土（0.1～0.3m）は古墳時代～中世の摩滅した土器の細片がわずかに包含する。第５層淡茶灰色粘土(0.2～0.4m）の上面で東西方向の溝を検出した。第６層青灰色粘土（0.2m以上）は無遺物層であると思われる。

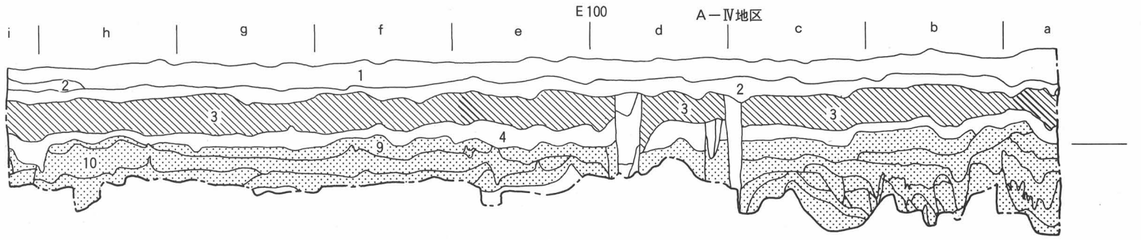


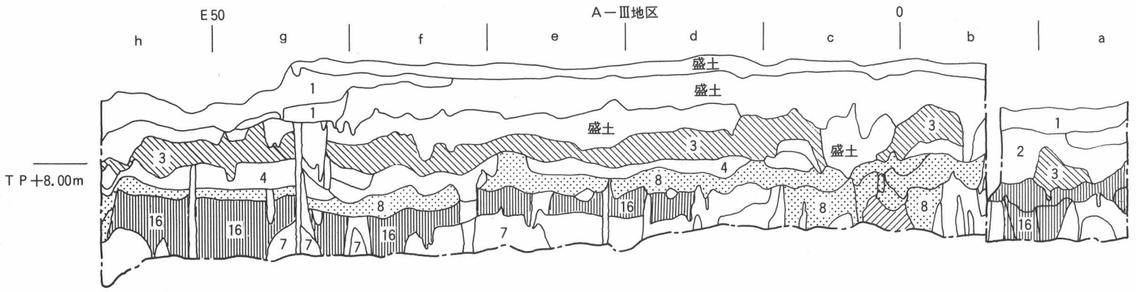
第３図　第１次調査地地区割図

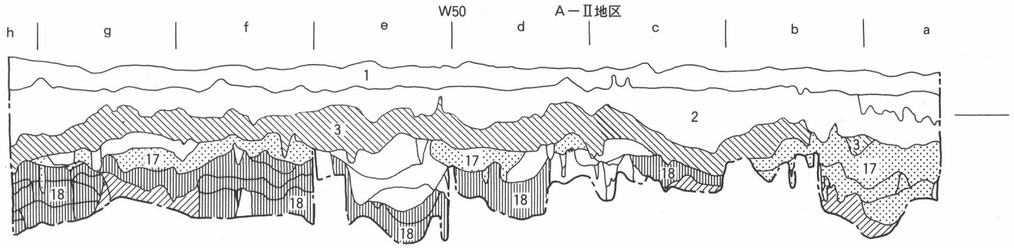


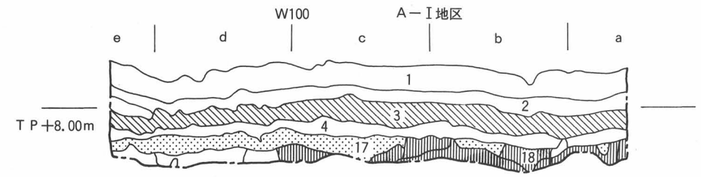
22地区北壁断面図

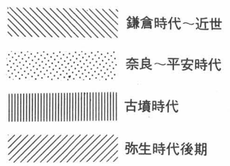












1 耕土
2 暗灰褐色シルト
3 暗灰褐色粘土
4 灰褐色粒砂混じり粘土
5 暗灰色粘土
6 暗茶褐色シルト混じり粘土
7 淡茶灰色砂粘土シルト混じり粘土
8 暗黄灰色粘土
9 茶灰褐色シルト混じり粘土
10 暗灰褐色粒砂混じり粘土
11 灰黄色微砂混じり粘土
12 淡灰褐色微砂混じり粘土
13 暗褐色礫砂混じり粘土
14 暗灰色微砂土
15 灰褐色微砂混じり粘土
16 暗灰茶色シルト混じり粘土
17 黄褐色微砂混じり粘土
18 黄褐色粘土

A地区南壁断面図

第4図　断面図

第２節　地区の概要

当遺跡は、試掘調査・立会調査などで遺物包含層を確認した以外、その実態が全く不明であったが、今回の第１次調査によってようやく遺跡の一部が明らかになった。遺構は弥生時代後期～中近世に至る各時代の生活の痕跡・氾濫の痕跡を検出した。以下、各地区ごとに遺構の状況を概説する。

Ａ－Ⅰ地区

この地区は、表土Ｔ．Ｐ＋8.4ｍ位から約0.4ｍの第４層上面で中近世の条里遺構に関連すると思われる東西方向の溝（ＳＤ１）を検出した。これより約0.2ｍ掘り下げた第６層上面を精査すると、古墳時代前期の木枠を伴う井戸（ＳＥ１）・土坑・落ち込みと、平安時代と考えられるピット・土坑・溝を検出した。また、これより下層は砂質土で相当の厚みで堆積する古墳時代前期以前の河川跡と考えられる。

Ａ－Ⅱ地区

この地区は、Ａ－Ⅰ地区と同じく、第４層上面で中近世の溝を検出した。第５層上面で平安時代の溝・河川跡、第６層上面では古墳時代中期の土坑・落ち込み・溝を検出した。これより下層は、Ａ－Ⅰ地区と同じく砂質土の堆積する河川跡である。

Ａ－Ⅲ地区

この地区は、自然堤防の微高地上に位置すると考えられる安定した地盤である。第６層の上面から奈良時代に比定できると思われる掘立柱建物２棟、木枠を伴う井戸等と、古墳時代中期の韓式系土器等が包含する土坑等を検出した。第７層の上面では、弥生時代後期～古墳時代前期の土坑・庄内式～布留式の多量の土器を検出した落ち込み状遺構・ピット等を検出した。

Ａ－Ⅳ地区

この地区は、Ａ－Ⅲ地区と反して微谷地状になっている。第４層上面は中近世の東西・南北方向の溝が数十条検出した。第７層上面では奈良～平安時代の溝・河川跡を検出した。また、これより下層は古墳時代以前の遺構は検出されなかった。

Ａ－Ⅴ地区

この地区は、第６層の上面で奈良～平安時代のものと思われる南北方向の小溝１条を検出したのみである。遺物は出土していない。

21地区

この地区は、Ａ－Ⅱ地区で検出した河川跡の南側に位置し、南北方向に延びる河川の中央部を掘り下げた状態である。この河川の堆積土からは平安時代の遺物に混じり、古墳時代の埴輪・土器などが出土されている。

22地区

この地区は、Ａ－Ⅱ・Ａ－Ⅲ地区の南部約50mに位置する。遺構は第４層の上面で中近世の時期と思われる小溝を検出した。第５層の上面は古墳時代中期の落ち込み状遺構・東側の第６層は弥生時代後期の包含層で、第７層の上面に土坑・ピット・溝等が切り込む遺構を検出した。

Ｃ－Ⅱ地区

この地区は、Ａ－Ⅰ～Ａ－Ⅴ地区の北部約250mに位置する。遺構は第４層の上面で中世～近世の時期と思われる東西方向の溝３条を検出しただけである。これらの溝は農耕作に関連するものと考えられ、現在の農地の区画方向に一致している。

第３節　弥生時代後期の遺構・遺物（第２調査面）

Ａ－Ⅲ地区と22地区の微高地上の東辺に位置し、ＴＰ＋7.5～7.8mの第７層をベースとして切り込む土坑・ピット・落ち込み状遺構・溝が検出した。また、西部に位置するＡ－Ⅰ・Ａ－Ⅱ・21・22地区は、北流していたと考えられる砂質土層の堆積する河川跡が確認されたが、オープンカット工法の調査であるため地下水位面が高く、隣接する民家への影響等の諸問題により調査を断念した。ここでは、今回検出した遺構とそれに伴う遺物について各遺構ごと記述する。

土坑

ＳＫ19

Ａ－Ⅲｈ地区の南壁で検出した。南半部は調査区外に至る。東部は攪乱によって切断されている。検出部は東西径0.84m以上、南北径1.02m、深さ0.07mを測る土坑である。堆積土は暗灰褐色シルト混じり粘土の単一層で、基底面に若干の起伏がみられる。

遺物は、壺・高坏・甕等の畿内第Ⅴ様式に類似する土器の細片を少量出土した。

ＳＫ20

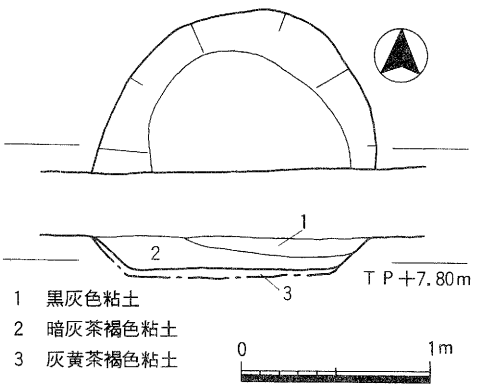
Ａ－Ⅲｈ地区で検出した。東部と南部は調査区外に至る。検出部は東西径2.5m以上、南北径4.3m以上、深さ0.1mを測る。平面は不定形を呈す。堆積土は暗茶灰色シルト混じり粘土である。この遺構は土坑を呈しているが、この下層より同時期の遺構が検出していることから、弥生時代後期の遺物包含層ではないかと思われる。

遺物は、壺・甕等の畿内第Ⅴ様式に類似する土器の細片を少量出土した。

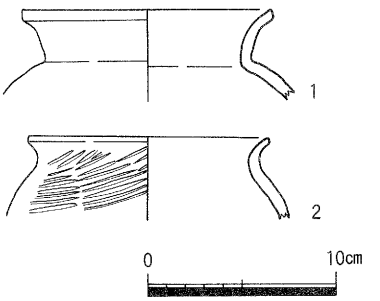
ＳＫ23

Ａ－Ⅲｄ地区の南壁で検出した。南半部は調査区外に至る。検出部は東西径1.4mを測る土坑である。平面は現存部半円形を呈す。断面は皿状形を成す。堆積土は上方から黒灰色粘土・暗灰茶褐色粘土の２層に分かれ、基底部は平坦である。

遺物は、壺・甕（１・２）等の畿内第Ⅴ様式に類似する土器の細片を少量出土した（第５図・第６図）。



第５図　Ａ－Ⅲｄ地区ＳＫ23平断面図



第６図　Ａ－Ⅲｄ地区ＳＫ23出土遺物実測図

ＳＫ25

Ａ－Ⅲｄ地区で検出した。規模は東西径0.8m、南北径1.3m、深さ0.08～0.24mを測る土坑である。平面は楕円形を呈し、ＳＰ50を切っている。断面は皿状形を成す。堆積土は上方から暗茶褐色粘土・淡茶褐色粘土の２層に分かれる。基底面は若干起伏している。

遺物は、壺・鉢・甕等の畿内第Ⅴ様式に類似する土器の細片が少量出土した。

ＳＫ26

Ａ－Ⅲｆ地区の北壁で検出した。北半部は調査区外に至る。検出部は東西径２m、南北径0.3m、深さ0.17mを測る土坑である。堆積土はＳＫ25・ＳＫ27と同一土層である。

遺物は出土していないが、堆積土や同一レベルの構築面で検出していることからＳＫ25等の遺構と同時期であると考える。

ＳＫ27

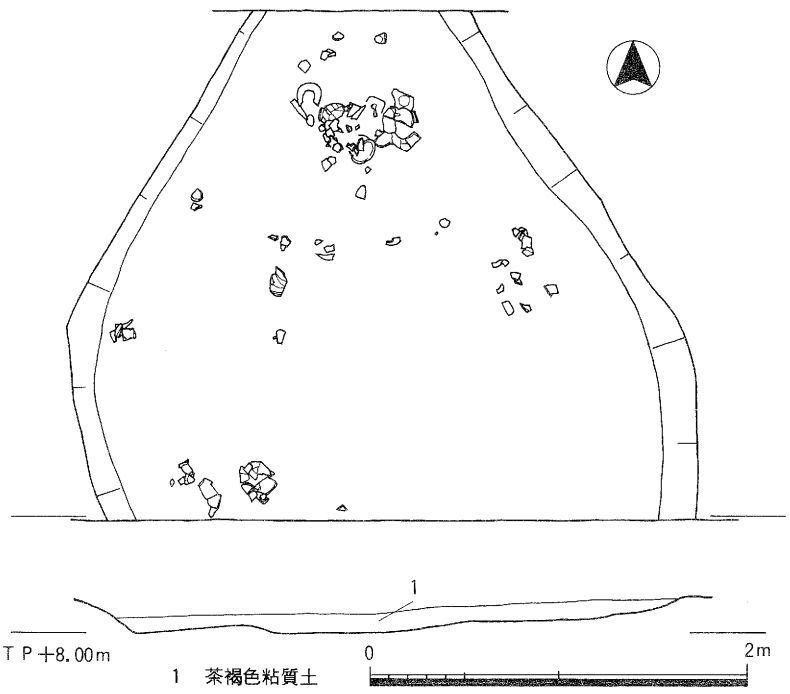
Ａ－Ⅲｆ地区の北壁で検出した。北半部は調査区外に至る。検出部は東西径1.5m、南北径0.6m、深さ0.3mを測る土坑である。堆積土はＳＫ25・ＳＫ26と同一土層である。

遺物は、壺・甕等の畿内第Ⅴ様式に類似する土器の細片を少量出土した。

ＳＫ29

Ａ－Ⅲｇ地区で検出した。規模は東西径1.14m、南北径0.32mを測る土坑である。平面は長楕円形を呈す。断面は皿状形を成す。堆積土は暗灰褐色粘土の単一層である。

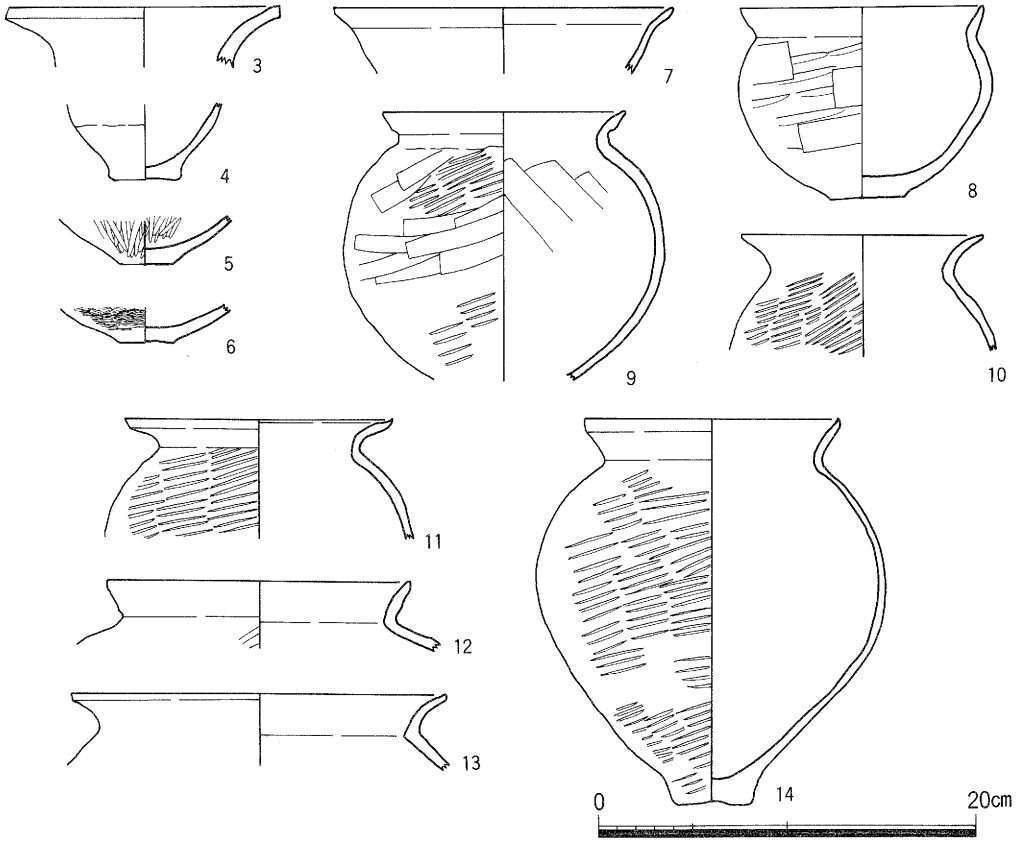
遺物は出土していないが、層位的にみて上記した遺構（ＳＫ24等）と同一時期であると考える。



第７図　22地区ＳＫ36平断面図

ＳＫ30

Ａ－Ⅲｈ地区で検出した。東西径0.86m、南北径1.3m、深さ0.2mを測る土坑である。平面はほぼ隅丸長方形を呈す。



第８図　22ｋ地区ＳＫ36出土遺物実測図

断面は逆台形を成す。堆積土は暗灰褐色粘土の単一層である。

遺物は出土していないが、ＳＫ29と同様に上記したＳＫ24等の遺構と同一時期と考えられる。

ＳＫ36

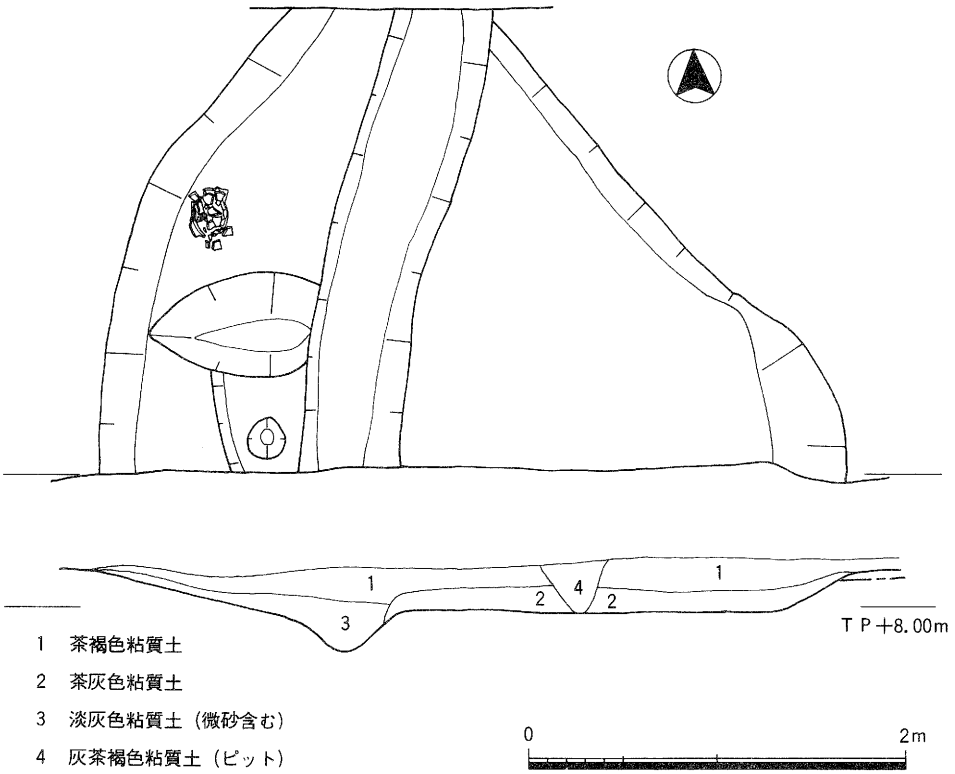
22ｋ地区で検出した。南部は調査区外に至る。検出部は東西径3.3m、南北径2.9m、深さ0.1mを測る土坑である。平面は「ハ」の字形に南へ拡がる。断面形は浅い皿状形を呈し、基底面は平坦である。堆積土は茶褐色粘土の単一層である（第７図）。

出土遺物

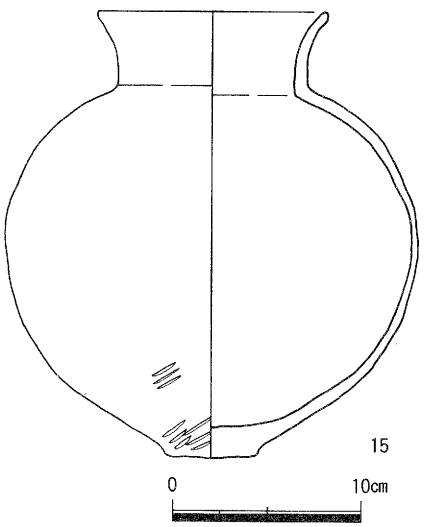
細片化した土器が北部の基底部付近で若干のまとまりで検出しているが、ほとんどの土器は堆積土内で散乱した状態で少量出土した。器種は畿内第Ⅴ様式に類似する甕（６～14）が主体を占め、壺（３～５）・鉢・高坏等はごく少量である（第８図）。

ＳＫ37

22ｆ地区で検出した。南部と北部は調査区外に至る。検出部は東西径4.6m、南北径2.7m、深さ0.23mを測る土坑である。平面は「ハ」の字形に南へ拡がる。断面は若干の起伏がみられ



第9図　22k地区SK37平断面図



第10図　22k地区SK37出土遺物実測図

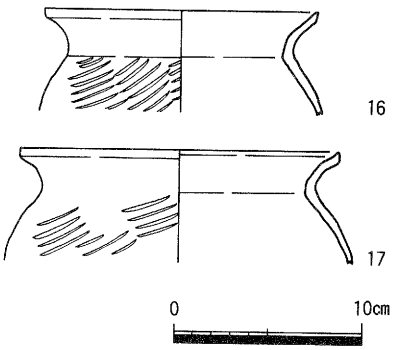
る皿状形を成し、基底面中央部には幅0.4～0.5m、深さ0.2mを測る南北方向の溝が縦断する。土坑の堆積土は茶褐色粘土・淡灰色微砂混じり粘土の2層で構成される。この遺構とSK36は、検出時に隅丸方形の竪穴式住居址のコーナー部ではないかと考えられるため、南部に約1mの拡張を行なったが柱穴や炉跡等の住居址に関連するものがないため土坑として取り扱った（第9図）。

出土遺物

西部基底面で完形近くまで復元できた壺（15）1点が土圧によって押し潰されて出土した。他には堆積土内より畿内第Ⅴ様式に類似する壺・甕等の細片がごく少量出土した（第10図）。

ピット（ＳＰ31・ＳＰ41～58）

Ａ－Ⅲ地区で検出した。径0.41～0.4ｍを測る小形で浅いもの（ＳＰ31・41～45・47～49・52・53・55・56）と径0.56～0.95ｍを測る大形のもの（ＳＰ50・51・54・57・58）に分かれ、前者が圧倒的に多い。平面は全般的に円形及び楕円形を呈す。堆積土は暗茶褐色シルト混じり粘土の単一層であるが若干の相違はある。これらのピットは住居址に関連する柱穴と考えるものもあるが、限定された調査区域内であるため規則性のある配列が認められなかった。遺物は畿内第Ⅴ様式に類似する土器の細片がごく少量出土しているが、多くのピットは無遺物であった。またＳＰ59・ＳＰ60は22地区で検出した。



第11図　Ａ－Ⅲｄ地区ＳＰ31出土遺物実測図

ＳＰ31の出土遺物は、畿内第Ⅴ様式に類似する甕（16・17）を出土した（第11図）。

なお、個々のピットの規模・平面形等については、下記の第１表にまとめた。

第１表　弥生時代後期のピット一覧表

地区	遺構番号	規模（cm）長径×短径	深さ（cm）	形状		柱痕径（cm）	柱根残存	出土遺物	備考
				平面形	断面形				
Ａ－Ⅲｃ	ＳＰ31	41～28	10	楕円形	逆台形	——	—		
Ａ－Ⅲｄ	ＳＰ41	21～20	11	円形	逆台形	——	—		
Ａ－Ⅲｄ	ＳＰ42	30～24	10	楕円形	逆台形	——	—		
Ａ－Ⅲｄ	ＳＰ43	20～19	16	楕円形	逆台形	——	—		
Ａ－Ⅲｄ	ＳＰ44	29	22	円形	逆台形	——	—		
Ａ－Ⅲｄ	ＳＰ45	26～23	13	楕円形	逆台形	——	—	土師器の細片	
Ａ－Ⅲｄ	ＳＰ46	14	14	円形	逆台形	——	—		
Ａ－Ⅲｄ	ＳＰ47	33～25	16	楕円形	逆台形	——	—		
Ａ－Ⅲｄ	ＳＰ48	28～26	16	楕円形	逆台形	——	—		
Ａ－Ⅲｄ	ＳＰ49	36～26	23	楕円形	Ｕ字形	——	—	土師器の細片	
Ａ－Ⅲｄ	ＳＰ50	77～58	25	楕円形	逆台形	——	—		
Ａ－Ⅲｄ	ＳＰ51	93～70	27	楕円形	逆台形	——	—	土師器の細片	
Ａ－Ⅲｅ	ＳＰ52	22～20	8	楕円形	逆台形	——	—		
Ａ－Ⅲｅ	ＳＰ53	25～22	14	円形	逆台形	——	—		
Ａ－Ⅲｅ	ＳＰ54	56～20	49	楕円形	Ｕ字形	——	—		
Ａ－Ⅲｅ	ＳＰ55	25～21	13	楕円形	逆台形	——	—		
Ａ－Ⅲｅ	ＳＰ56	25～20	8	楕円形	逆台形	——	—		
Ａ－Ⅲｅ	ＳＰ57	68～63	48	楕円形	逆台形	——	—	土師器の細片	
Ａ－Ⅲｅ	ＳＰ58	85～78	20	楕円形	逆台形	——	—		
221	ＳＰ59	43～36	20	楕円形	逆台形	——	—		
221	ＳＰ60	64～57	37	楕円形	逆台形	——	—		

溝

ＳＤ22

Ａ－Ⅲe地区で検出した。幅0.23～0.45m、深さ0.05mを測る東西方向の溝で、北に中心をもつ緩やかな円弧を描き両端部は途切れる。断面は浅い皿状形を呈す。堆積土は暗灰茶色砂粘土の単一層である。

遺物は畿内第Ⅴ様式に類似する土器の細片をごく少量出土した。

ＳＤ23

Ａ－Ⅲｆ地区で検出した。幅0.3～0.64m、深さ0.05～0.1mを測る東西方向の溝である。東部はＳＤ24と切り合う関係にあり、西部は現在の攪乱により切断される。断面は浅い皿状形を呈す。堆積土はＳＤ22・ＳＤ24と同一土層である。

遺物は畿内第Ⅴ様式に類似する土器の細片をごく少量出土した。

ＳＤ24

Ａ－Ⅲf地区で検出した。幅0.4～0.55m、深さ0.05～0.15mを測る南北方向に至る溝である。断面は浅い皿状形を呈す。ＳＤ23と切り合う関係にある。溝の中央部は現在の攪乱によって切断されている。堆積土はＳＤ23と同一土層である。

遺物は畿内第Ⅴ様式に類似する甕等の土器の細片がごく少量出土した程度である。

ＳＤ25

Ａ－Ⅲf地区で検出した。幅0.6～１m、深さ0.15mを測る南北方向に至る溝で、ＳＤ24と平行に走る。断面は皿状形を呈す。堆積土は淡灰褐色粘土の単一層である。

遺物は畿内第Ⅴ様式に類似する甕等の土器の細片をごく少量出土した。

ＳＤ26

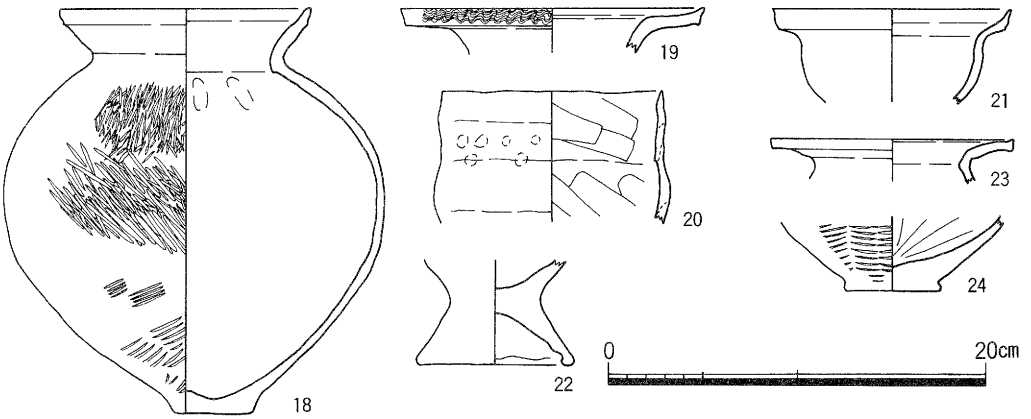
Ａ－Ⅲg地区で検出した。幅3.2～3.68mを測る南北方向に至る溝で、北方に若干の拡がりをみる。中央部は幅0.9mの堤防状を呈す高まりがあり、両端部は深さ0.1mを測る２条の溝に分流している。堆積土は暗灰茶褐色シルト混じり粘土（わずかに粗砂を含む）の単一層である。

出土遺物

北部の西溝基底面より畿内第Ⅴ様式に類似する壺（18）が、横向きのまま土圧によって押し潰された状態で出土した。この壺は完形近くまで復元することができた。他には堆積土内から壺・鉢（19～22）・甕（23・24）等の土器の細片を少量出土した（第12図）。

ＳＤ27

Ａ－Ⅲｇ地区で検出した。幅1.48～2.42m、深さ0.2mを測る南北方向に至る溝で、南側に若干の拡がりがある。この溝は北部の東肩でＳＤ30を切っている。堆積土は暗灰茶色シルト混じり粘土である。遺物は畿内第Ⅴ様式に類似する鉢・甕等の土器片をごく少量出土した。



第12図　A－Ⅲｇ地区ＳＤ26出土遺物実測図

ＳＤ28

A－Ⅲg・h地区北壁で検出した。北半部と東半部は調査区外に至る。検出部は東西5.5m、南北1.2m、深さ0.2mを測る溝状遺構である。南肩は東にＳＤ29、西にＳＤ31と切り合う関係にある。堆積土は暗灰色細砂混じり粘土の単一層である。

遺物は畿内第Ⅴ様式に類似する甕の底部（25・26）等の細片をごく少量出土した（第14図）。

ＳＤ29

A－Ⅲｈ地区で検出した。幅0.28～0.85m、深さ0.14～0.24mを測る南北方向の溝である。北部はＳＤ28と切り合う関係にある。南部は脹らみをもちながら調査区外に至る。堆積土はＳＤ28と同一土層である。

遺物は畿内第Ⅴ様式に類似する土器の細片を少量出土した。

ＳＤ30

A－Ⅲｇ・h地区で検出した。幅0.25～0.85m、深さ0.05～0.1mを測る東西方向の溝である。中央部はＳＤ31に切られ、ＳＤ27と合流する。東部はＳＤ31から約３ｍの所で途切れる。また、西部の南肩は土坑状に平面半円形の脹らみがある。堆積土は暗灰茶色砂粘土の単一層である。

遺物は出土していないが、ＳＤ27・ＳＤ28・ＳＤ29の溝と同時期であると考える。

ＳＤ31

A－Ⅲｈ地区で検出した。幅0.37～0.9m、深さ0.25mを測る南北方向の溝である。南部は攪乱によって切断される。北部はＳＤ28と中央部はＳＤ30と切り合う関係にある。堆積土はＳＤ28・ＳＤ30と同一土層である。

遺物は出土していないが、ＳＤ28・ＳＤ30等の溝と同時期であると考える。

ＳＤ32

A－Ⅲｇ地区で検出した。幅0.55m、深さ0.14mを測る東西方向の溝である。東部はＳＤ26

と切り合う関係にある。西部は途切れる。堆積土はＳＤ28・ＳＤ30と同一土層である。

遺物は出土していないが、ＳＤ28・ＳＤ30等の溝と同時期であると考える。

ＳＤ107

22i地区で検出した。幅0.8～0.99m、深さ0.33mを測る南北方向に至る溝である。断面は皿状形を呈す。堆積土は淡灰色粘土の単一層である。

遺物は出土していないが、ＳＤ109・ＳＤ110の溝と同時期であると考える。

ＳＤ108

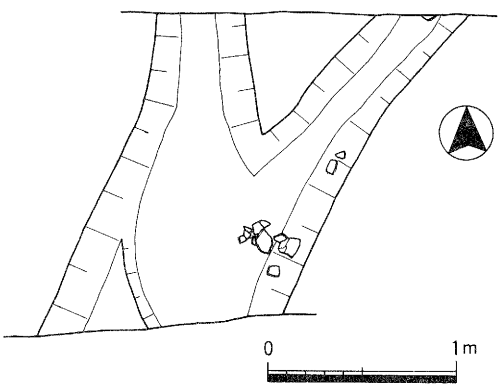
22j地区で検出した。幅0.5～0.77m、深さ0.39mを測る南東－北西の方向に至る溝である。断面は皿状形を呈す。堆積土は暗灰褐色礫砂混じり粘土・淡灰色粘土の２層に分かれる。

遺物は出土していないが、ＳＤ109・ＳＤ110の溝と同時期であると考える。

ＳＤ109

22j地区で検出した。幅0.75～0.87m、深さ0.11mを測る南東－北西の方向に至る溝である。南部はＳＤ110によって切られる。断面は皿状形を呈す。堆積土は淡灰褐色微砂混じり粘土・淡灰色粘土の２層に分かれる（第13図）。

遺物は畿内第Ⅴ様式に類似する壺（27・28）・甕等の土器細片を少量出土した（第14図）。

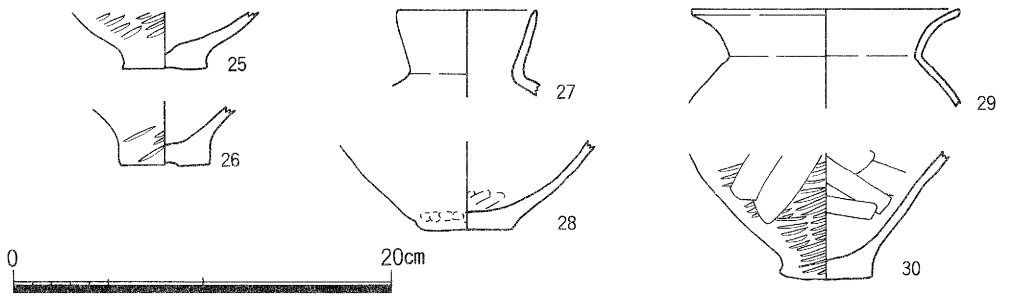


第13図　22ｊ地区ＳＤ109・ＳＤ110平面図

ＳＤ110

22ｊ地区で検出した。幅0.75～0.87m、深さ0.11mを測る南西－北東の方向に至る溝である。南部はＳＤ109を切っている。断面は逆台形を呈す。南部の基底面は中央に堤防状の高まりがある。堆積土は灰褐色シルト混じり粘土・暗灰褐色シルト混じり粘土の２層に分かれる（第13図）。

遺物は畿内第Ⅴ様式に類似する甕（29・30）等の土器の細片を少量出土した（第14図）。



第14図　Ａ－Ⅲｆ地区ＳＤ28・22ｊ地区ＳＤ109・ＳＤ110出土遺物実測図

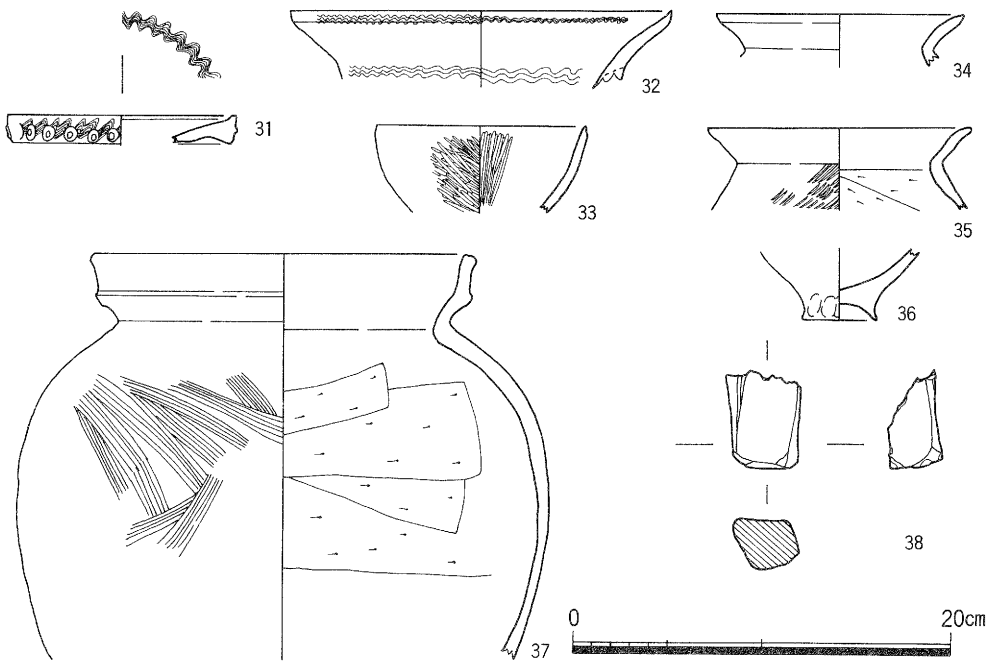
落ち込み状遺構

落ち込み11

22 I 地区で検出した。幅5.8～6.1m、深さ0.2～0.44mを測る南北方向に至る落ち込み状遺構である。東部は2段に落ち込んで南北方向の溝状となっている。堆積土は暗灰色シルトの単一層である。

出土遺物

畿内第Ⅴ様式に類似する壺(31)・高坏(32・33)・鉢(36)・甕(34・35・37)等の土器の細片と砥石(38)が出土した。砥石は径4×5cmを測る白灰色の砂岩で、四面の使用痕が認められる(第15図)。



第15図　22 I 地区落ち込み11出土遺物実測図

第４節　古墳時代前期の遺構・遺物（第２調査面）

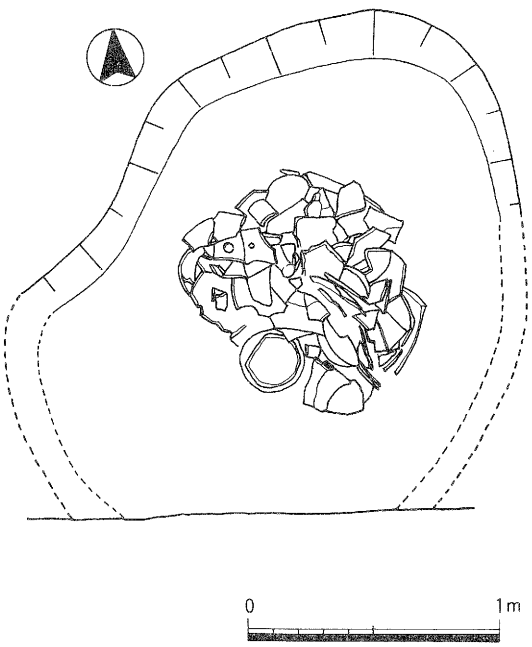
この時代の遺構は、Ａ－Ⅰ地区で弥生時代後期頃に埋没した河川跡の堆積土が安定した黄褐色粘土の上面（ＴＰ＋7.6m）を構築面として土坑・木枠を設置した井戸・落ち込み状遺構を検出した。また、Ａ－Ⅲ地区は自然堤防を形成した微高地の西端部で、ＴＰ＋8.3mを測る淡茶灰色砂粘土の上面より切り込む落ち込み状遺構が検出した。この遺構の堆積土内からは庄内期新相～布留期古相に比定される土器が多量に出土している。

以下、検出した遺構とそれに伴う遺物について各遺構ごとに記述する。

土坑

ＳＫ２

Ａ－Ⅰｂ地区の南壁で検出した。南部の一部は調査区外に至る。検出部は東西径１m、南北径1.2m、深さ0.1mを測る土坑状遺構である。この遺構は落ち込み１の埋没した後に切り込まれている。堆積土は淡灰褐色粘土の単一層である（第16図）。



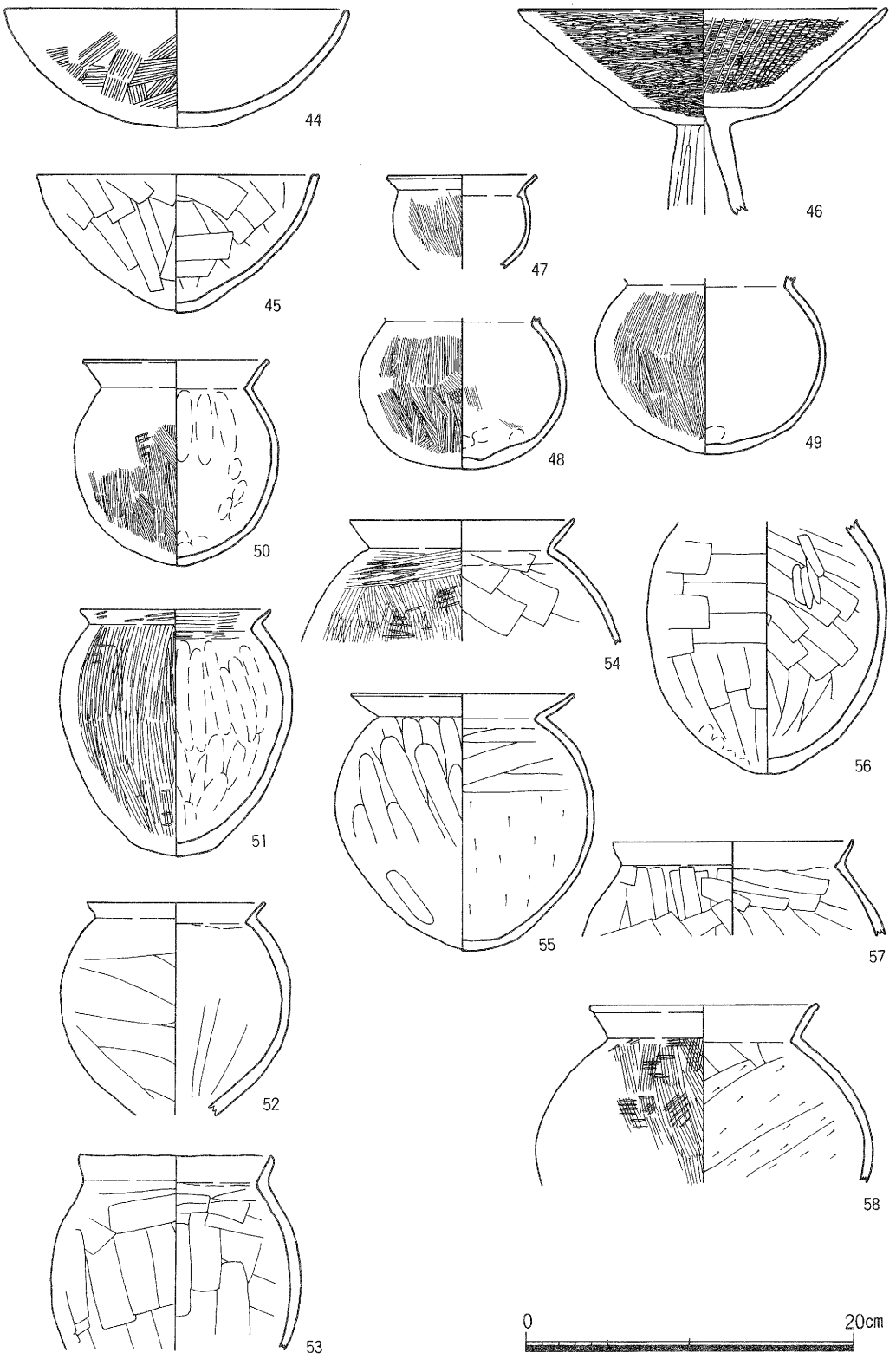
第16図　Ａ－Ⅰｂ地区ＳＫ２平面図

遺物は基底面中央部に径0.6m、厚み0.2mを測る土器の集積が検出された。土器の集積は細かく砕けて半球形に盛り上った状態であった。また、これらの土器を取り上げて復元作業を行ったが、完形近くまで復元できる土器がごくわずかであったことは、使用不能になった土器を廃棄したのではないかと推測される。土器の器種は鉢（44・45）・高坏（46）・小型丸底壺（47～49）・甕（50～58）等である。（第17図）。

井戸

ＳＥ１

Ａ－Ⅰｃ地区の中央部付近で検出した木枠を伴う井戸である。規模は径約1.8m、深さ0.8mを測る掘形で、平面はほぼ円形を呈す。断面は上部皿状形、下部は逆台形を成し、南側の一部は抉られている。これは構築時に豊富な湧水があったことを示すものと推測できる。掘形の堆積土は上方から茶灰色粘土・灰褐色粘土・淡灰黄色粘土・灰色粘土である。井戸枠は掘形の検出面（ＴＰ＋8.3m）より第１層約0.2mの下面で井戸枠の上部先端部が

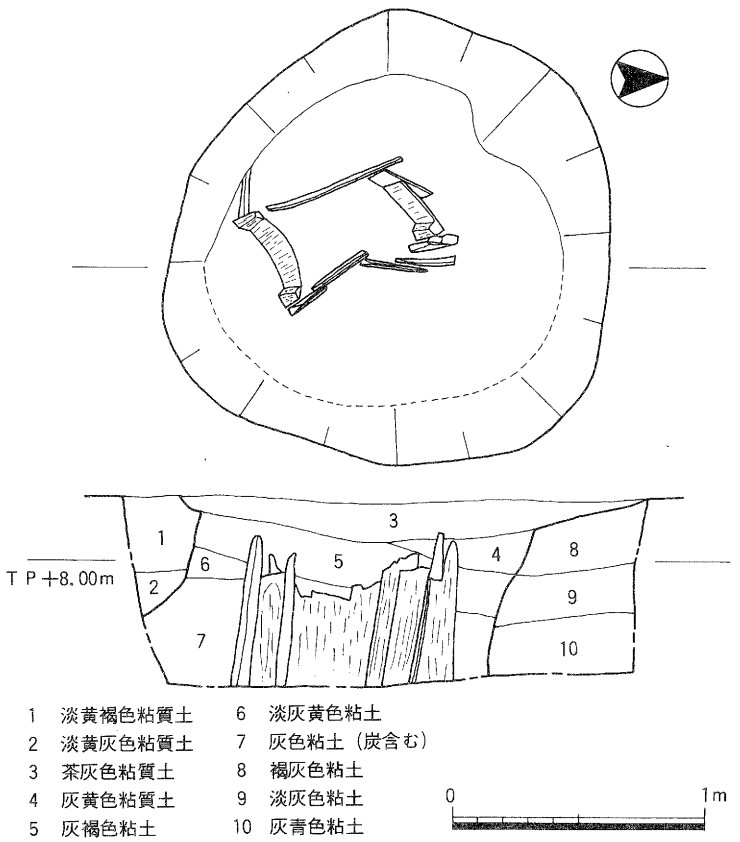


第17図　A－Ⅰb地区ＳＫ２出土遺物実測図

発露し、これを掘り下げることに因って東西辺0.4m、南北辺0.8mを測る平面長方形の木枠が発現した。木枠は土圧に因って内側に若干押し曲げられた状態であった。木枠の組合わせは東に4点（4・8・10・11）、西に1点（12）、南に2点（1・9）、北に3点（2・3・6）とそれと木枠内より木枠が破損したと考えられる木枠材2点（5・7）の合計12点である。これらの木枠の上部は腐触しているが、下部は工具による加工痕を明瞭に残している（第19図～第24図）。

板材の形態は、両端部を方形の角材状に残し内側を薄く板状に加工するもの（1）とこれと同形のものを縦半分に切断したもの（2・3）、さらに角材部を削り取り板状にしたもの（4・6・8・9・11）で、これらは井戸枠を設ける為に下部の先端部を尖らして、湧水層（淡灰色細砂層）に差し込んでいた。また、幅広い板材で下部のコーナー部の1ケ所に長方形の穿孔があるもの（12）、下部に角材部を残す板材のもの（5）、薄く板状にしたもの（7・10）が使用されている。

これらの板材は、井戸枠として使用する前の用途は不明であるが井戸の木枠として再利用するために二次加工を施している。なお、個々の木材枠は第2表に表わした（第18図）。



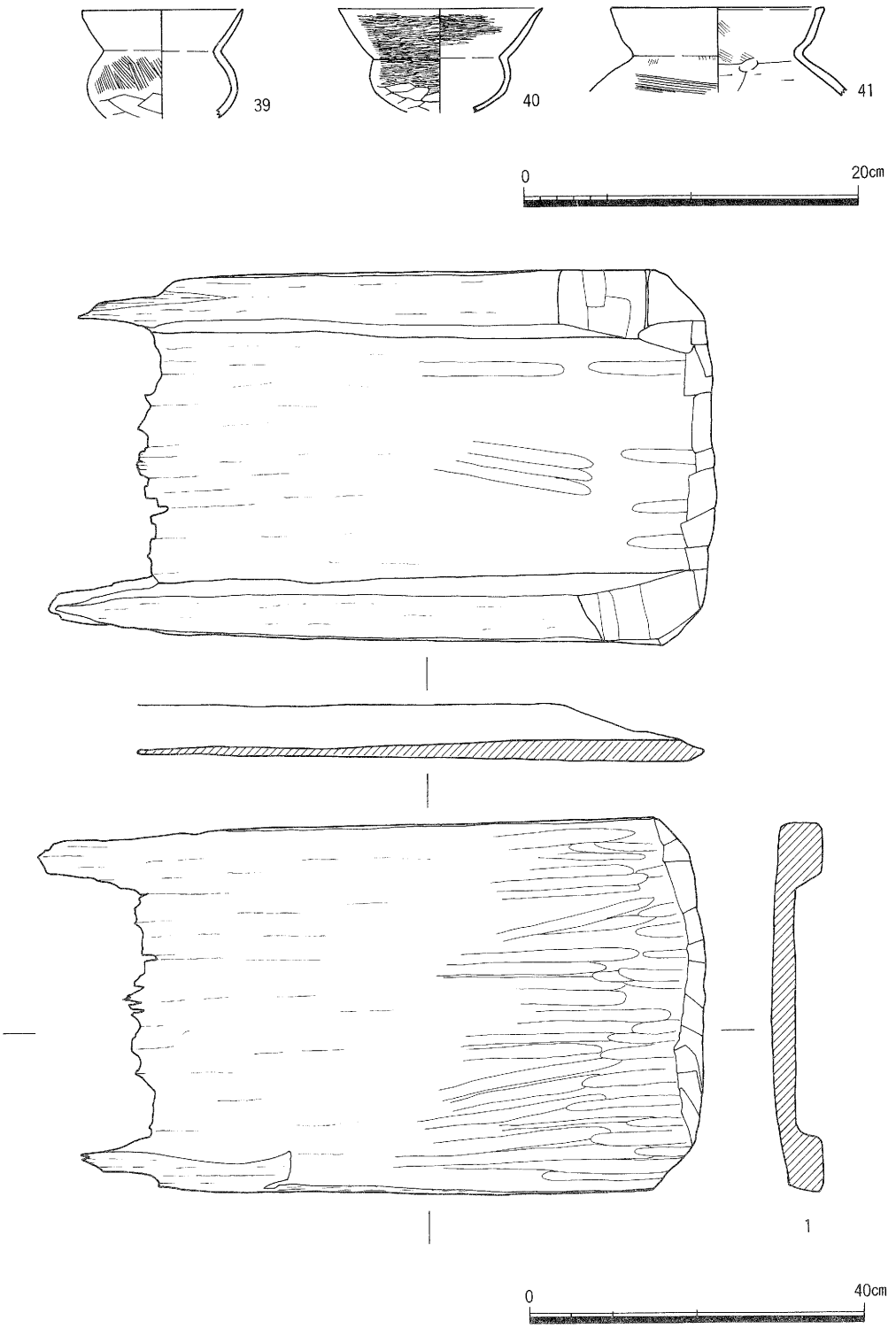
第18図　A－Ⅰc地区ＳＥ1平断面図

出土遺物

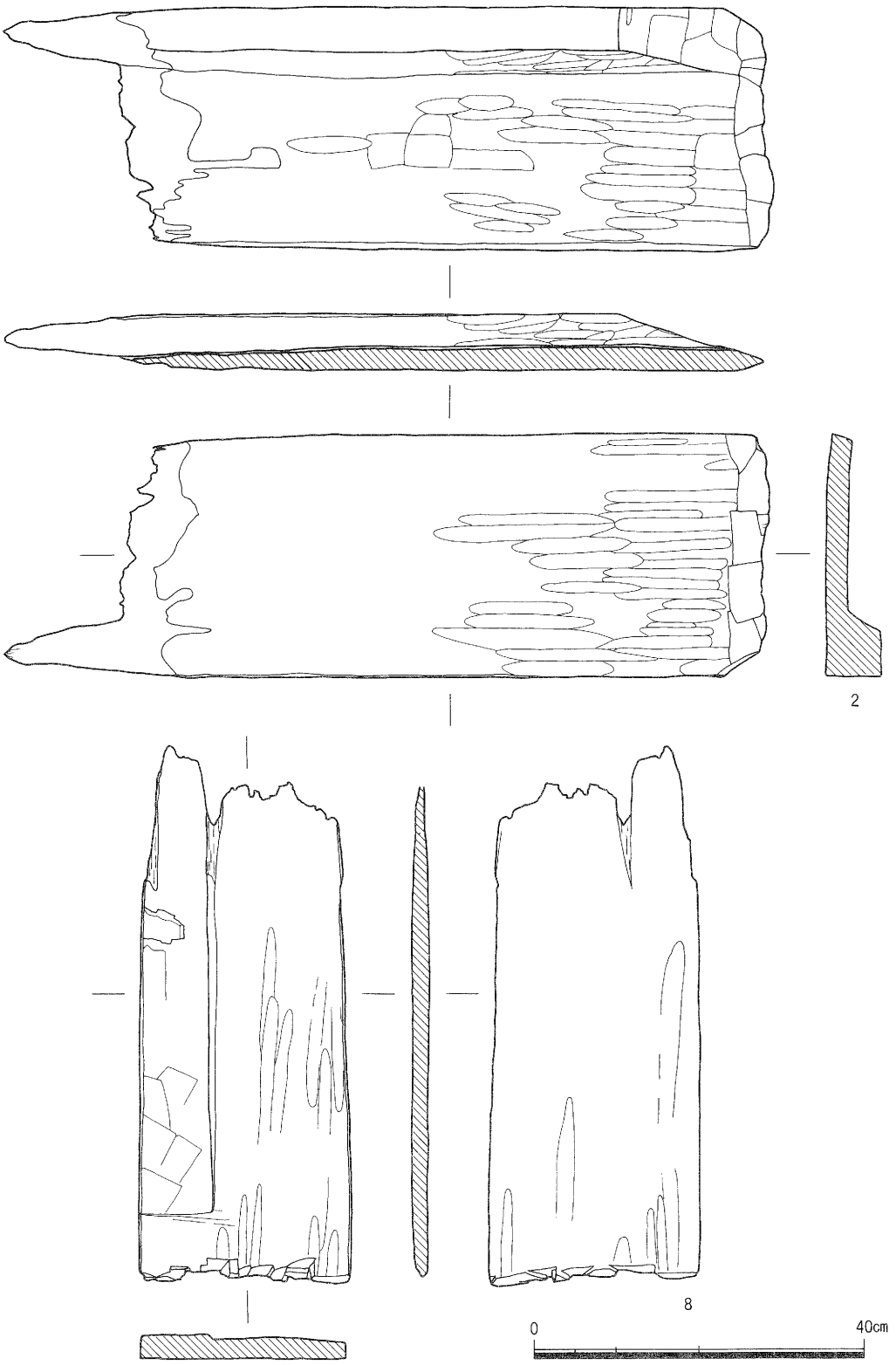
井戸枠内の上層より布留期古相に類似する土器の細片がごく少量出土した。器種は小型丸底壺（39・40）・高坏・甕（41）等である（第19図）。

第２表　ＳＥ１木枠観察表

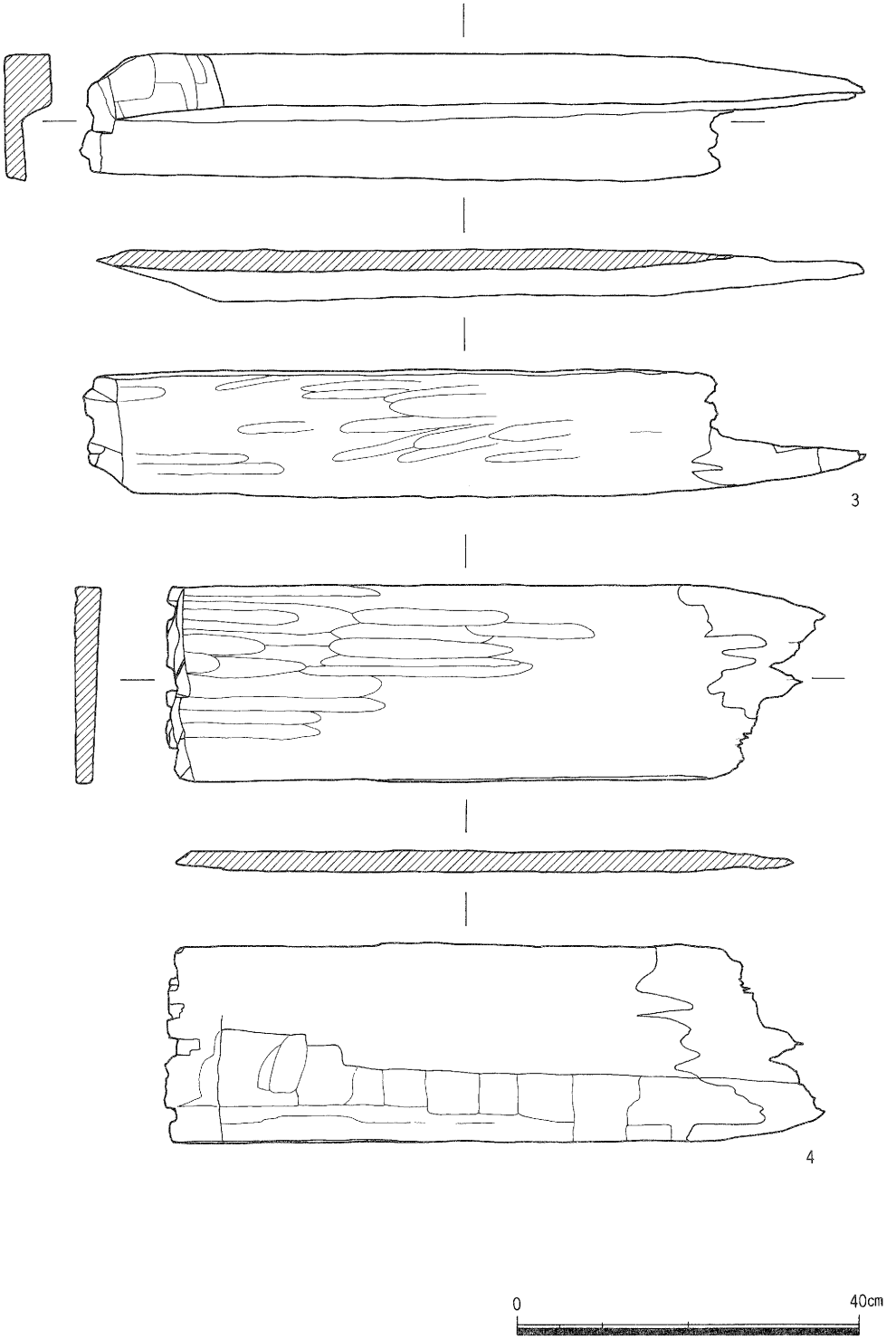
遺構番号 図版番号	(cm)　全長 幅 法量　厚さ(高さ)	形態	技法	備考
1 五十三	全　長　78.0 幅　45.2 厚　さ　2.4～2.8 角材部　4.8×5.6	長方形の形を成し、両端に角材部を残して中央部を薄い板状に削り、下部は鋭く尖らす。 上部は腐敗。	工具で丁寧に削る。 下部は雑に削る。	転用材(用途不明)
2 五十四	全　長　92.0 幅　30.0 厚　さ　2.8 角材部　6.8×5.6	１と同形のものをたて半分に切断したものである。	工具で丁寧に削る。 下部は雑に削る。	転用材(用途不明)
3 五十四	全　長　91.2 幅　14.8 厚　さ　2.0～2.4 角材部　5.2×6.0	１と同形のものをたて半分に切断したものである。	工具で丁寧に削る。 下部は雑に削る。	転用材(用途不明)
4 五十五	全　長　77.2 幅　23.2 厚　さ　2.0～3.0	２と同形のものを角材部を削りとって板状にしたものである。	工具で丁寧に削る。 下部は雑に削る。	転用材(用途不明)
5 五十五	全　長　69.2 幅　9.4 厚　さ　2.0	下部に角材部をもつ細い板で、焼けているため表面は炭状となる。	不明。	転用材(用途不明)
6 五十六	全　長　66.8 幅　20.8 厚　さ　1.2～2.8	４と同形。	工具で丁寧に削る。 下部は雑に削る。	転用材(用途不明)
7 五十六	全　長　57.6 幅　9.2 厚　さ　1.6	細い板で、下部は鋭く尖らす。 上部は腐敗	工具で丁寧に削る。 下部は雑に削る。	転用材(用途不明)
8 五十七	全　長　64.8 幅　25.6 厚　さ　2.0～2.8	４と同形。	工具で丁寧に削る。 下部は雑に削る。	転用材(用途不明)
9 五十七	全　長　63.7 幅　18.2 厚　さ　2.0～3.2	４と同形。	工具で丁寧に削る。 下部は雑に削る。	転用材(用途不明)
10 五十八	全　長　74.8 幅　14.4 厚　さ　1.2～2.4	７と同形。	工具で丁寧に削る。 下部は雑に削る。	転用材(用途不明)
11 五十八	全　長　62.0 幅　14.2 厚　さ　1.2～2.4	４と同形。	工具で丁寧に削る。 下部は雑に削る。	転用材(用途不明)
12 五十八	全　長　72.0 幅　65.6 厚　さ　2.0～2.8	幅の広い板で、両端部は丸く加工されている。 下部付近に長方形の穿孔を有す。 上部は腐敗。	工具で丁寧に削る。 下部は雑に削る。	転用材(用途不明)



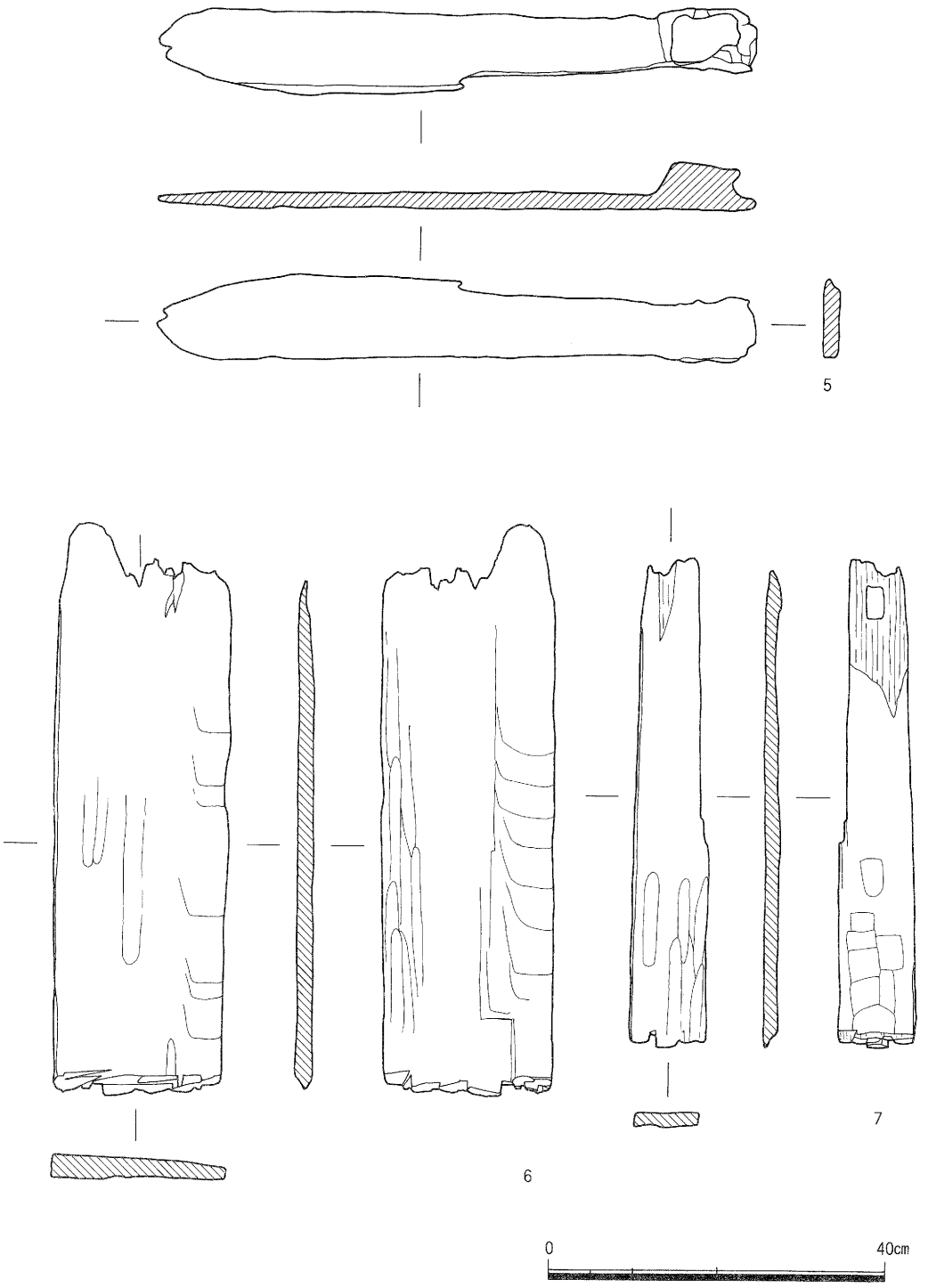
第19図　Ａ－Ｉｃ地区ＳＥ１出土遺物・木枠実測図１



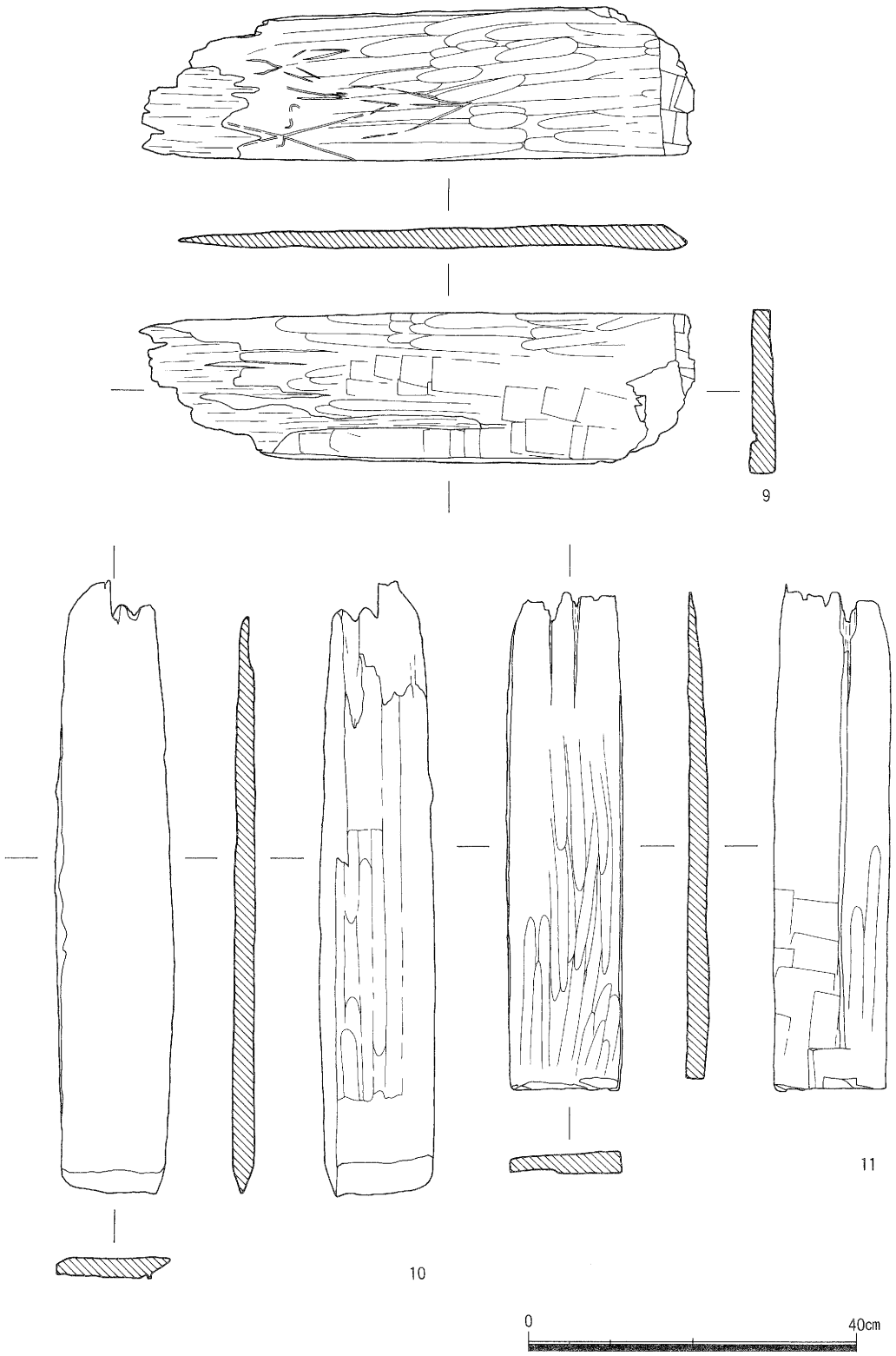
第20図　A－Ⅰc地区ＳＥ１木枠実測図２



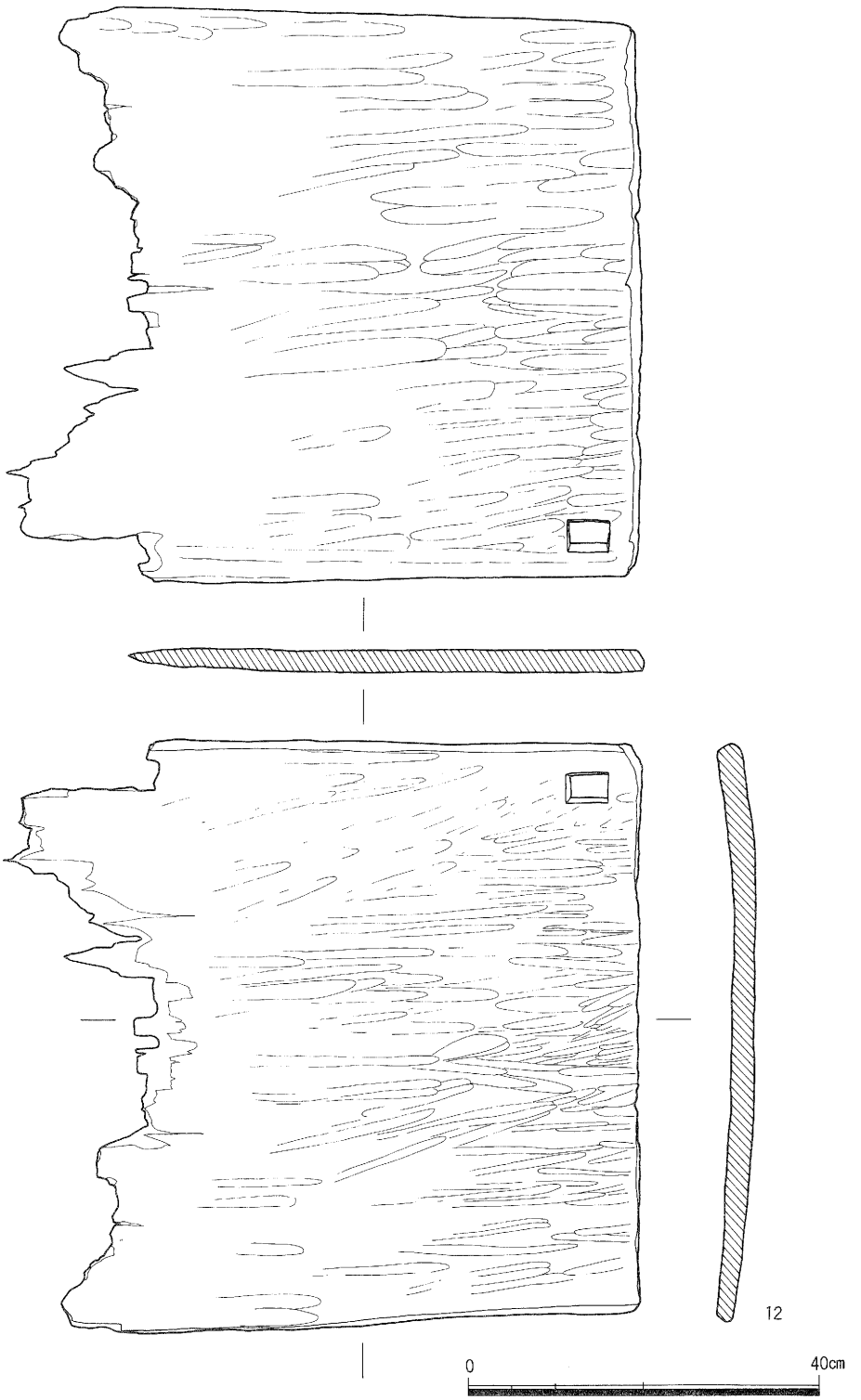
第21図　A－Ⅰc地区ＳＥ１木枠実測図３



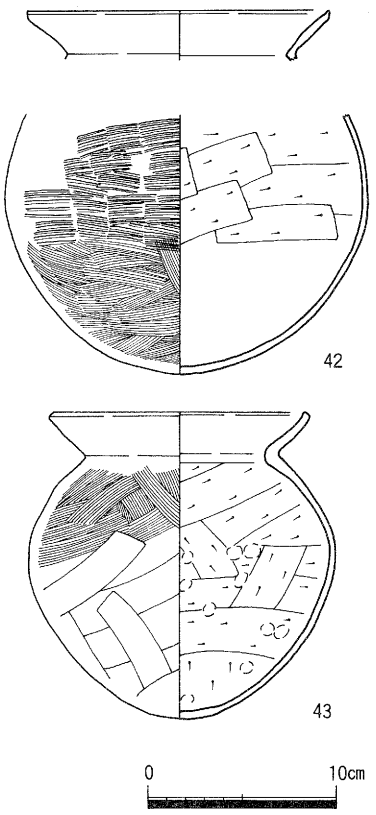
第22図　A－Ⅰc地区ＳＥ１木枠実測図4



第23図　A－Ⅰc地区ＳＥ１木枠実測図５



第24図　Ａ－Ｉｃ地区ＳＥ１木枠実測図６



第25図　A－Ⅰb地区落ち込み1
出土遺物実測図

落ち込み状遺構

落ち込み1

A－Ⅰb地区で検出した。検出部は幅10m前後、深さ0.33mを測る南東－北西に至る落ち込み状遺構である。断面は皿状形を呈す。堆積土は黄灰褐色粘土・灰青色粘土の2層に分かれる。この遺構が埋没したのちにSK2が切り込まれている。また、平安時代以降と考えられるSD2・SD3が横断する。

出土遺物（第25図）

南部の基底面付近で庄内式の甕（42・43）2点が、完形に近い状態で出土した。この庄内式の甕は「八尾南遺跡」の古墳時代前期の土器編年によるⅢ期に類似する。

落ち込み7

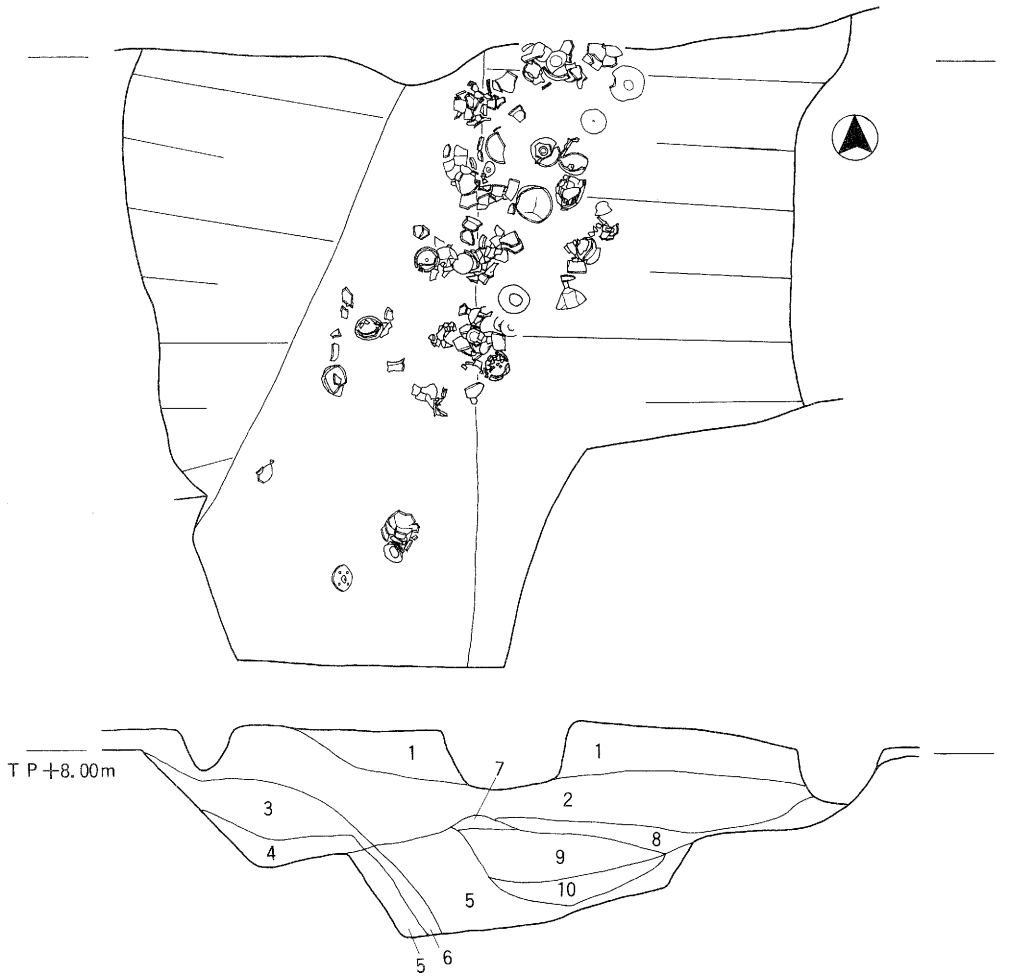
A－Ⅲa・b地区で検出した。検出部は幅4.9m、深さ1.2mを測る南北方向に至る落ち込み状遺構である。断面は2段に成る逆台形を呈す。堆積土は上方から第1層黄茶色砂粘土・第2層灰茶褐色粘土・第3層茶黄色粘砂土・第4層黄茶色粘砂土・第5層青灰色粘土・第6層黒灰色粘土・第7層淡茶褐色粘土・第8層淡灰茶褐色粘砂土・第9層青灰色粘砂土・第10層暗灰色粘砂土である。下層は堆積状況からみて、一定時期に帯水状態であったと考えられる。なお、この遺構は性格・規模等を把握するため、南部と北部にそれぞれ約1mの拡張を実施したが変化はなく南北方向に延びる。また、南部約50mに位置する22地区においても認められなかった（第26図）。

出土遺物（第27図～第37図）

遺物は、第2層・第5層を主として庄内期～布留期古相に比定される土器が多量に混入していた。この量はコンテナにして約40箱を数え、調査区全体で出土した遺物の約半分を占める。

出土状況は東側より人為的に投げ棄てられた状態で東傾面上に積み重なり合っていた。特に北部は竹ベラ等の発掘用具で差し入れできない程の土器片が集積して出土した。それらの出土した土器は大半が壊れ細片化した状態で、完形又は完形に近い形で出土したのはごく少量であった。

土器の器種は壺（59～78）・鉢（79～95）・鼓形器台（96）・器台（97～102）・高坏（103～117）・製塩土器（118・119）・甕（120～252）でバラエティーに富んでいる。このうち甕が大半を占め、



1　黄茶色砂粘土
2　灰茶褐色粘土（土器多く含む）
3　茶黄色粘砂土
4　黄茶色粘砂土
5　青灰色粘土
6　黒灰色粘土
7　淡茶褐色粘土
8　淡灰茶褐色粘砂土
9　青灰色粘砂土
10　暗灰色粘砂土

第26図　A－Ⅲａ地区落ち込み7平断面図

他の器種はそれぞれ少量であった。以下、各器種ごとについて簡単に分類し記述する。なお、胎土分析による結果の類型分類も記載した（分析の詳細は第5章胎土分析を参照）。

壺(59～78)　出土した土器の約3割を占める。実測できたものは29点を数える。形態の特徴は15分類に大別できる。

壺A類(59)：球形の体部から屈曲して上外方する口縁部に至り、端部は丸く終わる。底部は丸底である。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ハケナデ、下位ヘラナデ、内面ヘラナデを施す。胎土分析はⅣ類型。

壺B類(60)：口縁部は上外方へ外反し、端部は上につまみ外に平坦な面をもつ。体部は欠損して不明である。調整は口縁部内外面ヨコナデを施す。胎土分析はⅣ類型。

壺C類(61・67)：肩部から一旦上外方した後、外上方へ外反する口縁部に至る。端部は外傾する凹面をもつ。調整は口縁部・体部外面ヘラミガキ、内面は摩滅の為不明である。胎土分析は61がⅥ類型。67がⅡb類型。

壺D型(62)：外傾する頸部から外上方へなだらかに伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。口縁部内外面に波状文が施されている。他はヨコナデである。胎土分析はⅣ類型。

壺E類(63)：外上方へ外反する頸部から上外方へ外反気味に伸びる複合口縁となる。端部はややつまみ外に面をもつ。体部は欠損して不明。調整は内外面ともにヨコナデ。胎土分析はⅡa類型。

壺F類(64)：外上方へ外反する頸部から上外方して複合口縁となる。口縁部外面に緩やかな凹線が幾つかみられる。端部は面をもつ。体部は欠損して不明。調整は頸部外面ハケナデ、他はヨコナデ。複合口縁の形態は山陰系土器の特徴をもつ。胎土分析はⅣ類型。

壺G類(65・66)：体部から丸く屈曲し、外上方へ外反する頸部よりさらに斜上方へ伸びる複合口縁となる。端部は丸く終わる。口縁部内外面上位に波状文を施す。調整は体部外面・口縁部ハケナデ後ヘラミガキ、体部内面ヘラナデ。胎土分析は65がⅤ類型、66がⅥ類型。

壺H類(68・72)：上内方へ外反する頸部からやや鋭く屈曲し、外上方する口縁部に至る。端部は外傾し、凹面をもつ。口縁部内面上位に竹管円形押圧文を有す。調整は口縁部外面ヨコナデ、一部ハケナデ。体部内面ヘラケズリ、胎土分析は68がⅡa類型。72がⅥ類型。

壺I類(69・74)：球形の体部から丸く屈曲して上外方へ外反する口縁部に至り、端部は丸く終わる。底部は欠損して不明。調整は口縁部外面ハケナデ、内面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面上位指ナデ、下位ヘラナデ後ハケナデ。胎土分析は69がⅤ類型、74がⅥ類型。

壺J類(70)：最大径をやや下位にもつ球形の体部から丸く屈曲し、上外方へ外反する口縁部に至る。底部は突出気味の平底。端部は欠損して不明。調整は体部上位外面ヘラミガキ、下位は摩滅の為不明、内面ハケナデ後ヘラナデ。胎土分析はⅤ類型。

壺K類(71)：丸底の底部から球形の体部に至る。口縁部は欠損する。調整は体部外面上位タタキ、中位ハケナデ後ヘラミガキ、内面ハケナデ。胎土分析はⅥ類型。

壺L類(73)：体部から直立気味に伸び、屈曲して斜上方する口縁部に至る。端部は外に凹面をもつ。体部は欠損して不明。調整は摩滅の為不明。胎土分析はⅥ類型。

壺M類(74)：口縁部は外上方へ外反し、端部は外にやや肥厚する。体部は欠損して不明。調整は口縁部外面ヨコナデ後ヘラミガキ、内面ヨコナデ。胎土分析はⅥ類型。

壺N類(75・76)：口縁部は上外方へ長く伸び、端部は外傾し平坦な面をもつ。体部は欠損して不明。調整は口縁部外面ヘラナデ、内面ヨコナデ。胎土分析は75がⅡc類型、76がⅠa類型。

壺O類(77・78)：平坦な底部から球形に近い体部に至る。口縁部は欠損して不明。調整は体部内外面ヘラナデ、底部外面ヘラケズリ。胎土分析はⅣ類型。

鉢(79～95)　出土した土器の約1割を占める。実測できたものは16点を数える。形態の特徴は6分類に大別できる。

鉢A類(79)：半球形の体部から緩やかに屈曲し、上外方する口縁部に至る。端部は丸く終わる。底部は欠損して不明。調整は外面タタキ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ。胎土分析は79がⅥ類型。

鉢A1類(80～85)：半球形の体部から緩やかに屈曲し、上外方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は丸底。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラナデ。胎土分析は80・85がⅣ類型、81がⅥ類型、82～84は分析不能。

鉢A2類(86)：鉢A1類の形態で、坏体部に比べ口縁部が短い。胎土分析はⅣ類型。

鉢A3類(87)：半球形の体部から屈曲し、斜上方へ長く伸びる。端部は丸く終わる。底部は丸底。調整は口縁部内外面ハケナデ後ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ヘラナデ、胎土分析はⅡa類型。

鉢B類(88・89)：丸底の底部から椀形の体部に至り屈曲し、内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸く終わる。調整は口縁部内外面ヨコナデ後ヘラミガキ、体部外面ヘラケズリ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後放射状暗文。胎土分析は88がⅡc類型、89がⅣ類型。

鉢C類(90)：丸底の底部から椀形の体部に至り、口縁部付近で緩やかな稜ををもち、そのまま上外方する口縁部に至る。端部は丸く終わる。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ。胎土分析はⅣ類型。

鉢C1類(91)：鉢C類の形態で、浅い鉢である。胎土分析はⅡd類型。

鉢D類(92)：深い半球形の体部から、そのまま内彎する口縁部に至る。端部は内側に鈍く尖る。底部は欠損して不明。調整は外面ナデ、内面ヘラナデ。胎土分析はⅤ類型。

鉢Ｄ1類(95)：鉢Ｄ類の形態で、器形がやや大きい。調整は体部内外面ハケナデ。胎土分析はⅠｂ類型。

鉢Ｅ類(93)：最大径を上位にもつ偏平な球形の体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾し平坦な面をもつ。底部は丸底。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ後ヘラナデ、内面ヘラケズリ。胎土分析はⅣ類型。

鉢Ｆ類(94)：半球形の体部から僅かに屈曲し、上外方へ内彎気味の口縁部に至る。端部は外傾し、平坦な面をもつ。底部は丸底。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ後ヘラナデ、内面ヘラケズリ、底部外面ヘラケズリ。胎土分析はⅠａ類型。

器台(96～102)　出土した土器の約0.5割を占める。実測できたものは６点を数える。形態の特徴は３分類に大別できる。

器台Ａ類(96)：頸部から上下に外反する鼓形である。口縁部は斜上方へ伸び、端部は内傾する平坦な面をもつ。裾端部は内傾する平坦な面をもつ。頸部の上下には凸帯が一条ずつ巡る。調整は外面ヨコナデ、内面は摩滅の為不明。形態は山陰地方の特徴をもつ。胎土分析はⅥ類型。

器台Ｂ類(97・99・101)：平坦な受部底部から外上方へ緩やかに内彎して口縁部に至る。端部は鈍く尖る。脚部は斜下方に直線的に伸び、端部は鈍く尖る。脚部の中位に四方の円孔をもつ。調整は受部内外面と脚部外面ヘラミガキ、脚部内面上位ナデ、下位ヨコナデ、胎土分析は97・101がⅥ類型、99がⅡｅ類型。

器台Ｂ1類(98・100)：器台Ｂ類の形態で、受部端部は上につまむ。胎土分析は98がⅣ類型、100がⅡｃ類型。

器台Ｃ類(102)：脚部は斜下方に外反気味に伸び、裾端部は平坦な面をもつ。受部は欠損するが、受部と脚部は貫通する。脚部中位に三方の円孔をもつ。調整は脚部外面ハケナデ後ヘラミガキ、内面ハケナデ後ヘラナデ。胎土分析はⅡｂ類型。

高坏(103～117)　出土した土器の約１割を占める。実測できたものは14点を数える。形態の特徴は５分類に大別できる。

高坏Ａ類(103～107)：椀形の坏部から上外方に内彎する口縁部に至り、端部は丸く終わる。脚部は短く下外方する中空の柱状部から屈曲し、大きく外下方に伸び、坏部の径を凌ぐ裾部をもつ。裾端部は鈍く尖る。裾部中位に四方の円孔をもつ。調整は口縁部外面ヨコナデ後ヘラミガキ、内面ヨコナデ後放射状暗文、坏部外面ハケナデ後ヘラミガキ。胎土分析は104がⅡａ類型、105・107がⅥ類型、103が分析不能。

高坏Ｂ類(108)：深い椀形の坏部から斜上方へ緩やかに内彎する口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。柱状部は坏部から下外方に裾部まで伸び、中空である。裾部は欠損する。調

整は内外面ナデ。胎土分析はⅥ類型。

高坏C類(109～113)：平坦な坏底部から斜上方へ緩やかに内彎する口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。柱状部は坏部から下外方に裾部まで伸び、中空である。裾部は欠損する。調整は外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後放射状暗文。胎土分析は109・110がⅥ類型。111・112がⅡc類型。113がⅣ類型。

高坏D類(114)：椀形気味の坏底部から屈曲し、斜上方へ外反する口縁部に至る。端部は丸く終わる。脚部は緩やかな稜をもつ中空の柱状部から大きく広がる裾部に至り、端部は鋭く尖る。裾部上位に四方の円孔をもつ。調整は坏部柱状部外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後放射状暗文、脚部外面ハケナデ後ヘラミガキ、脚部内面くりぬき・ハケナデ。胎土分析はⅡb類型。

高坏E類(115～117)：平坦な坏底部から斜上方へ伸びる口縁部に至り、端部は外傾し、凹面をもつ。脚部は直立気味の柱状部から屈曲し、外下方へ外反気味に伸びる裾部に至り、裾端部は鋭く尖る。裾部中位に四方の円孔をもつ。調整は坏部内外面ハケナデ後ヘラミガキ、坏底部外面ヘラナデ後ヘラミガキ、柱状部外面ヘラナデ後ハケナデ。胎土分析は115がⅡb類型、116がⅣ類型、117がⅥ類型。

製塩土器(118・119)　出土した土器の極僅かで、実測できたものは2点を数える。

製塩土器A類(118)：下外方に外反する脚台から半楕円形の体部に至る。脚台端部は面をもつ。調整は体部外面タタキ、内面ヘラナデ、脚台部ナデ。脚台Ⅰ式[註1]に類似する。胎土分析はⅣ類型。

製塩土器A1類(119)：製塩土器A類の形態で、脚台端部は丸く終わる。胎土分析はⅥ類型。

甕(120～252)　出土した土器の約5割を占める。実測できたものは132点を数える。形態の特徴は大きく畿内第Ⅴ様式系・庄内式土器・布留式土器・他地方の形態をもつ土器に分れ、これらをさらに細分すると19分類できる。

甕A類(120・133・134)：畿内第Ⅴ様式系の形態的特徴にほぼ類似する。最大径をやや上位にもつ楕円形の体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。底部は突出(気味)の平底。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外面粗いタタキ（後ハケナデ)、内面ヘラ(ハケ)ナデ、底部ナデ。胎土分析は120がⅥ類型、133がⅡe類型、134がⅡc類型。

甕A1類(121・124)：体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾し、凹面をもつ。体部は不明。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外面粗いタタキ、内面ヘラナデ。胎土分析は121がⅡe類型、124がⅡb類型。

甕A2類(122)：口縁部の形態や調整は甕A1類である。端部は丸く終わる。

甕Ａ3類(123)：甕Ａ類の形態で、口縁部が外上方へ短く外反した後、さらにもう一度外反する口縁部に至る。端部は面をもつ。胎土分析はⅣ類型。

甕Ａ4類(125)：甕Ａ１類の形態と特徴で、端部が外に凹面をもつ。胎土分析はⅣ類型。

甕Ａ5類(126・130)：甕Ａ１類の形態と特徴で、端部は外傾する平坦な面をもつ。胎土分析は126がⅥ類型、130がⅢ類型。

甕Ａ6類(127)：甕Ａ1類の形態と特徴で、端部は軽くつまみ上げる。胎土分析はⅤ類型。

甕Ａ7類(128)：楕円形の体部から鋭く屈曲し、外上方へ外反する口縁部に至る。胎土分析はⅡｃ類型。

甕Ａ8類(129)：甕Ａ７類で、体部が球形に近い。胎土分析はⅣ類型。

甕Ａ9類(131)：甕Ａ類で、球形な体部に丸い底部をもつ。胎土分析はⅣ類型。

甕Ｂ類(132)：小型で球形の体部から丸く屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。胎土分析はⅣ類型。

甕Ｃ類(135～137・142・146・147・150・152～155・157～159・162～199)：小型で庄内式の形態的特徴をもつ。球形の体部から屈曲し、上外方（斜上方）へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ(つまみ上げる)。底部は丸底。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ後ハケナデ、内面ヘラケズリ。胎土分析は136・142・146・153～155・162・163・165・166・168・169・171・172・174～177・180・182～187・192～194・197・198がⅠa類型、135・137・147・150・152・158・159・164・167・170・173・178・179・189～191・195・196がⅠｂ類型、181はⅣ類型、199はⅡｃ類型。

甕Ｃ1類(138)：甕Ｃ類の形態で、調整が体部外面粗雑なハケナデ。胎土分析はⅣ類型。

甕Ｃ2類(139)：甕Ｃ類の形態で、下位に張りをもつ楕円形の体部。調整は体部外面上位ハケナデ、下位ヘラナデ。胎土分析はⅠｂ類型。

甕Ｃ3類(140・145・151・159)：甕Ｃ類の形態で、調整が体部外面に従横の細かいハケナデを施す。胎土分析は140・159がⅠｂ類型、145がⅣ類型、151がⅥ類型。

甕Ｃ4類(141・149・156)：甕Ｃ類の形態で、調整が体部外面上位タタキ後ハケナデ、下位ヘラナデ。胎土分析は141・156がⅠａ類型、149はⅠｂ類型。

甕Ｃ5類(143)：甕Ｃ類の形態で、器体は中型で、底部が尖り底。胎土分析はⅠａ類型。

甕Ｃ6類(144)：甕Ｃ類の形態で、体部外面のタタキの方向が他のものと逆の右下り。胎土分析はⅣ類型。

甕Ｃ7類(148)：甕Ｃ類の形態で、体部外面タタキ後ヘラナデ。胎土分析はⅠｂ類型。

甕Ｄ類(200・201)：偏平な球形の体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。器体は小型。底部は欠損。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面

ヘラケズリ、胎土分析は200がⅡb類型。201が分析不能。

甕E類(202・204・207)：楕円形と思われる体部から丸く屈曲し、外上方に外反する口縁部に至る。端部は丸く終わる。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラケズリ。胎土分析は202・207がⅠb類型、204がⅠa類型。

甕E1類(203)：甕E類の形態で、体部外面ハケナデ。胎土分析はⅣ類型。

甕E2類(205・208)：甕E類の形態で、口縁部端部が外傾する面をもつ。調整は体部外面ハケナデ。胎土分析は205・208がⅣ類型。

甕E3類(206)：甕E類の形態で、調整が体部外面ナデ後ヘラナデ。胎土分析は分析不能。

甕F類(209)：半球形の体部から斜上方へ内彎する口縁部に至る。端部は丸く終わる。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ヘラケズリ。胎土分析はⅡc類型。

甕G類(210)：偏平な半球形の体部から屈曲し、斜上方した後短く外上方へ外反する口縁部に至る。端部は上につまむ。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ後ハケナデ、下位ヘラナデ、内面ヘラケズリ。胎土分析はⅠa類型。

甕H類(211)：肩部に張りのない球形の体部から屈曲し、外上方に伸びる口縁部に至る。口縁部は端部付近で器脹れし、端部は外傾する面をもつ。調整は口縁部外面ハケナデ後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部内外面ハケナデ。胎土分析はⅤ類型。

甕Ⅰ類(213・214・216・217・219・224・225)：球形と思われる体部からやや鋭く屈曲し、外上方(斜上方)へ内彎(気味)に伸びる口縁部に至る。端部は肥厚する(外傾する凹面をもつ)。胎土分析は213・216・217がⅣ類型、214・224・225がⅥ類型、219がⅡb類型。

甕J類(218・220)：丸底の底部から球形の体部に至る。口縁部は斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。胎土分析は218がⅣ類型、220がⅥ類型。

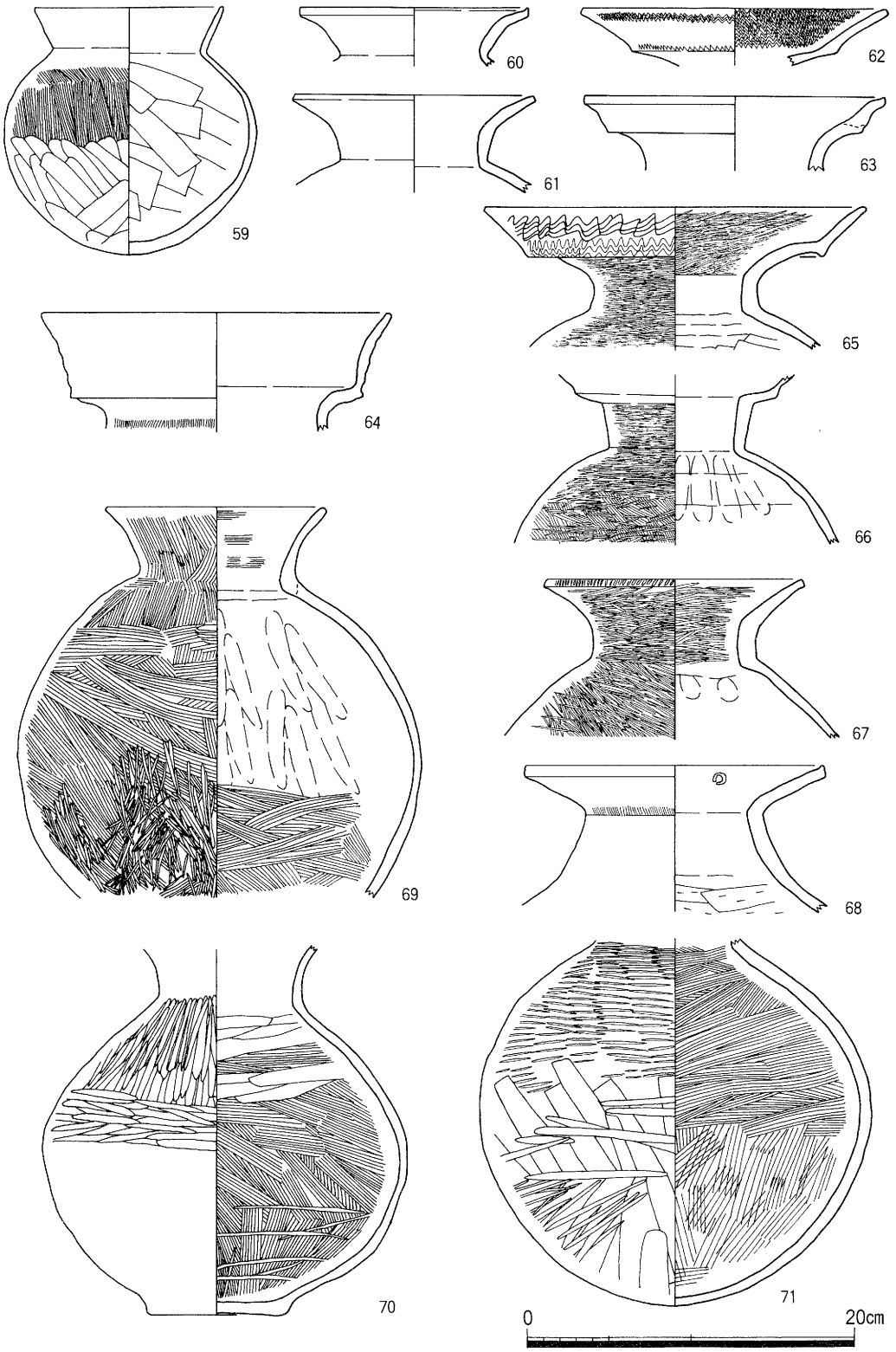
甕K類(221)：体部からやや鋭く屈曲し、外上方へ外反(気味)の口縁部に至る。端部は丸く終わる。胎土分析はⅠb類型。

甕L類(222)：半球形と思われる体部から屈曲し、外上方へ外反する口縁部に至る。端部は上下に肥厚し面をもつ。胎土分析はⅠa類型。

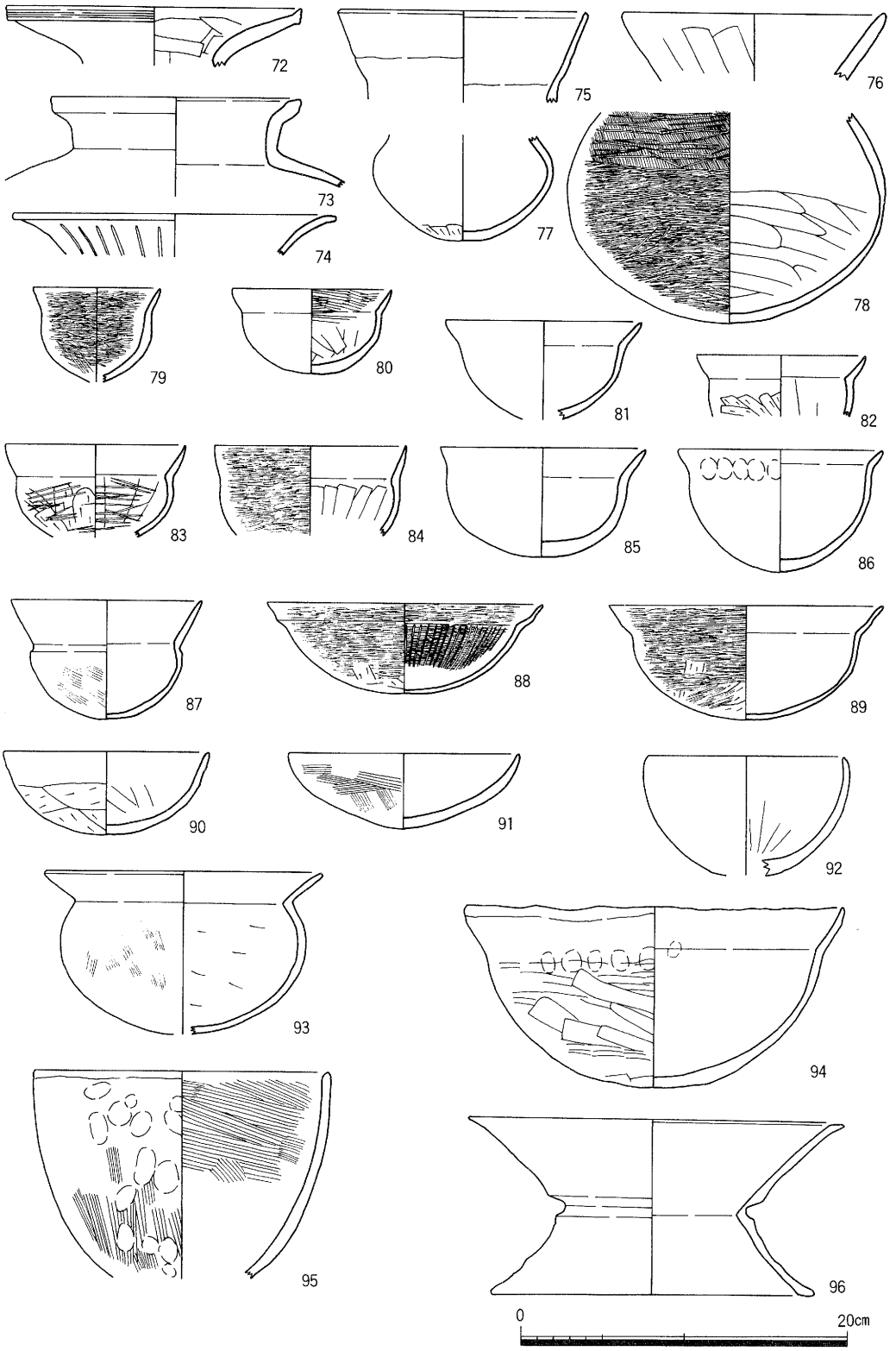
甕M類(226～230)：直線的に上外方する体部から鋭く屈曲し、水平気味に外反する口縁部に至る。端部は上につまみ、鋭く尖る。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ後ヨコナデ、内面ヘラケズリ。東部瀬戸内系の形態をもつ。胎土分析は228・229がⅡd類型、他が分析不能。

甕N類(231)：体部から丸く屈曲し、短く彎曲する(S字状)口縁部に至る。端部は鈍く尖る。中部東海系(尾張系)の形態をもつ。胎土分析はⅣ類型。

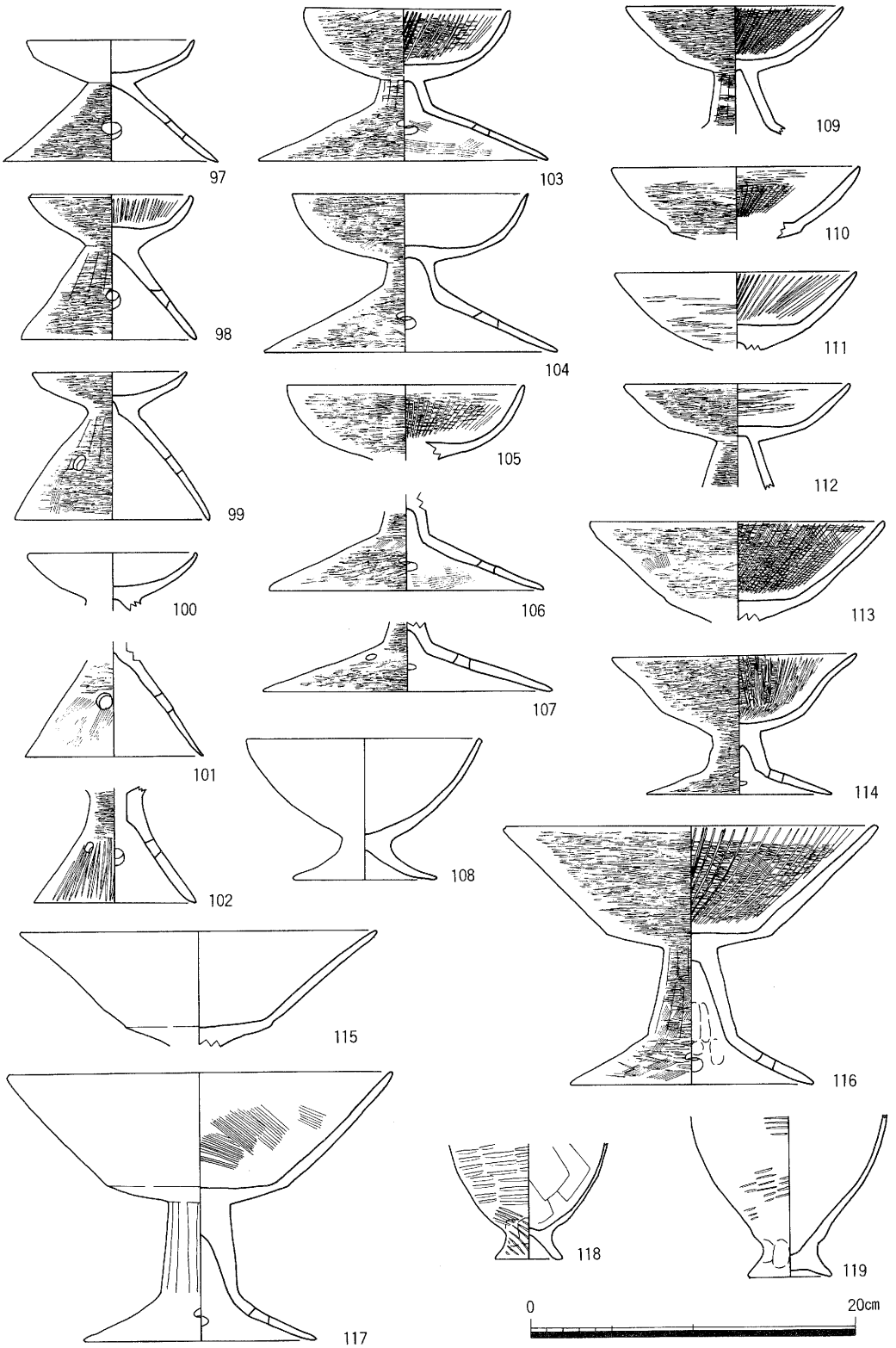
甕O類(233)：口縁部は水平(気味)に外反し、端部は長くつまみ上げる。胎土は分析不能。



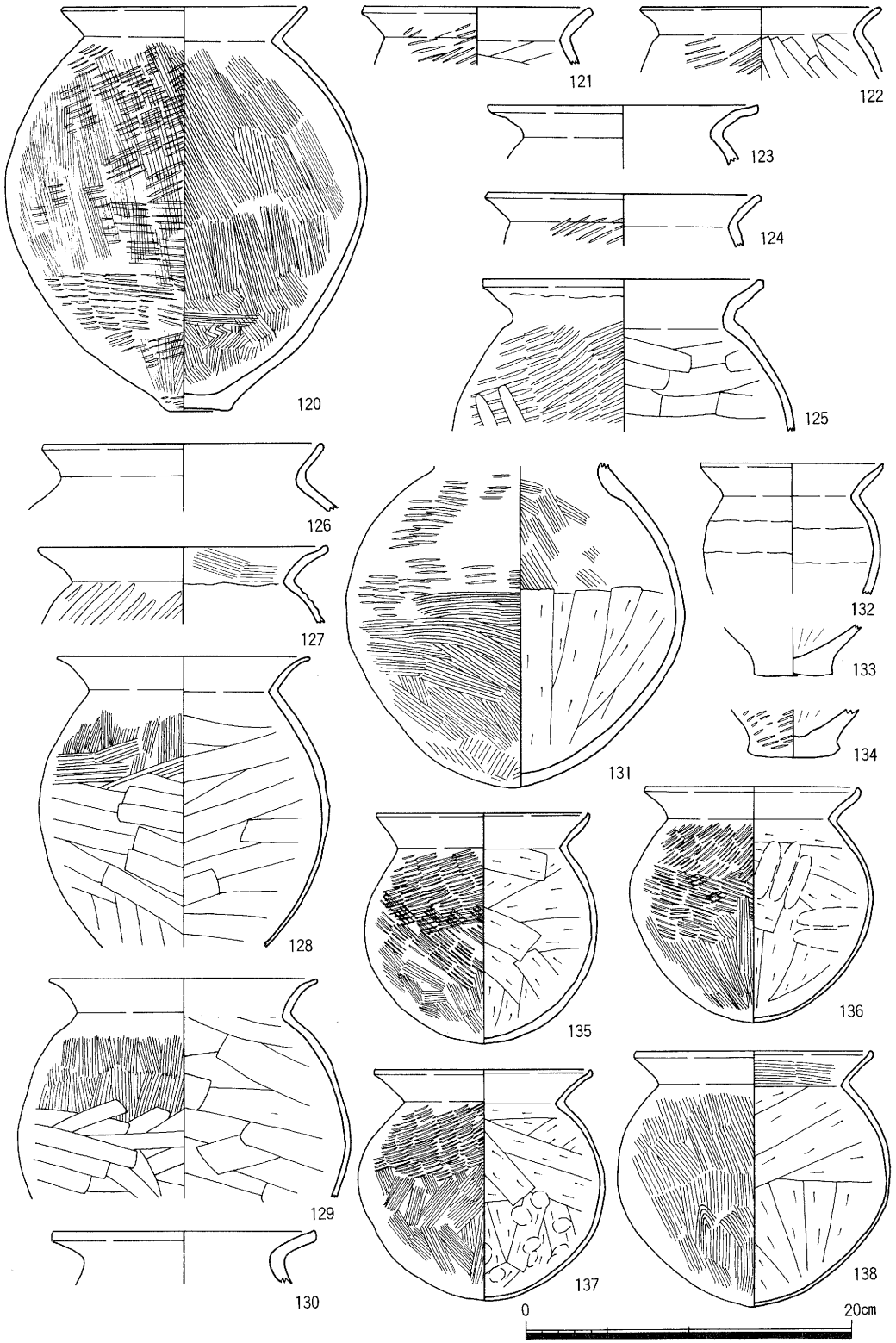
第27図　A－Ⅲａ地区落ち込み７出土遺物実測図１



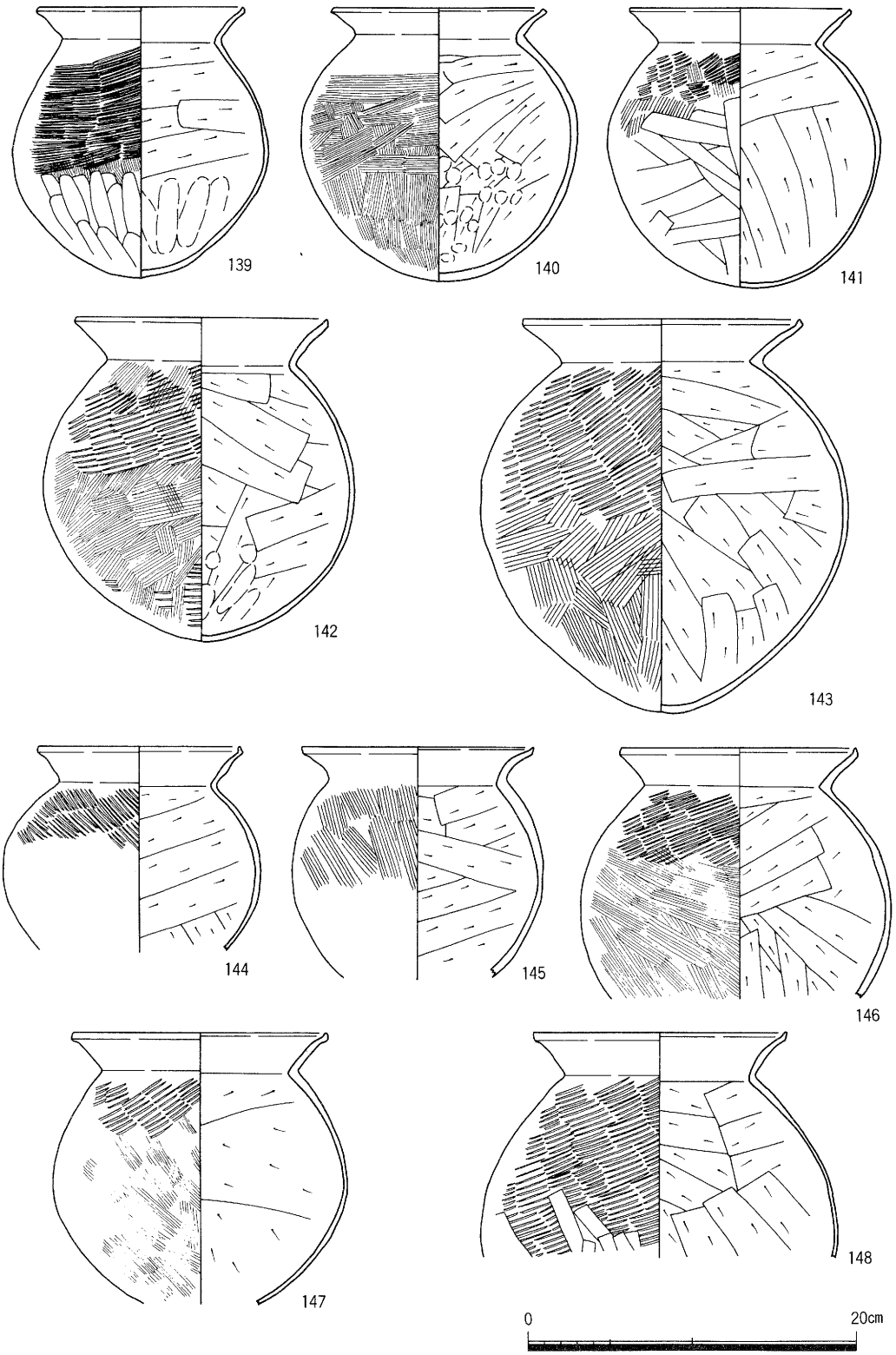
第28図　A－Ⅲａ地区落ち込み７出土遺物実測図２



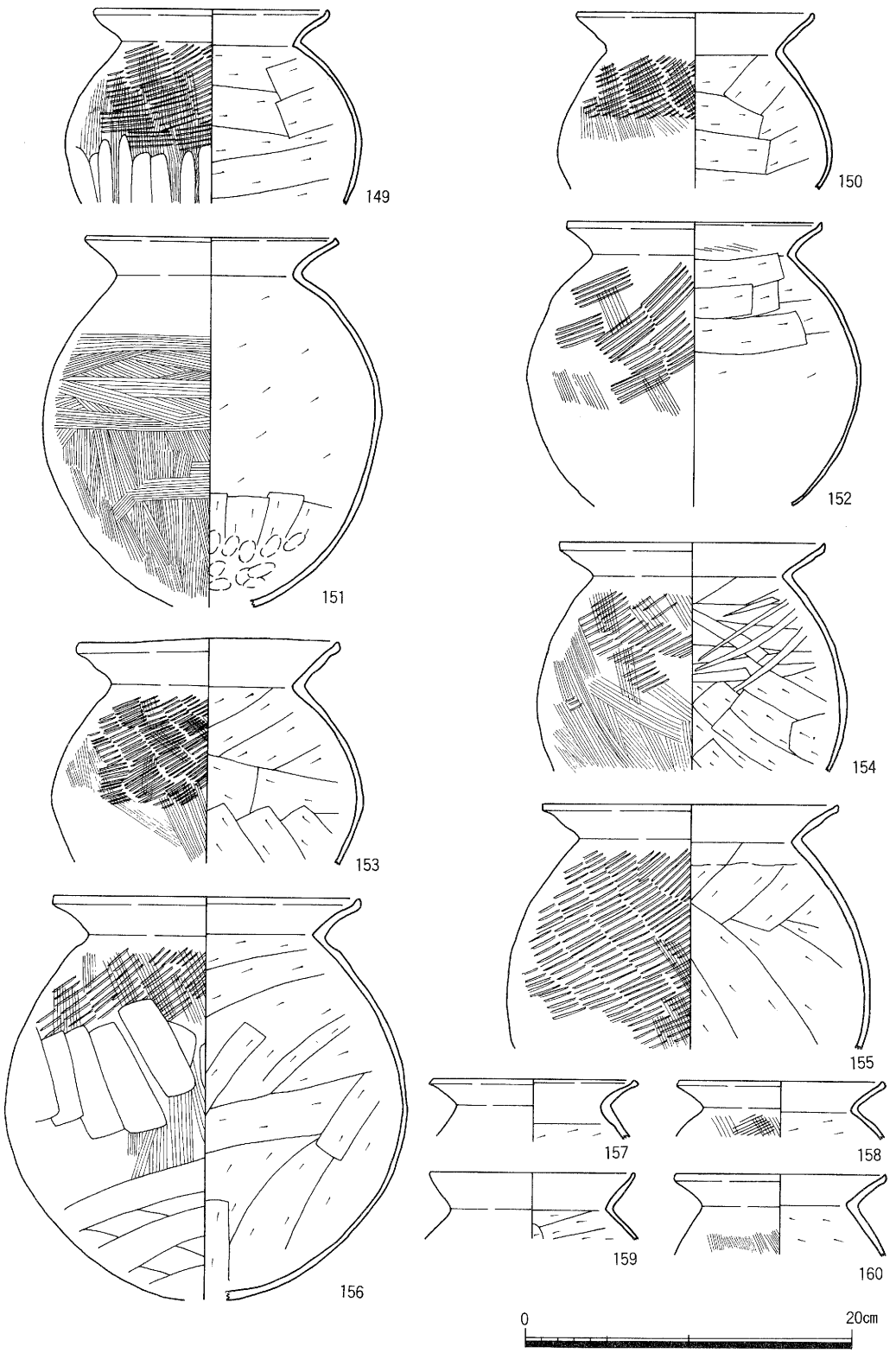
第29図　A－Ⅲａ地区落ち込み７出土遺物実測図３



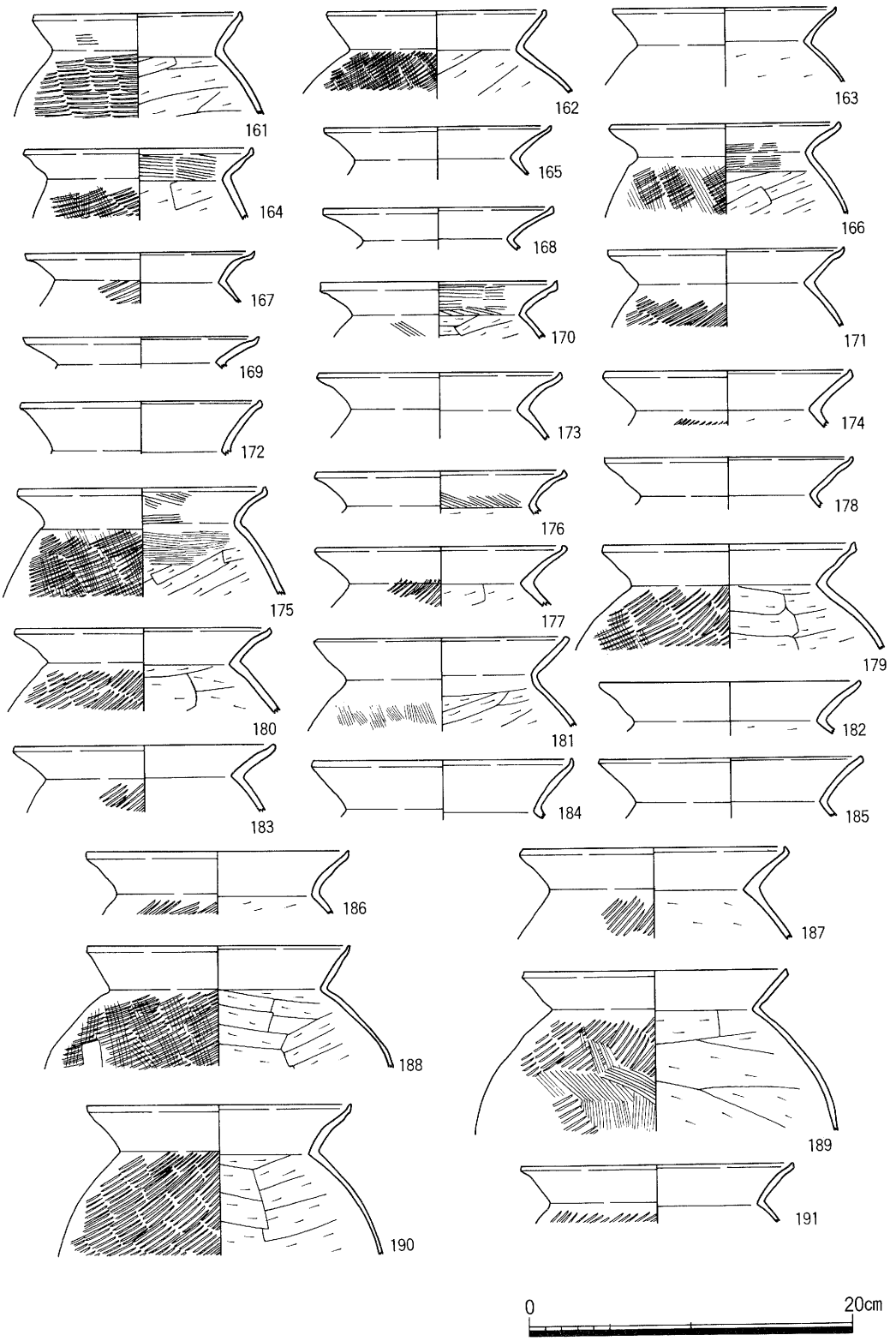
第30図　A－Ⅲａ地区落ち込み７出土遺物実測図４



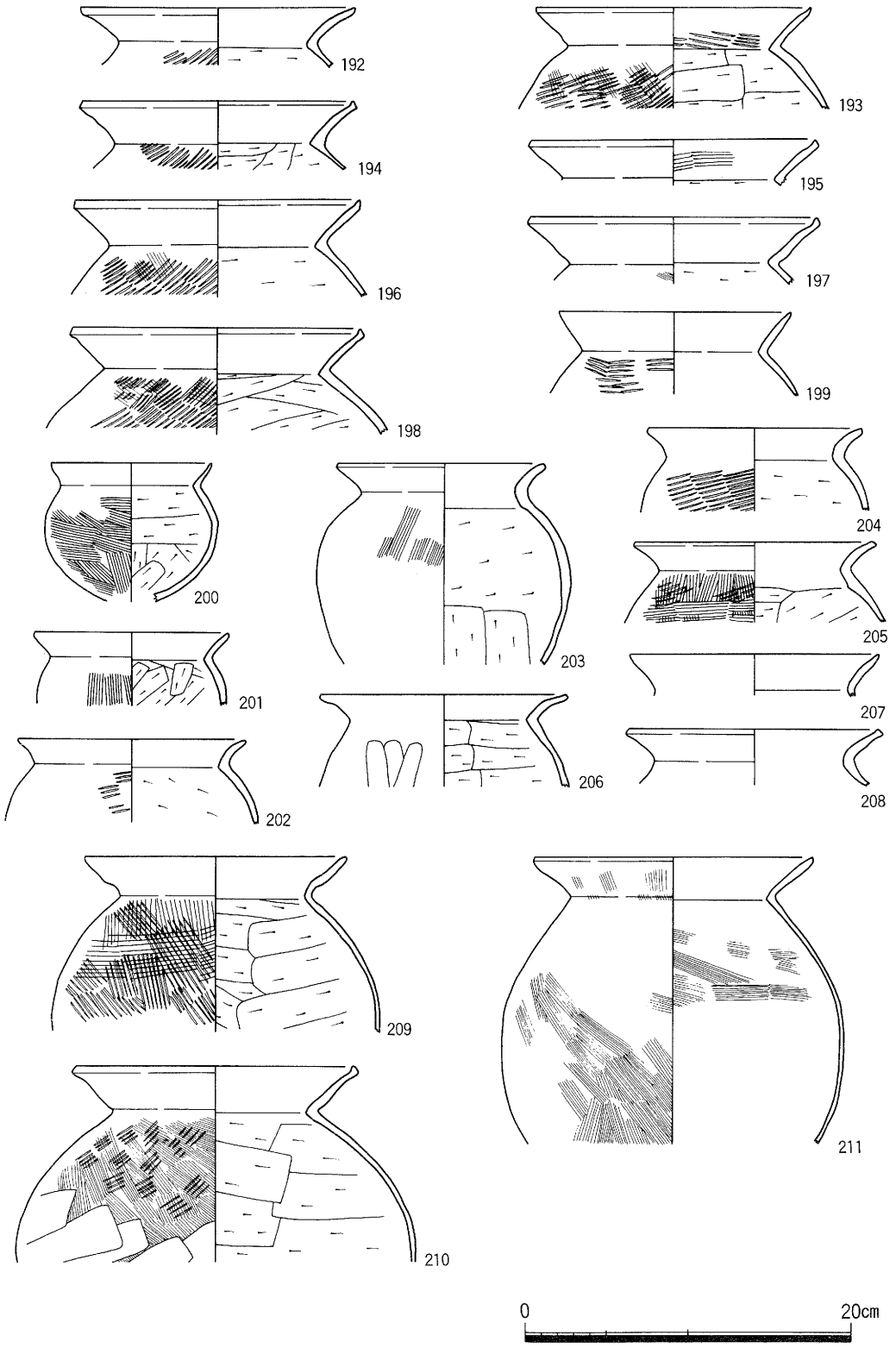
第31図　A－Ⅲａ地区落ち込み7出土遺物実測図5



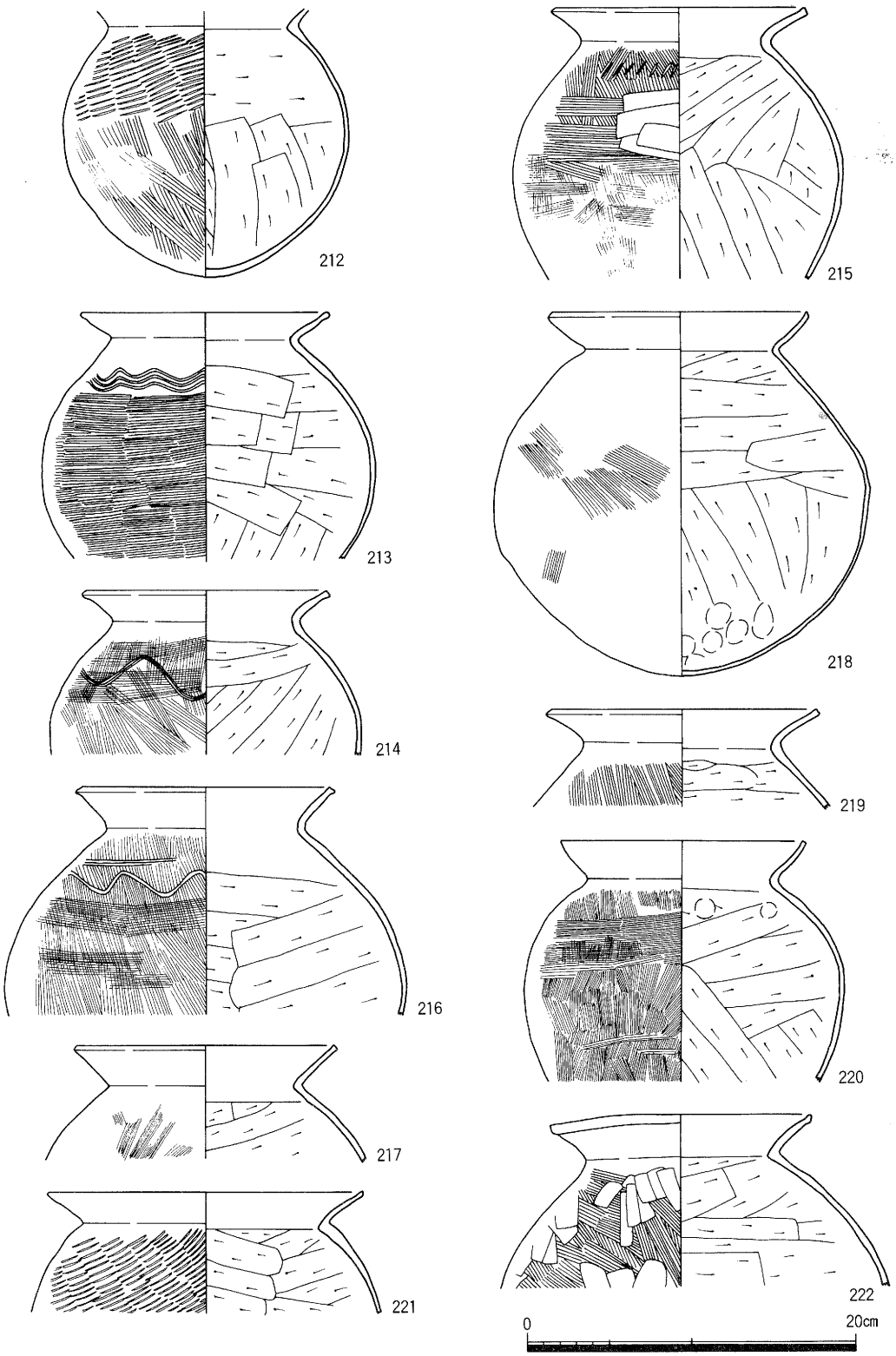
第32図　A－Ⅲa地区落ち込み7出土遺物実測図6



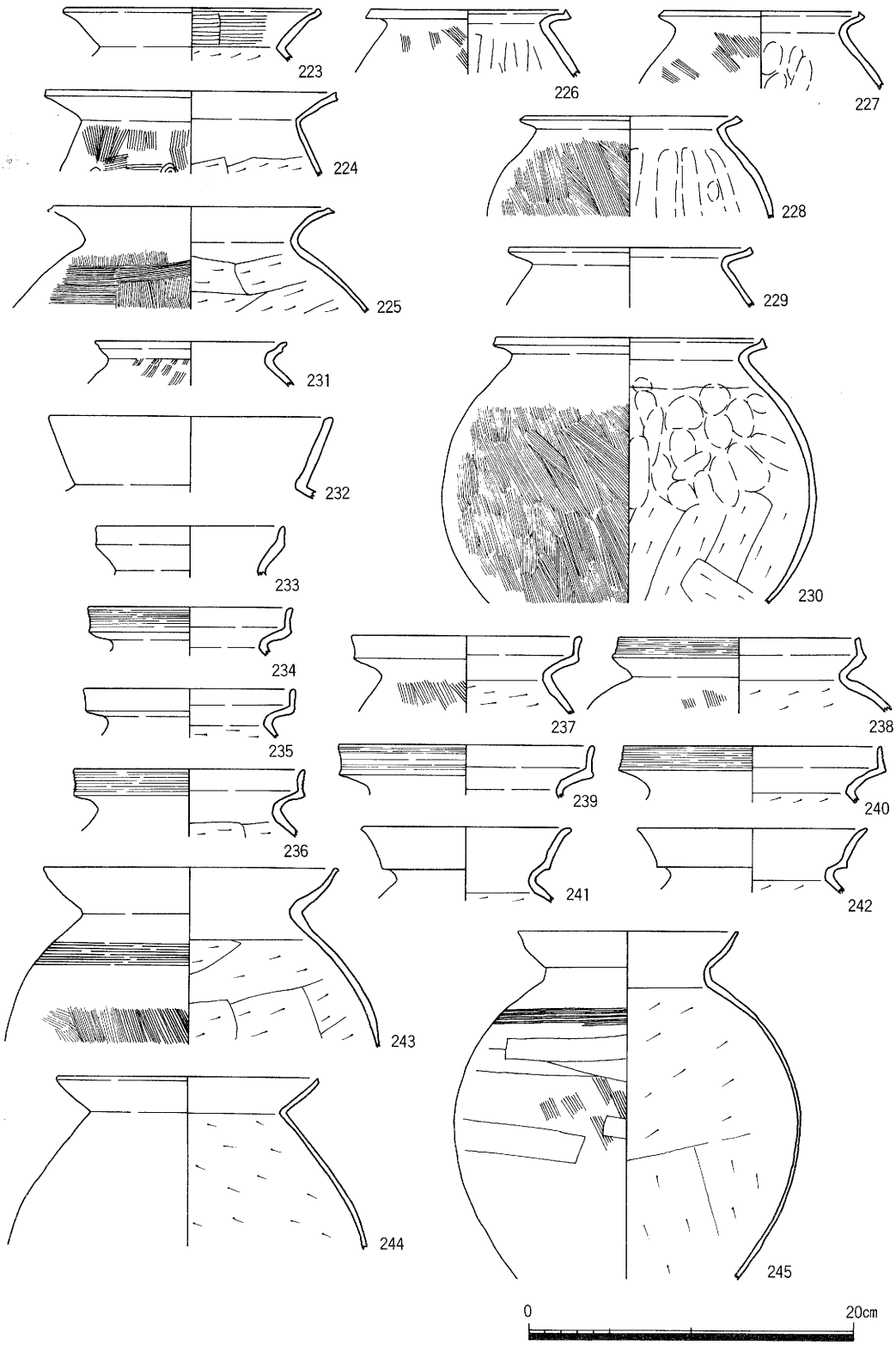
第33図　A－Ⅲａ地区落ち込み7出土遺物実測図7



第34図　A－Ⅲａ地区落ち込み７出土遺物実測図８



第35図　A－Ⅲａ地区落ち込み７出土遺物実測図９



第36図　A－Ⅲａ地区落ち込み7出土遺物実測図10

甕Ｐ類(234～240)：口縁部は水平（気味）に外反し、端部は長くつまみ上げ、外面に沈線を有す。岡山県吉備地方の酒津式土器の特徴をもつ。胎土分析はⅡａ類型。

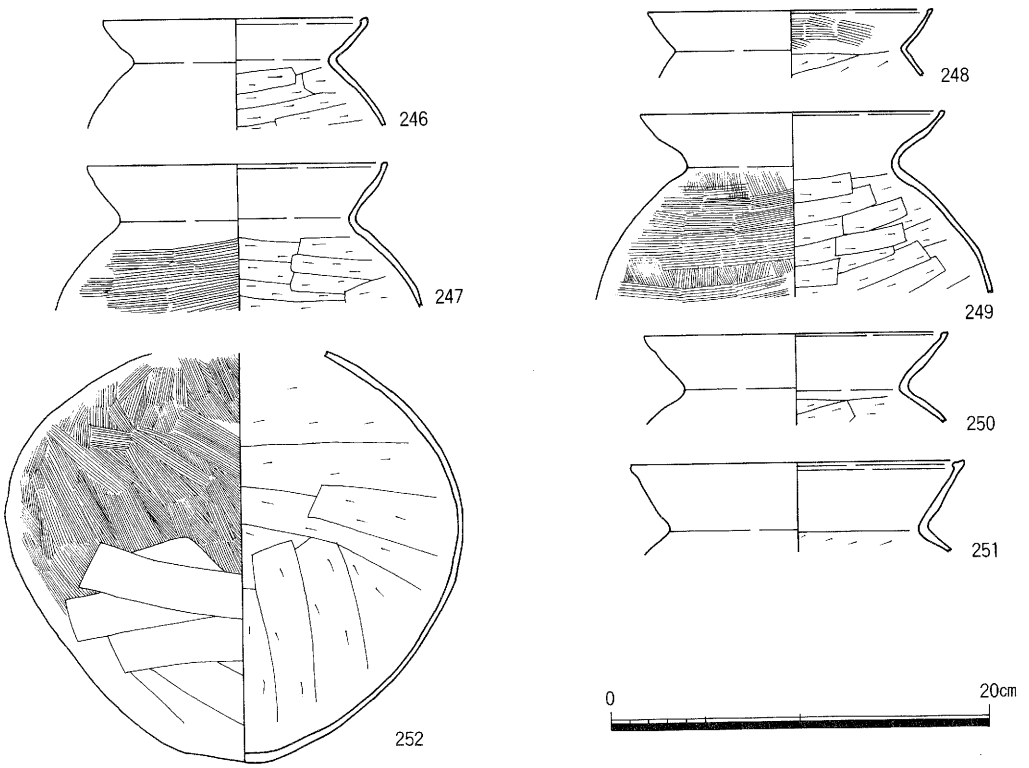
甕Ｑ類(241・242)：体部から丸く屈曲し、斜上方へ短く外反した後上外方へ外反する複合口縁部となる。端部は丸く終わる。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラケズリ、山陰地方の形態的特徴をもつ。胎土分析は241がⅡｄ類型、242がⅢ類型。

甕Ｒ類(243・244・245)：半球形の体部から屈曲し、斜上方へ内彎する口縁部に至る。端部は外に肥厚し、面をもつ。体部外面上位に数本の沈線を有す。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ヨコナデ、中位ハケナデ、内面ヘラケズリ。布留式土器の形態的特徴をもつ。胎土分析は243がⅡｃ類型、244・245がⅣ類型。

甕Ｓ類(246・247)：体部から屈曲し、斜上方へ内彎する口縁部に至る。端部は内側に肥厚する。調整は口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラケズリ、布留式土器の形態的な特徴をもつ。胎土分析は246がⅥ類型、247がⅤ類型。

甕Ｓ1類(248～252)：甕Ｓ類の形態で口縁部端部が内傾する平坦な面をもつ。胎土分析は248がⅣ類型、249・250がⅡｂ類型、251がⅥ類型、252がⅠａ類型。

註1　大阪府教育委員会「小島東遺跡」『岬町遺跡群発掘調査概要』 1978



第37図　Ａ－Ⅲａ地区落ち込み7出土遺物実測図11

第５節　古墳時代中期の遺構・遺物(第１調査面)

この時代は、Ａ－Ⅲ地区の微高地上に位置する第６層の弥生時代後期～古墳時代前期の遺物包含層上面（ＴＰ＋8.3m位）より切り込む土坑・ピット等の検出とＡ－Ⅱ地区・22地区の砂質層の堆積する弥生時代後期に埋没したと推測される河川跡の上面に粘土の堆積を基調とする土坑・落ち込み状遺構・溝が検出した。遺物は各遺構により異なるが「陶邑」の中村浩氏編年によるⅠ型式２～３段階の須恵器とⅠ型式５段階～Ⅱ型式１段階に類似する須恵器が出土した。以下、各遺構について記述する。

土坑

ＳＫ３

Ａ－Ⅱ地区の南壁で検出した。検出部は東西径1.1m、南北径0.44m、深さ0.2～0.33を測る土坑である。南半部は調査区外に至る。平面は検出部で不定形を呈す。断面は皿状形を成す。堆積土は上方から灰色微砂土・淡黄灰色シルト・黄灰褐色シルト混じり粘土・灰色粘質微砂土である。

遺物は、須恵器・土師器の細片をごく少量出土した。

ＳＫ４

Ａ－Ⅱ地区の南壁で検出した。検出部は東西径1.14m、南北径0.5m、深さ0.2mを測る土坑である。南部は調査区外に至る。平面は検出部で楕円形を呈す。断面は皿状形を成す。堆積土は灰色微砂土の単一層である。遺物は出土していないがＳＫ３と同一時期と考える。

ＳＫ７

Ａ－Ⅱｄ地区の南部で検出した。検出部は東西径0.92m、南北径1.36m以上、深さ0.14mを測る土坑である。南部は調査区外に至る。堆積土は灰褐色砂粘土(炭をわずかに含む)の単一層である。遺物は出土していない。

ＳＫ８

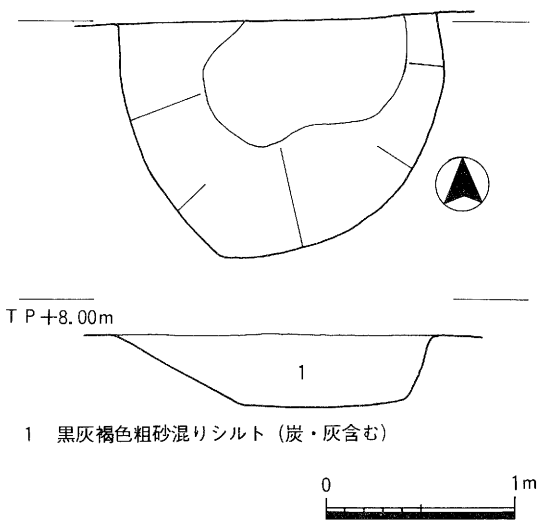
Ａ－Ⅱｆ地区で検出した。検出部は径0.64～0.7m、深さ0.18を測る土坑である。平面は円形を呈す。断面は浅い皿状形を成す。堆積土は灰褐色砂混じり粘土の単一層である。遺物は出土していない。

ＳＫ９

Ａ－Ⅱｆ地区のＳＫ８北側に隣接して検出した。検出部は最大径1.2m、最小径0.46m、深さ0.1mを測る土坑である。平面は不定形を呈す。断面は浅い皿状形を成す。堆積土はＳＫ８と同一層である。遺物は出土していない。

ＳＫ10

Ａ－Ⅱｇ地区で検出した。西部はＳＤ15に切られ、北部は調査区外に至る。検出部は東西径



第38図　A－Ⅲc地区SK12平断面図

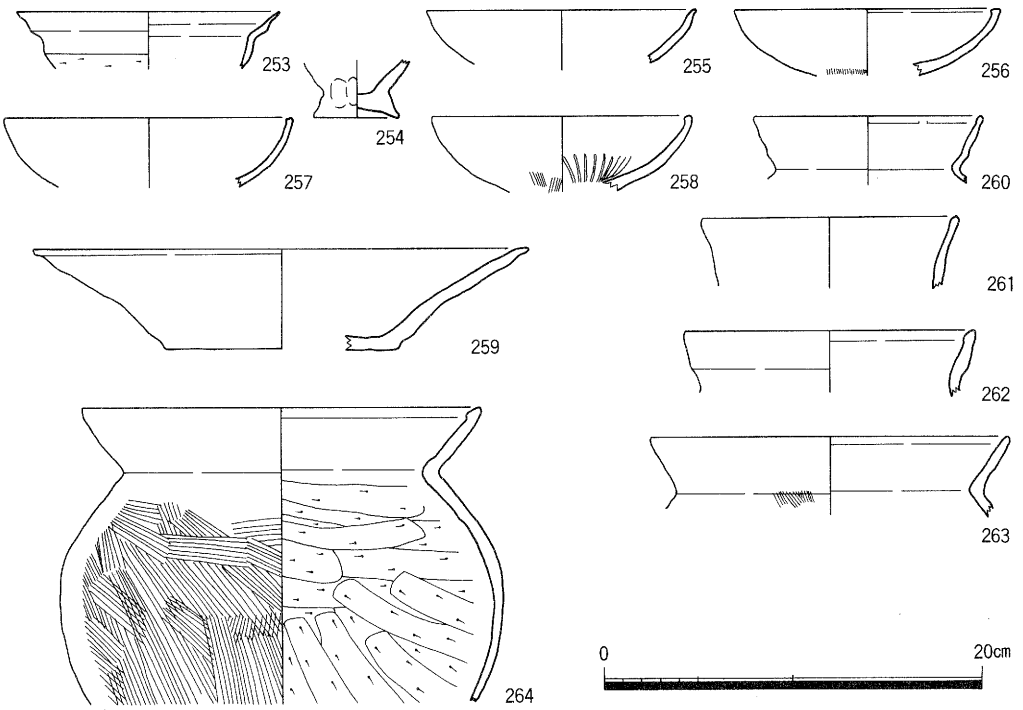
1.3m、南北径2m、深さ0.34mを測る土坑である。堆積土は茶灰色砂混じり粘土の単一層である。遺物は出土していない。

SK12

A－Ⅲc地区の北壁で検出した。検出部は東西径1.7m、南北径1.2m以上、深さ0.36mを測る土坑である。北半部は調査区外に至る。検出部の平面は半円形を呈す。断面は椀状形を成す。堆積土は黒灰褐色粗砂混じりシルトの単一層で、細かく砕けた炭が多量に混入している。これは焼土坑か炭などの廃棄場が考えられる（第38図）。

出土遺物

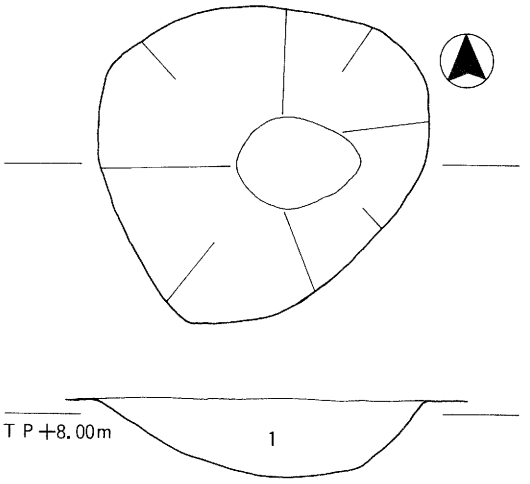
遺物は土師器の鉢（253・254）・高坏（255～259）・甑・甕（260～264）・須恵器の甕等の土器の細片を少量出土した。時期は5世紀中ごろに比定されるものと考える（第39図）。



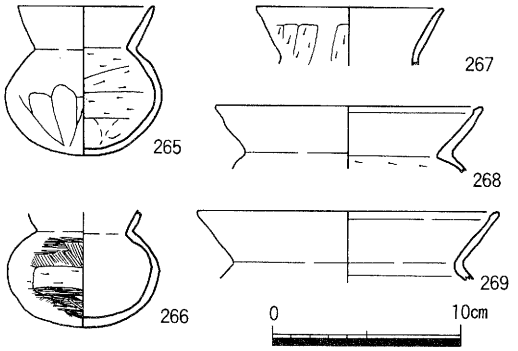
第39図　A－Ⅲc地区SK12出土遺物実測図

ＳＫ13

Ａ－Ⅲｄ地区で検出した。検出部は最大径1.9m、最小径1.6m、深さ0.4mを測る土坑である。平面はやや楕円形を呈す。断面は擂り鉢形である。堆積土は暗灰褐色砂粘土・灰黒色砂粘土の２層に分かれる。土層内には炭・灰を多量に含んでいる。この土坑はＳＫ12と同様の性格をもつ遺構と考えられる（第40図）。



第40図　Ａ－Ⅲｄ地区ＳＫ13平断面図



第41図　Ａ－Ⅲｄ地区ＳＫ13出土遺物実測図

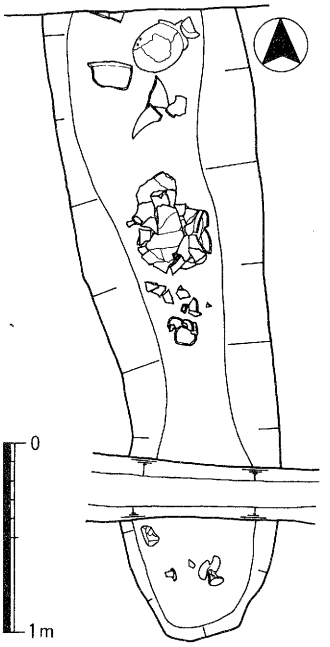
遺物は堆積土内より土師器の小型丸底壺（265・266）・壺（267）・高坏・甕（268・269）等の土器細片を少量出土した。時期はＳＫ12と同時期と考えられる（第41図）。

ＳＫ14

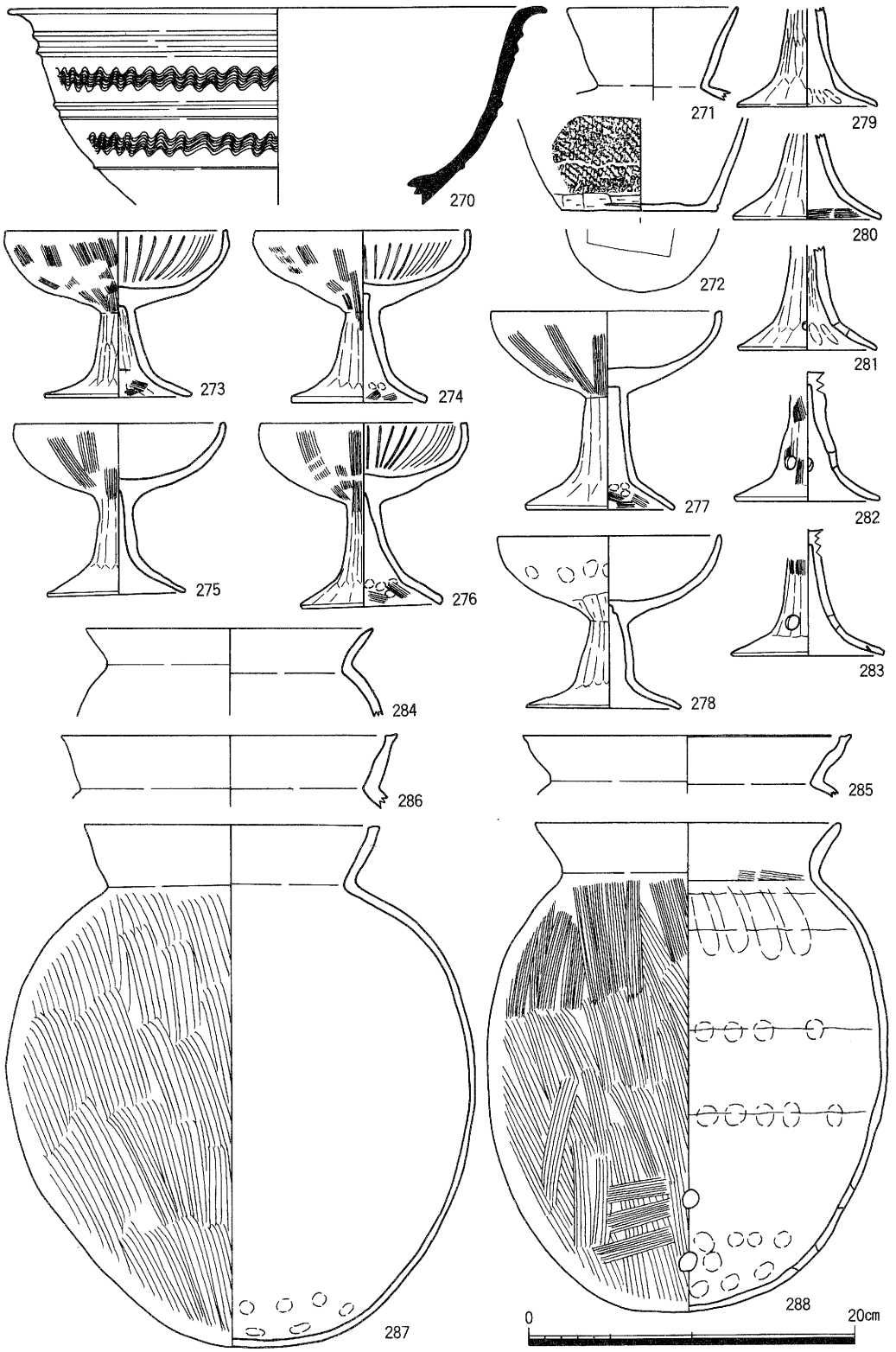
Ａ－Ⅲｄ地区の北壁で検出した。平面は南北の方向に細長い溝状形を呈す土坑で、北部は調査区外に至る。検出部の規模は東西径１m、南北径3.8m以上、深さ0.38mを測る。断面は椀状形を呈す。堆積土は暗茶灰色粘質シルトの単一層である（第42図）。

出土遺物

この遺構の検出は、構築面より上半部の浮き出した逆向きの状態になった甕（288）によって発現した。この周囲を掘り下げるとこの遺構が切り込まれている構築面が検出された。遺構内部からは古式須恵器と考えられる大型器台の坏部片



第42図　Ａ－Ⅲｄ地区ＳＫ14平面図



第43図　A－Ⅲｄ地区ＳＫ14出土遺物実測図

(270)、土圧によって押し潰された状態で出土した甕（287)、基底面の南端部付近で集結した高坏（273～283)、その他には須恵器の甕の体部片、土師器の壺（271)・甕（284～286）の破片、製塩土器の細片とともに韓式系土器と考えられる平底鉢の底部片（272）を出土した。時期は5世紀中葉と考えられる（第43図)。

ＳＫ15

Ａ－Ⅲｆ地区の南壁で検出した。南部は調査区外に至る。検出部は東西径1.45m、南北径1m、深さ0.7mを測る土坑である。断面はU字形を呈す。堆積土は灰黄色シルト・淡灰褐色シルト混じり粘土の2層に分かれる。

遺物は、Ⅰ型式5段階～Ⅱ型式1段階に類似する須恵器の壺・甕と土師器の壺・高坏・甕等の土器細片を少量出土した。

ＳＫ16

Ａ－Ⅲｆ地区で検出した。検出部は東西径0.96m、南北径1.96m、深さ0.19mを測る土坑である。平面は南北の方向に長い楕円形を呈す。断面は皿状形を成す。堆積土は暗灰褐色砂粘土の単一層である。

遺物は、須恵器の蓋坏と土師器の甑・甕等の細片を少量出土した。時期はＳＫ15と同時期と考えられる。

ＳＫ17

Ａ－Ⅲｆ地区の北壁で検出した。北半部は調査区外に至る。南部の一部は現在の攪乱に切られている。検出部は東西径0.9m、南北径1.9m以上、深さ0.19mを測る土坑である。検出部の平面は南北の方向に長い半楕円形を呈す。断面は皿状形を成す。堆積土は暗灰褐色砂粘土の単一層である。

遺物は、須恵器と土師器の壺・高坏・甕等の細片を少量出土した。時期はＳＫ15・ＳＫ16と同時期と考えられる。

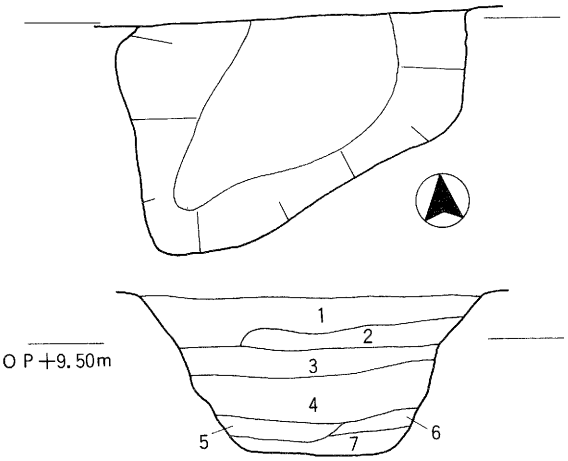
ＳＫ18

Ａ－Ⅲｇ地区で検出した。検出部は東西径4m、南北径2m、深さ0.15mを測る土坑である。平面は東西の方向に長い隅丸長方形を呈す。断面形は浅い皿状形を成す。堆積土は暗灰茶色砂粘土の単一層である。

遺物は、土師器の甕等の細片をごく少量出土した。時期はＳＫ15・ＳＫ16と同時期と考えられる。

ＳＫ21

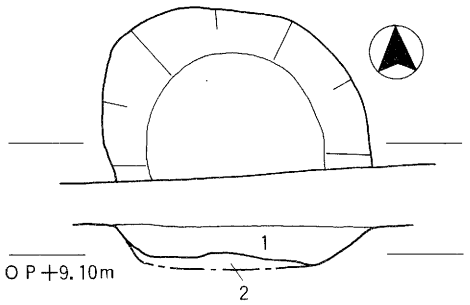
Ａ－Ⅲｂ地区の北壁で検出した。北半部は調査区外に至る。検出部は東西径1.8m、南北径1.2m以上、深さ0.8mを測る土坑である。断面は逆台形を呈す。堆積土は上方から褐灰色砂土・灰



1　褐灰色砂土
2　灰茶色粘土（2㎜大の砂含む）
3　乳灰茶色砂土（砂礫含む）
4　茶灰色砂土（砂礫含む）
5　灰色粗砂
6　茶灰色粗砂
7　茶灰色粘土混じり細砂

0　1m

第44図　Ａ－Ⅲｂ地区ＳＫ21平断面図



1　暗灰茶褐色粘土
2　灰黄茶褐色粘土

0　1m

第45図　Ａ－Ⅲｄ地区ＳＫ22平断面図

茶色粘土（２㎜大の砂を含む）・乳灰茶色粘土（砂礫を含む）・茶灰色砂土（砂礫を含む）・灰色粗砂・茶灰色粗砂・茶灰色粘土混じり細砂で構成されている（第44図）。

遺物は、土師器の壺等の細片をごく少量出土した。時期はＳＫ12他の前記の土坑と同時期と考えられる。

ＳＫ22

Ａ－Ⅲｄ地区の南壁で検出した。南半部は調査区外に至る。検出部は東西径1.4m、南北径1.2m、深さ0.23mを測る土坑である。検出部の平面は半円形を呈す。断面は皿状形を成す。堆積土は暗灰茶褐色粘土の単一層である（第45図）。

遺物は、須恵器の蓋坏と土師器の壺・高坏等の細片を少量出土した。時期はⅠ型式５段階～Ⅱ型式１段階に比定できると考えられる。

ＳＫ28

Ａ－Ⅲｆ地区で検出した。東半部は現在の攪乱によって切られる。検出部は東西径0.6m以上、南北径1.2m、深さ0.24mを測る土坑である。断面は皿状形を呈す。堆積土は暗灰茶褐色粘土の単一層である。

遺物は、須恵器の蓋坏と土師器の壺・甕等の細片を少量出土した。時期はＳＫ22と同時期であると考えられる。

ＳＫ35

22ｃ地区で検出した。南部と北部は調査区外に至る。検出部は東西径2.3m、南北径2.1m以上、深さ0.15mを測る土坑である。平面は検出部の東側に半円形の脹らみをもち、西側は直線的に延びている。堆積土は暗灰色粘土の単一層である。

遺物は、土師器の壺・甕等の細片をごく少量出土した。時期は５世紀中葉～後半に比定されると考えられる。

落ち込み状遺構

落ち込み３

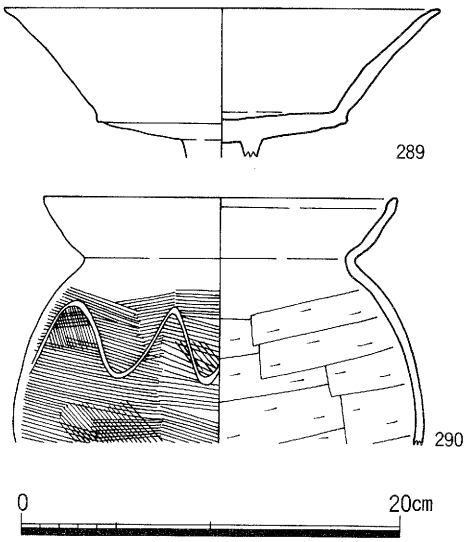
Ａ－Ⅱｂ・ｃ地区で検出した。検出部は幅11m、深さ0.2mを測る南北方向に至る落ち込み状遺構である。西側の基底面は緩やかな起伏を呈す。堆積土は灰褐色粘土(礫をわずかに含む)・淡灰色礫混じり粗砂である。

遺物は、須恵器の甕と土師器の高坏・甕等の細片を少量出土した。

落ち込み４

Ａ－Ⅱｅ地区で検出した。検出部は幅２～3.5m、深さ0.3mを測る南北方向に至る落ち込み状遺構である。平面は検出部で不定形を呈す。断面は皿状形を成す。堆積土は灰褐色砂混じり粘土の単一層である。

遺物は、土師器の高坏(289)・甕(290)の布留式土器を図化したが、古墳時代中期頃に比定できる土器の細片を少量出土している（第46図)。



第46図　Ａ－Ⅱｅ地区落ち込み４出土遺物実測図

落ち込み５

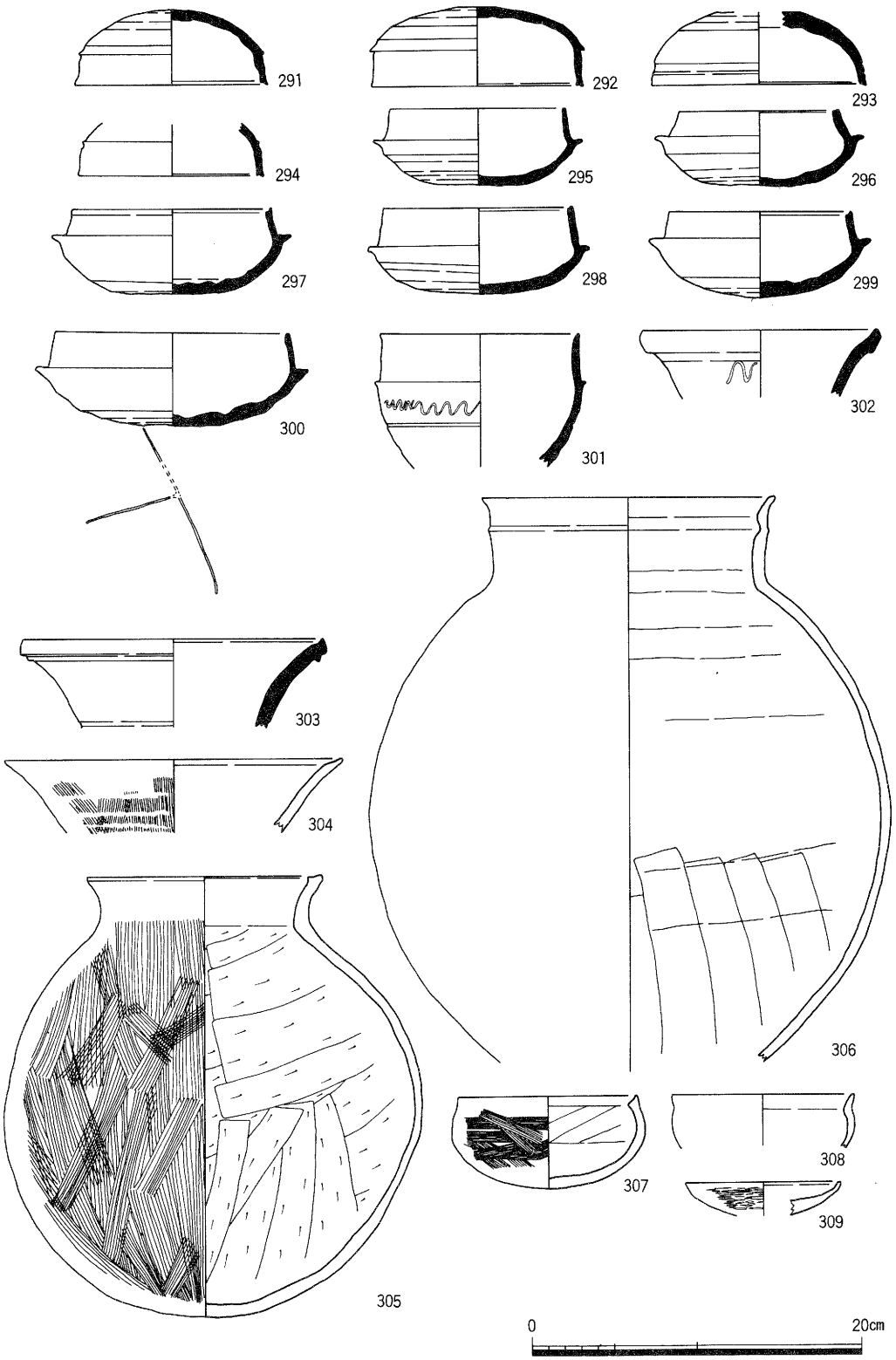
Ａ－Ⅱｆ・ｇ地区で検出した。南北ともに調査区外に至る。検出部は幅5.8～8.5m、深さ0.26mを測る落ち込み状遺構である。断面は皿状形を呈し、基底面は若干の起伏がみられる。堆積土は茶褐色粘土・灰色粗砂土・灰色シルト混じり粘土である。

出土遺物

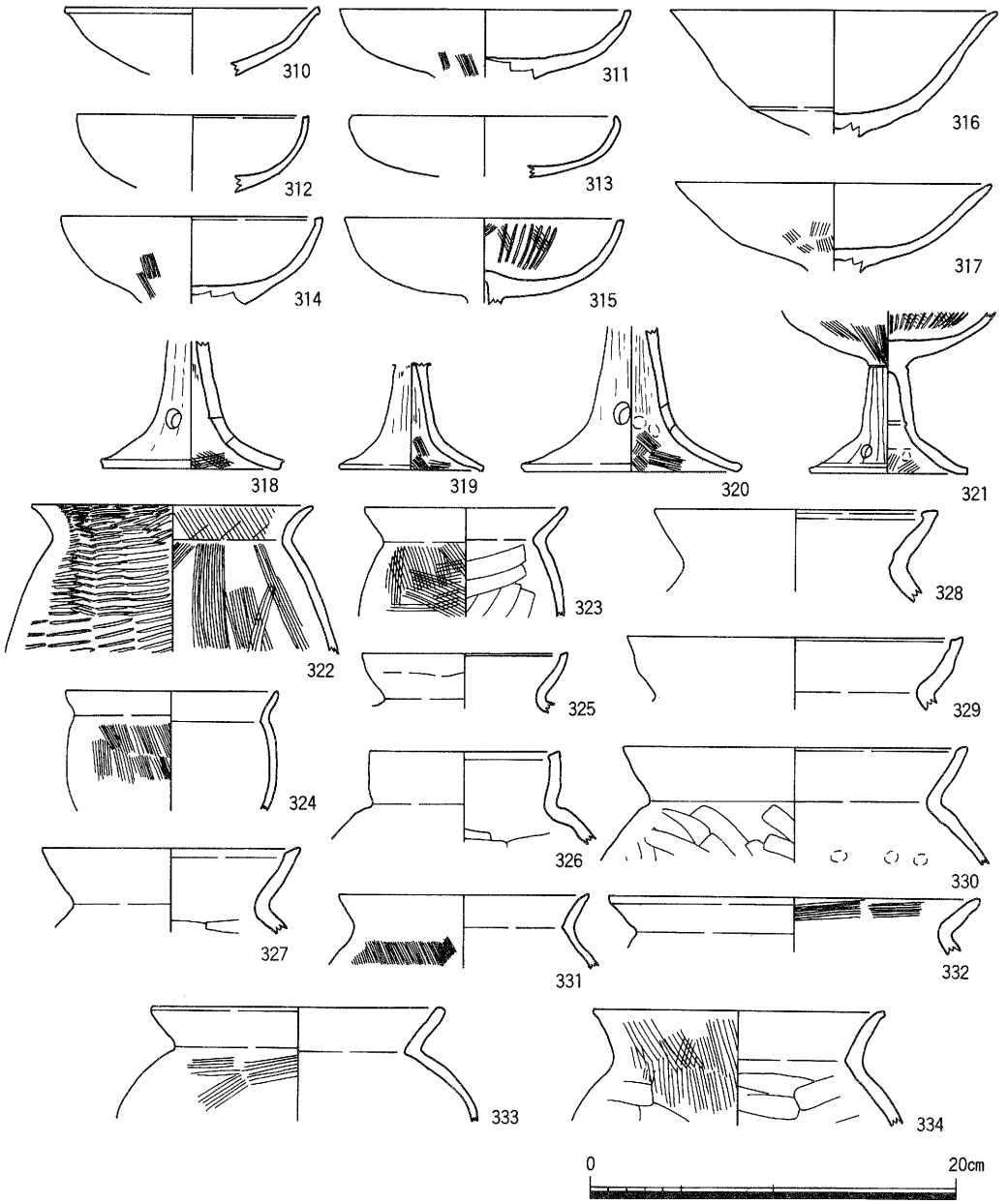
遺物は、須恵器の坏蓋（291～294)・坏身（295～300)・鉢（301)・壺(302)・甕(303）と土師器の壺（304～306)・坏（307)・鉢（308)・器台（309)・高坏（310～321)・甕（322～334）等の土器片をコンテナにして約３箱分出土した。時期は古墳時代前期に比定される布留式土器をわずかに出土しているが、大半の土器は古墳時代中期（Ⅰ型式５段階～Ⅱ型式１段階）に比定されると考えられる（第47図・第48図)。

落ち込み６

Ａ－Ⅱｄ・ｅ地区で検出した。南北ともに調査区外に至る。検出部は幅７～９m、深さ0・2～0.4mを測る落ち込み状遺構である。中央部はＳＤ13と切り合う関係にある。断面は皿状形を呈

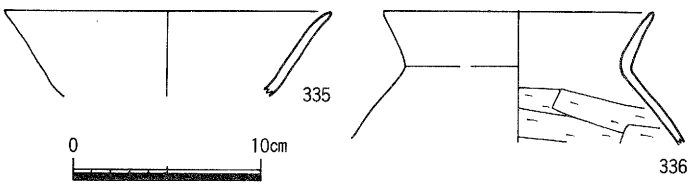


第47図　A－Ⅱｆ地区落ち込み５出土遺物実測図



第48図　Ａ－Ⅱｆ地区落ち込み５出土遺物実測図

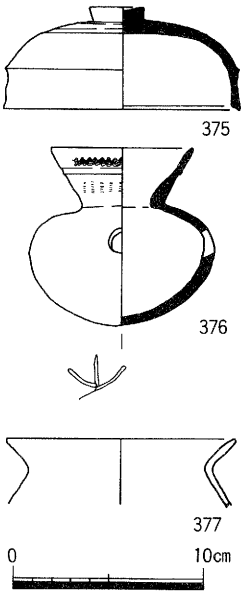
し、基底面は若干の起伏がみられる。堆積土は灰褐色シルト混じり粘土、灰色粘土混じり砂土の２層に分かれている。



第49図　Ａ－Ⅱｄ・ｅ地区落ち込み６出土遺物実測図

出土遺物

遺物は、土師器の高坏（335）・甕（336）等の細片を少量出土した。時期は遺構の検出状況からみて落ち込み５などと同時期であると考えられる（第49図）。



第50図　22ｇ・ｈ地区落ち込み９出土遺物実測図

落ち込み９

22ｇ・ｈ地区で検出した。南北ともに調査区外に至る。検出部は幅約12m、深さ0.25～0.4mを測る落ち込み状遺構である。断面は皿状形を呈し、基底面は緩やかに起伏している。堆積土は上方から暗灰色粘砂土・暗灰色細砂・淡灰色細砂・淡灰黄色砂土・暗灰色微砂・灰色粘土・暗灰色粘土で構成されている。この遺構は落ち込み３～落ち込み６の遺構と同様の遺構と考えられる。

出土遺物

遺物は、須恵器のつまみ坏蓋（375）・甑（376）の完形品が東肩の傾斜面上で出土した。他には堆積土内から須恵器の蓋坏・甕と土師器の鉢・高坏・甕（377）等の細片を少量出土した。時期はⅠ型式５段階～Ⅱ型式１段階に比定されると考えられる（第50図）。

溝

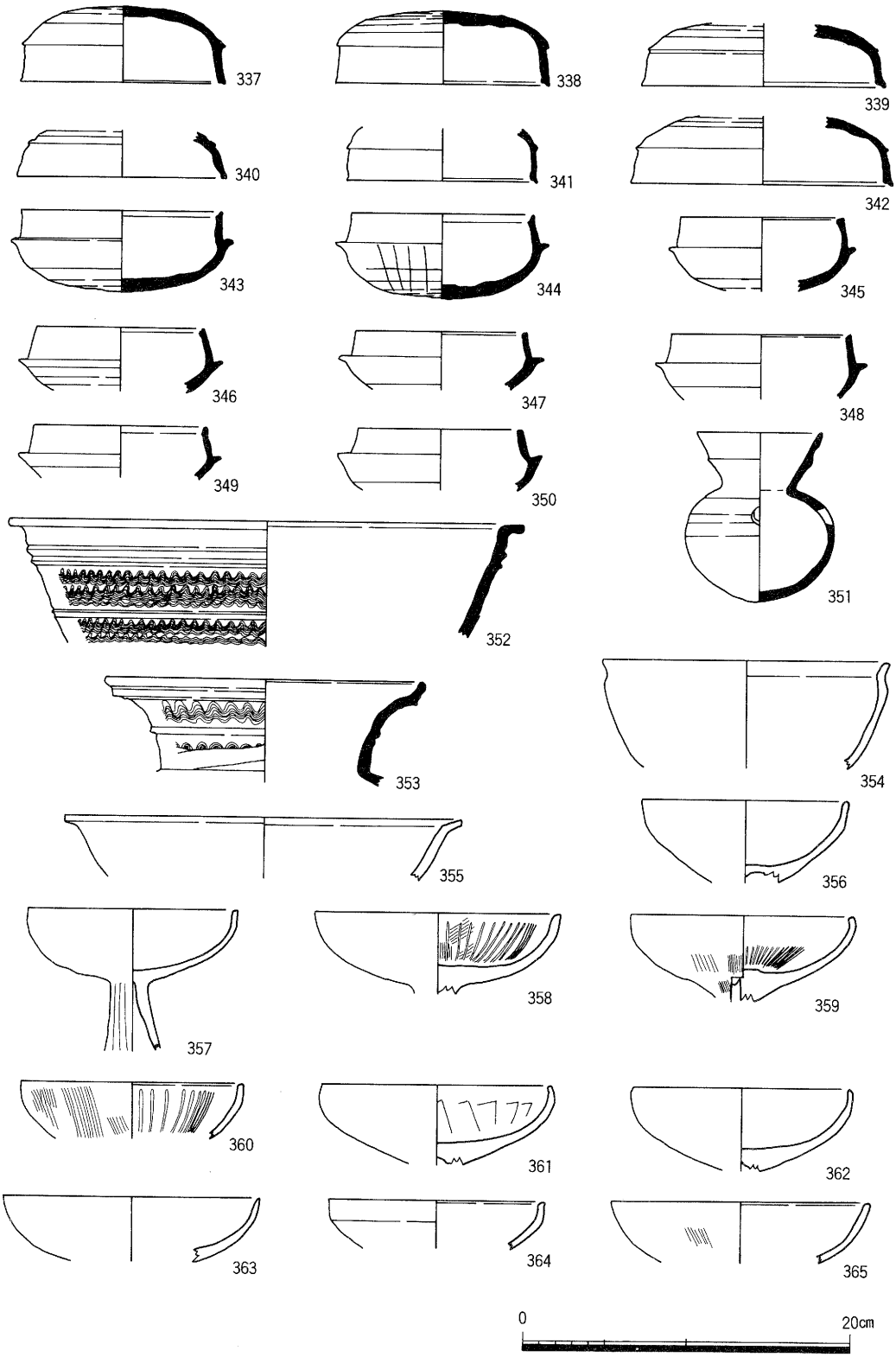
ＳＤ13

Ａ－Ⅱｄ地区で検出した。南西部は途切れ、北西部は調査区外に至る。検出部は幅0.65～0.8m、深さ0.15～0.28mを測る南西－北東の方向の溝状遺構である。断面は擂り鉢形を呈す。堆積土は淡灰褐色粘土混じり砂土の単一層である。

遺物は出土していないが、落ち込み６と切り合う関係にあることから、時期は古墳時代中期頃に比定されると考えられる。

ＳＤ17・ＳＤ18

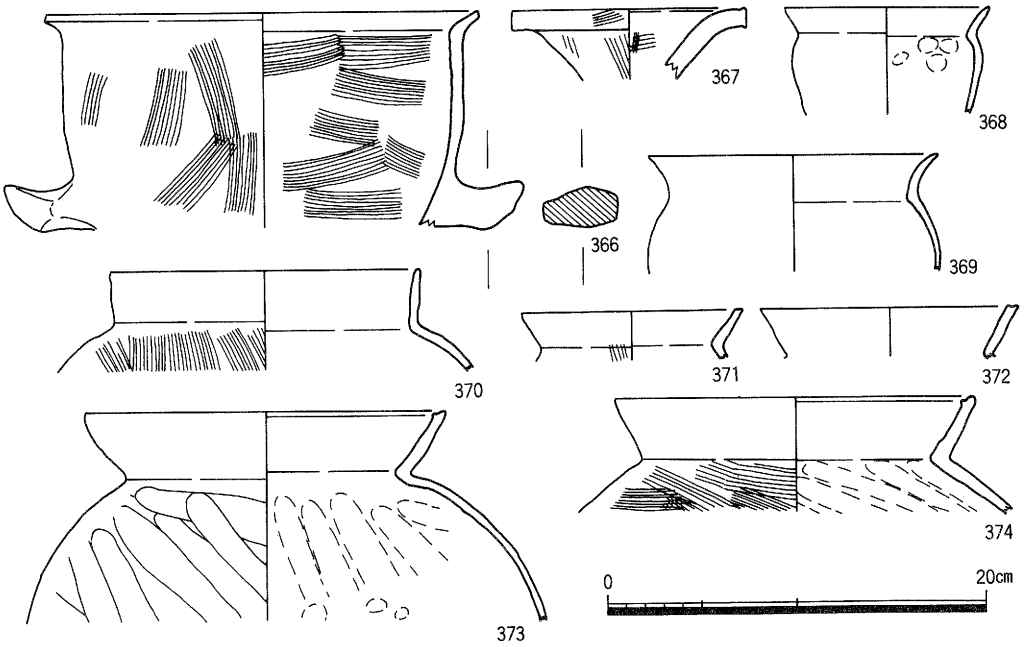
Ａ－Ⅱｇ・ｈ地区で検出した。検出部は幅5.4m以上、深さ0.1～0.15mを測る溝状遺構である。東部と南北部は調査区外に至るため全体の形状は不明であるが、基底面には３条の溝を呈す。西部に位置するＳＤ17は幅1.3～0.6m、深さ0.15～0.25mを測る南西－北東の方向に走る溝と幅0.37～0.5m、深さ0.2mを測る南東－北西の方向に走る溝の２条、東部に位置する幅1.6m以上、深さ0.13mを測る南北の方向に走る溝で構成されている。堆積土は上方から黒褐色粘砂土・黒灰褐色粘土・暗茶灰色シルト粘土で、ＳＤ17は淡灰褐色細砂土・灰色シルト・灰色泥粘土、ＳＤ18は灰色細砂混じり粘土である。この溝状遺構は落ち込み３～落ち込み６の遺構と性格的に同じものではないかと考えられる。



第51図　A－Ⅱg・h地区ＳＤ17・ＳＤ18出土遺物実測図1

出土遺物

遺物はほとんど上層からの出土で流れ込みと考えられる。土器は完形に復元できるものはなく大半が細片化している。また、ＳＤ17下層からは自然の流木を１点出土している。出土した土器は須恵器の坏蓋（337～342）・坏身（343～350）・鉢（351）・大形器台（352）・甕（353）と土師器の鉢（354･355）・高坏（356～365）・甑（366）・壺（367）・甕（368～374）等である。時期はⅠ型式５段階～Ⅱ型式１段階に比定できるものと考えられる（第51図・第52図）。



第52図　Ａ－Ⅱｇ・ｈ地区ＳＤ17・ＳＤ18出土遺物実測図２

第６節　奈良～平安時代の遺構・遺物（第１調査面）

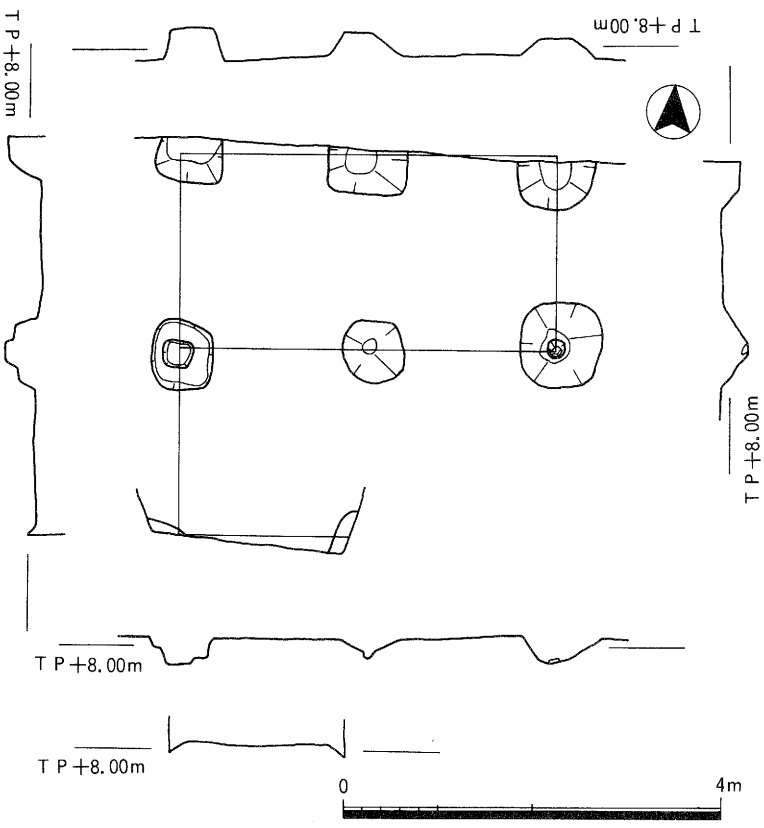
Ａ－Ⅲ地区の微高地上に位置し、ＴＰ＋8.2m位の第６層をベースとして奈良時代と思われる掘立柱建物２棟（ＳＢ１・ＳＢ２）・木枠を伴う井戸（ＳＥ２）・河川跡（河川３）と概ね奈良時代～平安時代に位置づけられる井戸（ＳＥ３）・土坑６基・ピット40個・落ち込み状遺構（落ち込み８）・溝12条・河川跡（河川２）が各地区で検出した。

以上、これらの検出した遺構とそれに伴う遺物について各遺構ごとに記述する。

掘立柱建物

ＳＢ１

Ａ－Ⅲａ地区で検出した。検出部は東西２間約４ｍ、南北約４ｍ以上を測る総柱の掘立柱建物である。南北は調査区の幅が限定されているため全体の規模は不明である。検出部の柱間は東西・南北ともに約２ｍを測る等間隔である。建物の方向はほぼ南北を指す。柱穴は検出面でいずれも平面隅丸形を呈す。個々の柱穴の規模は、ＳＰ２は径0.7m、深さ0.33m、ＳＰ３は径0.8m、深さ0.42m、ＳＰ４は径0.8m、深さ0.4m、ＳＰ５は径0.64～0.7m、深さ0.3m、ＳＰ６は径0.64m、深さ0.22m、ＳＰ７は径0.88m、深さ0.26m、ＳＰ８は径0.6m、深さ0.3m、ＳＰ９は径0.5m、深さ0.35mをそれぞれ測る。また、柱穴の中には径0.32mを測る平面方形の柱痕が残存するＳＰ５や長径12cm、短径９cm、厚み５cmを測る材質凝灰岩砂岩と思われる根石が検出している。この建物の検出部の推定床面積は約16㎡を測る。柱穴の堆積土は灰茶色砂粘土で、柱痕部

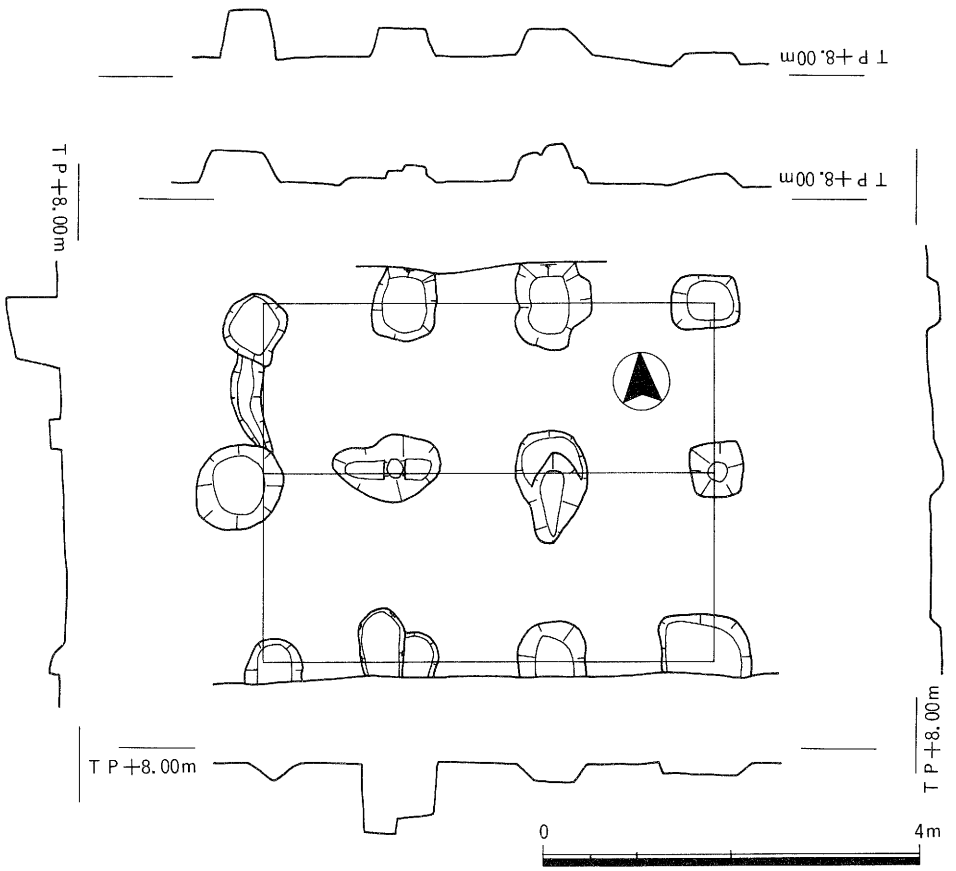


第53図　Ａ－Ⅲａ地区ＳＢ１平断面図

は暗灰茶色砂粘土である。建物の時期は柱穴からわずかに出土した土器の細片のみで時期を決定づけるものはないが、東部に隣接する奈良時代に比定される井戸（ＳＥ２）があり、それに伴う建物の可能性が強いものと推測される（第53図）。

ＳＢ２

Ａ－Ⅲｅ地区で検出した。検出部は東西３間約５ｍ、南北２間約3.7ｍを測る総柱の掘立柱建物である。南北部は調査区の範囲が限定されているために全体の規模は不明である。検出部の柱間は東西で西より1.6ｍ・1.6ｍ・1.5ｍを測る。南北は北より２ｍ・1.8ｍを測る。建物の方向はＳＢ１と同一方向である南北方向を指す。柱穴の平面は隅丸方形のものＳＰ13～ＳＰ17・ＳＰ21～ＳＰ23、楕円形に近いものＳＰ18～ＳＰ20・ＳＰ24である。個々の柱穴の規模は、ＳＰ13は径0.98ｍ、深さ0.3ｍ、ＳＰ14は径0.5ｍ、深さ0.4ｍ、ＳＰ15は径0.4ｍ以上、深さ0.56ｍ、ＳＰ16は径0.6ｍ、深さ0.4ｍ、ＳＰ17は径0.5ｍ以上、深さ0.3ｍ、ＳＰ18は東西径0.78ｍ、南北径1.2ｍ、深さ0.42ｍ、ＳＰ19は東西径1.1ｍ、南北径0.7ｍ、深さ0.32ｍ、ＳＰ20は東西径



第54図　Ａ－Ⅲｅ地区ＳＢ２平断面図

0.53m、南北径0.78m、深さ0.53m、ＳＰ21は東西径0.6m、南北径0.54m、深さ0.3m、ＳＰ22は東西径0.9m、南北径1.2m、深さ0.63m、ＳＰ23は東西径0.7m、南北径0.9m、深さ0.5m、ＳＰ24は東西径0.65m、南北0.72m、深さ0.6mをそれぞれ測る。柱穴の堆積土は茶灰褐色砂粘土の単一層であるが、ＳＰ18・ＳＰ19・ＳＰ21で径１～４ｍを測る小石が多量に混入していた。また、ＳＰ21は長径15cm、短径10cm、厚み10cmを測る凝灰岩砂岩と思われる根石を検出している。柱穴の断面はほとんどＵ字形を呈す。検出部の復元床面積は約18.5㎡である。

遺物は須恵器・土師器の細片をわずかに出土した程度でＳＢ１と同様に時期を決定づけるものはないが、層位的にみてＳＢ１の建物と同じことやＳＥ１と隣接することなどから同一時期であると推察される（第54図）。

井戸

ＳＥ２

Ａ－Ⅲｂ地区の南壁で検出した。木枠を備えた井戸で、南半部は調査区外に至る。掘形は東西径約3.5m、南北径約2.5m以上を測る。平面は検出面で半円形を呈す。深さは約1.2mを測りほぼ垂直に掘られている。掘形の検出面はＴＰ＋8.2mを測る淡黄茶色砂質土の上面をベースとして、約１ｍを測る粘土層を掘り込み基底部近くは湧水の砂土層まで達している。

井戸の木枠は、掘形のほぼ中央部に設置している。平面はほぼ方形を呈し、内側の一辺は約0.75mを測るが土圧により内側に倒れた状態で検出した。木枠は内側の四方隅に角材を立て、中段位（木枠の底から上部へ約56cmを測る）には強固にするため横に板材を組み合せ、その周囲に板材を張り付けている。東辺は４枚、西辺は５枚、南辺は３枚、北辺は12枚の計24枚を数える板材を使用している。また、これらの板材はみんな転用材と考えられる。たとえば、北辺で使用していた板材（21）は大木を半切又は三ツ切して刳り抜いたもので、曾ては刳船であったと思われる。また、東辺の板材（33）は薄く横幅の広い板材で、両端部に４ヶ所と下位端部に７ヶ所の小孔がみられ、この小孔には獣骨と思われる釘が１ヶ所認められ、板材面に黒色の漆塗りを施した家具材の一種ではないかと考えられるもの、その他の板材にも方形の穿孔を施した建築材と推測できるものが認められ、この井戸の木枠材料は廃物利用した転用材で設けられたものと考えられる。木枠内の堆積土は暗灰色粘砂土の単一層である（第55図）。

なお、個々の木枠材の形態・規模等は次頁の第３表・第４表に記載した。また個々の木枠材の実測図も作成して第56図～第68図に図示したので参照されたい。

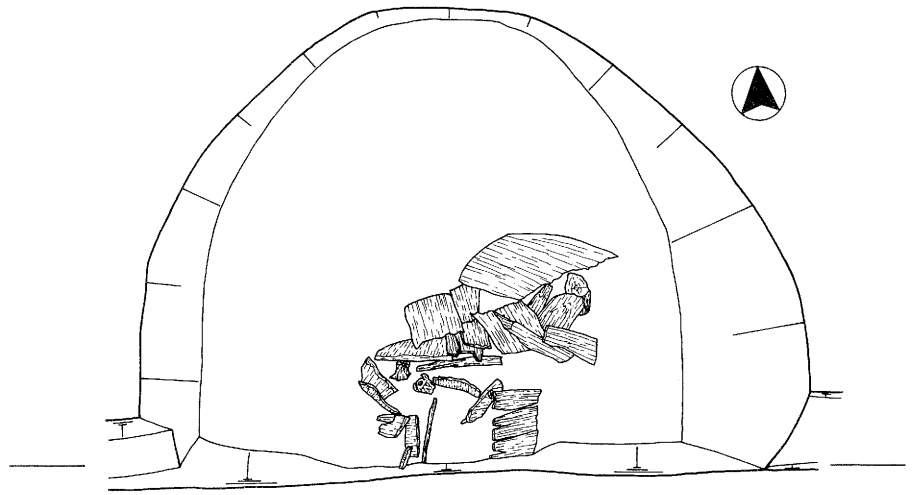
出土遺物

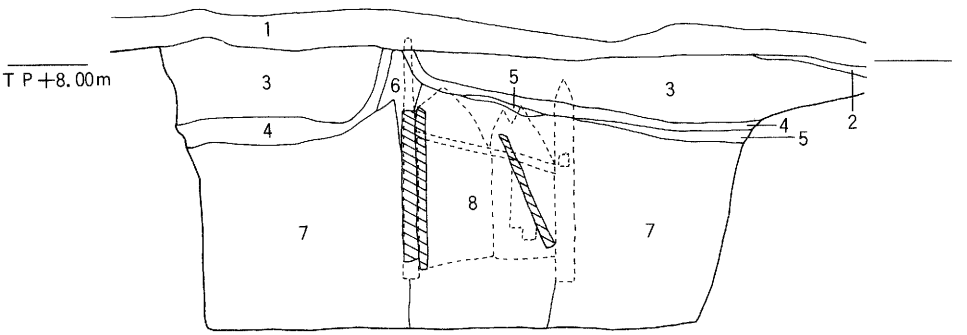
遺物は、須恵器の壺（378・379）・蓋坏・甕と土師器の壺・鉢（382）・皿（380・381）・甕（383～387）等の土器片を少量出土した。これらの土器は木枠内に堆積した下部より出土している。時期は７世紀中葉に比定されると考えられる（第56図）。

第3表　ＳＥ２木枠観察表

遺構番号 図版番号	(cm)　全長 幅 法量　厚さ(高さ)	形態	技法	備考
13 五十九	全　長　86.0 幅　　14.0 厚　さ　3.6	細い板状で、両端部は自然面を残す。 上部は腐敗。		
14 五十九	全　長　90.0 幅　　6.4 厚　さ　1.4	細く薄い板である。 上部は腐敗。		
15 五十九	全　長　93.2 幅　　10.0 厚　さ　5.2	細く厚い板である。 上部は腐敗。		
16 五十九	全　長　106.0 幅　　18.4 厚　さ　4.2～4.8	細く厚い板で下部は凸状を成す。 上部は腐敗。		
17 六　十	全　長　90.4 幅　　13.2 厚　さ　4.4～5.2	片面に方穴をもつ板であろう。 腐敗がはげしい。		
18 六　十	全　長　89.2 幅　　35.2 厚　さ　4.4～5.6	幅の広い板で、下部は一部直角に削りとる。 上部は腐敗。		
19 六　十	全　長　82.4 幅　　36.6 厚　さ　4.6～6.4	幅の広い板で、片面に浅い方穴を２ケ所もつ。 上部は腐敗。		
20 六十一	全　長　88.8 幅　　10.4 厚　さ　2.8	細く薄い板である。 上部は腐敗。		
21 六十一	全　長　110.8 幅　　58.4 厚　さ　4.4～10.6	幅の広い厚い板である。		
22 六十一	全　長　104.0 幅　　42.4 厚　さ　2.4～2.7	幅の広い板で、下部は凹状を成し、中央部に楕円形の穿孔をもち、中央部上位両端部は三角に削りとる。 上部は腐敗。		
23 六十二	全　長　78.8 幅　　22.0 厚　さ　4.8～5.2	厚い板である。		
24 六十二	全　長　107.4 幅　　24.0 厚　さ　3.2～4.0	下位に方形の穿孔を１ケ所、上位に楕円形の穿孔を２ケ所もつ。 上部は腐敗。	工具で丁寧に削る。	
25 六十五	全　長　42.8 幅　　12.8 厚　さ　2.4～2.8	薄い板で中部以下両端面わずかに削りとる。 上部は腐敗。		
26 六十二	全　長　106.8 幅　　41.6 厚　さ　4.8～6.8	下部は凸状をなす。一部欠損。 上部は腐敗。		
27 六十三	全　長　106.4 幅　　26.4 厚　さ　3.6～8.4	厚い板で、下部は鈍く尖らす。 上部は腐敗。	下部は雑に削る。	

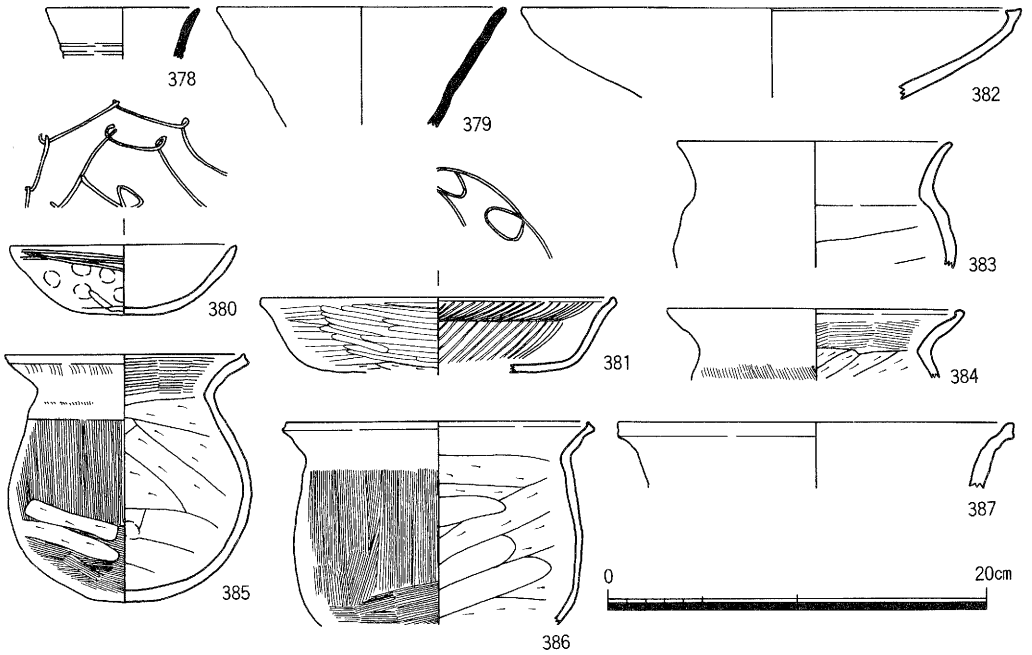
遺構番号 図版番号	(cm) 全長 幅 法量 厚さ(高さ)	形態	技法	備考
28 六十三	全長 94.4 幅 12.4 厚さ 0.8~2.2	細く薄い板である。 上部は腐敗。		
29 六十三	全長 92.8 幅 27.2 厚さ 4.8~6.4	厚い板である。 下部に粗い切断痕を有す。 上部は腐敗。		
30 六十三	全長 95.2 幅 26.2 厚さ 5.2~5.6	29と同形。		
31 六十四	全長 90.4 幅 27.6 厚さ 3.6~4.4	下位は凸状を成す。 上部は腐敗。		
32 六十四	全長 82.8 幅 19.2 厚さ 4.8	中位片面端1ケ所に方穴をもち、上位側面1ケ所に6.8×1.8の深い方穴をもつ。		
33 六十四	全長 71.2 幅 66.8 厚さ 1.6~2.4	幅が広く、薄い板で、全体に漆をぬられたと思われる。 下位端部に7ケ所、両側端部にそれぞれ4ケ所穿孔をもち、釘がわりに用いられたと思われる動物の骨が1ケ所認められた。		
34 六十五	全長 52.8 幅 8.0 厚さ 5.2	角材状である。 下部は一面斜めに削る。 上部は切断痕が認められる。		
35 六十五	全長 49.6 幅 6.8 厚さ 4.4	33と同形。		
36 六十五	全長 94.4 幅 6.8 厚さ 5.2	細く厚い板である。 上部は腐敗。		
37 六十五	全長 110.6 径 10.8	丸木で、3ケ所に方形の枘穴(5.6×3.6)を有す。 上部は腐敗。		
38 六十六	全長 135.2 径 11.2	丸木で、2ケ所に方形の枘穴(6.0×5.6)を有す。 上部は腐敗。		
39 六十六	全長 122.0 径 10.0	丸木で、上位に1ケ所(6.0×3.2×2.0)、下位に1ケ所(2.0×2.0×1.6)の方形の枘穴を有す。 上部は腐敗。		
40 六十六	全長 132.4 径 15.6	六角形状の角材で、上位に1ケ所(6.0×4.0×5.5.6)、下位に1ケ所(4.0×3.6×2.8)の方形の枘穴を有す。 上部は腐敗。		
41 六十六	全長 112.0 径 13.6	丸木で、上位2ケ所に方形の枘穴(6.0×6.0×3.6)を有し、下位は逆台形状に径の⅓ほど削りとる。 上部は腐敗。		
42 六十六	全長 121.6 径 11.6	丸木で、上位2ケ所に方形の枘穴(6.8×4.8×4.0)を有し、下位は逆台形状に径の½ほど削りとる。 上部は腐敗。		

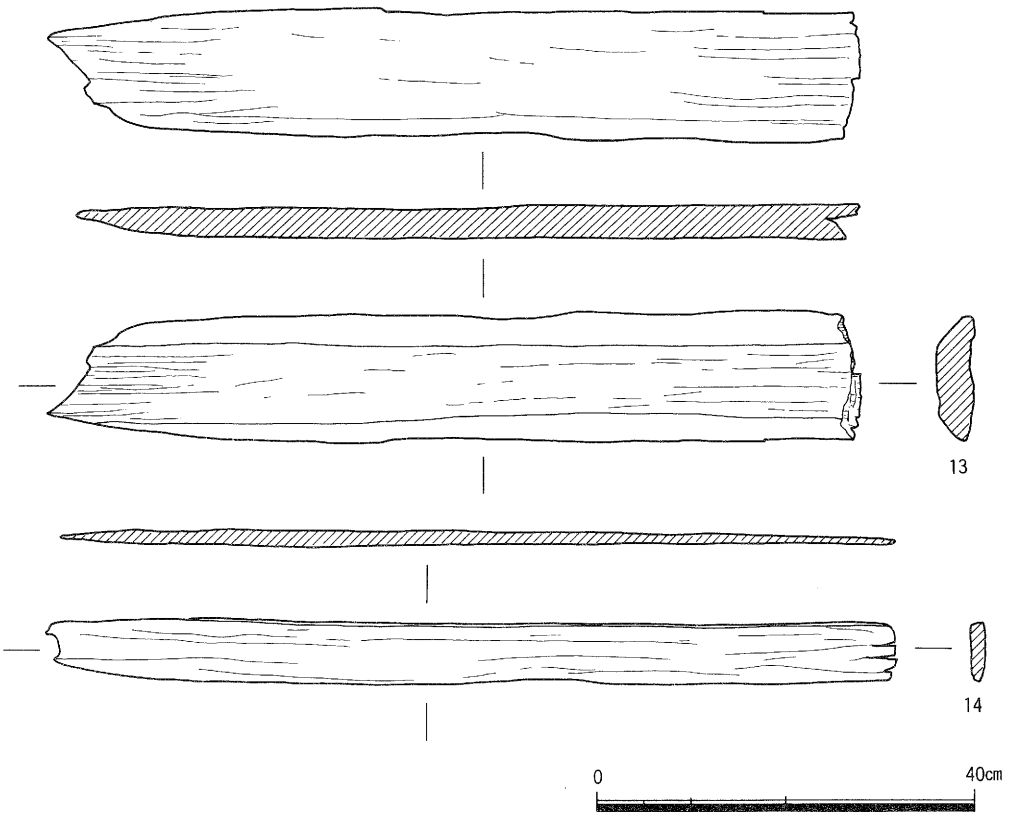




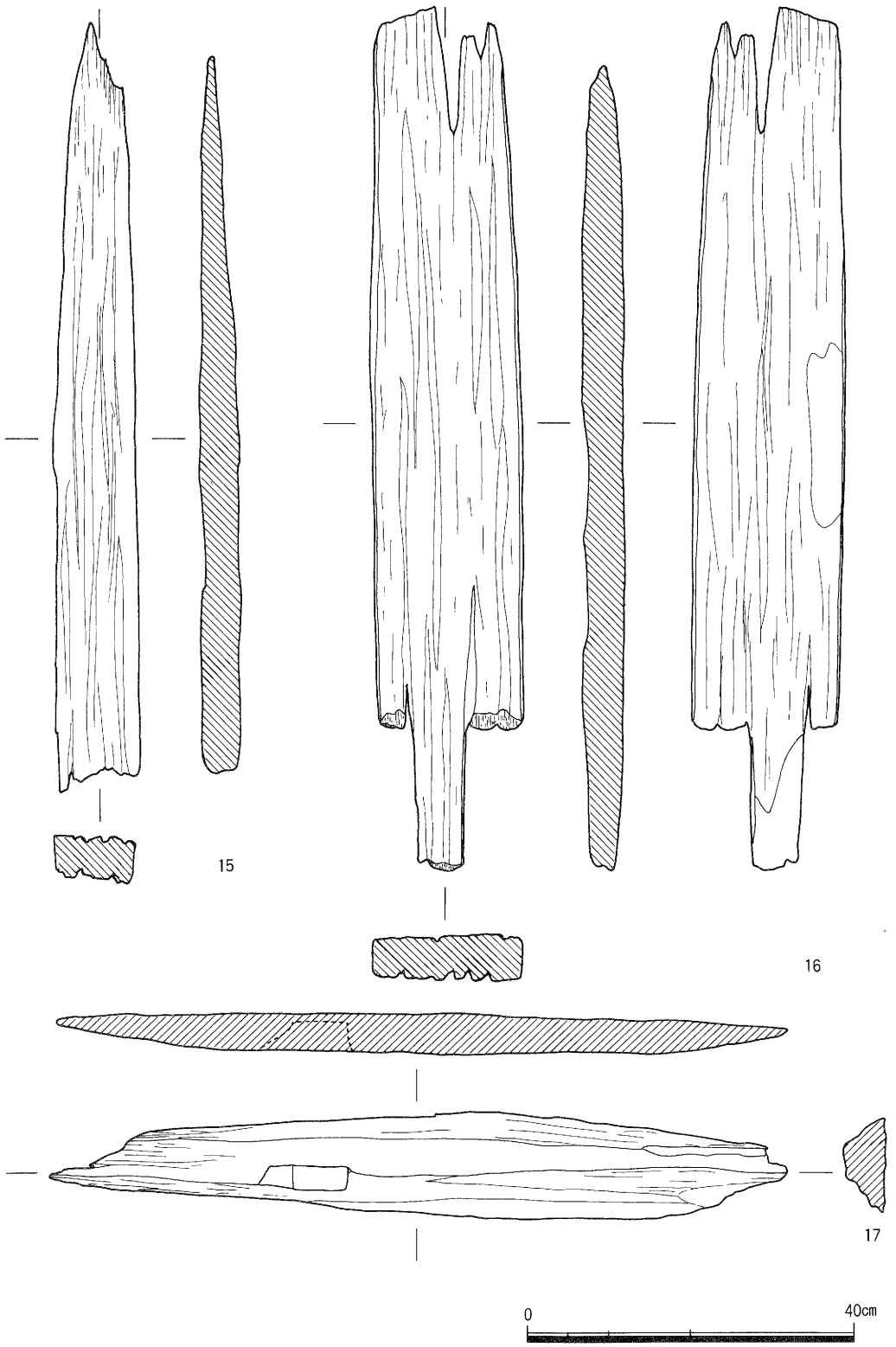
1　茶褐色砂土
2　暗茶褐色砂土
3　暗茶褐色粘砂土
4　黄茶色粘土
5　灰茶色粘土
6　淡灰色粘砂土
7　淡灰青色粘土
8　暗灰色粘砂土

第55図　A－Ⅲb地区SE2平断面図

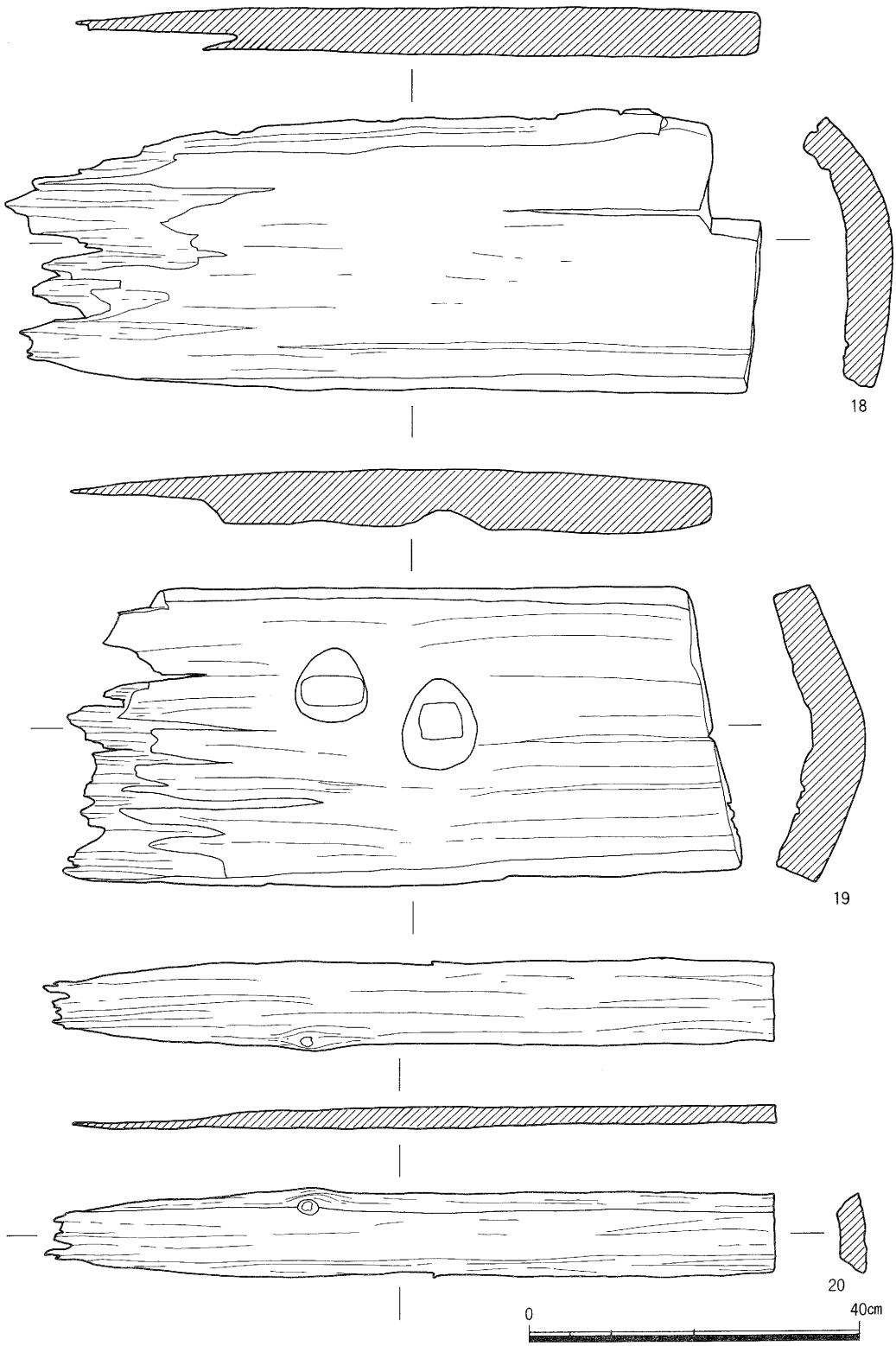




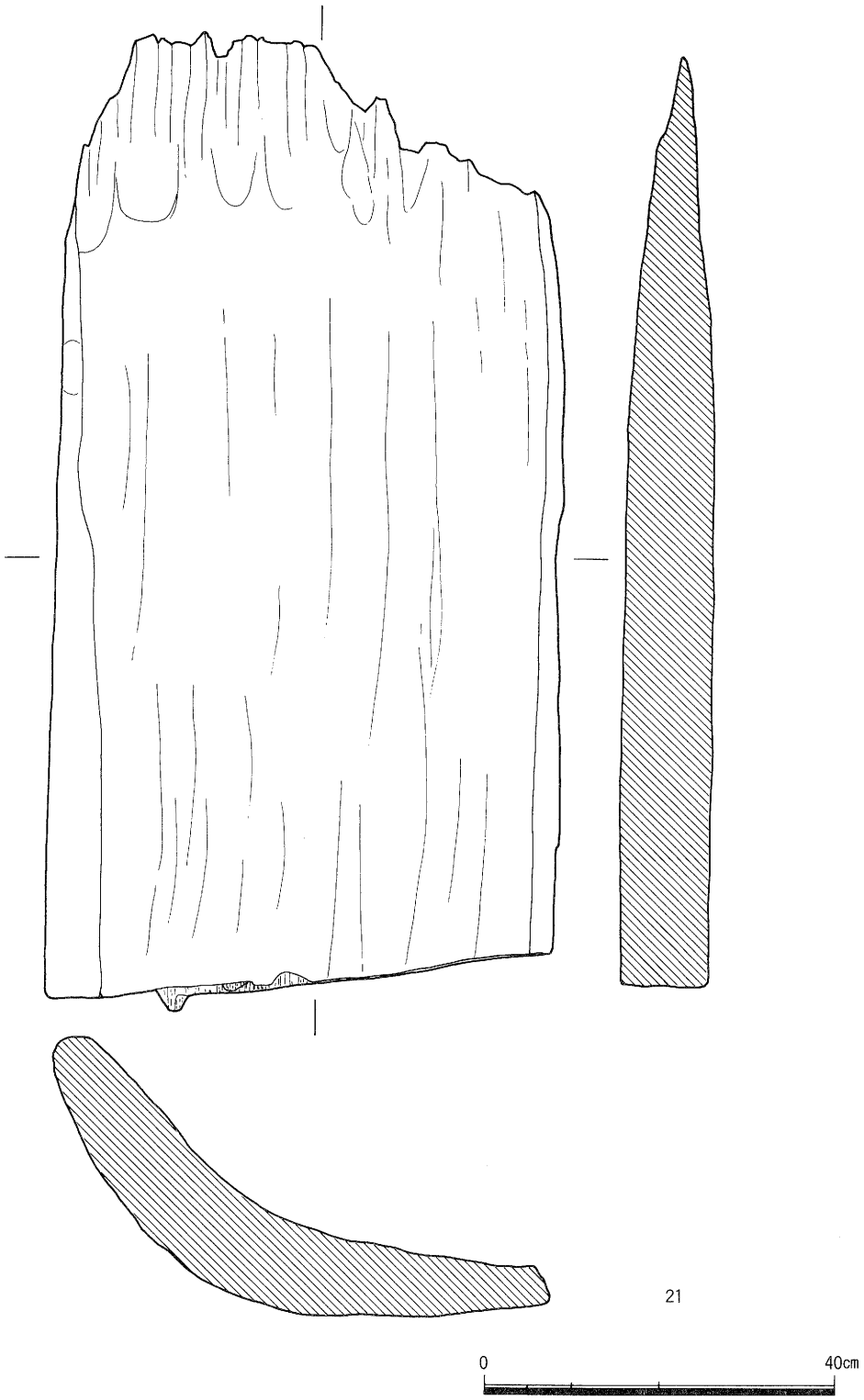
第56図　A－Ⅲｂ地区ＳＥ２出土遺物・木枠実測図１



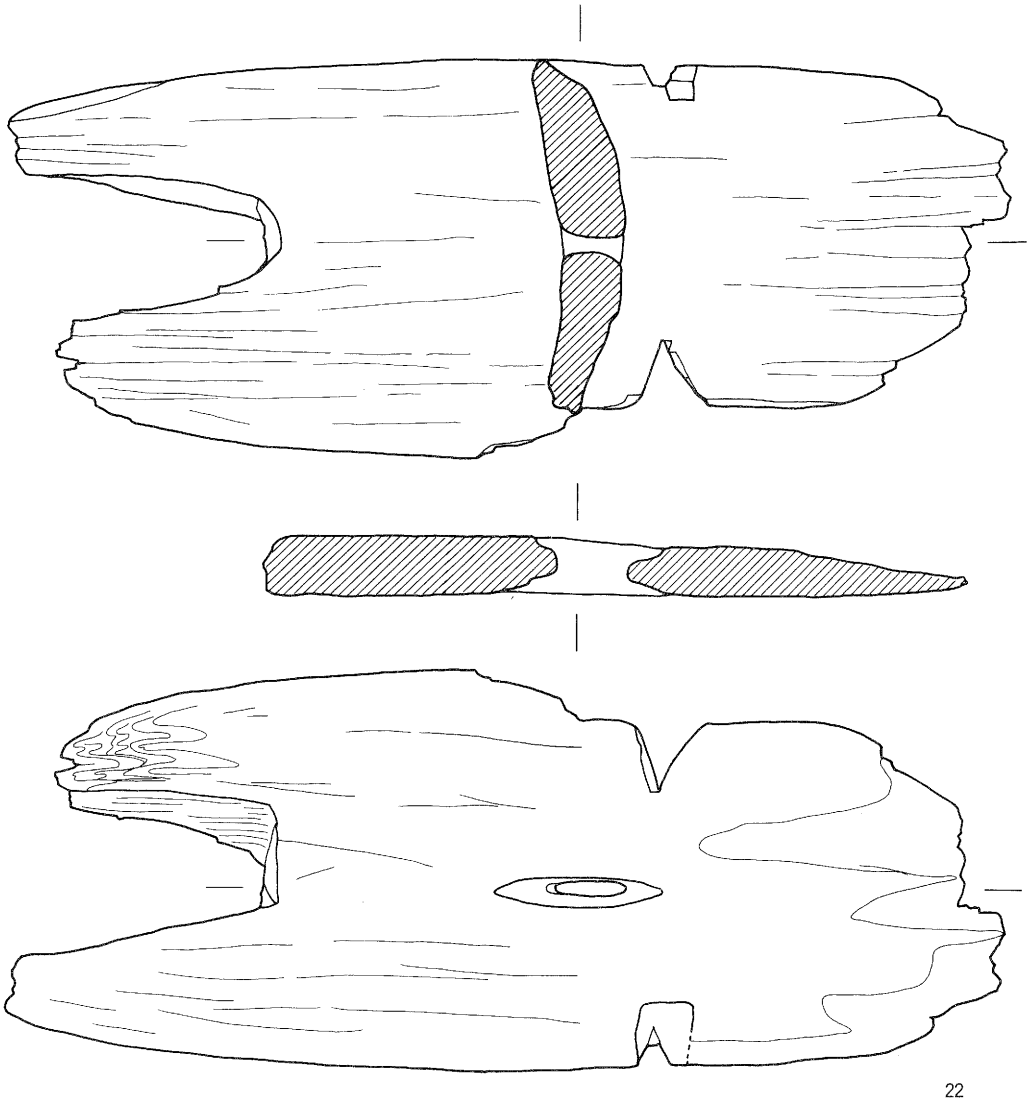
第57図　A－Ⅲｂ地区ＳＥ２木枠実測図２



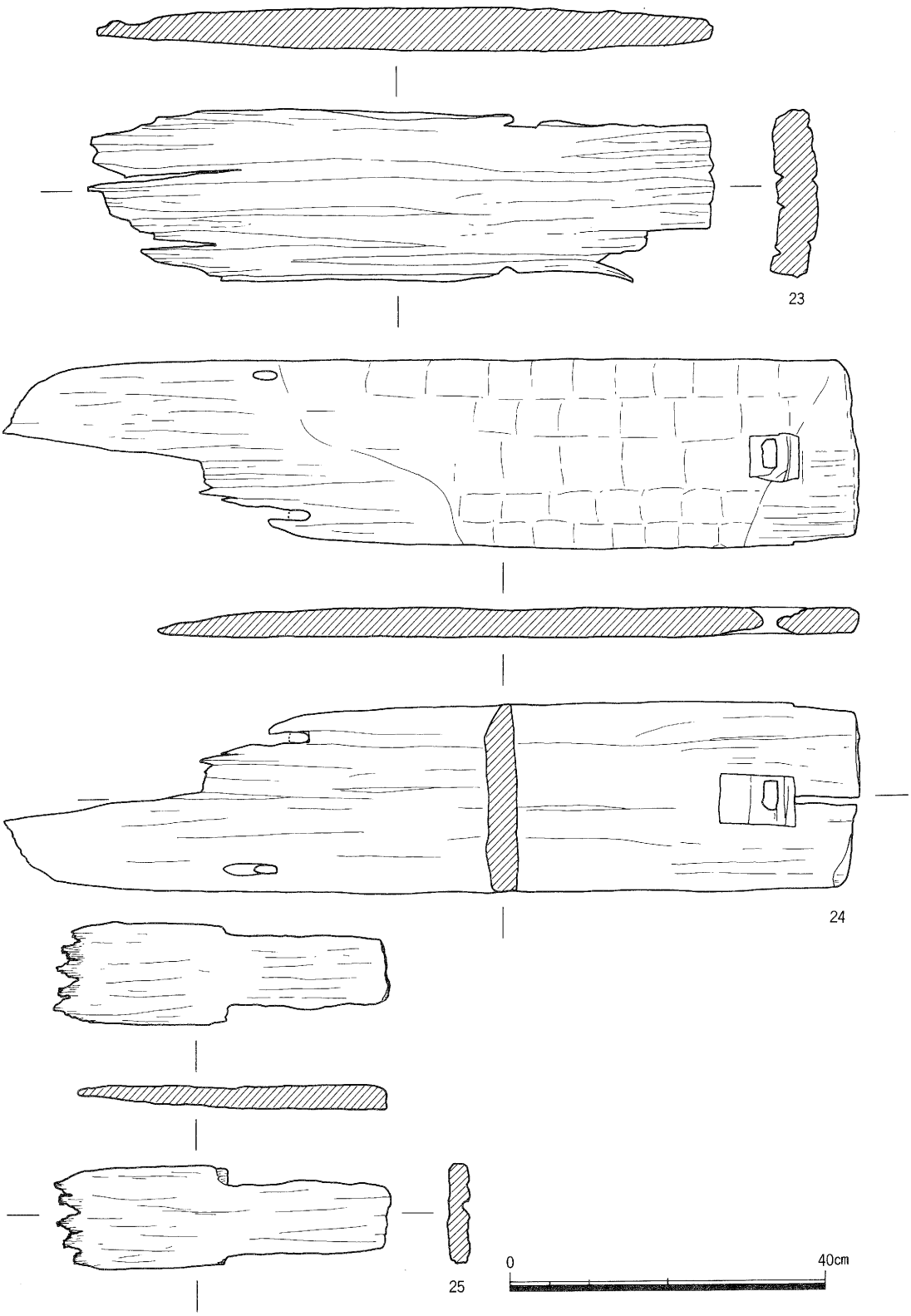
第58図　Ａ－Ⅲｂ地区ＳＥ２木枠実測図３



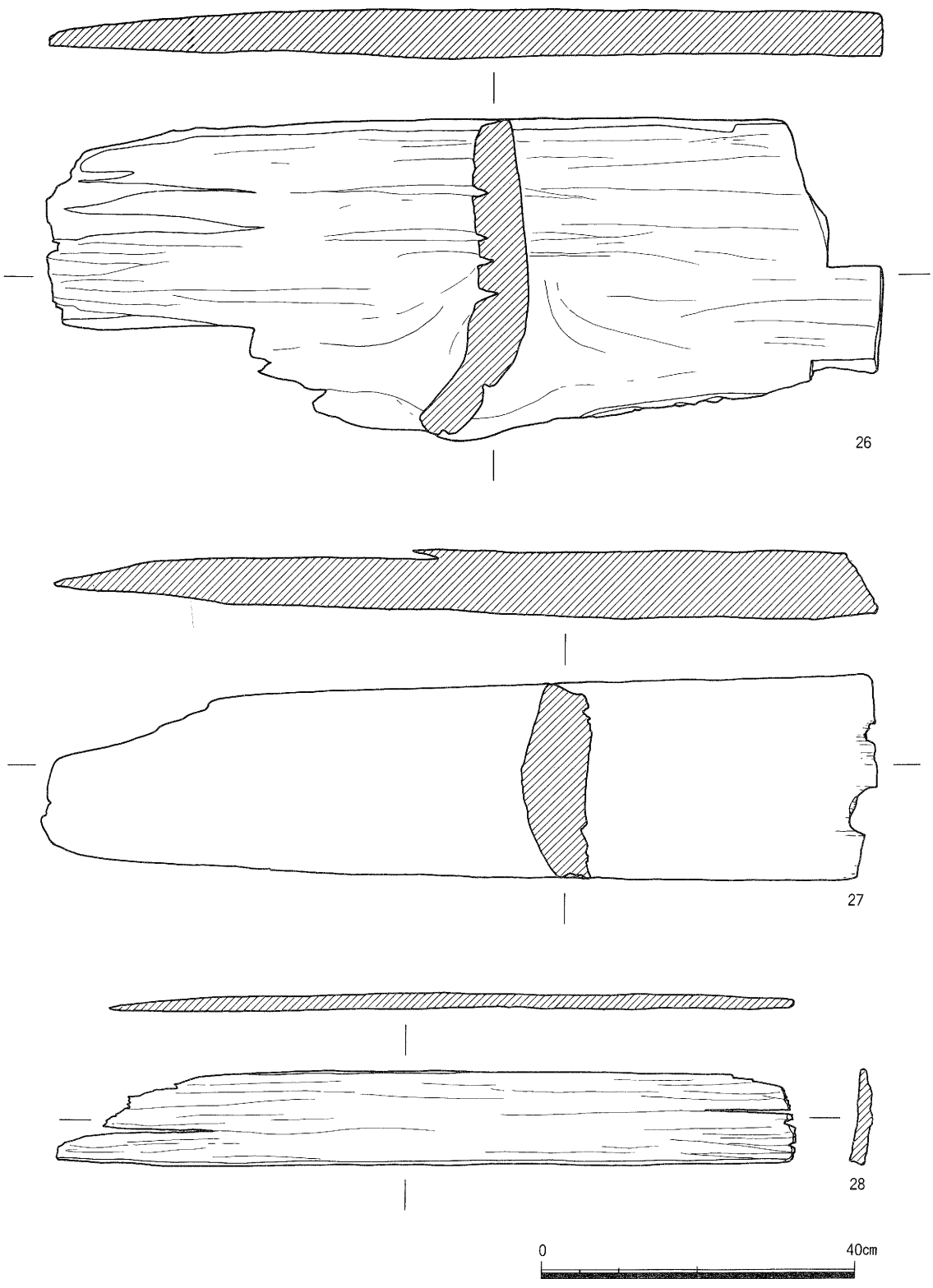
第59図　A－Ⅲｂ地区ＳＥ２木枠実測図４



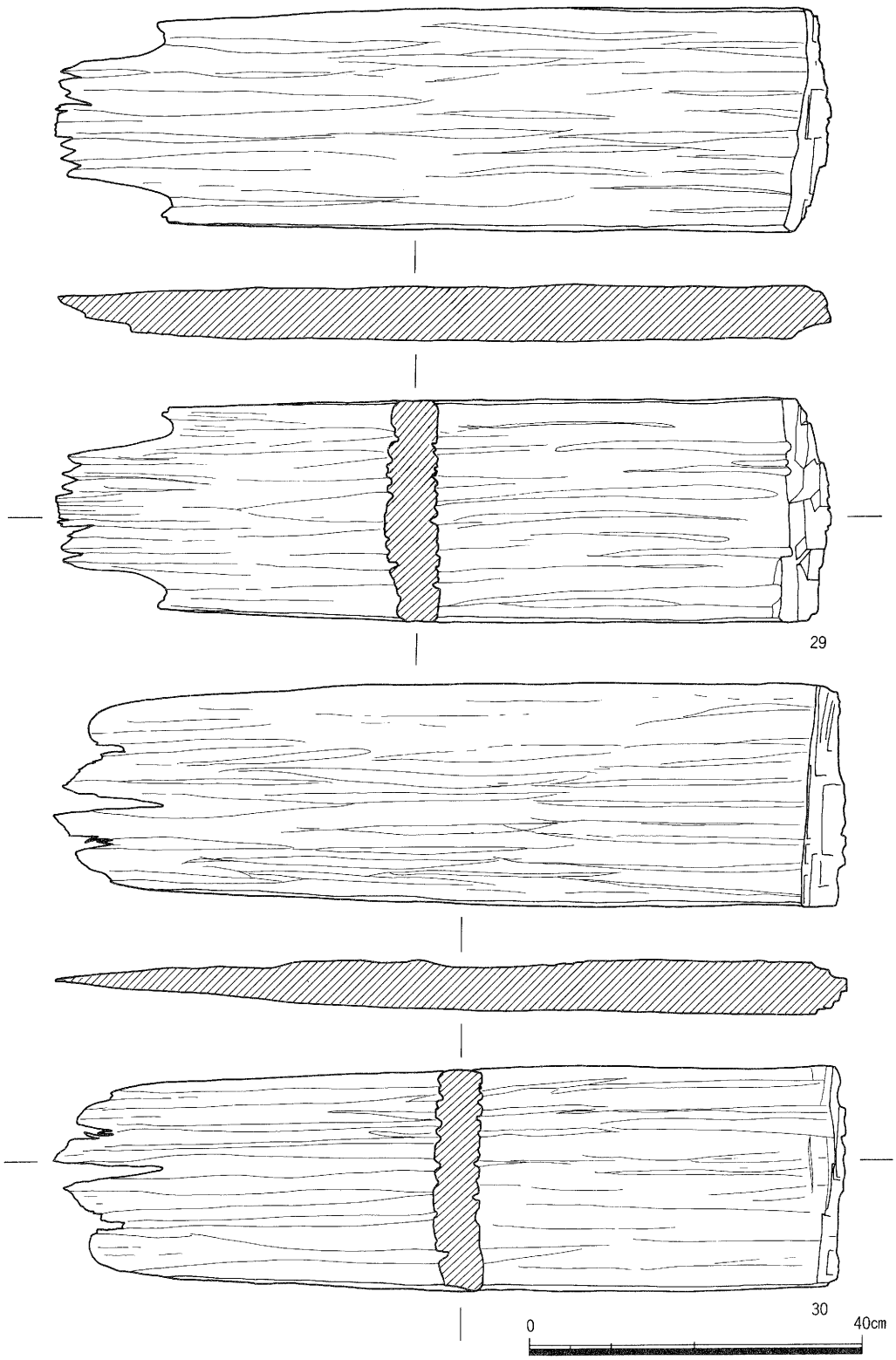
第60図　Ａ－Ⅲｂ地区ＳＥ２木枠実測図５



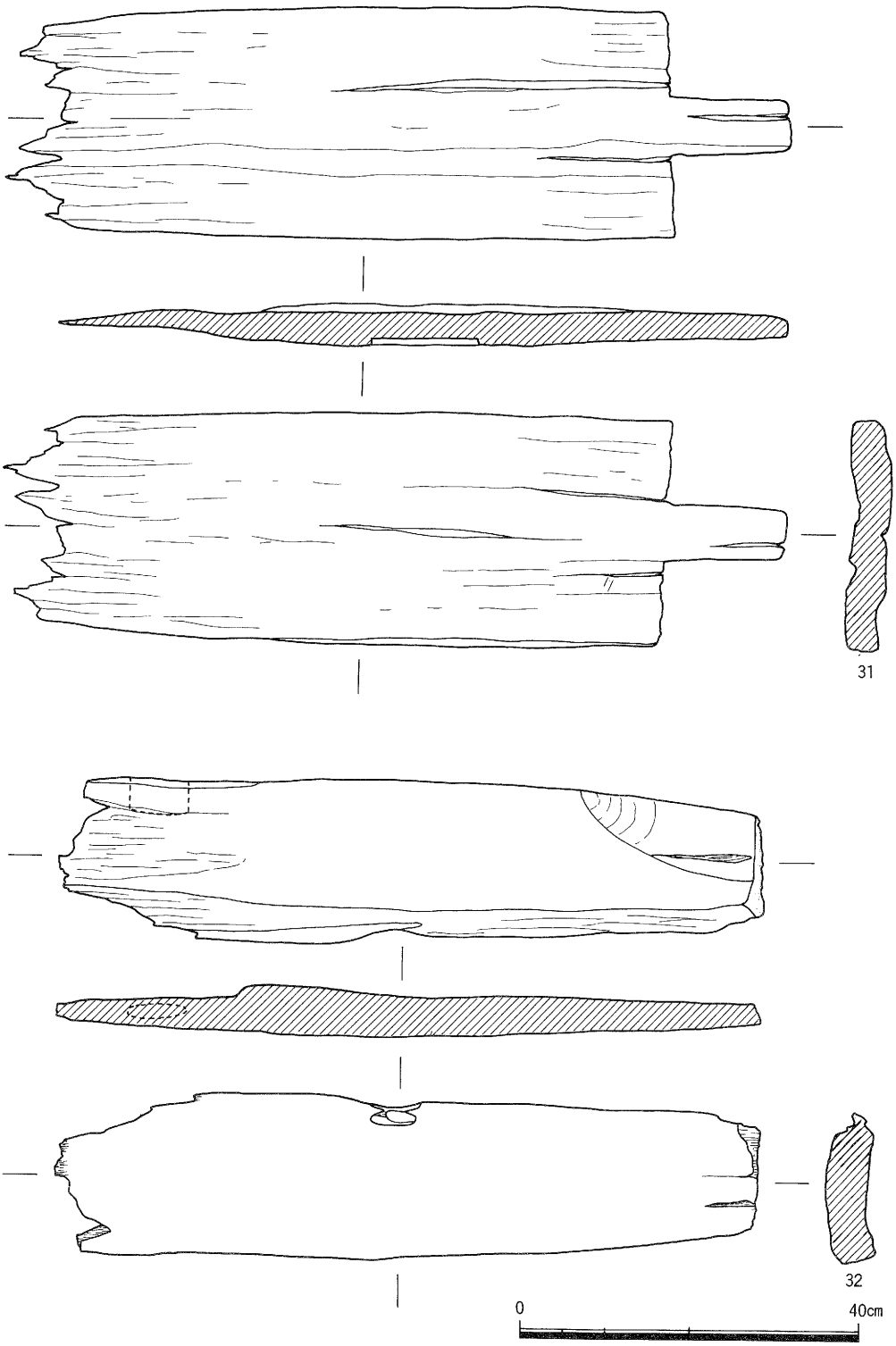
第61図　A－Ⅲｂ地区ＳＥ２木枠実測図６



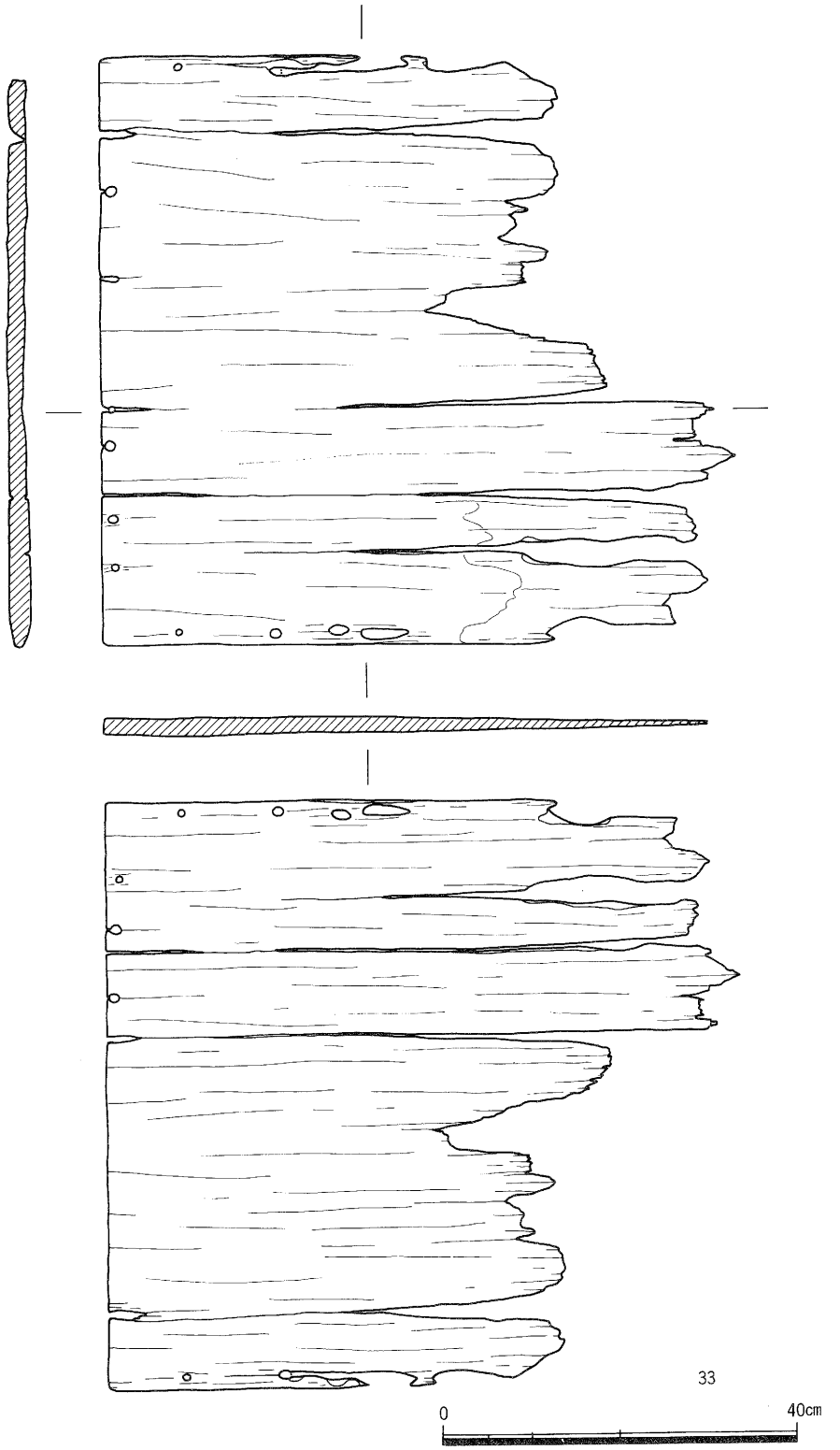
第62図　Ａ－Ⅲｂ地区ＳＥ２木枠実測図7



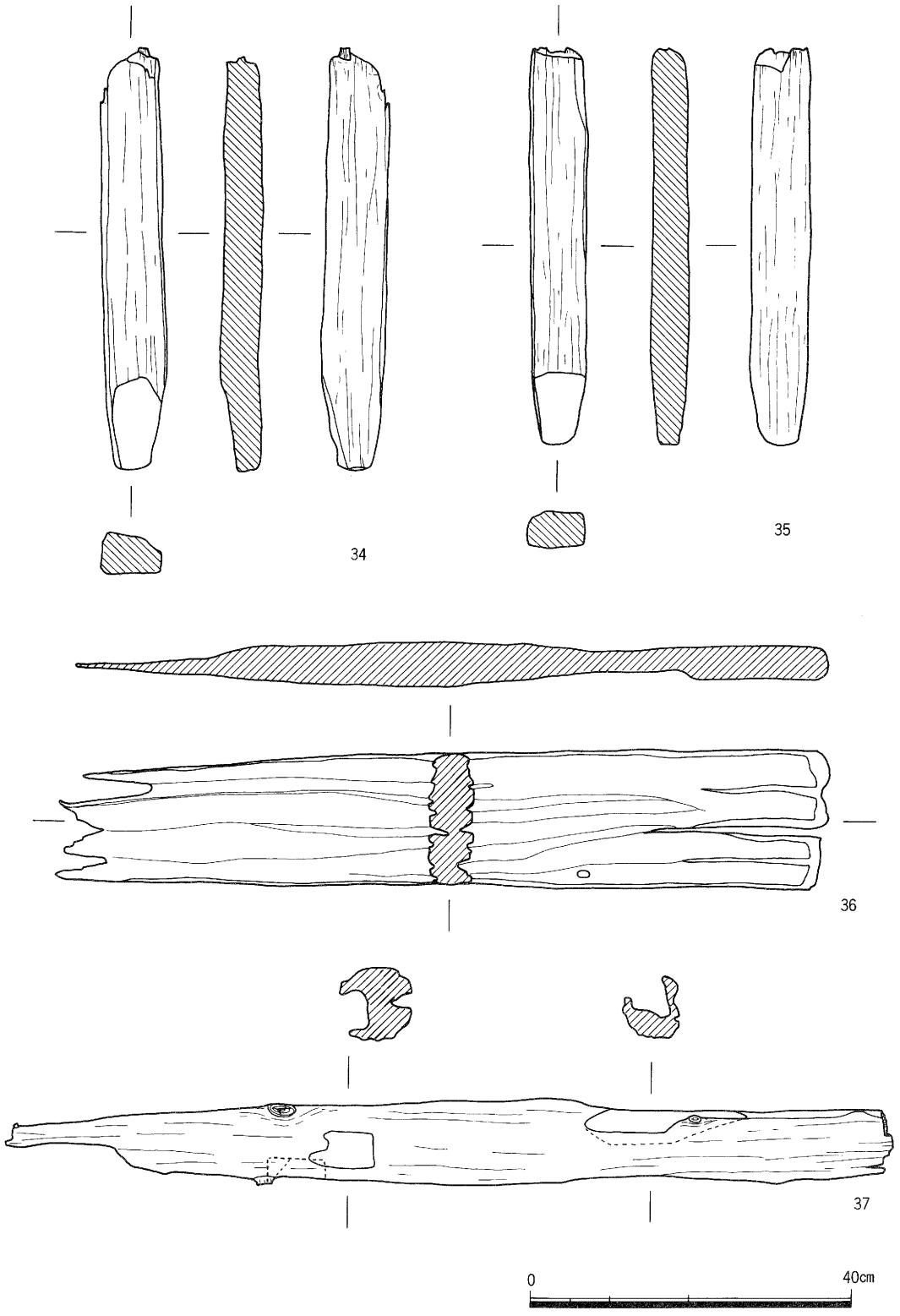
第63図　Ａ－Ⅲｂ地区ＳＥ２木枠実測図８



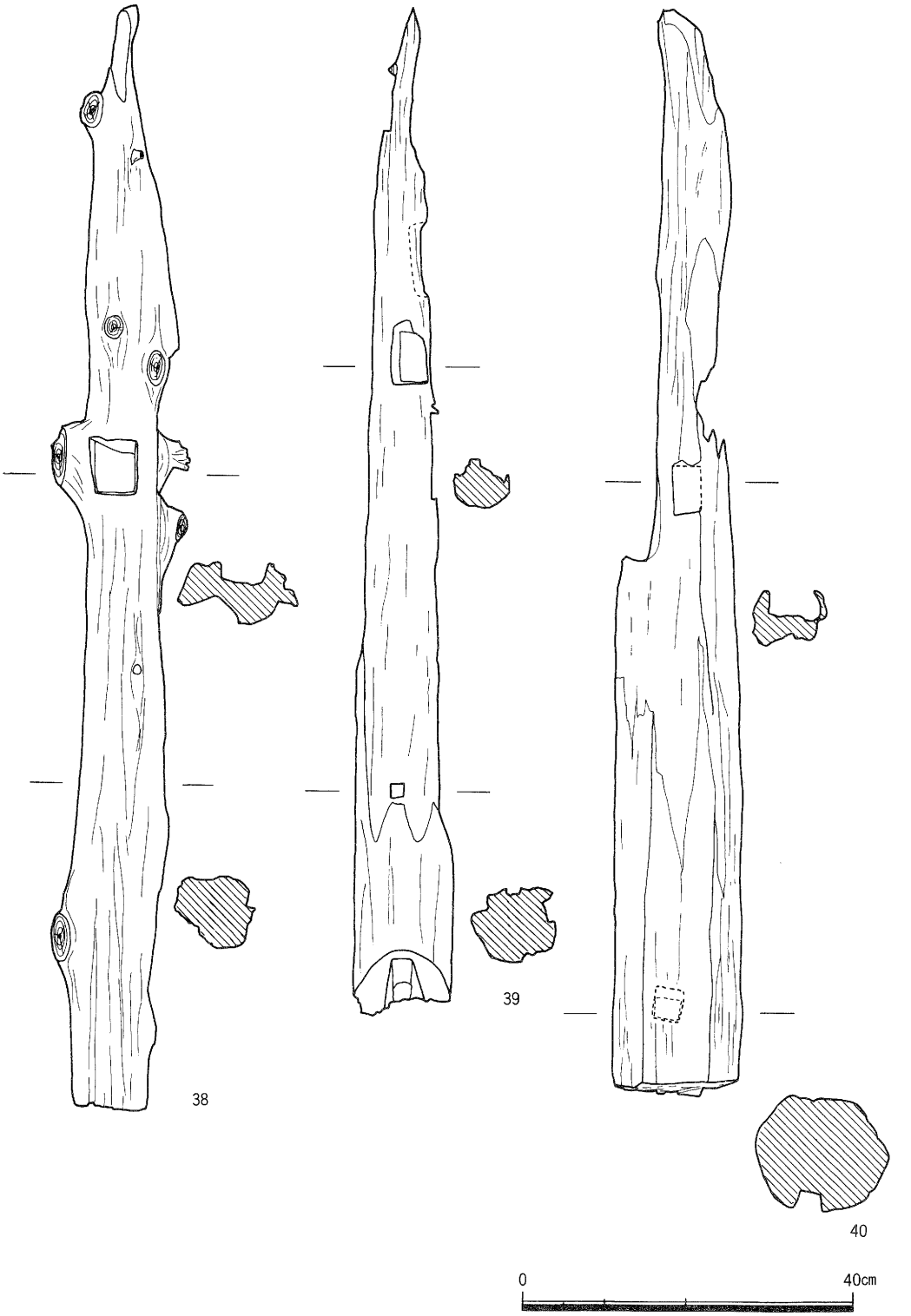
第64図　Ａ－Ⅲｂ地区ＳＥ２木枠実測図９



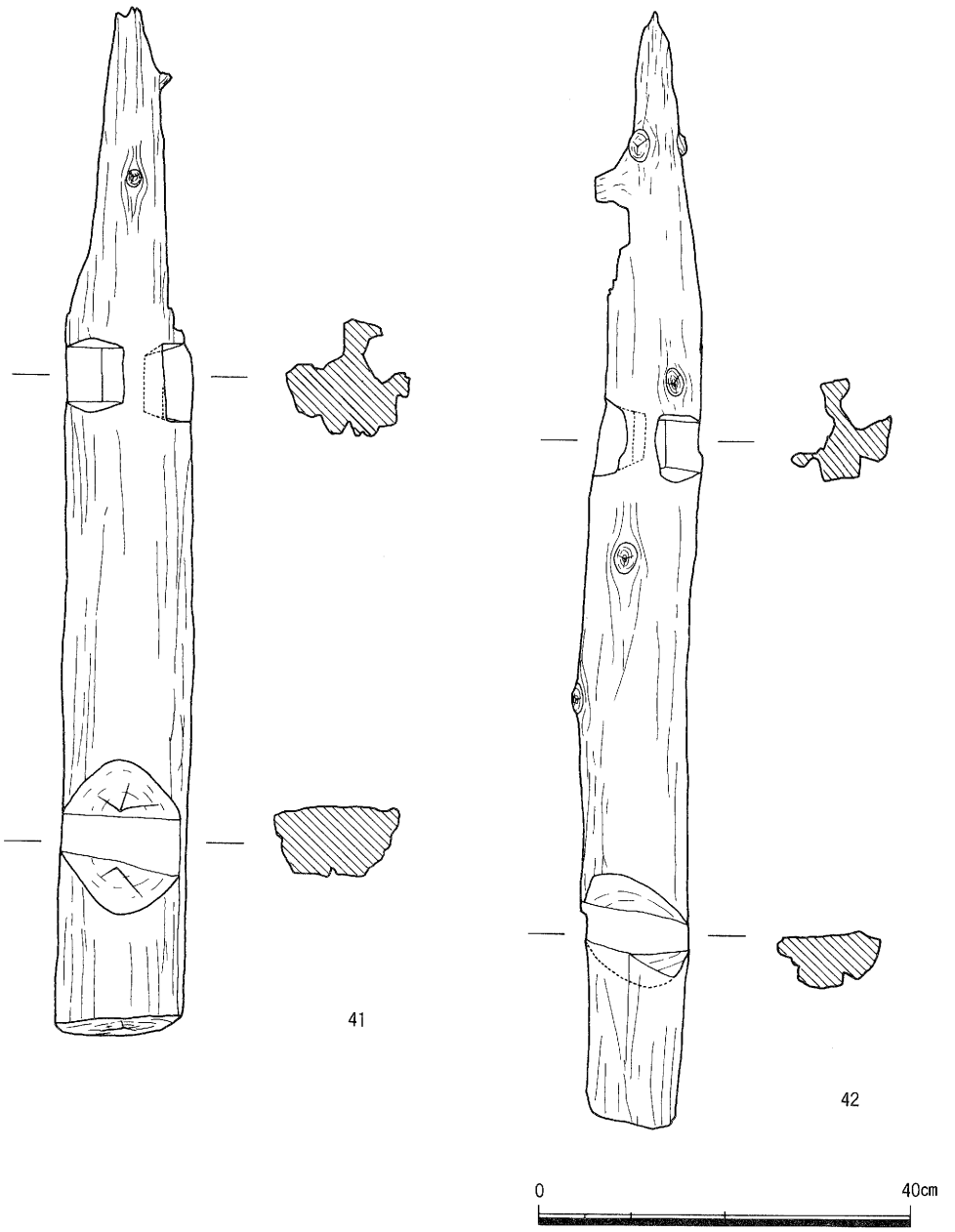
第65図　A－Ⅲｂ地区ＳＥ２木枠実測図10



第66図　Ａ－Ⅲｂ地区ＳＥ２木枠実測図11



第67図　A－Ⅲｂ地区ＳＥ２木枠実測図12



第68図　Ａ－Ⅲｂ地区ＳＥ２木枠実測図13

ＳＥ３

Ａ－Ⅲｃ地区の落ち込み８の基底面で検出した。検出部は東西径0.92m、南北径1.1m、深さ0.85mを測る素掘りの井戸と考えられる。平面はやや楕円形を呈す。断面はＵ字形を成す。堆積土は暗灰色シルトと淡黄灰色シルト粘土のブロック土・青灰色シルトと黒灰色粘土のブロック土の２層に分かれる。この遺構は堆積状況からみると帯水による沈殿土層が認められないことや築造後すぐに埋め戻している土層であることから、井戸としての機能を果たしていなかったと推測でき、何かの理由により築造を中止して埋めたものと考えられる。

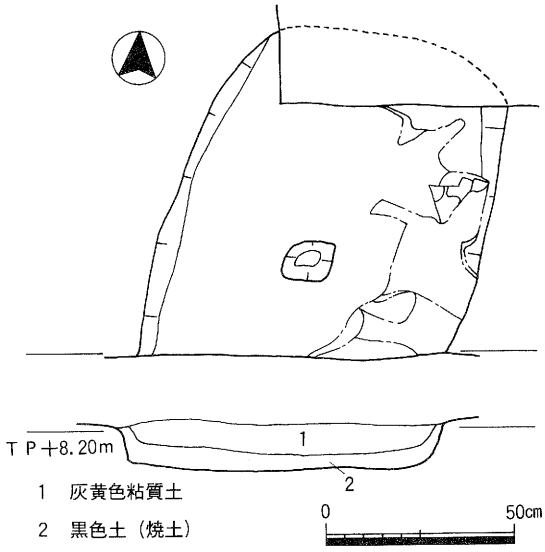
遺物は、土師器の細片をごく少量出土しただけで時期を決定づけるものはないが、落ち込み８の基底面より切り込まれていることから、平安時代かそれより若干遡る時期に位置づけられるであろう。

土坑

ＳＫ１

Ａ－Ｉｃ地区で検出した。ＳＤ３に切られる。検出部は径0.9m、深さ0.3mを測る土坑である。平面は円形を呈す。断面は逆台形を成す。堆積土は茶灰色粘土の単一層である。

遺物は出土していないが、層位的にみて平安時代頃に比定されると推測できる。



第69図　22ｃ地区ＳＫ５平断面図

ＳＫ５

22ｃ地区の南壁で検出した。南部は調査区外に至る。検出状況はＴＰ＋8.25mを測る黄灰色シルトの上面で赤褐色に変色した幅３～５cmを測る帯状に廻らした状態で検出した。検出部の規模は東西径0.8m、南北径0.9mを測る。内部には深さ0.1mを測る黄灰色粘土が堆積している。これを除去すると輪郭に廻らした帯状の赤褐色土が基底面にも廻っていた。これは高熱によって変色したと考えられ、住居址に伴う炉跡・焼土坑や土器などを焼く窯跡等が推察できるが、完掘していないため全体の様相は不明である。

遺物は出土していないが、時期は層位的にみて平安時代頃に位置づけられるものと考えられる（第69図）。

ＳＫ31

Ａ－Ⅳｄ地区で検出した。検出部は東西径1.65m、南北径1.1m、深さ0.2mを測る土坑である。平面は楕円形を呈す。断面は逆台形を成す。堆積土は淡黄茶褐色粘土の単一層である。

遺物は出土していないが、層位的にみて奈良～平安時代の時期に比定されるであろう。

ＳＫ32

Ａ－Ⅳｄ地区で検出した。検出部は東西径１m、南北径2.1m、深さ0.1mを測る土坑である。平面はほぼ長方形を呈す。断面は浅い皿状形を成す。堆積土はＳＫ31と同一層である。

遺物は出土していない。時期はＳＫ31と同時期と考えられる。

ＳＫ33

Ａ－Ⅳｄ地区の南壁で検出した。南半部は調査区外に至る。検出部は東西径2.5m、南北径0.9m以上、深さ0.2mを測る土坑である。断面は皿状形を呈す。堆積土はＳＫ31・ＳＫ32等と同一層である。

遺物は出土していない。時期はＳＫ31等と同時期と考えられる。

ＳＫ34

Ａ－Ⅳｆ地区の南壁で検出した。南半部は調査区外に至る。検出部は東西径4.8m以上、南北径0.6m以上、深さ0.1mを測る土坑である。断面は皿状形を呈す。堆積土はＳＫ31等と同一層である。

遺物は出土していない。時期はＳＫ31等と同時期と考えられる。

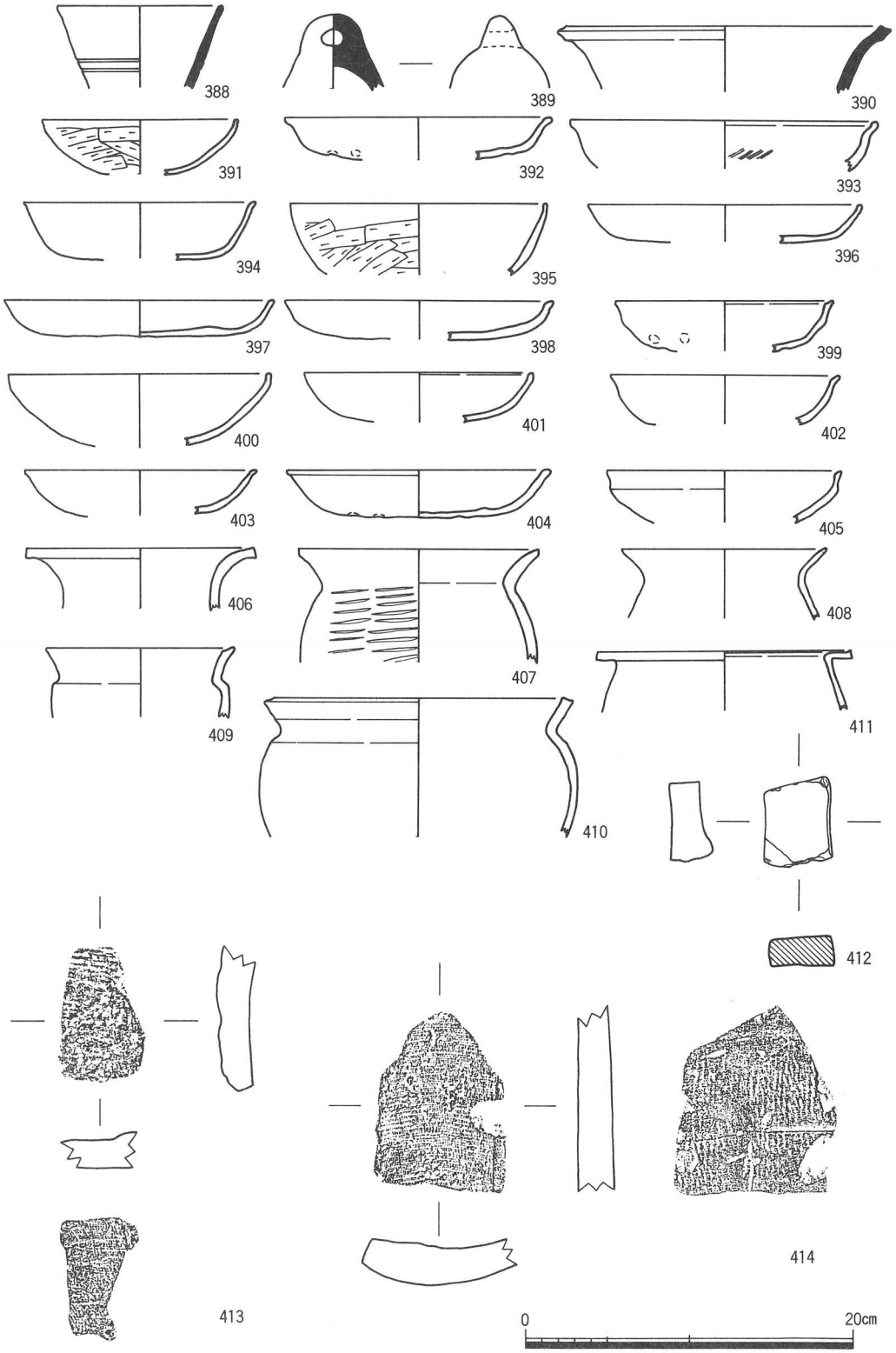
落ち込み状遺構

落ち込み８

Ａ－Ⅲｃ地区で検出した。南北ともに調査区外に至る。検出部は東西幅6.5m、深さ0.3mを測る南北の方向に至る落ち込み状遺構である。北壁の西部はＳＫ12を切っている。堆積土は暗灰茶色細砂混じりシルトの単一層である。基底面は起伏してピット状の浅い凹みが数ケ所みられる。また、ＳＥ３が検出された。

出土遺物

遺物は、奈良～平安時代に類似する須恵器の蓋坏・壺（388）・蛸壺（389）・甕（390）と土師器の皿（391～405）・甕（409・410）・瓦（413・414）等の土器と弥生時代後期～古墳時代前期に類似する壺（406）・甕（407・408・411）等の土器の細片が混入していた。その他に、縦6.2cm以上×横41cm×厚み２～４cmを測り、４面の使用痕が認められる半分欠損した砥石（412）１点を出土した。材質は砂岩石である（第70図）。



第70図　Ａ－Ⅲｃ地区落ち込み８出土遺物実測図

溝

ＳＤ６

Ａ－Ⅱ Ｃ地区で検出した。検出部は幅0.26～0.62m、深さ0.14～0.22mを測る南東－北西の方向に至る溝である。南東部はＳＤ７を切る。堆積土は黄褐色シルト混じり粘土・黄灰色シルトの２層に分かれる。

遺物は出土していないが層位的にみて、時期は奈良～平安時代に比定されると考えられる。

ＳＤ７・ＳＤ８

Ａ－Ⅱ ｃ・ｄ地区で検出した。検出部は幅1.9～3.95m、深さ0.05mを測る南から北方に拡がりをみせる溝である。基底面の中央部付近には径0.6～１mを測る山状の高まりが３ヶ所認められた。また、この溝はＳＤ６・ＳＤ９に切られ、ＳＤ10と切り合う関係にある。堆積土は灰褐色粘土の単一層である。

遺物は出土していないが層位的にみて、ＳＤ６と同一時期と考えられる。

ＳＤ９

Ａ－Ⅱ ｄ地区で検出した。検出部は幅0.33～0.5m、深さ0.13～0.18mを測る溝である。方向はＮ－22°－Ｗを示す。南北ともに調査区外に至る。この溝はＳＤ８を切り、ＳＤ10と切り合う関係にある。堆積土は灰色砂混じり粘土・灰色粘土の２層に分かれる。

遺物は出土していないが、ＳＤ６等の溝と若干の時期差は認められるもののほぼ同一時期と考えられる。

ＳＤ10

Ａ－Ⅱ ｄ～ｇ地区で検出した。検出部は幅0.13～0.32m、深さ0.05～0.15mを測る東西方向に至る溝である。東部はＳＤ15、西部はＳＤ８と合流し、ＳＤ９・ＳＤ11・ＳＤ12・ＳＤ14と切り合う関係にある。堆積土は灰色砂混じり粘土の単一層である。

遺物は出土していないが、ＳＤ９等の溝とほぼ同一時期と考えられる。

ＳＤ11

Ａ－Ⅱ ｄ地区で検出した。検出部は幅0.18～0.5m、深さ0.08～0.14mを測る溝である。方向はＮ－22°－Ｗを示す。この溝はＳＤ10・ＳＤ14と切り合う関係にある。堆積土は灰色砂混じり粘土の単一層である。

遺物は出土していないが、ＳＤ９等の溝とほぼ同一時期と考えられる。

ＳＤ12

Ａ－Ⅱ ｅ地区で検出した。検出部は幅0.26～0.4m、深さ0.05～0.1mを測る溝である。方向はＳＤ９・ＳＤ11と同一方向を示す。この溝はＳＤ10と切り合う関係にあり、南北部は調査区外に至る。堆積土は灰色砂混じり粘土の単一層である。

遺物は出土していないが、ＳＤ９等の溝とほぼ同一時期であると考えられる。

ＳＤ14

Ａ－Ⅱｄ地区で検出した。検出部は幅0.32～0.5m、深さ0.15mを測る溝である。方向はＳＤ10・ＳＤ11と交わって土坑状になった部分より北東の方向に至る。堆積土は灰色砂混じり粘土の単一層である。

遺物は出土していないが、ＳＤ10等の溝とほぼ同一時期であると考えられる。

ＳＤ15

Ａ－Ⅱｇ地区で検出した。検出部は幅0.28～0.4m、深さ0.1mを測る溝である。方向はＳＤ９・ＳＤ11・ＳＤ12・ＳＤ16と同一方向で、東西方向のＳＤ10と合流する。堆積土は灰色砂混じり粘土の単一層である。

遺物は出土していないが、ＳＤ９等の溝とほぼ同一時期であると考えられる。

ＳＤ16

Ａ－Ⅱｅ地区で検出した。検出部は幅0.3～0.43m、深さ0.16～0.26mを測る溝である。方向はＳＤ９・ＳＤ11・ＳＤ12・ＳＤ15と同一方向で、ＳＤ10と交差する。断面は逆台形を呈し、上記の溝より若干深い。堆積土は灰色砂混じり粘土の単一層である。

遺物は出土していないが、ＳＤ９等の溝とほぼ同一時期であると考えられる。

ＳＤ54

Ａ－Ⅳｆ・ｇ地区で検出した。検出部は幅0.28～0.4m、深さ0.1mを測る東西方向の溝である。断面は皿状形を呈す。堆積土は淡灰褐色砂混じり粘土の単一層である。

遺物は出土していないが、層位的にみて奈良～平安時代の時期に比定されると考えられる。

ＳＤ55

Ａ－Ⅳｆ～ｈ地区で検出した。検出部は幅0.2～0.3m、深さ0.05～0.1mを測る溝である。方向は東西方向を示す。断面は皿状形を呈す。東部はＳＤ56と切り合う関係にある。堆積土はＳＤ54と同一層である。

遺物は出土していない。時期はＳＤ54の溝とほぼ同一時期と考えられる。

ＳＤ56

Ａ－Ⅳｈ地区で検出した。検出部は幅2.3～3.2m、深さ0.18～0.22mを測る溝である。方向は北上したのち屈曲し北東に至る。ＳＤ55と切り合う関係にある。堆積土はＳＤ54と同一層である。

遺物は出土していない。時期はＳＤ54等の溝とほぼ同一時期と考えられる。

ピット

A－Ⅰ・A－Ⅲ地区で検出した。径0.26～0.4mを測る小形のものと径0.45～1.1mを測る大形のものに大別できるピットである。平面は円形ないし楕円形を呈す。これらのピットは住居址に関連する柱穴などの遺構と考えられるものもある。しかし、限定された調査区であるため規則性のある配列は前述したＳＢ１・ＳＢ２の掘立柱建物２棟のみで、その他は明確に認められなかった。なお、個々のピットの規模・形状等については下記の第４表に表わした。

第４表　奈良～平安時代のピット一覧表

地区	遺構番号	規模(cm) 長径×短径	深さ(cm)	形状 平面形	形状 断面形	柱痕径(cm)	柱根残存	出土遺物	備考
A－Ⅰa	ＳＰ１	34～27	4	円形	逆台形	8～12	—	土師器高杯細片	
A－Ⅲa	ＳＰ２	78～46	33	隅丸方形	逆台形	——	—	須恵器細片	
A－Ⅲa	ＳＰ３	89～46	25	隅丸方形	逆台形	——	—	土師器と須恵器細片	
A－Ⅲb	ＳＰ４	82～50	21	隅丸方形	逆台形	——	—	土師器と須恵器細片	
A－Ⅲa	ＳＰ５	84～27	30	隅丸方形	逆台形	10～15	—	土師器と須恵器細片	
A－Ⅲb	ＳＰ６	74～60	22	円形	逆台形	——	—	土師器の細片	
A－Ⅲb	ＳＰ７	96～27	27	円形	逆台形	12～16	—	土師器細片	根石
A－Ⅲa	ＳＰ８	14以上	10	円形	逆台形	——	—		
A－Ⅲb	ＳＰ９	20以上	15	円形	逆台形	——	—		
A－Ⅲc	ＳＰ10	40～36	22	楕円形	U字形	——	—	土師器の細片	
A－Ⅲc	ＳＰ11	31～26	21	楕円形	逆台形	——	—	土師器細片	
A－Ⅲd	ＳＰ12	34～26	8	楕円形	逆台形	——	—		
A－Ⅲd	ＳＰ13	110～68	12	隅丸方形	逆台形	——	—	土師器細片	
A－Ⅲe	ＳＰ14	73～47	18	隅丸方形	逆台形	——	—	土師器細片	
A－Ⅲe	ＳＰ15	52～28	60	隅丸方形	U字形	——	—		
A－Ⅲe	ＳＰ16	58～35	17	隅丸方形	逆台形	——	—	土師器細片	
A－Ⅲd	ＳＰ17	72～48	15	隅丸方形	逆台形	——	—	土師器と須恵器細片	
A－Ⅲe	ＳＰ18	116～50	47	楕円形	逆台形	——	—	土師器の細片	
A－Ⅲe	ＳＰ19	114～70	20	楕円形	逆台形	——	—	土師器と須恵器細片	
A－Ⅲe	ＳＰ20	78～49	18	楕円形	逆台形	——	—	土師器と須恵器細片	
A－Ⅲd	ＳＰ21	64～44	15	隅丸方形	逆台形	——	—	土師器細片	根石
A－Ⅲe	ＳＰ22	95～62	27	楕円形	逆台形	——	—	土師器細片	
A－Ⅲe	ＳＰ23	88～67	37	楕円形	逆台形	——	—	土師器と須恵器細片	
A－Ⅲe	ＳＰ24	74～63	55	円形	逆台形	——	—	土師器と須恵器細片	
A－Ⅲb	ＳＰ25	70～58	54	隅丸方形	逆台形	——	—	土師器細片	
A－Ⅲb	ＳＰ26	35～23	32	楕円形	逆台形	——	—		
A－Ⅲb	ＳＰ27	32～26	26	楕円形	逆台形	——	—		
A－Ⅲb	ＳＰ28	44～38	23	楕円形	逆台形	——	—		
A－Ⅲb	ＳＰ29	44～38	19	円形	逆台形	——	—		
A－Ⅲc	ＳＰ30	68～28	43	楕円形	逆台形	——	—	土師器高杯・甕片	
A－Ⅲc	ＳＰ32	47～31	8	楕円形	逆台形	——	—	土師器細片	
A－Ⅲc	ＳＰ33	39～26	10	楕円形	逆台形	——	—		
A－Ⅲc	ＳＰ34	37～28	11	円形	逆台形	——	—		
A－Ⅲc	ＳＰ35	54～34	22	楕円形	逆台形	——	—		
A－Ⅲc	ＳＰ36	33～22	11	楕円形	逆台形	——	—		
A－Ⅲc	ＳＰ37	52～26	22	楕円形	逆台形	——	—		
A－Ⅲc	ＳＰ38	39～35	11	円形	逆台形	——	—		
A－Ⅲc	ＳＰ39	23～22	11	楕円形	逆台形	——	—		
A－Ⅲc	ＳＰ40	78～28	11	楕円形	逆台形	——	—		

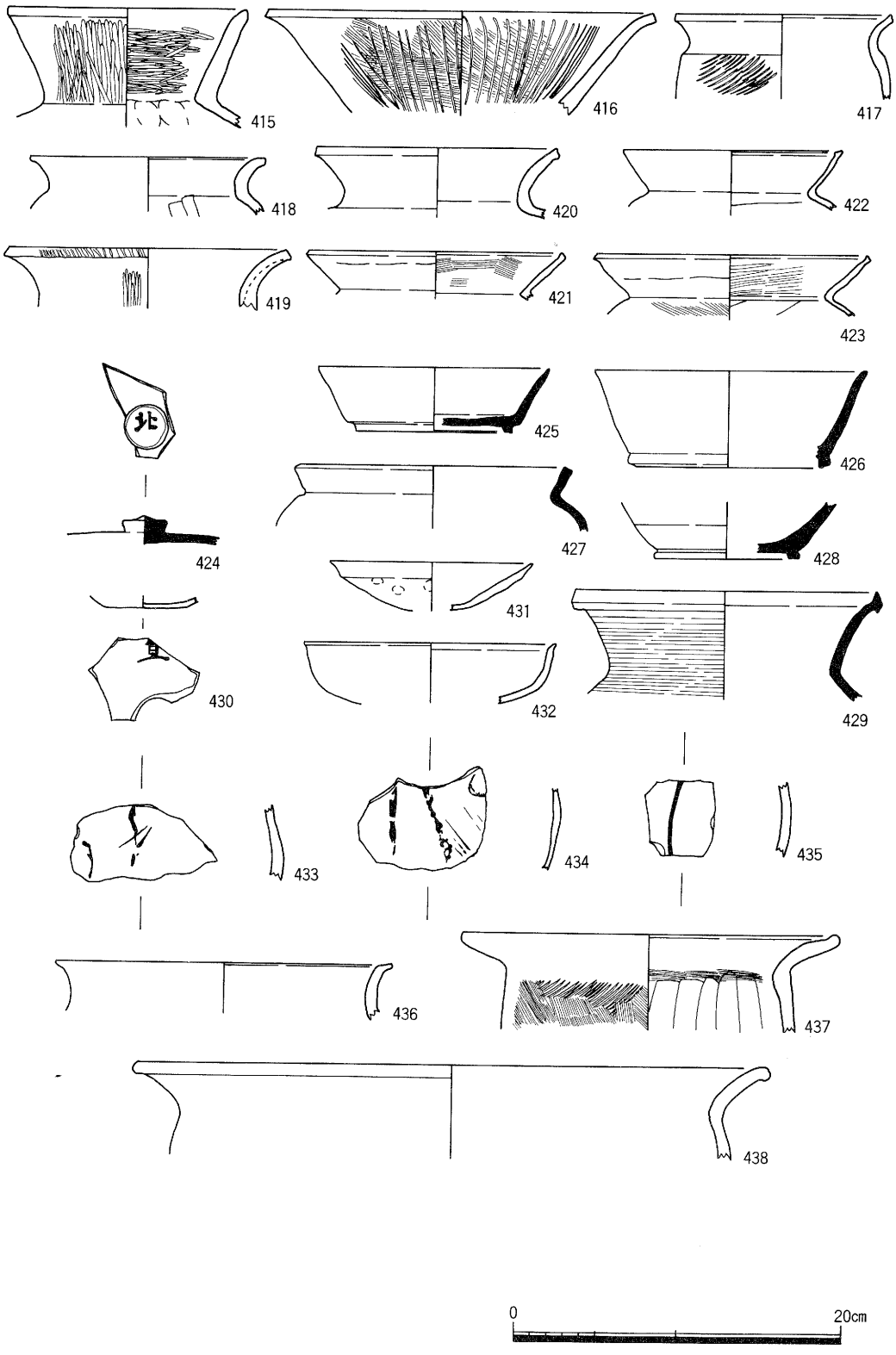
自然河川

河川３

Ａ－Ⅳａ～ｃ地区で検出した。検出部は幅25m以上を測る自然河川である。深さは0.1～0.6mを測り、基底面は東側に幅約1.5mで北東の方向の流路がある。西側は不定形土坑状の窪みがみられる。また基底部の全面には径0.1～0.3m、深さ0.03～0.15mを測る平面円形及び楕円形の足跡状の凹みが無数に検出した。この凹みは人・動物等の足跡痕ではないかと考えられる。堆積土は砂質を基調として黄灰色砂土・白灰色粗砂・灰色砂土・暗灰褐色粘砂土（酸化鉄を含む）・白灰色細砂等で構成している。時期は遺物から奈良時代に埋没したと考えられる。

出土遺物

弥生時代後期～奈良時代に至る遺物がコンテナ３箱分出土した。特に基底面の凹みに多く混入していた。また、これらの遺物は流れ込みと思われ、大半がローリングを受けて細片化した土器である。器種は弥生時代後期に比定される壺・高坏・甕（417～420）、古墳時代前期に比定される壺（415・416）・高坏・甕（421～423）、古墳時代後期～奈良時代に比定される須恵器の蓋坏・つまみ付蓋（424）・高台付坏（425・426）・壺（427・428）・甕（429）・土師器の皿（430～432）・墨書人面土器（433～435）・甕（436～438）等である。つまみ付蓋（424）はつまみ上面に「北」と言う墨書が書かれている。土師器の皿（430）は皿の底部外面に「」と墨書が書かれている（第71図）。



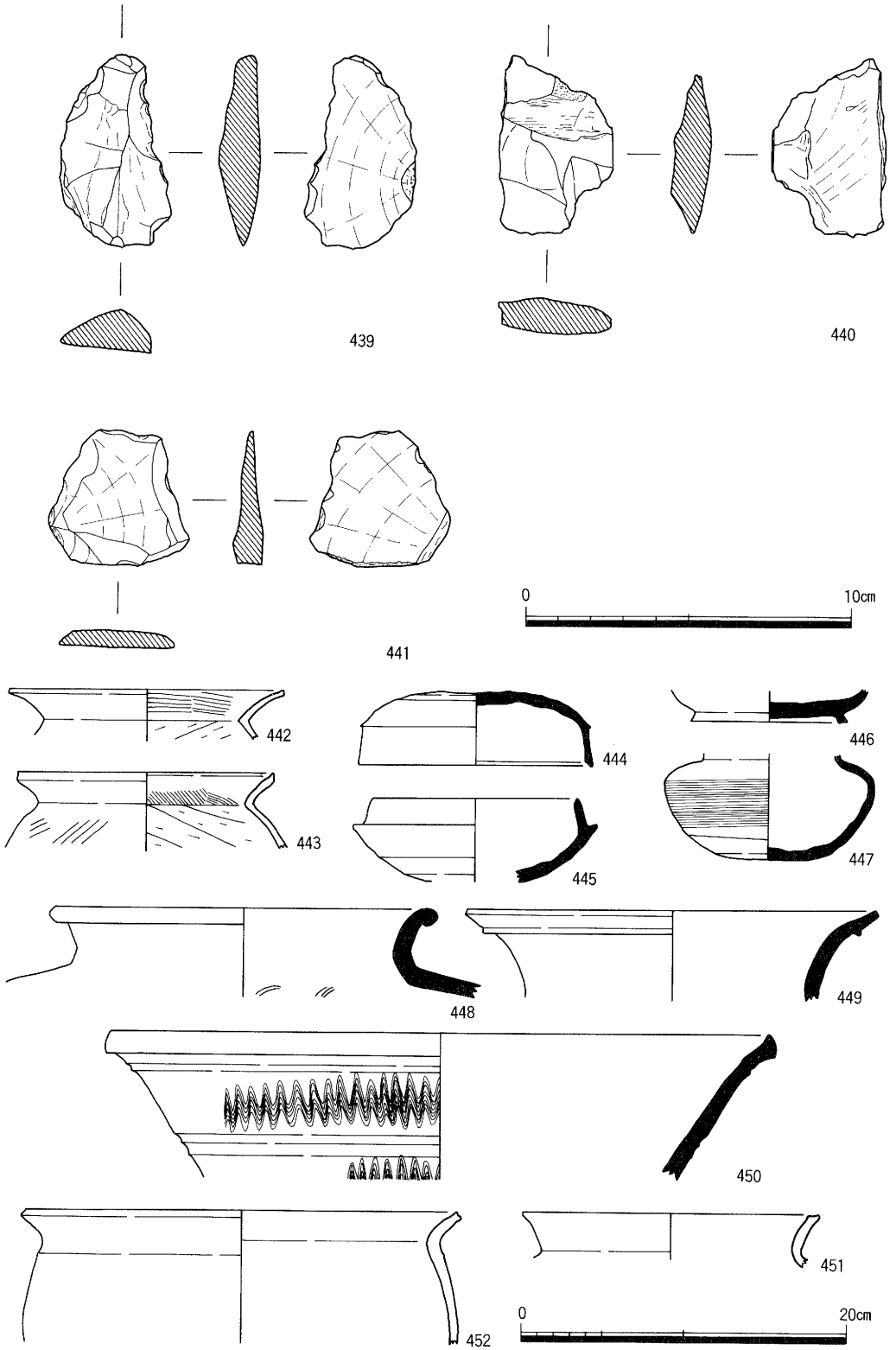
第71図　A－Ⅳ a～c 地区河川３出土遺物実測図

河川１

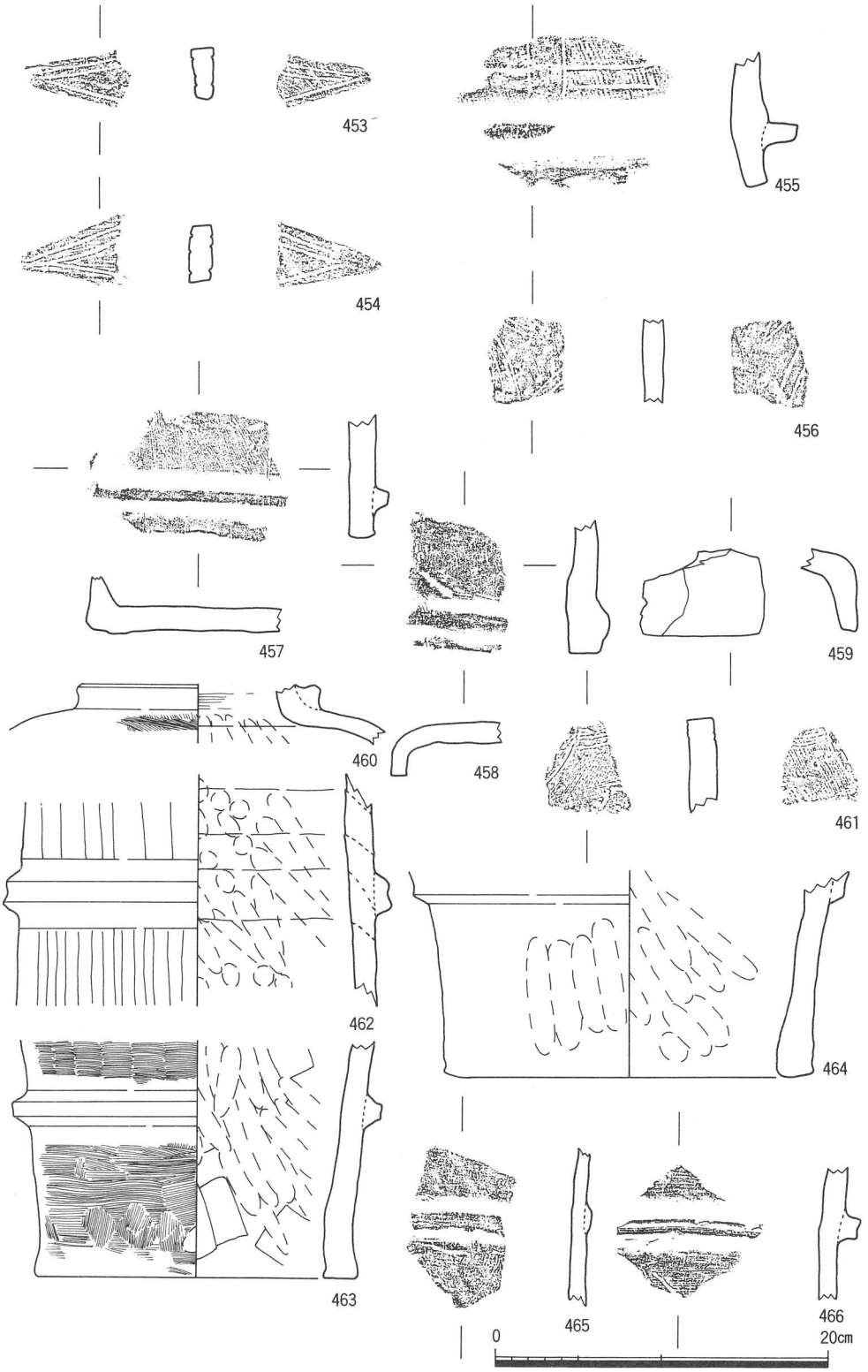
Ａ－Ⅰｅ地区・Ａ－Ⅱａ地区・21地区・22ａ地区で検出した。検出部は幅約14mを測る自然河川跡である。この河川は弥生時代後期に埋没した自然河川の堆積した砂土層の上面より切り込んで北流する。河川の基底面は調査区の幅が狭く、地下水位が高く湧水の激増で調査区の壁面の保守にも支障を来たし、危険な状態であるために調査を断念した。Ａ－Ⅱａ地区・22ａ地区は河川の右岸を確認した。右岸の肩は約45度の傾斜で落ち込んでいる。検出部の堆積土は礫砂土を基調とし、灰青色粘土・灰褐色微砂土がサンド状に積み重なっている。

出土遺物

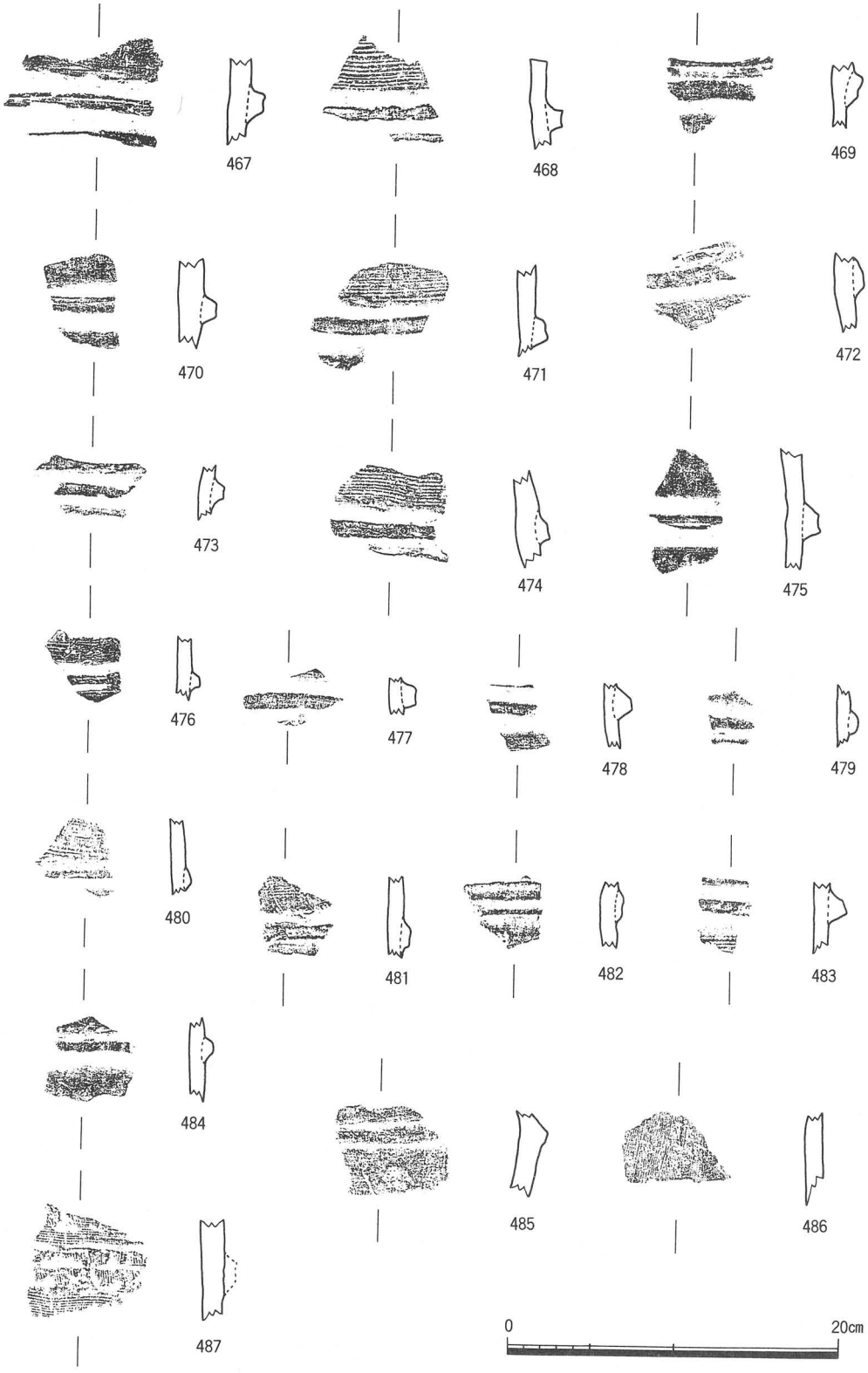
この河川の堆積土からは弥生～平安時代に至る遺物をコンテナ３箱分出土した。これらの遺物は河川３と同様にローリングを受け細片化した土器が大半であった。遺物は石器・土師器・須恵器・埴輪・瓦・木製品等である。時期別に分けると、弥生時代に比定されるサヌカイト製の剝片（439～441）、古墳時代前期に比定される庄内式甕（442・443）等の細片、古墳時代中期～後期に比定される須恵器・土師器・埴輪等である。須恵器はⅡ型式１～２段階に類似する蓋坏（444）・坏身（445）・𤭯（447）・甕（448～450）、Ⅳ型式１～５段階に類似する高台のみの台付坏身（446）がある。土師器は５世紀中葉～後半に比定される甕（451）・甑（505・506）、古墳時代後期に比定される甕（452）等である。埴輪はすべて細片化して出土している。時期は古墳時代中期に比定されると思われるものが大半である。埴輪には盾形埴輪（453・454・456・461）・家形埴輪（455・457・458・459）・朝顔形円筒埴輪（460）・円筒埴輪（462～490）等である。奈良時代は土師器の皿（494～496）・墨書入面土器（502）・羽釜（507・508）・須恵器の台付坏身（501）等で、土師器の皿（496）は底部外面に「ꕥ」の墨印が施されている。平安時代は黒色土器の椀（500）・土師器の皿（491～493・497・498）・猪口形土器（499）・土管（503・504）・鉢（509）・平瓦（510～513）等である。その他には時期の判別できない木製器が出土している。43は斧の柄の形状をもつ木製品で、台部の先端と握部の一部が欠損する。残存部の規模は台部長12.8cm以上、台部幅3.4cm、台部厚1.6cm、握部長7.2cm以上、着柄角度70°を測る。台部の断面はカマボコ形を呈す。握部の断面は楕円形を成し、径は1.2×1.8cmを測る。44は杭と思われる木製品で、上部先端は腐敗する。残存部の規模は長さ43.6cm、最大径5.2cmを測る。下部は工具による加工を施し、先端部を尖らしている（第72図～第76図）。



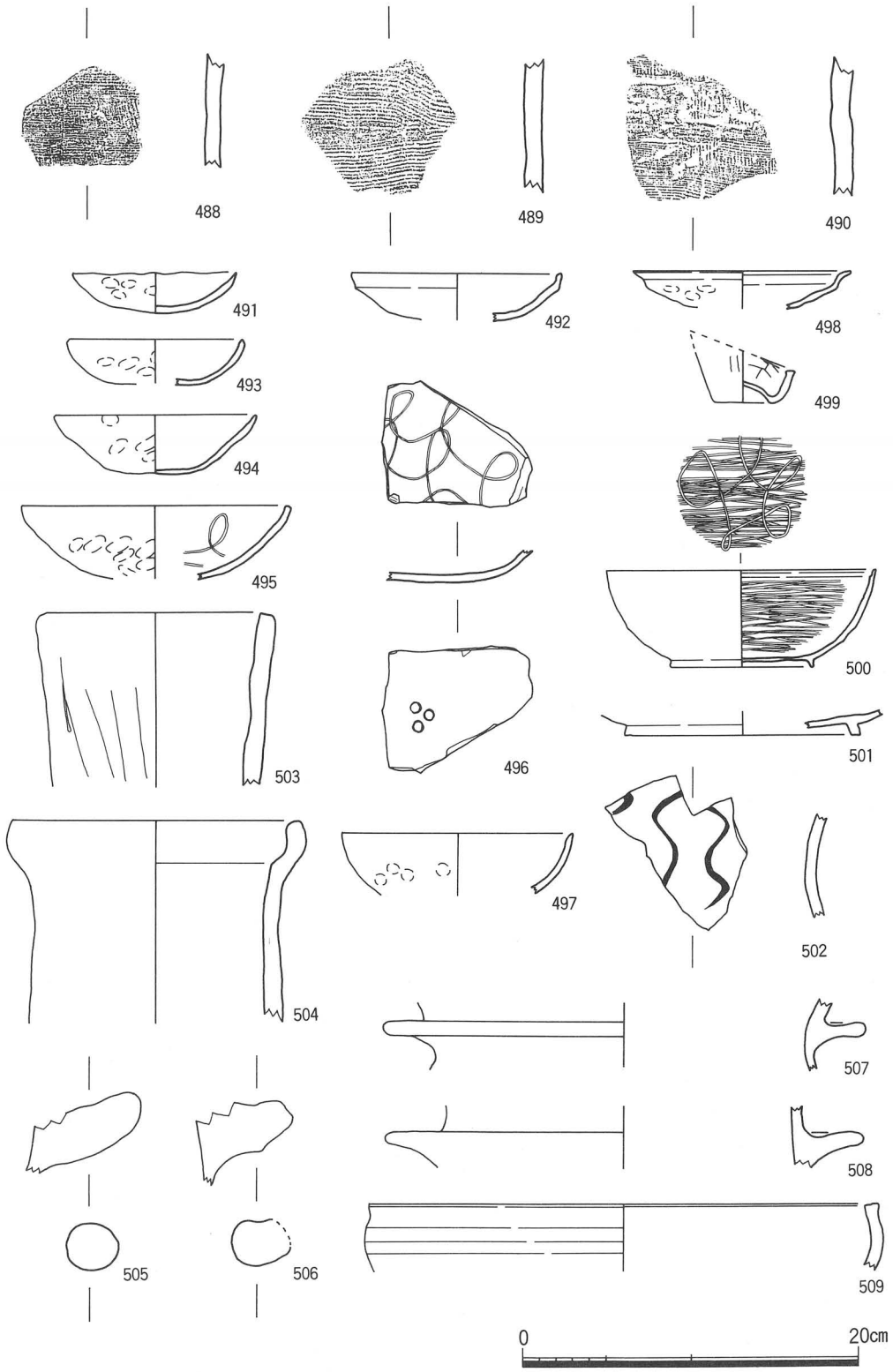
第72図　A－Ⅱa・21・22a地区河川1出土遺物実測図1



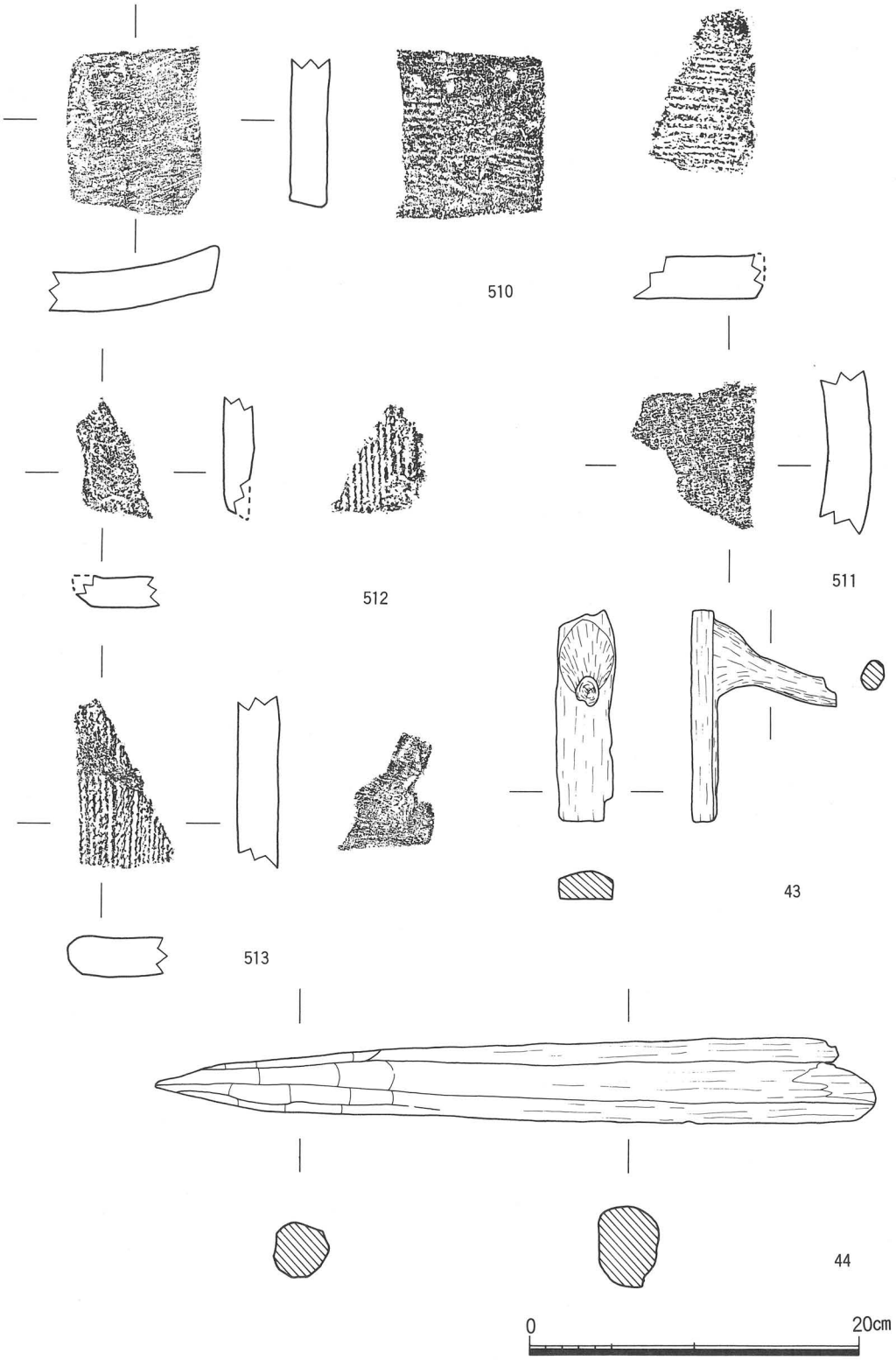
第73図　A－Ⅱa・21・22a地区河川1出土遺物実測図2



第74図　A－Ⅱa・21・22a地区河川1出土遺物実測図3



第75図　A－Ⅱa・21・22a地区河川1出土遺物実測図4



第76図　A－Ⅱa・21・22a地区河川1出土遺物実測図5

第７節　中世～近世の遺構・遺物（第１調査面）

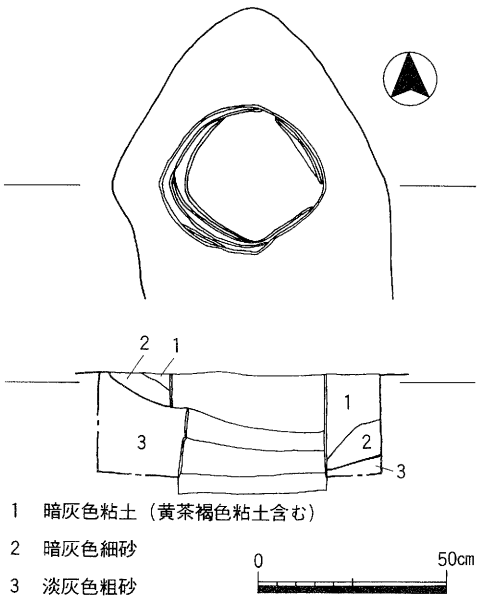
この時代の遺構は、ＴＰ＋8.0～8.2mを測る第４層灰褐色粗砂混じり粘土の上面で、曲物を備えた井戸１基・農耕に関連する溝48条が検出した。遺物はほとんどなく、第２層・第３層からローリングを受け、細片化した状態でごく少量出土しただけである。

以下、検出した遺構・遺物について概説する。

井戸

ＳＥ４（第77図）

22ａ地区で検出した曲物を備えた井戸である。掘形は平安時代に比定される河川１の埋没した堆積土の上面より切り込まれている。掘形の規模は径0.75m、深さ0.6mを測る。平面は不定形を呈す。断面は逆台形を成す。井戸枠は掘形の検出面から約０.３ｍの下位で径0.4m、高さ0.15mを測る４段重ねの曲物が底部にずれ落ちた状態で検出した。掘形の堆積土は上方から暗灰色粘土と黄茶褐色粘土のブロック土・暗灰色細砂・淡灰色粗砂で、曲物内の堆積土は暗灰褐色砂礫である。



第77図　22ａ地区ＳＥ４平断面図

遺物は井戸枠内から古墳時代前期に比定される土器片を少量出土しただけで、この井戸の時期の遺物は出土していないが、平安時代に比定される河川１の上面より掘られていることなどから鎌倉時代以降に比定されると考える。

溝

ＳＤ１

Ａ－Ⅰ・Ａ－Ⅱａ～ｂ地区で検出した。検出部は幅1.8m、深さ0.15mを測る東西方向に至る溝である。東部はＳＤ５と切り合う関係にある。断面は逆台形を呈す。堆積土は灰褐色砂粘土の単一層である。

遺物は、須恵器・土師器・瓦器椀・瓦・青磁碗等のローリングを受けた細片を少量出土した。時期は鎌倉時代以降に比定されると考えられる。

ＳＤ５

Ａ－Ⅱｂ地区で検出した。検出部は幅0.6m、深さ0.1～0.2mを測る南北方向の溝である。西部はＳＤ１と切り合う関係にある。断面は逆台形を呈す。堆積土はＳＤ１と同一層である。

遺物は出土していないが、時期は鎌倉時代以降に比定されると考えられる。

ＳＤ19

Ａ－Ⅲｃ地区で検出した。検出部は幅0.25～0.35m、深さ0.1mを測る東西方向の溝である。東部は調査区外に至り、ＳＤ20と切り合う関係にある。西部は途切れる。また径0.35mを測る平面半円形の脹らみがある。断面は椀状形を呈す。堆積土は灰色砂混じり粘土の単一層である。

遺物は出土していないが、時期はＳＤ１等と同一時期であると考えられる。

ＳＤ20

Ａ－Ⅲｃ地区で検出した。検出部は幅0.35m、深さ0.1mを測る南北方向の溝である。北部はＳＤ19と切り合う関係にあり、南へ2.5mで途切れる。断面は皿状形を呈す。堆積土はＳＤ19と同一土層である。

遺物は出土していないが、時期はＳＤ19等と同一時期である。

ＳＤ21

Ａ－Ⅲｄ地区で検出した。検出部は幅0.26～0.42m、深さ0.1mを測る東西方向の溝である。断面は逆台形を呈す。堆積土はＳＤ19等と同一層である。

遺物は出土していないが、時期はＳＤ19等と同一時期である。

ＳＤ32～ＳＤ53

Ａ－Ⅳ地区で検出した。検出部は幅0.15～１m、深さ0.05～0.15mを測る溝である。ＳＤ34～48は東西方向、ＳＤ32・ＳＤ33は南東－北西方向、ＳＤ49～ＳＤ53は南西－北東方向をそれぞれ示す。断面は逆台形及び皿状形を呈す。堆積土は灰褐色砂混じり粘土の単一層で、これらの溝は互いに切り合う関係にある。方向は現在の表土面である農地区画の方向にほぼ一致する。

遺物は、須恵器・土師器・瓦器・瓦等のローリングを受けた細片をごく少量出土した。時期は中世以降に比定されると考えられる。なお、個々の溝の規模・形態は第５表に表示した。

ＳＤ57

Ａ－Ⅴｇ地区で検出した。検出部は幅0.2m、深さ0.1mを測る南北方向の溝である。断面は皿状形を呈す。堆積土は灰褐色砂混じり粘土の単一層である。

遺物は出土していないが、時期は中世以降に比定されると考えられる。

ＳＤ58～ＳＤ105

22地区で検出した。検出部は幅0.1～1.8m、深さ0.1～0.27mを測る溝である。方向はＳＤ58～ＳＤ78・ＳＤ80・ＳＤ82～ＳＤ92・ＳＤ94～ＳＤ97・ＳＤ100～ＳＤ103が南北方向、ＳＤ79・ＳＤ93が東西方向、ＳＤ81・ＳＤ98・ＳＤ99が南東－北西方向、ＳＤ104・ＳＤ105が南西－北東方向にそれぞれ示す。断面は逆台形及び皿状形を呈す。堆積土は灰褐色砂粘土の単一層である。これらの溝はＡ－Ⅳ地区・Ａ－Ⅴ地区で検出した溝と同様に、現在の農地の区画方向に一

第5表　中世～近世の溝一覧表

地　区	遺構番号	方　向	幅（cm）	深さ（cm）	堆積土	備　考
A－Ⅳa	ＳＤ－32	南　北	25～45	3～5	灰褐色砂混じり粘土	
A－Ⅳa	ＳＤ－33	南東－北西	17.5～50	4～5	灰褐色砂混じり粘土	
A－Ⅳa～b	ＳＤ－34	東　西	20～50	9.5～10	灰褐色砂混じり粘土	
A－Ⅳb～c	ＳＤ－35	東　西	17.5～25	2～4	灰褐色砂混じり粘土	
A－Ⅳa～e	ＳＤ－36	東　西	20～40	1.5～5	灰褐色砂混じり粘土	
A－Ⅳb	ＳＤ－37	東　西	17.5～22.5	3～4	灰褐色砂混じり粘土	
A－Ⅳa～i	ＳＤ－38	東　西	20.5～91	3～18	灰褐色砂混じり粘土	
A－Ⅳa～d	ＳＤ－39	東　西	27.5～75	4～12	灰褐色砂混じり粘土	
A－Ⅳa～i	ＳＤ－40	東　西	13～84	3.5～12.5	灰褐色砂混じり粘土	
A－Ⅳa～b	ＳＤ－41	北東－南西	20.5～80	4	灰褐色砂混じり粘土	
A－Ⅳc～i	ＳＤ－42	東　西	13～109	3～10	灰褐色砂混じり粘土	
A－Ⅳe～i	ＳＤ－43	東　西	14～20.5	6～8	灰褐色砂混じり粘土	
A－Ⅳc	ＳＤ－44	東　西	57以上	3～9	灰褐色砂混じり粘土	
A－Ⅳd～g	ＳＤ－45	東　西	1.5～79	1～12.5	灰褐色砂混じり粘土	
A－Ⅳd～e	ＳＤ－46	東　西	15～25	8.5～10	灰褐色砂混じり粘土	
A－Ⅳg～i	ＳＤ－47	東　西	48以上	4.5以上	灰褐色砂混じり粘土	
A－Ⅳg～i	ＳＤ－48	東　西	12～44	4.5～6	灰褐色砂混じり粘土	
A－Ⅳi	ＳＤ－49	南　北	40～83	4	灰褐色砂混じり粘土	
A－Ⅳi	ＳＤ－50	南西－北東	16～20	1.5	灰褐色砂混じり粘土	
A－Ⅳi	ＳＤ－51	南西－北東	28以上	2.5	灰褐色砂混じり粘土	
A－Ⅳi	ＳＤ－52	南　北	14～58	6～8.5	灰褐色砂混じり粘土	
A－Ⅳi	ＳＤ－53	南　北	32以上	5～7	灰褐色砂混じり粘土	
A－Ⅴ	ＳＤ－54	南　北	10～19	9～12	灰褐色砂混じり粘土	
22a	ＳＤ－58	南　北	34～38	5.2～9.7	灰褐色砂粘土	
22a	ＳＤ－59	南　北	25～27	4.3～5.8	灰褐色砂粘土	
22a	ＳＤ－60	南　北	69～75	5.6～7.8	灰褐色砂粘土	
22a	ＳＤ－61	南　北	97～103	6.8～19	灰褐色砂粘土	
22a	ＳＤ－62	南　北	136～154	16.7～27.3	灰褐色砂粘土	
22b	ＳＤ－63	南　北	43～47	0～8	灰褐色砂粘土	
22b	ＳＤ－64	南　北	96～106	7.6～19.2	灰褐色砂粘土	
22b	ＳＤ－65	南　北	69～79	4.1～24.7	灰褐色砂粘土	
22c	ＳＤ－66	南　北	43～46	2.4～11.1	灰褐色砂粘土	
22c	ＳＤ－67	南　北	35～40	8～9.2	灰褐色砂粘土	
22c	ＳＤ－68	南　北	24～32	6.8～10.5	灰褐色砂粘土	
22c	ＳＤ－69	南　北	22～37	3.3～12.1	灰褐色砂粘土	
22c	ＳＤ－70	南　北	26～37	2.3～7.5	灰褐色砂粘土	
22d	ＳＤ－71	南　北	10～100	9～20.8	灰褐色砂粘土	
22e	ＳＤ－72	南　北	184以上	2.6～11.8	灰褐色砂粘土	
22e	ＳＤ－73	南　北	24～157	3.4～16.2	灰褐色砂粘土	
22e	ＳＤ－74	南　北	18～22	1.4～7.1	灰褐色砂粘土	
22e	ＳＤ－75	南　北	26～30	3～10.1	灰褐色砂粘土	

致する。遺物は須恵器・土師器等のローリングを受けた細片をごく少量出土した程度である。時期は中世以降に比定されると考えられる。なお、個々の溝の規模・形態については第6表に表示したので参照されたい。

ＳＤ113～ＳＤ115

Ｃ－Ⅱ地区で検出した。検出部は幅0.5～3.3m、深さ0.03～0.2mを測る東西方向に至る溝である。断面は逆台形を呈す。堆積土は淡灰褐色砂混じり粘土の単一層である。遺物は出土していないが、Ａ地区・22地区で検出している中世以降に比定される溝と同一のものであろう。なお、個々の溝の規模・形態等については第6表に表示した。

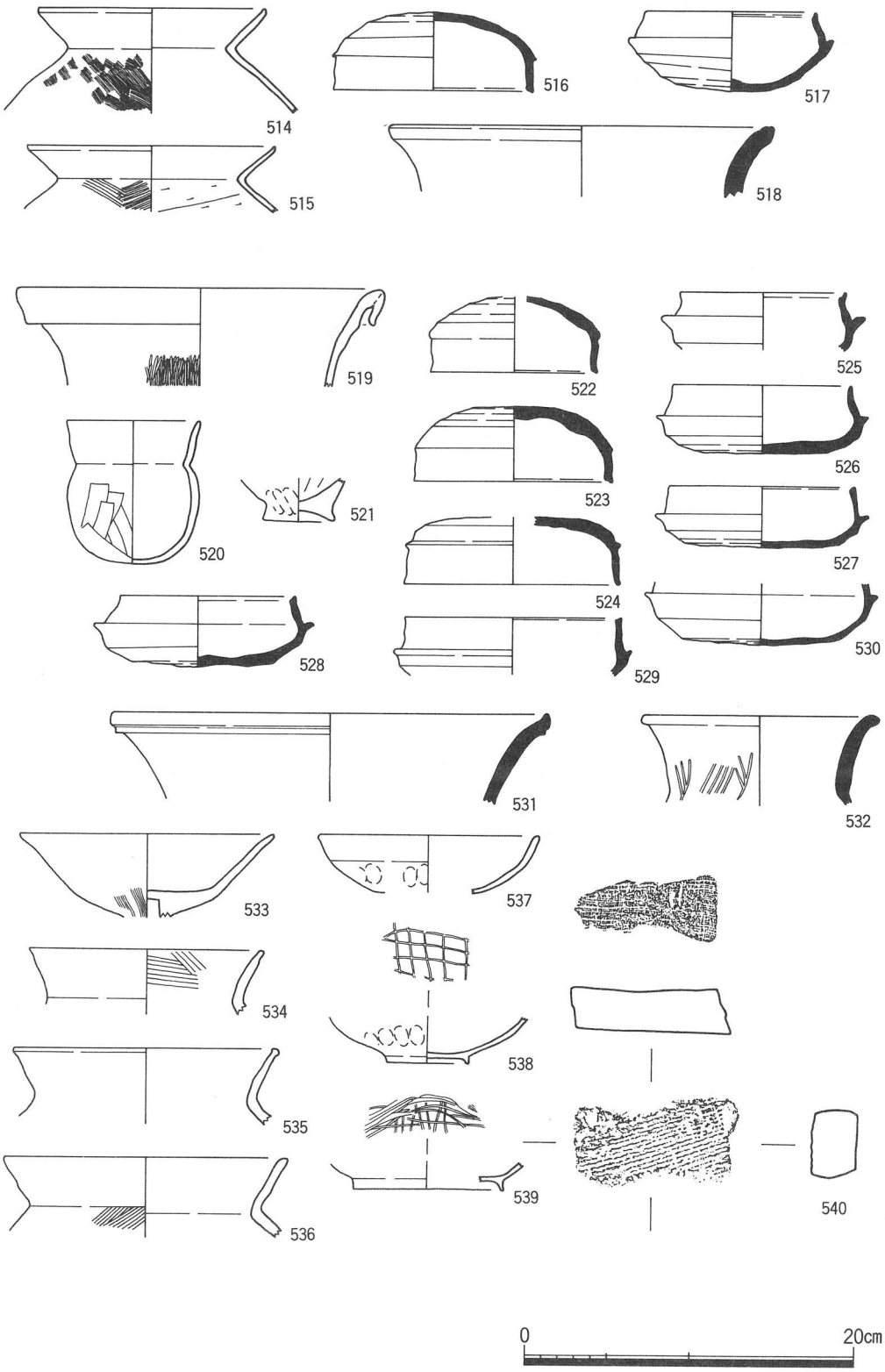
第6表　中世～近世の溝一覧表

地　区	遺構番号	方　向	幅（cm）	深さ（cm）	堆　積　土	備　考
22 e	ＳＤ－76	南　北	56～64	1.7～13.3	灰褐色砂粘土	
22 e	ＳＤ－77	南　北	15～19	4.9～8.8	灰褐色砂粘土	
22 e	ＳＤ－78	南　北	24～45	11～15.4	灰褐色砂粘土	
22 f	ＳＤ－79	東　西	22～27	12.9～19.2	灰褐色砂粘土	
22 f	ＳＤ－80	南　北	29～60	13.1～21.5	灰褐色砂粘土	
22 f	ＳＤ－81	南東－北西	20～33	7.5～14.7	灰褐色砂粘土	
22 g	ＳＤ－82	南　北	210～221	6.9～24	灰褐色砂粘土	
22 g	ＳＤ－83	南　北	26～36	13.7～18.7	灰褐色砂粘土	
22 h	ＳＤ－84	南　北	34～40	7.9～16	灰褐色砂粘土	
22 h	ＳＤ－85	南　北	18～26	2.4～3.9	灰褐色砂粘土	
22 h	ＳＤ－86	南　北	17～22	3.9～12	灰褐色砂粘土	
22 h	ＳＤ－87	南　北	16～19	3.2～8.1	灰褐色砂粘土	
22 h	ＳＤ－88	南　北	23～27	10.2～13.1	灰褐色砂粘土	
22 h	ＳＤ－89	南　北	18～21	3.5～10.5	灰褐色砂粘土	
22 h	ＳＤ－90	南　北	22～29	6.4～9.8	灰褐色砂粘土	
22 h	ＳＤ－91	南　北	19～22	8.5～11.3	灰褐色砂粘土	
22 i	ＳＤ－92	南　北	32～35	9.7～40.8	灰褐色砂粘土	
22 i	ＳＤ－93	東　西	39～41	6.4～51.5	灰褐色砂粘土	
22 i	ＳＤ－94	南　北	23～33	7.7～11.6	灰褐色砂粘土	
22 j	ＳＤ－95	南　北	21～35	4.1～9.6	灰褐色砂粘土	
22 j	ＳＤ－96	南　北	19～27	6.3～8.5	灰褐色砂粘土	
22 j	ＳＤ－97	南　北	24～30	3.7～7	灰褐色砂粘土	
22 j	ＳＤ－98	南東－北西	11～17	1.1～2.7	灰褐色砂粘土	
22 j	ＳＤ－99	南東－北西	41～47	3.7～13.2	灰褐色砂粘土	
22 l	ＳＤ－100	南　北	64～71	13.3～19.8	灰褐色砂粘土	
22 l	ＳＤ－101	南　北	29～132	6.1～19.6	灰褐色砂粘土	
22 l	ＳＤ－102	南　北	16～19.5	6～15.7	灰褐色砂粘土	
22 l	ＳＤ－103	南　北	16.5～21.5	0.6～15.4	灰褐色砂粘土	
22 n	ＳＤ－104	南西－北東	16～28	2.7～6.4	灰褐色砂粘土	
22 n	ＳＤ－105	南西－北東	17～23	3.6～10.1	灰褐色砂粘土	
Ｃ－Ⅱ	ＳＤ－113	東　西	73～116	7～20.5	淡褐色砂混じり粘土	
Ｃ－Ⅱ	ＳＤ－114	東　西	223～331	3.5～16.5	淡褐色砂混じり粘土	
Ｃ－Ⅱ	ＳＤ－115	東　西	53～73	4.5～12	淡褐色砂混じり粘土	

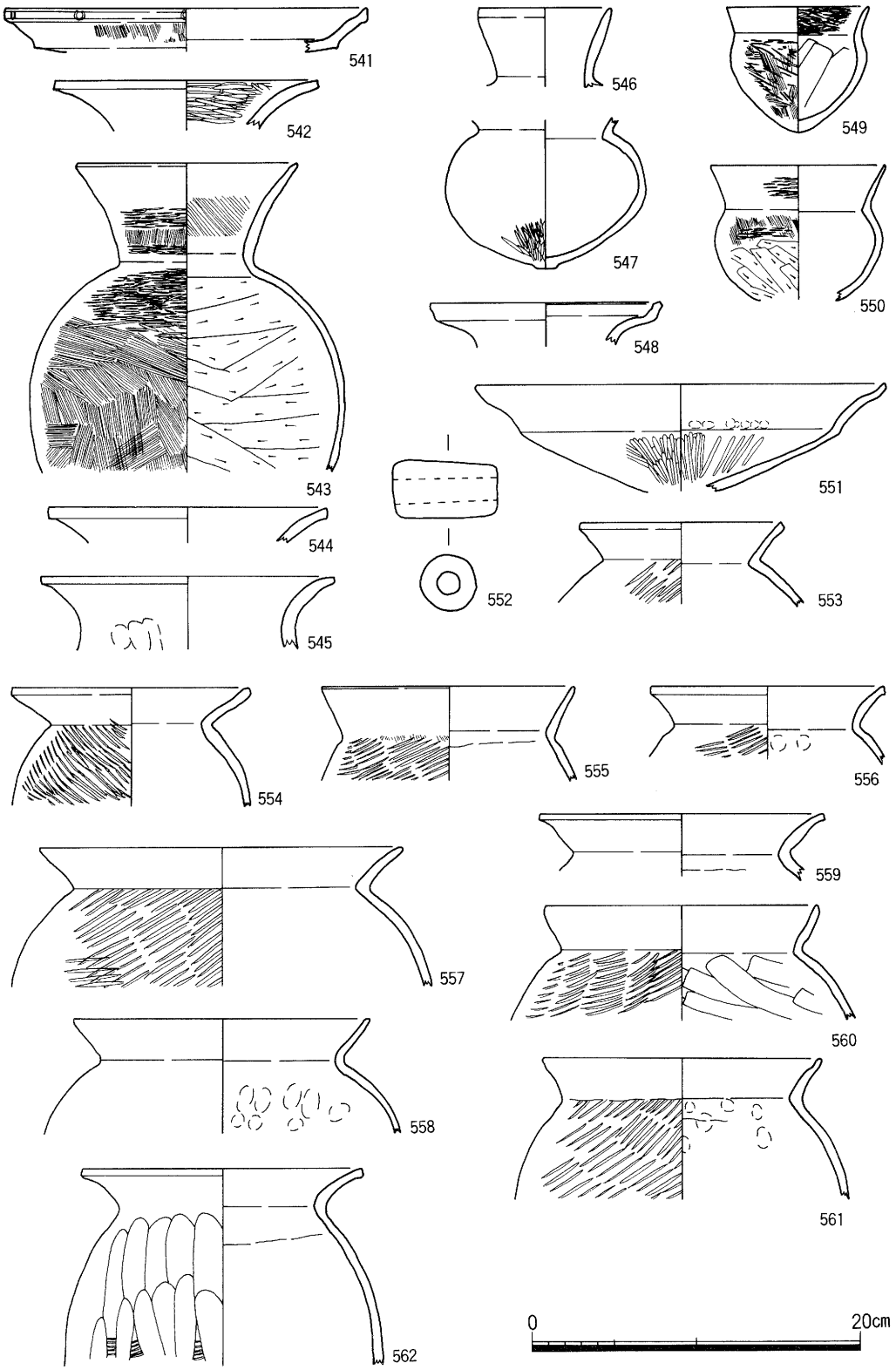
第8節　遺物包含層

遺物包含層は調査地区全体で検出した。時期は弥生時代中期～近世に至る多種の遺物がコンテナ7箱分出土した。これらの遺物は第1節基本層序でも述べたように、大雑把であるが土層によって時期区分することができる。まず第3層は中世～近世に至る時期、第4層は中世の時期と推測される。これらの土層は調査区全体で確認しているが包含する遺物がローリングを顕著に受けて細片化しているし量的にもごく少量である。第5層は古墳時代中期～平安時代の時期と推測される。遺物はごく少量包含しているだけである。この土層はA地区と22地区で検出している。第6層は弥生時代後期～古墳時代前期の時期と推測される。この時期の遺物は前述した遺物包含層より若干多く包含している。またこの時期の土層はA－Ⅲ・22地区で確認した自然堤防の微高地上を形成した東部で検出しただけである。

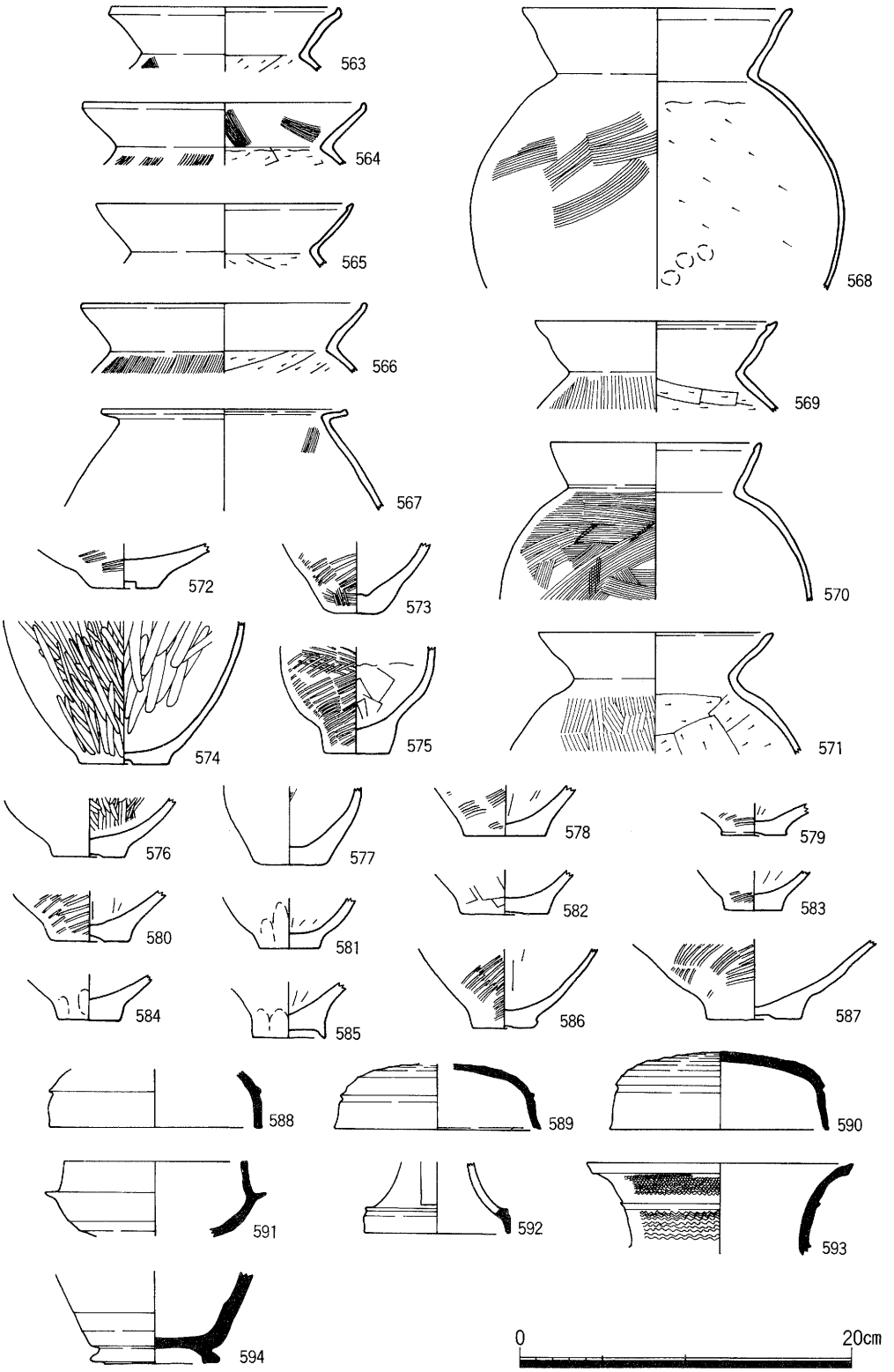
さて、各地区で出土した遺物をできるだけ図示した、これらの遺物について各地区ごとに概説してみる。A－Ⅰ地区は古墳時代前期に比定される庄内式甕（514・515）、古墳時代中期に比定されるⅠ型式5段階～Ⅱ型式1段階に類似する須恵器の坏蓋（516）・坏身（517）・甕（518）等とそれ以降の時期の土師器壺・小皿・羽釜・甕・須恵器蓋坏・甕・青磁器等である細片を少量出土している（第78図）。A－Ⅱ地区は調査区内で最も古い時期と考えられる弥生時代中期末（幾内第Ⅳ様式）に比定される壺片（549）1点が第5層より出土した。他には古墳時代前期～中期に比定される土師器小型壺（520）・壺・鉢（521）・高坏（533）・甕（534～536）、Ⅰ型式2段階～Ⅱ型式1段階に類似する須恵器坏蓋（522～524）・坏身（525～530）・甕（531・532）等である。第3層～第4層からは、平安時代以降に比定される土師器皿（537）・瓦器椀（538・539）・瓦（540）等の細片を少量出土した（第78図）。A－Ⅲ地区は第6層より弥生時代後期～古墳時代前期に比定される壺（541～548）・小型壺（549・550）・高坏（551）・土錘（552）・畿内第Ⅴ様式甕（553～562）・庄内式甕（563・564）・布留式甕（565・566・568～571）・壺か鉢と考えられる底部片（572～586）、第5層は古墳時代中期に比定される土師器甕（595～599）・高坏（600～605）・甑（606）、Ⅰ型式2段階～5段階に類似する須恵器坏蓋（587～589）・坏身（590・591）・高坏（592）・甕（593）等と奈良時代～平安時代に比定される土師器皿（607～612）・黒色土器（613）・須恵器台付壺（594）・瓦（614～619）・縦7.1cm以上×横3～4.5cm×厚み2～4.5cmを測る4面の使用痕がある半分欠損した砥石（620）を出土した（第79図～第82図）。A－Ⅳ地区は古墳時代前期に比定される壺（621）・近世のものと思われる陶磁器皿（622）を第2層～第5層で出土した（第82図）。A－Ⅴ地区では遺物は出土していない。21地区は河川3上に堆積する第2層～第4層より古墳時代前期～近世に至る遺物を少量出土している。図示したものでは古墳時代中期頃に比定される形象埴輪（623・624）・円筒埴輪（625・626）、平安時代以降に比定される平瓦（629・630）、時期は明確ではないが、縦7.2cm以上×横3.5～6.5cm×厚み3～5cmを



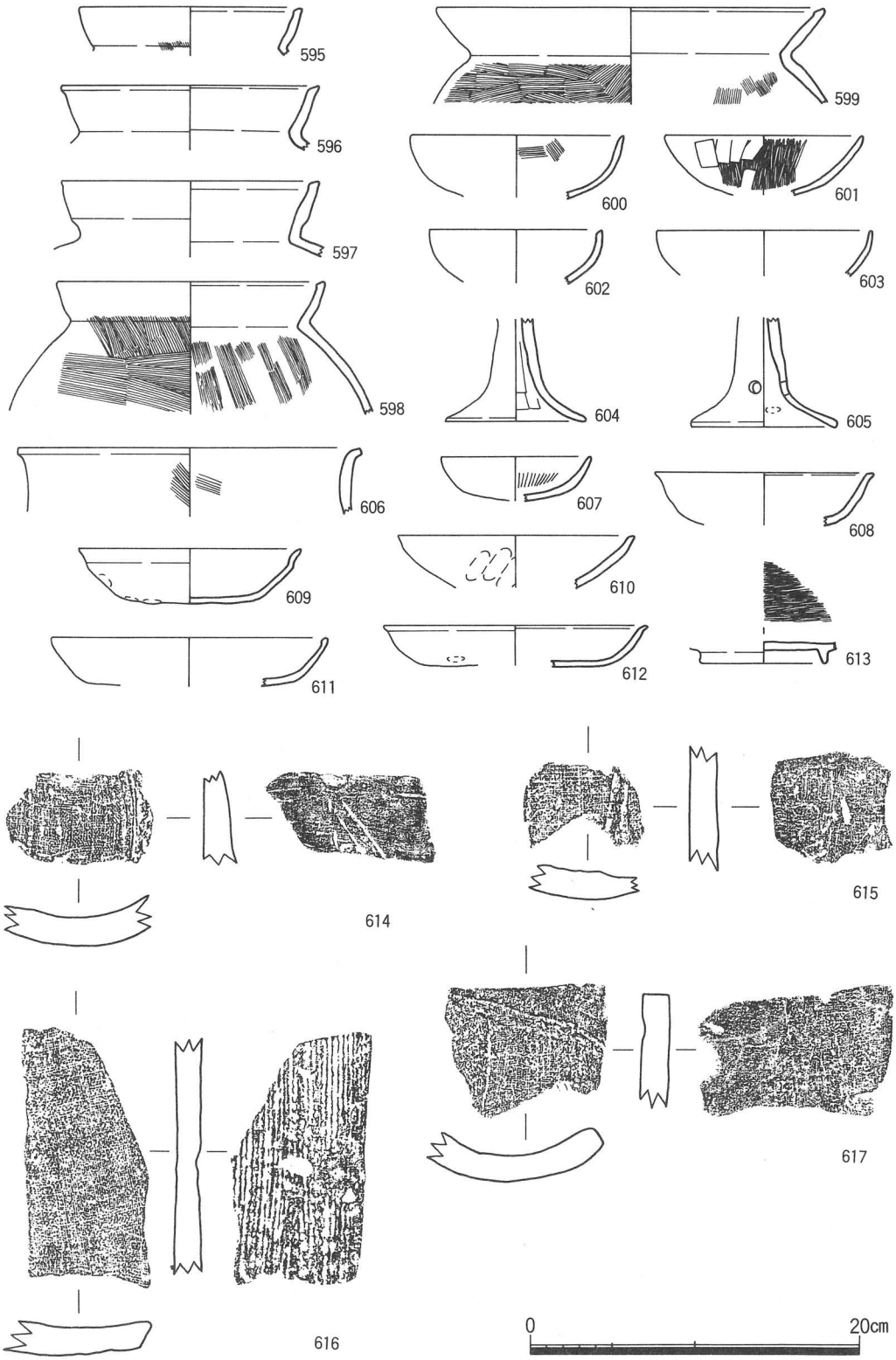
第78図　A－Ⅰ・A－Ⅱ地区遺物包含層出土遺物実測図



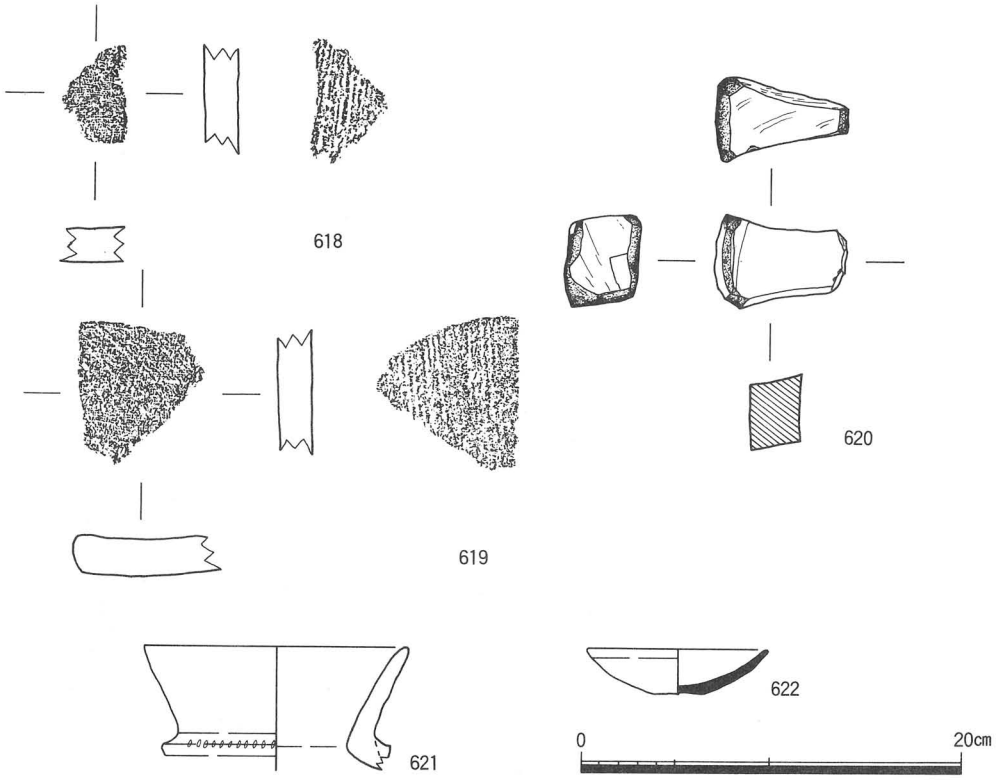
第79図　A－Ⅲ地区遺物包含層出土遺物実測図1



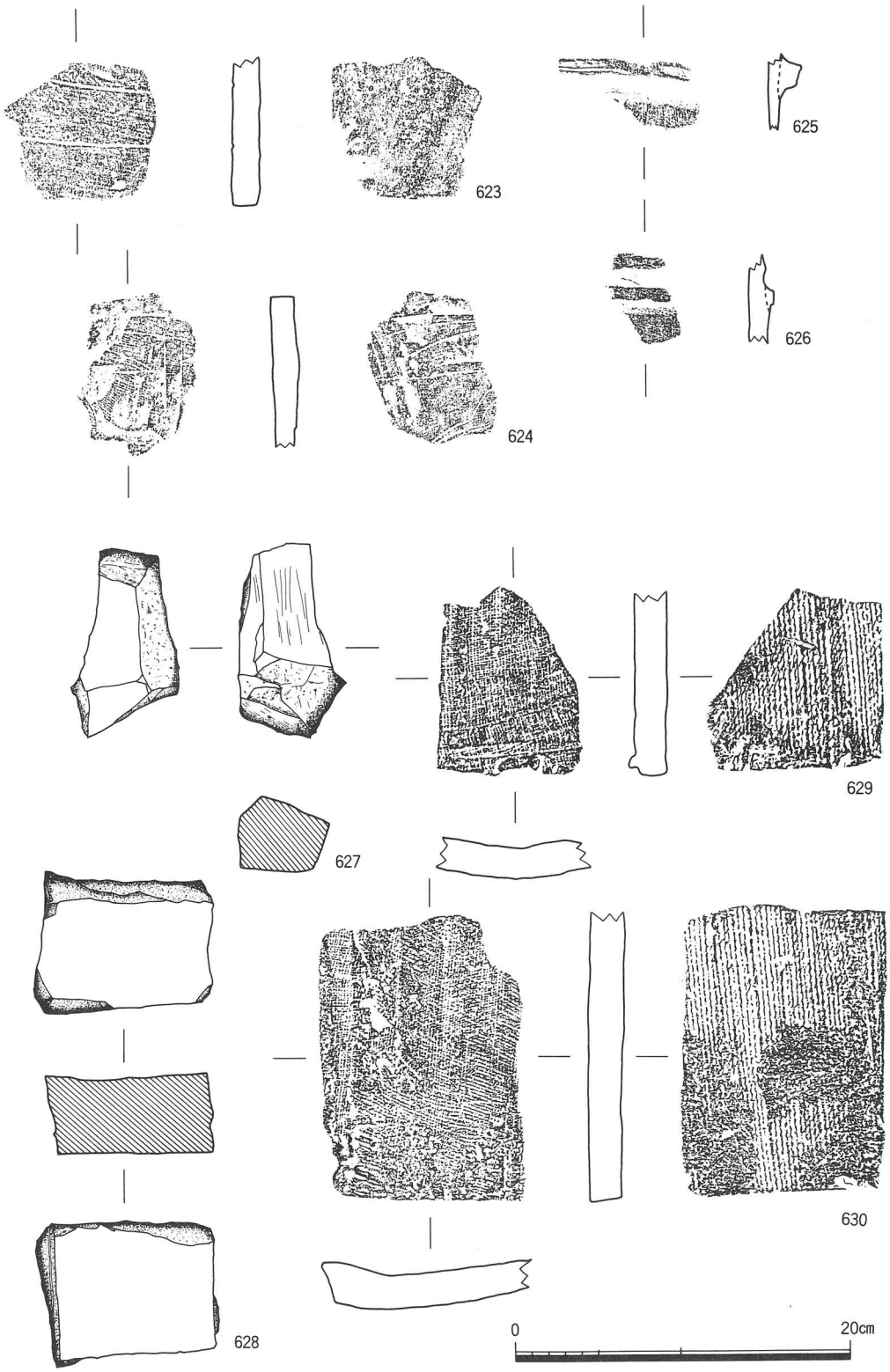
第80図　A－Ⅲ地区遺物包含層出土遺物実測図2



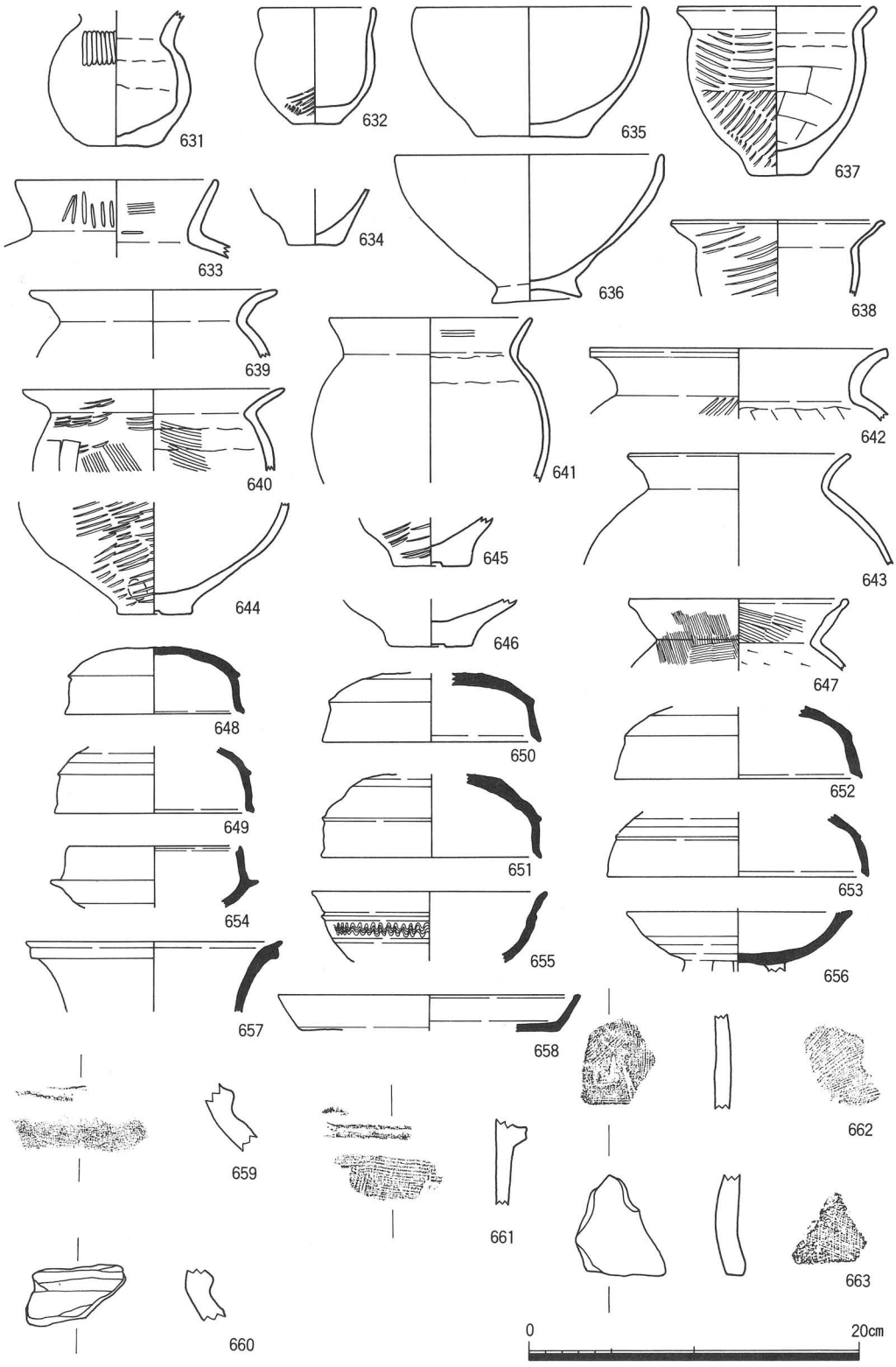
第81図　A－Ⅲ地区遺物包含層出土遺物実測図３



第82図　A－Ⅲ・A－Ⅳ地区遺物包含層出土遺物実測図

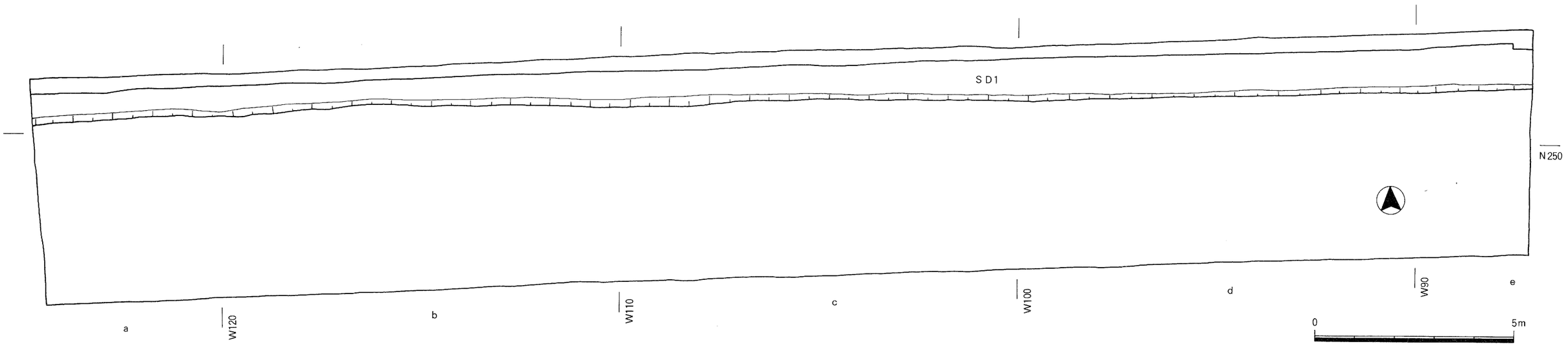


第83図　21地区遺物包含層出土遺物実測図1

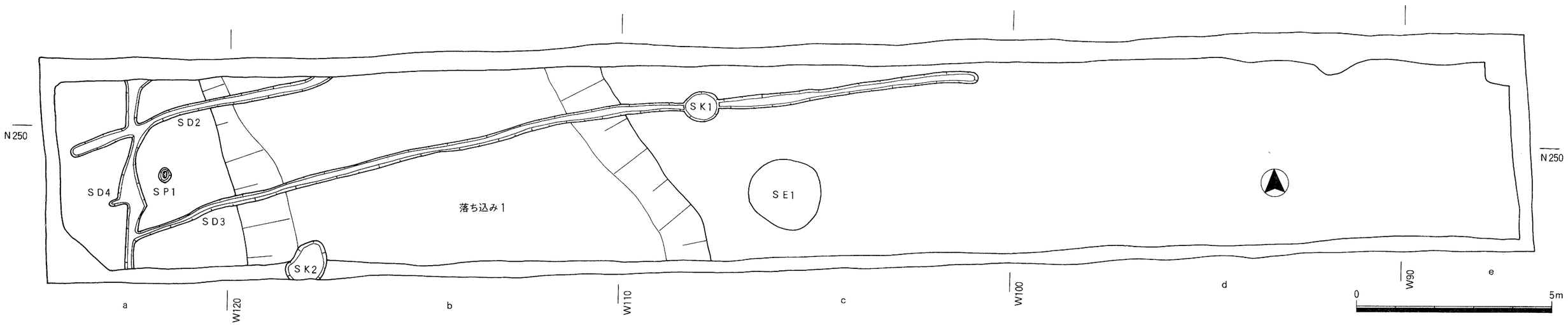


第84図　22地区遺物包含層出土遺物実測図２

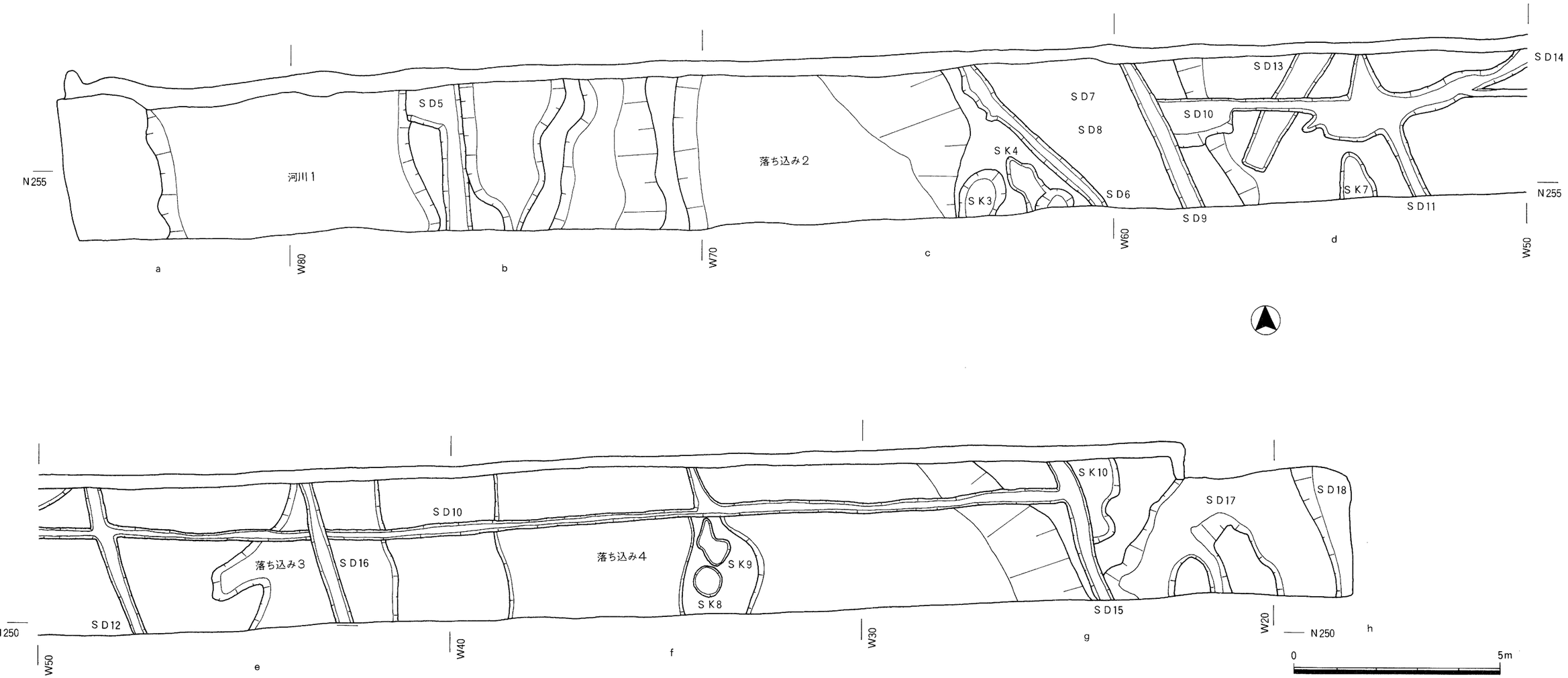
測る３面の使用痕がある半分欠損の砥石（627）と縦10cm以上×横６cm以上×厚み4.5cmを測る砂岩石で建物の根石か礎石に使われていたと推察する（第83図）。22地区は東側の第６層より弥生時代後期に比定されるミニチュア壺（631）・鉢（632・634～636）・壺（633）・甕（637～646）である。第４層～第５層からは古墳時代前期に比定される布留式甕（647）、古墳時代中期に比定されるⅠ型式２段階～５段階に類似する須恵器の坏蓋（648～653）・坏身（654）・高坏（655・656）・壺（657）・朝顔形円筒埴輪（659・660）・円筒埴輪（661～663）等である。第３層は平安時代以降の土師器皿（658）・羽釜・瓦器椀・瓦等を少量出土した（第84図）。



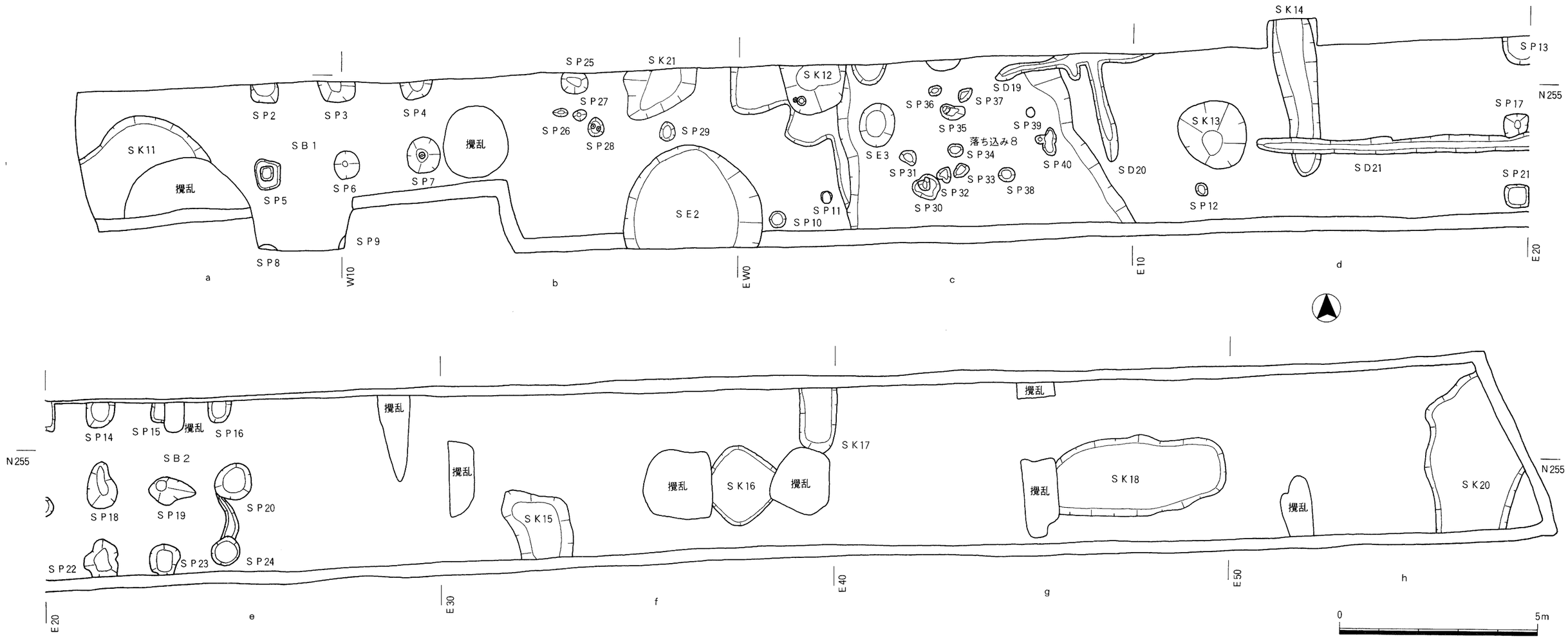
第85図　Ａ－Ⅰ地区第１調査面遺構平面図



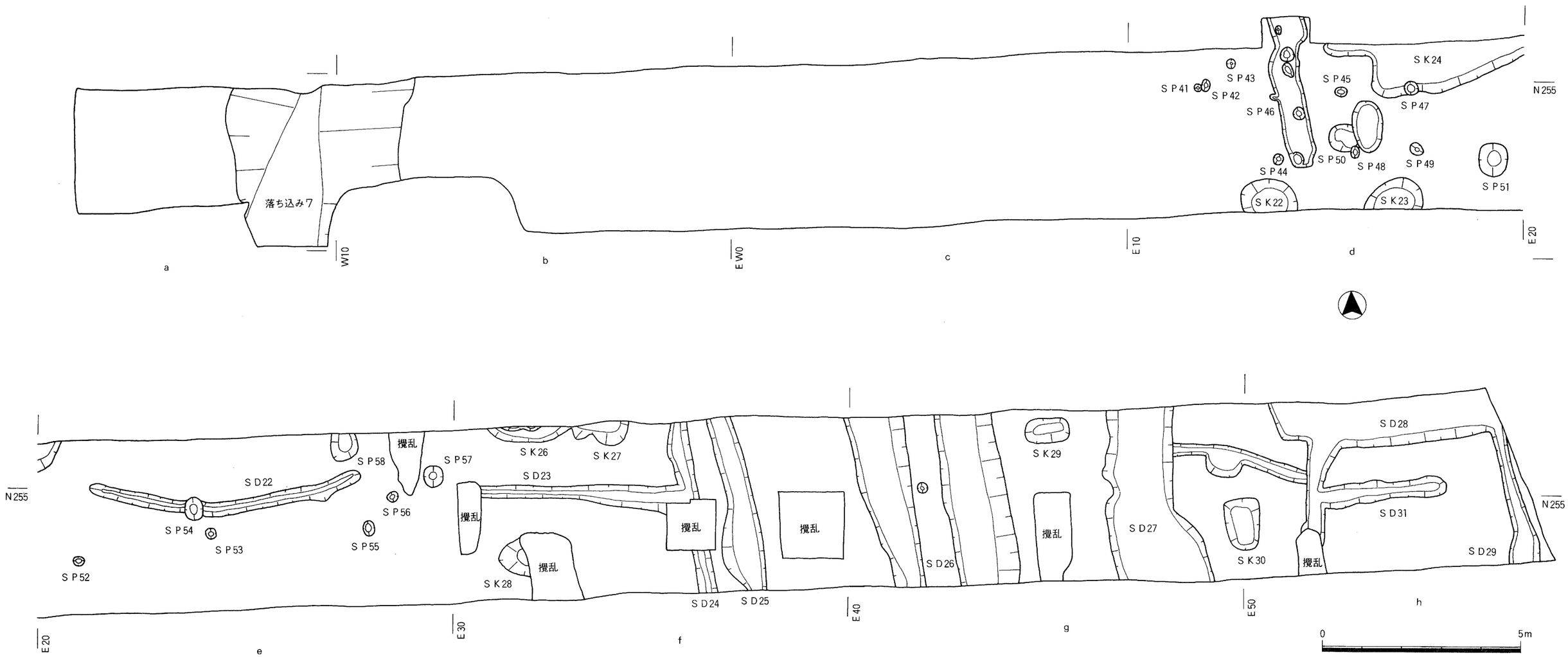
第86図　Ａ－Ⅰ地区第２調査面遺構平面図



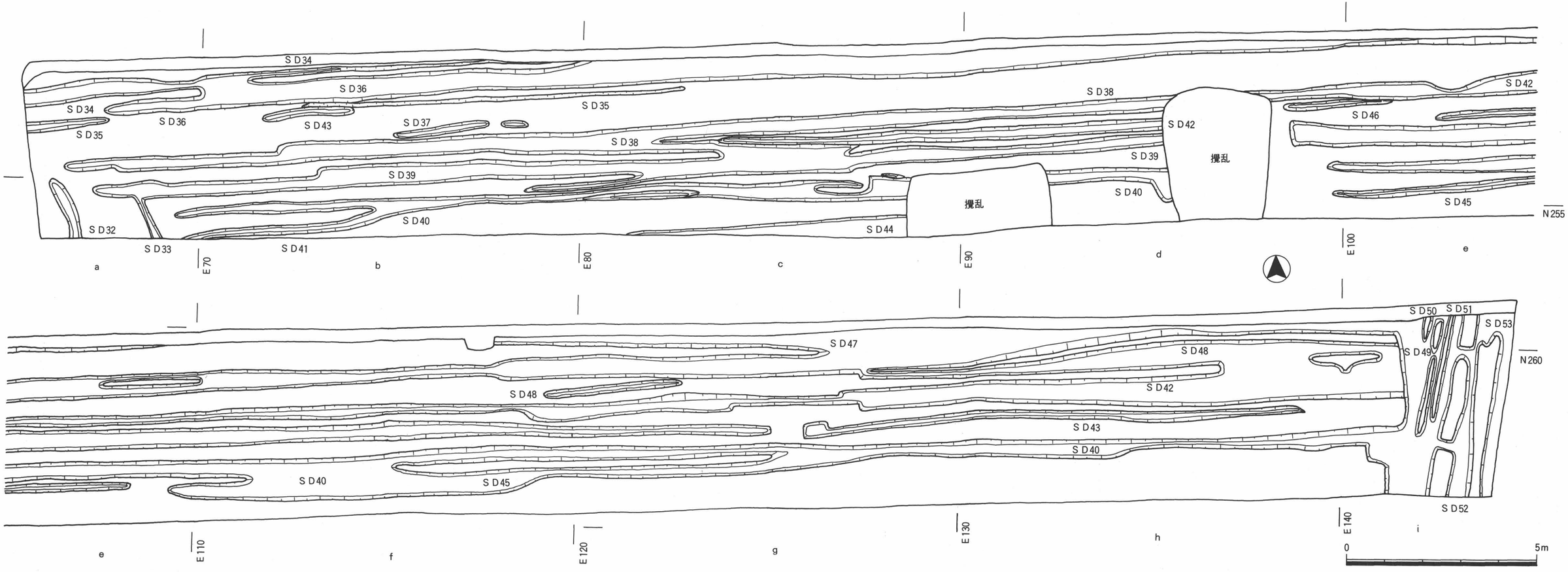
第87図　A－Ⅱ地区第1調査面遺構平面図



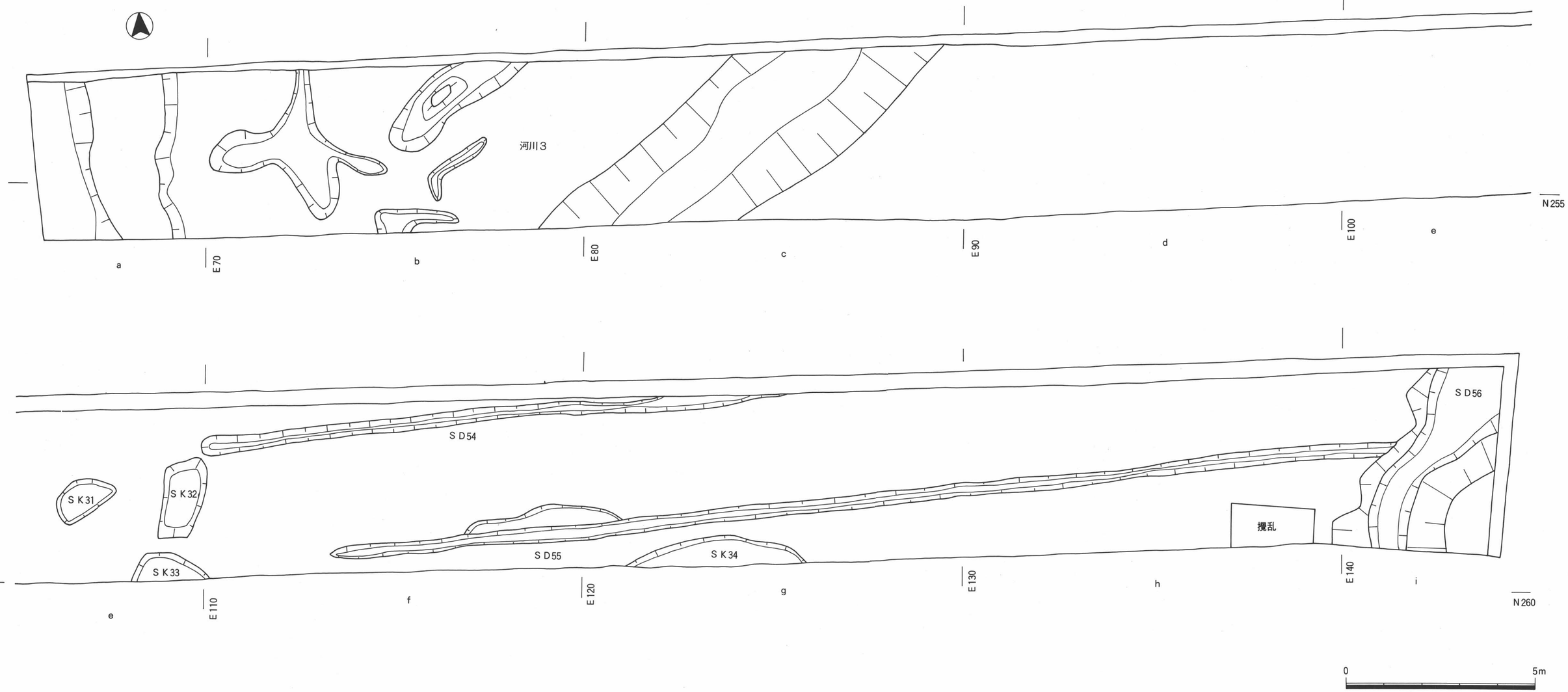
第88図　A－Ⅲ地区第１調査面遺構平面図



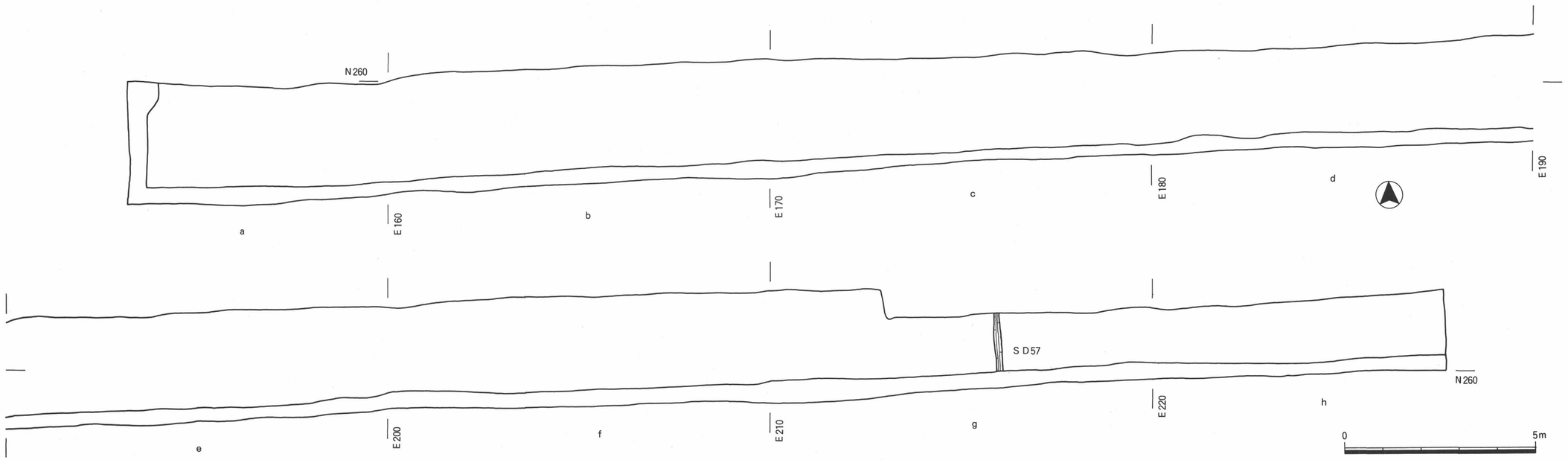
第89図　A－Ⅲ地区第２調査面遺構平面図



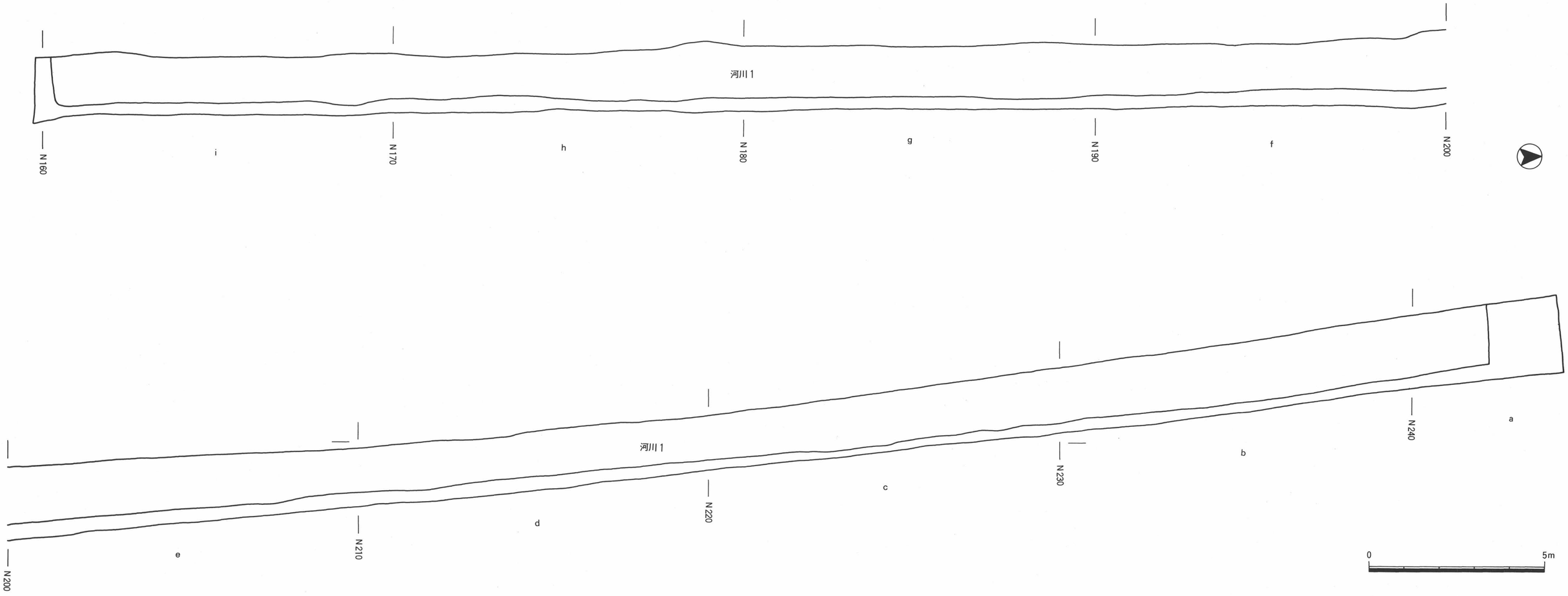
第90図　A－Ⅳ地区第１調査面遺構平面図



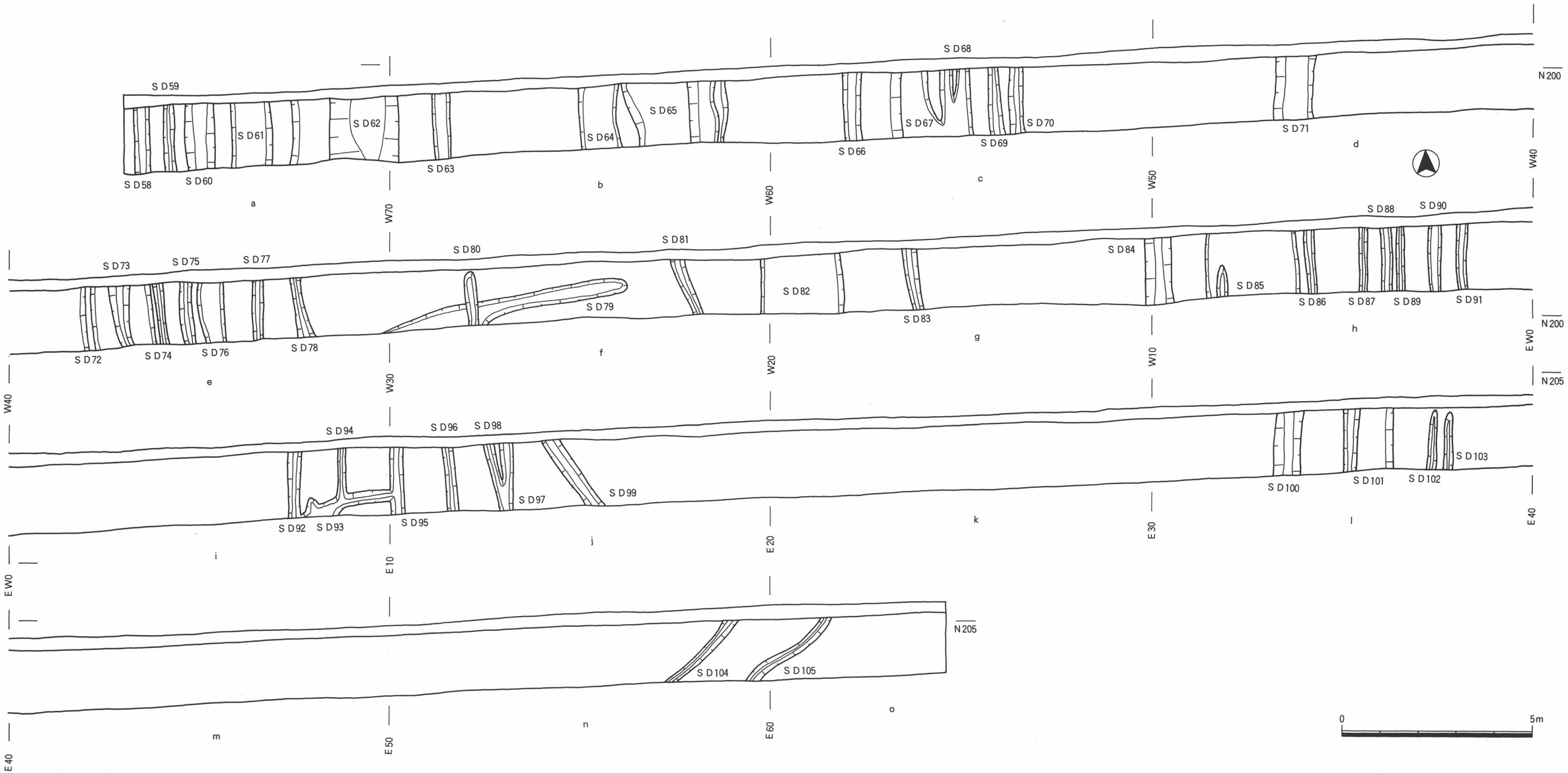
第91図　A－Ⅳ地区第２調査面遺構平面図



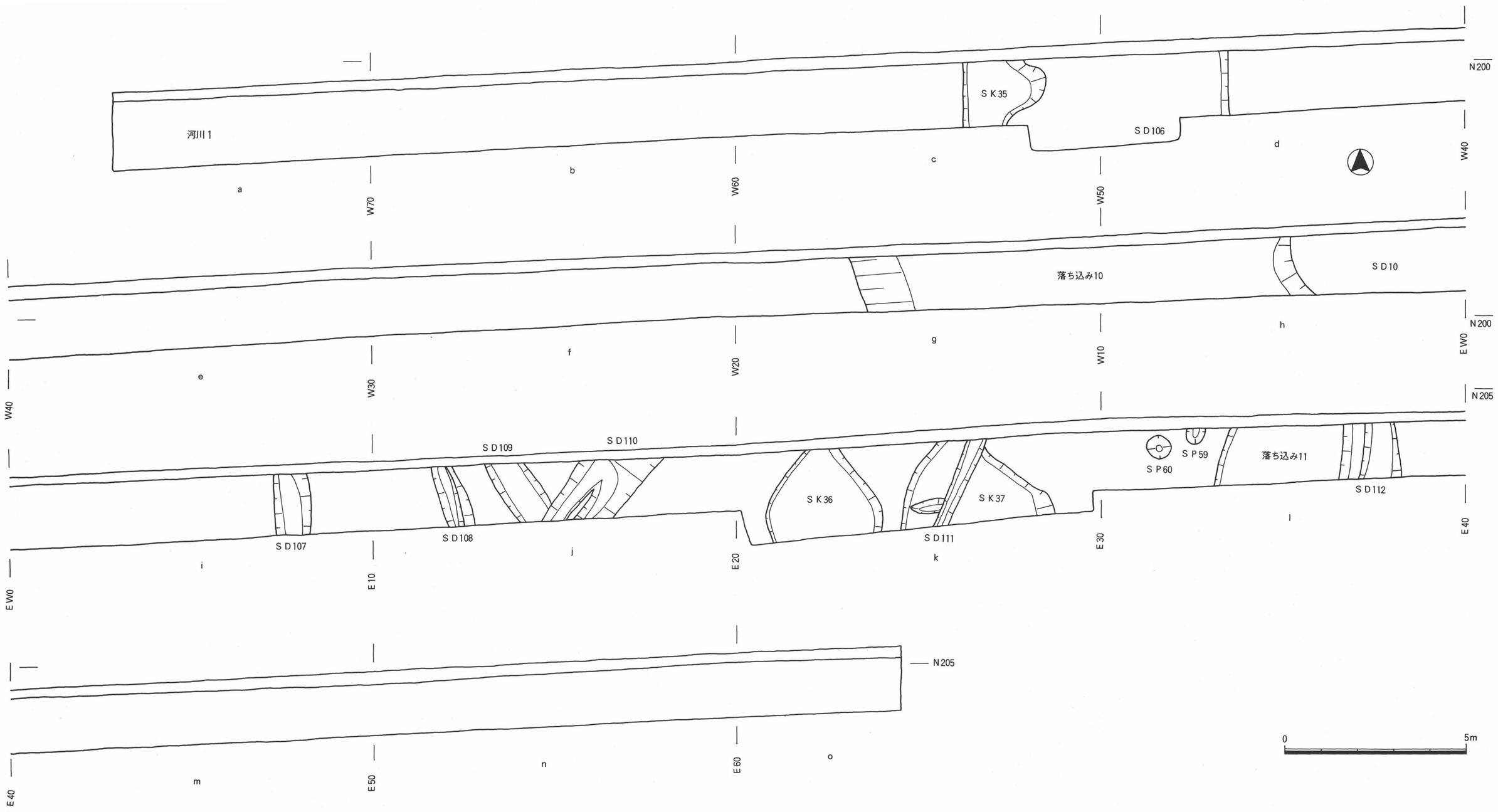
第92図　A－Ⅴ地区第１調査面遺構平面図



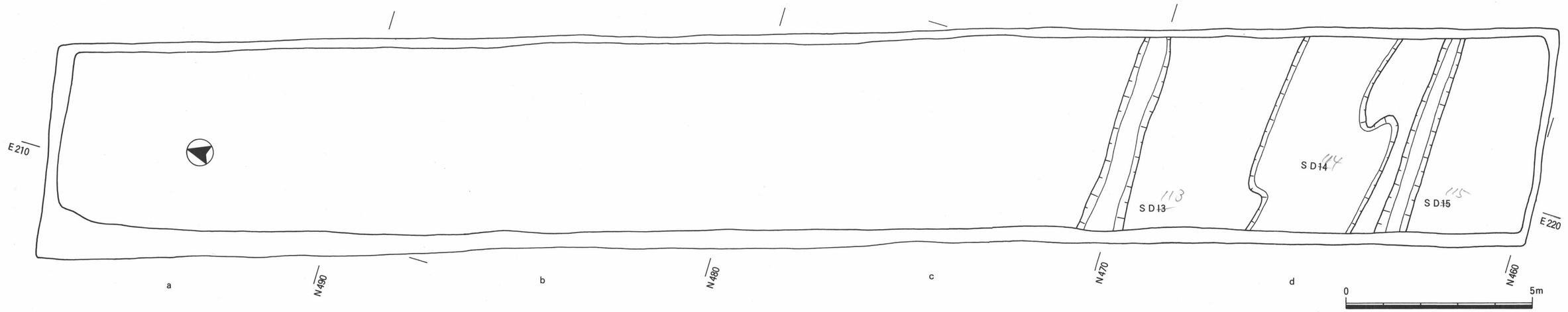
第93図　21地区第1調査面遺構平面図



第94図　22地区第1調査面遺構平面図



第95図　22地区第２調査面遺構平面図



第96図　C－Ⅱ地区第１調査面遺構平面図

第５章　出土遺物観察表

※タタキ・ハケ目の条線の数は1cmの値

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
1	甕 SK23	口径 13.2	体部からやや鋭く屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	外 淡茶褐色 内 乳灰茶色	細砂粒を含む	良	
2	同上 SK23	口径 12.6	体部から丸く屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面ナデ。	外 乳灰褐色 内 淡灰褐色	3mm以下の砂礫粒を含む	良	
3	壺形土器 SK36	口径 14.2	口縁部は外上方へ外反して伸び、端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	暗茶褐色	6mm以下の砂礫粒を含む	良	
4	同上 SK36	底径 3.9	底部は突出気味の平底。底部外面に接合痕を有す。口縁部・体部は欠損。 底部内外面ナデ。	外 灰褐色 内 淡茶灰色	細砂粒を含む	良	黒斑有
5	同上 SK36	底径 2.8	底部はやや突出気味の平底。口縁部・体部は欠損。 底部内外面ヘラミガキ。	暗茶灰色	精良	良好	
6	同上 SK36	底径 3.0	底部はやや突出気味の平底。口縁部・体部は欠損。 底部外面上部ヘラミガキ、下部ナデ、底部内面ナデ。	茶灰色	3mm以下の砂礫粒を含む	良好	
7	鉢 SK36	口径 18.0	体部から緩やかに屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部磨滅の為不明。	外 茶灰色 内 淡茶灰色	3mm以下の砂礫粒を多量含む	良	
8 二十三	甕 SK36	口径 12.9 器高 10.1 底径 4.0	球形の体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出気味の平底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ後ヘラナデ、内面ナデ、底部ナデ。	外 茶灰褐色 内 茶灰色	4mm以下の砂礫粒を多量含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
9 二十三	甕 SK36	口径 12.8	球形の体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。頸部外面に接合痕を有す。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ後ヘラナデ、内面ヘラナデ。	外 暗茶黄色 内 暗灰褐色	5mm以下の砂礫粒を含む	良好	
10	同上 SK36	口径 12.8	上内方へ緩やかに内彎して伸びる体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ナデ。	暗灰茶色	5mm以下の砂礫粒を含む	良	
11	同上 SK36	口径 14.2	半球形の体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外方につまみ上げ尖る。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面ナデ。	茶灰色	微砂粒を多量に含む	良	
12	同上 SK36	口径 19.8	体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はやや上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面磨滅の為不明、内面ナデ。	淡茶色	4.5 mm以下の砂礫粒を多量に含む	良	
13	同上 SK36	口径 16.0	体部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ナデ。	茶褐色	3mm以下の砂礫粒を多量に含む	良	
14 二十三	同上 SK36	口径 13.6	最大径を上位にもつ楕円形の体部から丸く屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。底部は突出するややくぼみ底。 口縁部外面ナデ、内面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ナデ、底部内外面ナデ。	赤褐色	3mm以下の砂礫粒を多量に含む	良	煤付着
15 二十三	壺 SK37	口径 12.2 器高 25.1 底径 3.9	球形の体部から屈曲し、直立気味に上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出気味の平底。体部中位に2本の接合痕を有す。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ後ヘラナデ、内面ヘラナデ、底部内外面ヘラナデ。	灰褐色	8mm以下の砂礫粒を多量に含む	良	煤付着
16	甕 SD31	口径 14.4	上内方へ直線的に伸びる体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	外 茶赤色 内 暗茶褐色	微砂粒を含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
17	甕 S P31	口径 16.9	上内方に緩やかに内彎して伸びた後丸く屈曲し、外上方へ外反する口縁部に至る。端部は上につまむ。体部中位以下欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面磨滅の為不明。	茶灰色	微砂粒を多量含む	良	
18 二十三	壺 S D26	口径 13.2 器高 21.4 底径 4.0	最大径を上位にもつ球形に近い体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、平坦な面をもつ。底部は突出するややくぼみ底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラミガキ、下位タタキ、内面ヘラナデ、上位指ナデ、底部内面ナデ。	外 淡灰茶色 内 灰褐色	4㎜以下の砂礫粒を含む	良	煤付着
19	同上 S D26	口径 16.0	頸部から屈曲し、水平に伸びる口縁部に至る。端部は上方に肥厚し、外に凹面をもち、1帯6条の波状文を有す。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	乳灰褐色	微砂粒を少量含む	良	
20	鉢 S D26	口径 11.0	直上する口縁部で、端部は鈍く尖る。体部は欠損。口縁部内外面中位に接合痕を有す。体部は欠損。 口縁部外面ナデ、中位に指頭痕、内面ヘラナデ。	灰茶色	3㎜以下の砂礫粒を含む	良	
21	同上 S D26	口径 12.6	半球形の体部から丸く屈曲し、外上方へ内彎して伸びる口縁部に至り凹凸面を有す。端部は鈍く尖る。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヨコナデ、内面磨滅の為不明。	淡茶黄色	微砂粒を含む	良	
22	台付鉢？ S D26	底径 7.7	体部から丸く屈曲し、斜下方に直線的に伸びる脚部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 坏底部内外面ナデ、脚部内外面ナデ。	灰茶色	3㎜以下の砂礫粒を含む	良	
23	甕 S D26	口径 12.9	頸部から屈曲し、水平に伸びる口縁部に至る。端部はわずかにつまみ上げ、外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、頸部外面ヨコナデ、内面ヘラ削リ？	淡灰茶色	微砂粒を多量含む	良	
24	同上 S D26	底径 4.9	底部はやや突出気味の平底。体部は欠損。 底部外面タタキ(3本)、内面ヘラナデ。	乳灰色	微砂粒を少量含む	良	黒斑有

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
25	甕 SD28	底径 4.4	底部は突出する平底。体部は欠損。 体部外面タタキ、内面ヘラナデ、底部外面ナデ。	赤茶褐色	細砂粒を含む	良	
26	同上 SD28	底径 4.6	底部は突出するややくぼみ底。体部は欠損。 体部外面タタキ、内面ヘラナデ、底部外面ナデ。	暗灰茶色	5mm以下の砂礫粒を含む	良	
27	壺 SD109	口径 7.4	体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶褐色	2mm以下の粗砂粒を含む	良	
28	同上 SD109	底径 4.8	体部からやや突出気味の平底に至る。体部は欠損。 体部内外面ナデ、底部内外面ナデ・指頭痕。	外 淡茶褐色 内 淡灰茶色	微砂粒を多量に含む	良好	
29	甕 SD110	口径 14.2	体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外に面をもつ。体部は欠損。 磨滅の為不明。	外 暗灰褐色 内 褐茶色	2mm以下の粗砂粒を含む	良	
30	同上 SD110	底径 4.8	体部から突出する平底の底部に至る。体部は欠損。 体部外面タタキ(3本)後ヘラナデ、内面ヘラナデ、底部内外面ヘラナデ。	暗灰褐色	4mm以下の砂礫粒を含む	良	
31	壺 落ち込み11	口径 12.0	口縁部は水平に伸び、端部はややつまみ上げ、上下に肥厚し、外に面をもち、1帯8条の波状文、竹管浮文を有す。頸部以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	暗茶褐色	3mm以下の砂礫粒を含む	良	
32	同上 落ち込み11	口径 20.1	口縁部は外上方へ外反して伸び、端部は上につまむ。波状文を端部内外面に1帯ずつ(各3条)、頸部外面に1帯(4条)、内面に1帯(3条)をそれぞれ有す。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶灰色	細砂粒を含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
33	高坏？ 落ち込み11	口径 11.0	半球形の坏体部から上外方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。坏底部以下は欠損。 坏部内外面ヘラミガキ。	茶灰色	精良	良	
34	甕 落ち込み11	口径 13.0	口縁部は外上方へ外反して伸び、端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	灰茶色	3㎜以下の砂礫粒を含む	良	
35	同上 落ち込み11	口径 14.0	体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラ削り。	外 茶褐色 内 淡茶色	3㎜以下の砂礫粒を含む	良	
36	鉢 落ち込み11	底径 3.9	底部は突出する上げ底。体部は欠損。 体部内外面ナデ、底部外面指頭痕・ナデ。	淡灰茶色	4㎜以下の砂礫粒を含む	良	
37	甕 落ち込み11	口径 19.5	最大径を上位にもつ球形の体部から屈曲し、外上方へ外反した後やや直立気味に伸びる複合口縁部に至る。端部は外方に肥厚する。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ハケナデ(6本)、下位ヘラナデ、内面ヘラ削り。	外 淡茶褐色 内 淡黄茶色	5㎜以下の砂礫粒を多量に含む	良好	
39 二十四	小型丸底壺 SE1	口径 9.6	楕円形の体部から屈曲し、やや上外方に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ハケナデ、下位ヘラナデ、内面ナデ。	淡茶褐色	精良、微砂粒を少量含む	良	
40 二十四	同上 SE1	口径 12.2	扁平な球形の体部から斜上方に内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は外反気味で鋭く尖る。底部は欠損(丸底と思われる)。 口縁部内外面ヘラミガキ、体部外面ヘラ削り後ヘラミガキ、内面ナデ。	淡茶褐色	精良、微砂粒を含む	良	煤付着
41	甕 SE1	口径 12.6	体部から丸く屈曲し、上外方へ内彎して伸びる口縁部に至る。口縁部は外面に緩やかな稜をもち、端部は内方に肥厚気味に内傾し、面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ、体部外面ハケナデ、内面ヘラ削り、頸部内面に指頭痕。	乳灰褐色	8㎜以下の砂礫粒を含む	良	煤付着

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
42 落ち込み1	甕	口径 16.0	口縁部は斜上方へ伸び、端部は上につまむ。体部は球形で、底部は丸底。体部上位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ(5本)、下位ハケナデ(6本)、内面上位ヘラ削リ、下位ヘラ削リ後ナデ。	淡灰色 底部 灰褐色	細砂粒を含む	やや良	
43 二十四 落ち込み1	同上	口径 13.4	球形に近い体部から屈曲し、斜上方に内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部はわずかに上につまむ。底部は尖り気味の丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ハケナデ(6本)、内面ヘラ削リ・指頭痕。	外 淡灰褐色 内 淡褐色	細砂粒を含む	良好	完形
44 二十四 SK2	鉢	口径 20.8 器高 7.2	椀形の体部から上外方へ内彎して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。底部は丸底。 口縁部外面ヨコナデ、内面指ナデ、体部外面ハケナデ(7本)、内面指ナデ、底部内面ナデ。	暗茶灰色	2mm以下の粗砂粒を含む	良	
45 SK2	同上	口径 17.1 器高 8.4	半球形に近い体部から上外方へ内彎して伸びる口縁部に至る。端部は凹面をもつ。底部は尖り底。 口縁部・体部内外面ヘラナデ。	淡茶灰色	2mm以下の粗砂粒を含む	良	
46 二十四 SK2	高坏	口径 22.3	平坦な坏底部から屈曲し、外上方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。柱状部は中空で、裾部は欠損。 坏部外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後放射状暗文。柱状部外面ヘラナデ後ヘラミガキ、内面くりぬき。	乳茶灰色	精良、細砂粒を少量含む	良好	
47 二十四 SK2	小型鉢	口径 9.0	球形の体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(10本)、内面ナデ。	暗灰褐色 口縁部 茶褐色	細砂粒を含む	良好	
48 二十四 SK2	甕	最大径12.6	平坦な丸底の底部から、球形の体部に至る。口縁部は欠損。 体部外面ハケナデ(9本)、内面ナデ、底部外面ハケナデ後ナデ・指頭痕。	外 淡灰茶色 内 灰黒色	4mm以下の砂礫粒を多量に含む	良好	
49 二十四 SK2	同上	最大径14.1	丸底の底部から、球形の体部に至る。口縁部は欠損。 体部外面ハケナデ(11本)、内面ナデ、底部外面ハケナデ後指頭痕。	外 淡灰褐色 内 淡灰茶色	4mm以下の砂礫粒を含む	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
50	甕 SK2	口径 11.2 器高 12.5	緩やかに内彎して伸びる球形に近い体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外側に肥厚する。底部は尖り気味底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ後ハケナデ(11本)、内面ナデ後指ナデ・指頭痕。	乳灰褐色	細砂粒を含む	良	煤付着
51 二十五	同上 SK2	口径 11.5 器高 15.1	最大径を上位にもつ楕円形の体部から屈曲し、斜上方に内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部はやや平坦な丸底。頸部内面に接合痕を有す。 口縁部外面タタキ、内面ハケナデ、体部外面タタキ後ハケナデ(7本)、内面指ナデ。	暗茶灰色	4mm以下の砂礫粒を含む	良	煤付着
52	同上 SK2	口径 10.8	球形の体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。頸部内面上位に接合痕を有す。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ヘラナデ。	乳灰褐色	細砂粒を含む	良	
53	同上 SK2	口径 11.6	楕円形の体部から、緩やかに屈曲し、上外方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部はやや上につまむ。頸部内面上位に接合痕を有す。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ヘラナデ。	乳灰褐色	細砂粒を含む	良	
54	同上 SK2	口径 13.6	内彎して上内方に伸びる体部から屈曲し、斜上方に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。頸部内面上位に接合痕を有す。体部中位以下は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面磨滅の為不明、体部外面タタキ(7本)後ハケナデ、内面ヘラナデ。	乳灰褐色	粗砂粒を少量含む	良	
55 二十五	同上 SK2	口径 13.6 器高 15.7	球形の体部から鋭く屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部はやや尖り気味底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ヘラナデ、下位ナデ、内面上位ヘラナデ、下位ヘラ削リ。	外 乳灰褐色 内 乳茶褐色	8mm以下の砂礫粒を含む	良	煤付着
56	同上 SK2	最大径14.6	小さい平底の底部から楕円形の体部に至る。口縁部は欠損。 体部外面上位ヘラナデ、下位指ナデ、内面ヘラナデ。	乳灰褐色	6mm以下の砂礫粒を含む	良	
57	同上 SK2	口径 14.6	緩やかに上内方へ内彎して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ヘラナデ。	淡灰褐色	細砂粒を少量含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
58	甕 SK2	口径 13.6	張りのある体部から屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は外に肥厚気味に丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ後ハケナデ(11本)、体部内面ヘラ削り、一部ヘラナデ。	乳茶褐色	粗砂粒を含む	良	
59 二十五	壺 落ち込み7	口径 11.4 器高 15.2	球形の体部から屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ハケナデ(11本)、下位ヘラナデ、内面ヘラナデ。	灰褐色	砂礫粒を含む (Ⅳ)	良好	
60 二十五	同上 落ち込み7	口径 14.0	口縁部は外上方へ外反して伸び、端部は上につまみ、外に平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	乳灰褐色	3㎜以下の砂礫粒を含む(Ⅳ)	良	
61	同上 落ち込み7	口径 14.5	肩部から一旦上外方した後、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾し、凹面をもつ。肩部内面に接合痕をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヘラミガキ？、内面磨滅の為不明、肩部外面ヘラミガキ？、内面磨滅の為不明。	乳灰褐色	微砂粒を含む (Ⅵ)	良	
62	同上 落ち込み7	口径 18.6	外傾する頸部から外上方へなだらかに伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。口縁部外面上位に1帯(4条)、下位に1帯(1条)の波状文、内面全体に上位から、7条、5条、4条の3帯の波状文を有す。体部は欠損。 口縁部外面中位ヨコナデ後波状文、頸部外面ヨコナデ後波状文、内面ナデ。	淡灰褐色	良 (Ⅳ)	良	煤付着
63	同上 落ち込み7	口径 18.3	外上方へ外反する頸部から外上方へ外反気味に伸びる複合口縁となる。端部はやや上につまみ、外に面をもつ。口縁部屈曲外面に接合痕を有す。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	外 淡茶褐色 内 淡灰茶色	5㎜以下の砂礫粒を含む(Ⅱa)	良	
64	同上 落ち込み7	口径 20.7	外上方へ外反して伸びる頸部から上外方へ外反して伸びる複合口縁となる。口縁部外面に緩やかな凹線がみられ、端部は面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、頸部外面ハケナデ(9本)。	外 淡茶灰色 内 淡灰茶色	5㎜以下の砂礫粒を含む(Ⅳ)	良	
65 二十五	甕 落ち込み7	口径 23.2	体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる頸部よりさらに斜上方へ伸びる複合口縁となる。端部は丸い。口縁部外面上位に1帯(4～5条)、下位に1帯(3条)の波状文を有す。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヘラミガキ、体部外面ハケナデ後ヘラミガキ、内面上位ヘラミガキ、下位ナデ、体部内面ヘラミガキ。	乳灰色	砂粒を多量に含む(Ⅴ)	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
66 二十五	壺 落ち込み7		内彎して上内方に伸びる体部から直立気味に上外方へ伸びる頸部に至り、屈曲して外上方へ内彎して伸びる口縁部に至る。口縁部は欠損。肩部に2本の接合痕を有す。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、頸部外面ヘラミガキ、内面ヨコナデ、体部外面ハケナデ後ヘラミガキ、内面指ナデ・ナデ。	外 淡灰茶褐色 内 淡灰色	細砂粒を含む (Ⅵ)	良	
67 二十五	同上 落ち込み7	口径 15.0	直線気味に緩やかに内上方へ内彎して伸びる体部から直立する頸部に至り、緩やかに屈曲して外上方に伸びる口縁部となる。端部は外傾する面をもち、刻み目を有す。頸部内面に接合痕を有す。体部は欠損。 口縁部、体部外面ヘラミガキ、口縁部・頸部内面ヘラミガキ、肩部内面指頭痕、体部内面磨滅の為不明。	乳褐灰色	3mm以下の砂礫粒を含む(Ⅱb)	良	
68 二十六	同上 落ち込み7	口径 18.2	上内方へ外反して伸びる頸部から、やや鋭く屈曲し、外上方に伸びる口縁部に至る。端部は外傾し、凹面をもつ。口縁部内面上位に竹管文張付。頸部内面中位に接合痕を有す。 口縁部外面ヨコナデ、一部ハケナデ(10本)、内面ヨコナデ、頸部外面ヨコナデ、内面上位ヨコナデ、中位ナデ、下位ヘラ削り。	外 淡茶灰色 内 乳灰色	微砂粒を少量含む (Ⅱa)	良	
69 二十六	同上 落ち込み7	口径 13.1	球形の体部から丸く屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。頸部内面に接合痕を有す。底部は欠損。 口縁部外面ハケナデ(7本)、内面ヨコナデ、体部外面上位ハケナデ(5本～7本)、下位ハケナデ後ヘラミガキ、内面上位指ナデ、下位ヘラナデ後ハケナデ(6本)。	外 乳白茶褐色 内 黒灰色	2mm以下の粗砂粒を含む	良	
70	同上 落ち込み7	底径 8.1	最大径をやや下位にもつ球形の体部から丸く屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は欠損。底部は突出気味の平底。 口縁部内外面磨滅の為不明、体部外面上位ヘラミガキ、下位磨滅の為不明、内面ハケナデ(7本)後ヘラナデ。	乳茶褐色	粗砂粒を少量含む(Ⅴ)	良	
71 二十六	同上 落ち込み7	最大径23.8	丸底の底部から、球形の体部に至る。口縁部は欠損。 体部外面上位タタキ(3本)、中位ハケナデ(7本)後ヘラナデ、下位ヘラナデ後ヘラミガキ、内面ハケナデ(上位7本、下位4本)。	淡灰褐色	細砂粒を含む (Ⅵ)	良	
72	同上 落ち込み7	口径 18.0	口縁部は外上方へ外反気味に伸び、端部は上につまみ、上下に肥厚し、沈線を2本もつ面を外側にもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面櫛状のヘラナデ。	外 黒灰色 内 乳茶色	5mm以下の砂礫粒を含む(Ⅵ)	良	
73 二十六	同上 落ち込み7	口径 15.2	体部から上外方へ直立気味に伸び、屈曲して斜上方に伸びる口縁部に至る。端部は外に凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面磨滅の為不明。	外 淡茶褐色 内 淡灰褐色	微砂粒を多量に含む (Ⅵ)	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
74	壺 落ち込み7	口径 19.6	口縁部は外上方へ外反して伸び、端部は外方にやや肥厚する。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ後ヘラミガキ、内面ヨコナデ。	淡乳灰褐色	微砂粒を多量に含む (Ⅵ)	良	
75	同上 落ち込み7	口径 15.0	口縁部は上外方へ長く伸び、端部は外傾し平坦な面をもつ。内面中位に接合痕を有す。体部は欠損。 口縁部内外面磨滅の為不明。	白灰褐色	微砂粒を含む (Ⅱc)	やや不良	
76	同上 落ち込み7	口径 16.0	口縁部は斜上方に伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面ヘラナデ、内面ヨコナデ。	外 灰褐色 内 黒灰褐色	微砂粒を含む	良	
77	同上 落ち込み7	最大径11.0	平坦な底部から球形に近い体部に至る。口縁部は欠損。 体部内外面ヘラナデ、底部外面ヘラ削リ。	乳灰褐色	細砂粒を含む (Ⅳ)	良	
78	同上 落ち込み7	最大径19.2	丸底の底部から、最大径をやや下位にもつ球形に近い体部に至る。口縁部は欠損。 体部外面上位ハケナデ後ヘラミガキ、中位以下ヘラ削リ後ヘラミガキ、内面上位ナデ、中位以下ヘラナデ。	外 乳褐灰色 内 乳灰色	細砂粒を含む (Ⅳ)	良	
79 二十六	鉢 落ち込み7	口径 7.7	半球形の体部から緩やかに屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損(尖り気味底と思われる)。 体部外面タタキ(3本)後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ。	外 乳灰茶褐色 内 淡乳灰褐色	細砂粒を含む (Ⅵ)	良	煤付着
80 二十六	同上 落ち込み7	口径 9.8 器高 5.2	半球形の体部から屈曲し、上外方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は丸底。 口縁部外面ヨコナデ・一部指頭痕、内面ハケナデ(6本)、体部外面ナデ、内面ヘラナデ、底部外面ヘラ削リ。	乳灰褐色	細砂粒を含む (Ⅳ)	良	
81 二十六	同上 落ち込み7	口径 12.0	半球形の体部から緩やかに屈曲し、斜上方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部外面ナデ、内面ヨコナデ、体部外面ハケナデ後ナデ、内面ナデ。	外 淡茶褐色 内 乳灰褐色	細砂粒を含む (Ⅵ)	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
82	鉢 落ち込み7	口径 10.4	体部から屈曲し、斜上方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は鋭く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	乳茶灰色	精良、微砂粒を少量含む	良	
83	同上 落ち込み7	口径 11.0	半球形の体部から屈曲し、上外方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は鋭く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラ削り後ヘラミガキ、内面ヘラナデ後ヘラミガキ。	乳灰褐色	細砂粒を含む	良	煤付着
84 二十七	同上 落ち込み7	口径 11.8	半球形と思われる体部から緩やかに屈曲し、上外方へ直立気味に伸びる口縁部に至る。端部は鋭く尖る。底部は欠損。 口縁部外面ヘラ削り後ヘラミガキ、内面ヨコナデ、体部外面ヘラ削り後ヘラミガキ。	乳褐色	精良	良	
85 二十七	同上 落ち込み7	口径 12.6 器高 6.7	扁平な半球形の体部から緩やかに屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は丸底。 外面タタキ？、内面磨滅の為不明。	乳赤茶色	細砂粒を含む (Ⅳ)	良	
86	同上 落ち込み7	口径 12.4 器高 7.5	半球形の体部から屈曲し、短く斜上方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。 口縁部外面指頭痕・ナデ、内面ヘラナデ後ナデ、体部外面上位ナデ、下位ヘラナデ、内面上位ヘラナデ後ナデ、下位指ナデ。	外 赤茶褐色 内 乳灰褐色	4mm以下の砂礫粒を含む(Ⅳ)	良	
87 二十七	同上 落ち込み7	口径 11.8 器高 7.3	半球形の体部から屈曲し、斜上方へ長く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。 口縁部内外面ハケナデ後ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ヘラナデ。	淡白灰褐色	微砂粒を含む (Ⅱa)	良	
88 二十七	同上 落ち込み7	口径 16.9 器高 5.5	丸底の底部から椀形の体部に至り屈曲し、上外方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ後ヘラミガキ、体部外面ヘラ削り後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後暗文、底部磨滅の為不明。	茶褐色	精良 (Ⅱc)	良	
89 二十七	同上 落ち込み7	口径 16.8 器高 7.0	丸底の底部から、扁平な半球形の体部に至り、屈曲して斜上方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヘラミガキ、内面ヨコナデ、体部外面ヘラ削り後ヘラミガキ。内面磨滅の為不明。	乳茶褐色	精良 (Ⅳ)	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
90 二十七	鉢 落ち込み7	口径 12.6 器高 5.1	丸底の底部から、椀形の体部に至り、口縁付近で緩やかな稜をもち、そのまま上外方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	乳灰褐色	微砂粒を含む (Ⅳ)	良	
91 二十七	同上 落ち込み7	口径 14.0 器高 4.6	やや尖り底の底部から、浅い椀形の体部に至り、そのまま内彎して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ハケナデ後ヨコナデ、内面ナデ、体部外面タタキ後ハケナデ、内面ナデ。	乳褐灰色	微砂粒を少量含む (Ⅱd)	良	
92 二十七	同上 落ち込み7	口径 12.0	深い半球形の体部から、そのまま内彎して伸びる口縁部に至る。端部は内側に鈍く尖がる。体部は欠損。 口縁部外面ナデ、内面ヘラナデ。	淡乳灰褐色	微砂粒を多量に含む (Ⅴ)	良	
93 二十七	同上 落ち込み7	口径 16.8 器高 10.0	最大径を上位にもつ扁平な球形の体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾し平坦な面をもつ。底部は欠損（丸底と思われる。）。 口縁部外面ヨコナデ、内面磨滅の為不明、体部外面タタキ後ハケナデ、内面ヘラ削り。	淡白褐色	5mm以下の砂礫粒を多量に含む (Ⅳ)	良	
94 二十七	同上 落ち込み7	口径 23.0 器高 11.1	半球形の体部からわずかに屈曲し、上外方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾し、平坦な面をもつ。底部は丸底。頸部内外面に接合痕を有す。 口縁部内外面ヨコナデ、頸部外面指頭痕、体部外面タタキ後ヘラナデ、内面ヘラ削リ？、底部外面ヘラ削リ。	茶褐色	5mm以下の砂礫粒を多量に含む (Ⅰa)	良	
95 二十七	同上 落ち込み7	口径 18.0	半楕円形の深い体部から、そのまま直上する口縁部に至り、端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ、体部外面上位ハケナデ後ナデ、下位ハケナデ・指頭痕、内面ハケナデ(6本)。	茶褐色	微砂粒を含む (Ⅰb)	良	
96 二十八	器台 落ち込み7	口径 22.8 器高 10.8 底径 19.6	頸部から上下に外反して伸びる鼓形器台である。口縁部は斜上方へ伸び、端部は内傾する平坦な面をもつ。裾端部は内傾する平坦な面をもつ。頸部の上下には凸帯が1条ずつ巡る。 外面ヨコナデ、内面磨滅の為不明。	受部 乳赤茶色 脚部 乳灰褐色	微砂粒を含む (Ⅵ)	良	
97 二十八	同上 落ち込み7	口径 10.2 器高 7.5 底径 13.2	平坦な受底部から外上方へ緩やかに内彎して伸びた後斜上方へ立ち上がる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。脚部は斜下方に直線的に伸び、端部は鈍く尖る。四方に円孔をもつ。 受部内外面磨滅の為不明（ヘラミガキと思われる。）、脚部外面ヘラミガキ、内面上位ナデ、下位ヨコナデ。	淡茶褐色	細砂粒を含む (Ⅵ)	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
98 二十八	器台 落ち込み7	口径 9.7 器高 8.9 底径 10.7	平坦な受底部から内彎して伸びた後、斜上方へ立ち上がる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し凹面をもつ。脚部は斜下方へ直線的に伸び、裾端部は丸い。四方に円孔をもつ。脚部内面上位にしぼり目を有す。 受部外面ヘラミガキ、内面暗文、脚部外面上位ヘラナデ後ヘラミガキ、下位ヘラミガキ、内面ハケナデ後ナデ。	乳灰色	細砂粒を含む (Ⅳ)	良	
99 二十八	同上 落ち込み7	口径 9.3 器高 9.1 底径 11.8	平坦な受底部から緩やかに内彎し、そのまま斜上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。脚部は下外方に緩やかに内彎し、端部は外傾する平坦な面をもつ。三方に円孔をもつ。 口縁部外面ヘラミガキ、受部外面ヘラナデ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ？、脚部外面上位ヘラナデ後ヘラミガキ、下位ハケナデ後ヘラミガキ、内面上位ヘラ削り、下位ナデ。	乳灰色	細砂粒を含む (Ⅱe)	良	
100	同上 落ち込み7	口径 10.2	緩やかに内彎して伸びる受部から上外方へ立ち上がる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。脚部は欠損。 受部外面磨滅の為不明、内面暗文が見られる。	乳茶褐色	細砂粒を含む (Ⅱc)	良	
101	同上 落ち込み7	底径 11.0	斜下方に直線的に伸びる脚部で、裾端部は鈍く尖る。三方？に円孔をもつ。受部は欠損。 受部外面上位ヘラナデ後ヘラミガキ、下位ハケナデ(10本)後ヘラミガキ、内面ハケナデ後ナデ、くりぬき。	乳茶褐色	細砂粒を含む (Ⅵ)	良	
102	同上 落ち込み7	底径 9.9	脚部は斜下方に外反気味に伸び、裾端部は平坦な面をもつ。受部は欠損するが、受部と脚部は貫通する。三方に円孔をもつ。 柱状部外面ヘラミガキ、内面くりぬき、脚部外面ハケナデ後ヘラミガキ、内面ハケナデ後ヘラナデ。	外 淡茶灰色 内 淡茶色	細砂粒を含む (Ⅱb)	良	
103 二十八	高坏 落ち込み7	口径 12.6 器高 9.3 底径 17.9	椀形の坏部から上外方に内彎して伸びる口縁部に至り、端部は丸い。脚部は短く下外方する中空の柱状部から屈曲し、大きく外下方に伸び、坏部の径を凌ぐ裾部をもつ。裾端部に鈍く尖る。裾部中位の四方に円孔をもつ。 口縁部外面ヨコナデ後ヘラミガキ、内面ヨコナデ後暗文、坏部外面ハケナデ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後暗文、柱状部外面ヘラミガキ、内面くりぬき、脚部外面ヘラミガキ、内面ハケナデ、裾端部内面ハケナデ後ヨコナデ。	淡乳褐色	精良	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
104	高坏 落ち込み7	口径 14.5 器高 9.8 底径 17.9	平坦な坏底部から内彎し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。脚部は103に同じ。 坏部・脚部外面ハケナデ後ヘラミガキ、柱状部外面ヘラミガキ、坏部内面ヘラミガキと思われる、脚部内面ナデ。	淡茶褐色	微砂粒を含む (Ⅱa)	良	
105	同上 落ち込み7	口径 14.6	椀形の坏部から上外方へ内彎して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 坏部外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後暗文。	乳灰茶褐色	微砂粒を含む (Ⅵ)	良	
106	同上 落ち込み7	底径 16.9	短い中空の柱状部から屈曲して外上方へ伸びる脚部に至り、裾端部は鈍く尖る。裾部下位の四方に円孔をもつ。坏部は欠損。 柱状部外面ヘラナデ後ヘラミガキ、内面くりぬき、脚部外面ハケナデ後ヘラミガキ、内面上位指頭痕(ヘラの爪跡を残す)、下位ハケナデ。	外 暗乳灰色 内 赤茶褐色	微砂粒を含む (Ⅳ)	良	煤付着
107	同上 落ち込み7	底径 17.8	106と同様。 柱状部外面ヘラミガキ、脚部外面ハケナデ後ヘラミガキ、内面磨滅の為不明。	外 乳灰茶褐色 内 乳茶褐色	細砂粒を含む (Ⅵ)	良	
108 二十八	同上 落ち込み7	口径 14.2 器高 7.8 底径 8.5	深い椀形の坏部から、斜上方へ内彎して伸びる口縁部に至り、端部は外傾する平坦な面をもつ。脚部は外下方へ短く外反し、裾端部は丸い。 坏部・脚部内外面ナデ。	乳赤褐色	細砂粒を含む (Ⅵ)	良	
109 二十八	同上 落ち込み7	口径 13.4	平坦な坏底部から斜上方へ緩やかに内彎して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。柱状部は坏部から下外方に裾部まで伸び、中空である。裾部は欠損。 坏部外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後暗文、柱状部外面ヘラ削リ後ヘラミガキ、内面ヘラナデ。	乳灰褐色	微砂粒を含む (Ⅵ)	良	
110 二十八	同上 落ち込み7	口径 15.2	坏底部から斜上方へ緩やかに内彎して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。口縁部内外面に接合痕を有す。坏底部・脚部は欠損。 坏部外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後暗文。	乳茶色	微砂粒を含む (Ⅵ)	良	
111	同上 落ち込み7	口径 14.8	平坦な坏底部から斜上方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。脚部は欠損。 坏部外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後暗文、坏底部磨滅の為不明。	茶褐色	細砂粒を含む (Ⅱc)	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
112 二十八	高坏 落ち込み7	口径 13.8	109と同様。 坏部内外面ヘラミガキ、柱状部くりぬき。	外 乳茶褐色 内 乳灰褐色	精良 (Ⅱc)	良	
113 二十九	同上 落ち込み7	口径 18.0	111と同様。 坏部外面ハケナデ後ヘラミガキ、内面ハケナデ後ヘラミガキ後暗文。	乳灰褐色	細砂粒を含む (Ⅳ)	良	
114 二十九	同上 落ち込み7	口径 15.1 器高 8.6 底径 11.4	内彎気味の坏底部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は緩やかな稜をもつ中空の柱状部から大きく広がる裾部に至り、裾端部は鋭く尖る。裾部上位の四方に円孔をもつ。 坏部・柱状部外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキ後暗文、脚部ハケナデ後ヘラミガキ、暗文、脚部内面くりぬき・ハケナデ。	淡乳灰褐色	精良 (Ⅱb)	良	
115 二十九	同上 落ち込み7	口径 21.8	平坦な坏底部から斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至り、端部は外傾する面をもつ。脚部は欠損。 坏部外面ヘラミガキ、内面磨滅の為不明。	外 乳茶色 内 淡乳赤茶色	細砂粒を含む (Ⅱb)	良	
116 二十九	同上 落ち込み7	口径 22.7 器高 15.9 底径 14.8	平坦な坏底部から斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾し、凹面をもつ。脚部は直立気味の柱状部から屈曲し、外下方へ外反気味に伸びる裾部に至り、裾端部は鈍く尖る。裾部中位の四方に円孔をもつ。 坏部外面ハケナデ後ヘラミガキ、内面ハケナデ後ヘラミガキ後暗文、坏底部外面ヘラナデ後ヘラミガキ、柱状部外面ヘラナデ後ハケナデ後ヘラミガキ、内面くりぬき・指ナデ、脚裾部外面ハケナデ後ヘラミガキ、内面上位指頭痕・ハケナデ、下位ハケナデ後ナデ。	乳灰褐色	精良 (Ⅳ)	良	
117 二十九	同上 落ち込み7	口径 23.5 器高 16.5 底径 14.4	116と同様。 裾部上位の四方に円孔をもつ。 坏部外面磨滅の為不明、内面上位ヨコナデ、中位以下ハケナデ(7本)、坏底部外面・柱状部外面ヘラナデ、内面しぼり目・くりぬき、脚裾部内外面ナデ。	外 淡乳茶褐色 内 乳赤茶褐色	精良 (Ⅵ)	良	
118 二十九	製塩土器 落ち込み7	脚台径 4.2	脚台部は下外方に外反し、端部は面をもつ。体部は内彎気味に上外方する。口縁部は欠損。 体部外面タタキ(上位2本、下位3本～4本)、内面ヘラナデ・ナデ。	灰褐色	細砂粒を含む (Ⅳ)	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
119 二十九	製塩土器 落ち込み7	脚台径 5.0	脚台部は下外方に外反し、端部は丸い。体部は半球形で、口縁部は欠損。 体部外面タタキ、内面ヘラナデ、脚台部外面指頭痕、内面ナデ。	暗灰褐色	微砂粒を含む (Ⅵ)	良	
120 二十九	甕 落ち込み7	口径 14.7 器高 24.9 底径 3.8	最大径をやや上位にもつ楕円形の体部から鋭く屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。底部は突出気味の平底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)後ハケナデ(5本)、内面ハケナデ(7本～10本)、底部ナデ。	外 乳白灰褐色 内 黒灰色	微砂粒を含む (Ⅵ)	良	煤付着
121	同上 落ち込み7	口径 13.8	体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾し、凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面タタキ後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラナデ。	乳茶灰色	微砂粒を含む (Ⅱc)	良	
122	同上 落ち込み7	口径 14.6	体部から丸く屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラナデ。	淡茶褐色	細砂粒を含む (Ⅱb)	良	
123	同上 落ち込み7	口径 16.6	体部から屈曲し、外上方へ短く外反して伸びた後、さらにもう1度外反して伸びる口縁部に至る。端部は外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面磨滅の為不明。	淡茶褐色	微砂粒を含む (Ⅳ)	良	
124	同上 落ち込み7	口径 16.6	体部から外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヨコナデ。	乳灰褐色	4mm以下の砂礫粒を含む(Ⅳ)	良	
125	同上 落ち込み7	口径 17.2	上内方へ緩やかに内彎して伸びる体部から屈曲し、外上方に伸びる口縁部に至る。端部は外に凹面をもつ。端部付近外面に接合痕を有す。体部中位は以下欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)後ヘラナデ、内面ヘラナデ。	乳茶褐色	3mm以下の砂礫粒を含む(Ⅳ)	良好	
126	同上 落ち込み7	口径 17.0	体部から丸く屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面磨滅の為不明。	淡茶黄色	2mm以下の粗砂粒を多量に含む (Ⅵ)	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
127	甕 落ち込み7	口径 17.6	体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は軽くつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ後ヨコナデ、頸部外面一部ハケナデ、内面指頭痕、体部外面タタキ、内面ナデ。	乳灰褐色	粗砂粒を含む (Ⅴ)	良好	
128 三十	同上 落ち込み7	口径 15.2	楕円形の体部から鋭く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ハケナデ(5本~10本)、中位以下ヘラナデ、内面ヘラナデ。	淡赤灰色	4mm以下の砂礫粒を多量に含む (Ⅱc)	良	
129 三十	同上 落ち込み7	口径 16.2	球形に近い体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ハケナデ(5本)、中位以下ヘラナデ、内面ヘラナデ。	淡茶灰色	微砂粒を多量に含む (Ⅳ)	良	
130	同上 落ち込み7	口径 16.0	体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	乳茶色	粗砂粒を含む (Ⅲ)	良	
131 三十	同上 落ち込み7	最大径20.7	丸底の底部から、球形の体部に至る。肩部内面に接合痕を有す。口縁部は欠損。 体部外面上位・下位タタキ(3本)、中位ハケナデ(7本~10本)、内面上位ハケナデ(5本)、中位以下ヘラ削り、底部指頭痕。	外 乳茶褐色 内 乳灰褐色	微砂粒を含む (Ⅳ)	良	
132	同上 落ち込み7	口径 11.2	球形と思われる体部から丸く屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。体部内外面に各2本ずつ接合痕を有す。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	外 淡褐色 内 暗灰色	細砂粒を含む (Ⅳ)	良	煤付着
133	同上 落ち込み7	底径 4.8	底部は突出するややくぼみ底。体部は欠損。 体部外面ナデ、内面ヘラナデ、底部ナデ。	淡灰褐色	良 (Ⅱe)	良	
134	同上 落ち込み7	底径 5.6	底部は突出気味の平底。体部は欠損。 体部外面タタキ(3本)、内面ヘラナデ、底部ナデ。	淡乳灰色	細砂粒を含む (Ⅱc)	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
135 三十	甕 落ち込み7	口径 12.9 器高 14.1	球形の体部から屈曲し、斜上方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)後ハケナデ(7本)、内面ヘラ削り。	褐灰色	微砂粒を含む (Ⅰb)	良	煤付着
136 三十	同上 落ち込み7	口径 13.0 器高 14.5	135と同様。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ(4本)、下位タタキ後ハケナデ(6本)、内面ヘラ削り・指ナデ。	茶褐色	微砂粒を含む (Ⅰa)	良	
137 三十	同上 落ち込み7	口径 13.3 器高 14.2	球形の体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ハケナデ(8本)後タタキ(5本)、中位以下ハケナデ(7本)、内面ヘラ削り・指頭痕。	茶褐色	細砂粒を含む (Ⅰb)	良	煤付着
138 三十一	同上 落ち込み7	口径 14.3 器高 15.7	137と同様。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(6本)、体部外面ハケナデ(7本)、内面ヘラ削り。	外 乳灰褐色 内 乳灰色	微砂粒を少量含む (Ⅳ)	良	
139 三十一	同上 落ち込み7	口径 10.8 器高 16.5	下位に張りをもつ楕円形の体部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。底部は丸底。 体部外面上位ハケナデ(7本)、下位ヘラナデ、内面上位ヘラ削り、下位指ナデ。	外 淡灰褐色 内 淡灰茶色	5mm以下の砂礫粒を多量に含む (Ⅰb)	良	煤付着
140 三十一	同上 落ち込み7	口径 12.7 器高 16.7	球形の体部から鋭く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(10本)、内面ヘラ削り、下位ヘラ削り後指頭痕。	乳褐灰色	微砂粒を含む (Ⅰb)	良	
141 三十一	同上 落ち込み7	口径 13.4 器高 17.0	140と同じ。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ(7本)後ハケナデ(7本)、中位以下ハケナデ後ヘラナデ、内面ヘラ削り。	淡灰色	細砂粒を含む (Ⅰa)	良	
142 落ち込み7	同上	口径 15.2 器高 19.7	140と同様。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)後ハケナデ(7本)、内面ヘラ削り、下位ヘラ削り後指頭痕・指ナデ。	茶褐色	微砂粒を含む (Ⅰa)	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
143 三十一	甕 落ち込み7	口径 16.8 器高 24.0	球形の体部から鋭く屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。底部は尖り底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ(3本)、下位ハケナデ(5本)、内面ヘラ削り。	暗灰褐色	粗砂粒を含む (Ⅰa)	良	
144 三十一	同上 落ち込み7	口径 12.2	球形の体部から丸く屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。口縁部は中ほどで器脹れ、端部はつまみ上げる。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ(7本)、中位以下磨滅の為不明、内面ヘラ削り。	乳茶灰色	砂礫粒を多量に含む (Ⅳ)	良	
145 三十二	同上 落ち込み7	口径 14.1	扁平な球形の体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ハケナデ(3本)、下位磨滅の為不明、内面ヘラ削り。	乳茶灰色	3㎜以下の砂礫粒を含む(Ⅳ)	良	
146 三十二	同上 落ち込み7	口径 14.3	球形の体部からやや鋭く屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ(6本)、中位以下ハケナデ(7本)、内面ヘラ削り。	外 黒灰褐色 内 褐灰色	微砂粒を含む (Ⅰa)	良	煤付着
147 三十二	同上 落ち込み7	口径 15.4	球形の体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部付近で外反し、端部は上につまむ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ(6本)後ハケナデ、下位ハケナデ(10本)、内面ヘラ削り。	茶褐色	微砂粒を含む (Ⅰb)	良	煤付着
148 三十二	同上 落ち込み7	口径15.4	体部中位から上内方へ緩やかに内彎し、張りの弱い肩部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(7本)・ヘラナデ、内面ヘラ削り。	淡灰茶色	4㎜以下の砂礫粒を含む(Ⅰb)	良	
149 三十二	同上 落ち込み7	口径14.2	球形の体部から鋭く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部上位タタキ(6本)後ハケナデ(9本)、中位ハケナデ後ヘラナデ、内面ヘラ削り。	灰茶色	5㎜以下の砂礫粒を多量に含む (Ⅰb)	良	
150 三十二	同上 落ち込み7	口径 14.4	最大径を中位にもつと思われ、張りのない緩やかな体部から屈曲し、外上方に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ(6本)後ハケナデ(7本)、中位以下磨滅の為不明、内面ヘラ削り。	暗茶褐色	7㎜以下の砂礫粒を含む(Ⅰb)	良	煤付着

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
151 三十二	甕 落ち込み7	口径 15.2	楕円形の体部からやや鋭く屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、肩部外面磨滅の為不明、体部外面ハケナデ(9本)、内面ヘラ削り、下位指頭痕。	乳赤茶褐色	微砂粒を含む (Ⅵ)	良	
152	同上 落ち込み7	口径 15.5	球形の体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ(7本)後ハケナデ、下位ハケナデ、内面上位ヘラ削り、下位磨滅の為不明。	乳灰褐色	3㎜以下の砂礫粒を含む(Ⅰb)	良	煤付着
153 三十三	同上 落ち込み7	口径 15.8	球形の体部から丸く屈曲し、外上方に伸びる口縁部に至る。口縁部は中ほどで器脹れ、端部は上につまむ。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ、体部外面上位タタキ(5本)後ハケナデ(7本)、下位ハケナデ(8本)後ナデ、内面ヘラ削り。	外 褐灰色 内 灰褐色	微砂粒を含む (Ⅰa)	良	煤付着
154 三十三	同上 落ち込み7	口径 16.2	扁平な球形の体部からやや鋭く屈曲し、外上方に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)後ハケナデ(6本)、内面ヘラ削リ後ヘラナデ。	外 黒灰褐色 内 淡褐色	8㎜以下の砂礫粒を含む(Ⅰa)	良	煤付着
155	同上 落ち込み7	口径 18.1	扁平な球形の体部から鋭く屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。口縁部は中ほどで器脹れ、端部は上につまむ。肩部内面に接合痕を有す。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(8本)後タタキ(6本)、内面ヘラ削り。	淡褐灰色	微砂粒を含む (Ⅰa)	良	煤付着
156	同上 落ち込み7	口径 18.6	球形の体部から一坦外面が凹面した後丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。底部は欠損(丸底と思われる)。 口縁部内外面ヨコナデ、肩部外面タタキ(4本)後ハケナデ(8本)、体部外面タタキ後ハケナデ後ヘラナデ、肩部内面一部ヘラナデ、体部内面ヘラ削り。	外 淡灰褐色 内 淡灰色	4㎜以下の砂礫粒を含む(Ⅰa)	良	
157	同上 落ち込み7	口径 12.2	体部から鋭く屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	乳灰褐色	微砂粒を含む (Ⅳ)	良	
158	同上 落ち込み7	口径 12.4	体部から丸く屈曲し、外上方に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ後ハケナデ、内面ヘラ削り。	乳淡茶色	2㎜以下の粗砂粒を含む(Ⅰb)	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
159	甕 落ち込み7	口径 12.5	体部から丸く屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は軽く上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ヘラ削リ。	淡茶灰色	微砂粒を含む (Ⅰb)	良	
160 三十三	同上 落ち込み7	口径 12.8	体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヘラナデ後ヨコナデ、体部外面タタキ後ハケナデ、内面ヘラ削リ。	暗灰褐色	微砂粒を含む (Ⅰb)	良	
161	同上 落ち込み7	口径 12.9	上内方へ緩やかに内彎して伸びる体部から丸く屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げ、外に凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面タタキ後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部外面タタキ(6本)、内面ヘラ削リ。	乳灰褐色	細砂粒を多量に含む (Ⅱe)	良	
162	同上 落ち込み7	口径 13.3	体部から屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は軽くつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(6本)後ハケナデ(8本)、内面ヘラ削リ。	淡灰褐色	微砂粒を少量含む (Ⅰa)	良	
163	同上 落ち込み7	口径 13.8	体部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面磨滅の為不明、内面ヘラ削リ。	暗茶灰色	微砂粒を少量含む (Ⅰa)	良	
164	同上 落ち込み7	口径 14.0	体部から外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。口縁部は中位で器脹れし、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(6本)後ヨコナデ、体部外面タタキ(6本)後ハケナデ(8本)、内面ヘラ削リ。	淡灰茶色	3㎜以下の砂礫粒を含む(Ⅰb)	良	
165	同上 落ち込み7	口径 14.0	体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラ削リ。	外 暗茶灰色 内 茶灰色	細砂粒を含む (Ⅰa)	良好	
166	同上 落ち込み7	口径 14.2	体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ(内面一部ハケナデ)、体部外面タタキ(5本)後ハケナデ(6本)、内面ヘラ削リ。	淡茶褐色	微砂粒を含む (Ⅰa)	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
167	甕 落ち込み7	口径 14.2	体部からやや鋭く屈曲し、外上方に伸びた後外反する口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラ削リ。	外 暗茶灰色 内 茶灰色	2mm以下の粗砂粒を含む(Ⅰb)	良	
168	同上 落ち込み7	口径 14.2	体部から鋭く屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削リ。	淡灰褐色	微砂粒を少量含む (Ⅰa)	良	
169	同上 落ち込み7	口径 14.6	口縁部は外上方へ外反気味に伸び、端部は斜上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	灰褐色	微砂粒を含む (Ⅰa)	良	煤付着
170	同上 落ち込み7	口径 14.6	体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ後ヨコナデ、体部外面ハケナデ後ヨコナデ、内面ヘラ削リ。	外 黒灰色 内 淡灰褐色	微砂粒を少量含む	良好	煤付着
171	同上 落ち込み7	口径 14.6	体部から丸く屈曲し、外上方に伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、端部付近は器脹れする。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(6本)後ハケナデ、内面磨滅の為不明。	外 茶褐色 内 灰褐色	微砂粒を含む (Ⅰa)	良	
172	同上 落ち込み7	口径 14.8	口縁部は斜上方へ外反気味に伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶褐色	微砂粒を含む (Ⅰa)	良	
173	同上 落ち込み7	口径 15.0	体部からやや鋭く屈曲し、外上方に伸びた後外反する口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面磨滅の為不明、内面ヨコナデ。	乳灰褐色	微砂粒を含む (Ⅰb)	良	
174	同上 落ち込み7	口径 15.2	体部から丸く屈曲し、外上方に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラ削リ。	茶褐色	微砂粒を含む (Ⅰa)	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
175	甕 落ち込み7	口径 15.3	上内方へ緩やかに内彎して伸びる体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ後ヨコナデ、体部外面タタキ(6本)後ハケナデ(6本)、内面上位ハケナデ(8本)、下位ヘラ削リ。	淡灰茶色	微砂粒を少量含む (Ⅰa)	良	
176	同上 落ち込み7	口径 15.3	175と同様。(口縁部のみ) 体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ後ヨコナデ、体部内面ヘラ削リ。	淡茶灰色	微砂粒を少量含む (Ⅰa)	良好	煤付着
177	同上 落ち込み7	口径 15.4	体部から丸く屈曲し、外上方に伸びる口縁部に至る。端部は内側に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラ削リ。	外 黒灰褐色 内 淡褐灰色	微砂粒を含む (Ⅰa)	良	煤付着
178	同上 落ち込み7	口径 15.4	体部から丸く屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヨコナデ、内面ヘラ削リ。	外 暗茶灰色 内 暗灰茶色	微砂粒を含む (Ⅰb)	良	煤付着
179	同上 落ち込み7	口径 15.5	内上方へ緩やかに内彎して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。口縁部内外面に凹凸面をもつ。端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ後ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)後ハケナデ、内面ヘラ削リ。	乳茶褐色	3㎜以下の砂礫粒を含む(Ⅰb)	良好	
180	同上 落ち込み7	口径 15.6	体部から鋭く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ後タタキ(4本)、内面ヘラ削リ。	灰褐色	微砂粒を含む (Ⅰa)	良	
181	同上 落ち込み7	口径 15.8	体部から丸く屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヨコナデ後ハケナデ(9本)、内面ヘラ削リ。	淡茶褐色	微砂粒を含む (Ⅳ)	良	
182	同上 落ち込み7	口径 16.0	口縁部は外上方へ外反して伸び、端部はやや上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヨコナデ、内面ヘラ削リ。	茶褐色	微砂粒を含む (Ⅰa)	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
183	甕 落ち込み7	口径 16.0	体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部はやや上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラ削り。	茶灰褐色	微砂粒を含む	良	
184	同上 落ち込み7	口径 16.0	口縁部は斜上方へ外反して伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヨコナデ、内面ヘラナデ。	暗茶灰色	微砂粒を含む (Ⅰa)	良	
185	同上 落ち込み7	口径 16.2	体部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はやや上につまみ、外に平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヨコナデ、内面ヘラ削り。	褐灰色	微砂粒を含む (Ⅰa)	良	
186	同上 落ち込み7	口径 16.2	体部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラ削り。	茶灰色	4㎜以下の砂礫粒を含む(Ⅰa)	良	
187	同上 落ち込み7	口径 16.2	体部から丸く屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラ削り。	灰茶褐色	微砂粒を含む (Ⅰa)	良	
188 三十三	同上 落ち込み7	口径 16.2	内上方へ緩やかに内彎して伸びる体部から屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(7本)後ハケナデ(4本)・一部ヘラナデ、内面ヘラ削り。	乳灰茶色	微砂粒を多量に含む (Ⅳ)	良	
189	同上 落ち込み7	口径 16.2	半球形の体部からやや鋭く屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(7本)後ハケナデ(7本)、内面ヘラ削り。	外 暗茶褐色 内 茶褐色	5㎜以下の砂礫粒を含む(Ⅰb)	良	煤付着
190	同上 落ち込み7	口径 16.3	半球形の体部から鋭く屈曲し、斜上方した後上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(9本)、内面ヘラ削り。	淡灰茶色	5㎜以下の砂礫粒を含む(Ⅰb)	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
191	甕 落ち込み7	口径 16.8	体部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ヘラ削り。	外 淡茶褐色 内 淡灰褐色	細砂粒を含む (Ⅰb)	良	
192	同上 落ち込み7	口径 16.8	体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はやや上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラ削り。	灰褐色	微砂粒を含む (Ⅰa)	良	
193	同上 落ち込み7	口径 16.8	体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部はやや上につまむ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ・一部タタキ、体部外面タタキ(4本)、内面ヘラ削り。	淡褐灰色	微砂粒を含む (Ⅰa)	良	
194	同上 落ち込み7	口径 17.0	体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、外に平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)、内面ヘラ削り。	淡灰褐色	微砂粒を含む (Ⅰa)	良	
195	同上 落ち込み7	口径 17.4	口縁部は外上方へ伸び、端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ、体部内面ヘラ削り。	外 黒灰茶色 内 灰茶色	微砂粒を少量含む (Ⅰb)	良好	
196	同上 落ち込み7	口径 17.4	体部から丸く屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)後ハケナデ、内面ヘラ削り。	灰褐色	3㎜以下の砂礫粒を含む(Ⅰb)	良	
197	同上 落ち込み7	口径 17.6	体部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ヘラ削り。	外 灰褐色 内 褐灰色	微砂粒を含む (Ⅰa)	良	
198	同上 落ち込み7	口径 17.6	体部から鋭く屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(6本)後ハケナデ、内面ヘラ削り。	外 灰茶褐色 内 灰褐色	微砂粒を含む (Ⅰa)	良	煤付着

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
199	甕 落ち込み7	口径 14.2	体部から丸く屈曲し、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ後ハケナデ、内面磨滅の為不明。	淡白灰褐色	微砂粒を含む (Ⅱc)	良	
200 三十三	小型壺? 落ち込み7	口径 9.8	扁平な球形の体部から屈曲し、上外方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(11本)、内面ヘラ削リ。	外 乳灰褐色 内 乳赤灰褐色	微砂粒を含む (Ⅱb)	良	
201	甕 落ち込み7	口径 11.8	体部から丸く屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ヘラ削リ。	乳茶色	細砂粒を含む	良	
202	同上 落ち込み7	口径 13.8	体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラ削リ。	淡灰褐色	微砂粒を含む (Ⅰb)	良	煤付着
203 三十三	同上 落ち込み7	口径 12.6	楕円形と思われる体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ハケナデ、中位以下磨滅の為不明、内面ヘラ削リ。	乳白褐色	微砂粒を含む (Ⅳ)	良	煤付着
204	同上 落ち込み7	口径 13.0	203と同様。 体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(6本)、内面ヘラ削リ。	外 暗灰褐色 内 灰褐色	微砂粒を含む (Ⅰa)	良	
205 三十三	同上 落ち込み7	口径 14.3	体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(7本)、内面ヘラ削リ。	乳灰褐色	微砂粒を多量に含む (Ⅳ)	良好	
206	同上 落ち込み7	口径 15.1	体部から屈曲し、斜上方へ伸びた後外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ後ヘラナデ、内面ヘラ削リ。	外 淡灰褐色 内 淡灰色	4㎜以下の砂礫粒を含む	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
207	甕 落ち込み7	口径 15.2	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶灰褐色	微砂粒を含む (Ⅰb)	良	
208	同上 落ち込み7	口径 15.4	頸部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、頸部内面ヘラナデ。	外 茶褐色 内 乳茶褐色	細砂粒を含む (Ⅳ)	良	煤付着
209	同上 落ち込み7	口径 16.0	半球形の体部から斜上方へ内彎して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)後ハケナデ(5本)、内面ヘラ削り。	乳茶褐色	粗砂粒を多量に含む (Ⅱc)	良好	
210	同上 落ち込み7	口径 17.0	扁平な半球形の体部から屈曲し、斜上方した後短く外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ後ハケナデ(10本)、中位ハケナデ後ヘラナデ、内面ヘラ削り。	淡褐灰色	微砂粒を含む (Ⅰa)	良	
211	同上 落ち込み7	口径 17.0	肩部に張りのない球形の体部から屈曲し、外上方に伸びる口縁部に至る。口縁部は端部付近で器脹れ、端部は外傾する面をもつ。体部下位は欠損。 口縁部外面ハケナデ後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(11本、磨滅の為不明瞭)、内面上位ハケナデ(9本)、中位以下磨滅の為不明。	淡乳褐色	粗砂粒を含む (Ⅴ)	良	
212	同上 落ち込み7	最大径17.4	球形の体部から屈曲し、外上方に伸びる口縁部に至る。端部は欠損。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位タタキ(5本)、中位以下ハケナデ(6本)後ナデ、内面ヘラ削り。	乳灰褐色	微砂粒を含む (Ⅰa)	良	
213	同上 落ち込み7	口径 14.9	球形と思われる体部からやや鋭く屈曲し、外上方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は肥厚する。体部外面上位1帯(3条)の波状文を有す。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラナデ、内面ヘラ削り。	乳灰褐色	微砂粒を多量に含む (Ⅳ)	良	
214 三十四	同上 落ち込み7	口径 14.4	半球形に近い体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部外面上位に1帯(2本)の波状文を有す。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(11本)、内面ヘラ削り。	外 淡茶褐色 内 乳灰褐色	微砂粒を多量に含む (Ⅵ)	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
215 三十四	甕 落ち込み7	口径 15.1	球形と思われる体部から丸く屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部外面上位にヘラ刻みを有す。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(11本)後一部ヘラナデ、内面ヘラ削り。	乳茶色	微砂粒を含む (Ⅱc)	良	煤付着
216 三十四	同上 落ち込み7	口径 15.0	中位に張りをもつ体部から丸く屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾し凹面をもつ。体部外面上位に1帯(1条)の波状文を有す。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(7本)、内面ヘラ削り。	乳灰色	微砂粒を多量に含む (Ⅳ)	良好	煤付着
217 落ち込み7	同上	口径 15.6	上内方へ緩やかに内彎して伸びる体部から鋭く屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヨコナデ後ハケナデ、内面ヘラ削り。	外 黒灰色 内 乳灰褐色	微砂粒を含む (Ⅳ)	良	煤付着
218 落ち込み7	同上	口径 16.1	球形の体部から屈曲し、斜上方へ内彎して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位・下位ナデ、中位ハケナデ(10本)、内面ヘラ削り、下位指頭痕。	淡灰茶色	3㎜以下の砂礫粒を含む(Ⅳ)	良	煤付着
219 三十四	同上 落ち込み7	口径 16.1	体部から丸く屈曲し、外上方に外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾し凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(13本)、内面ヘラ削り。	淡乳灰褐色	細砂粒を含む (Ⅱb)	良	
220 三十四	同上 落ち込み7	口径 14.8	半楕円形の体部から丸く屈曲し、斜上方へ内彎して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(11本)、内面ヘラ削り、上位指頭痕。	乳茶灰色	微砂粒を多量に含む (Ⅵ)	良	
221 落ち込み7	同上	口径 19.0	体部からやや鋭く屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)、内面ヘラ削り。	黒灰色	5㎜以下の砂礫粒を含む(Ⅰb)	良好	
222 三十四	同上 落ち込み7	口径 15.8	半球形と思われる体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上下に肥厚し面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(7本)後ヘラナデ、内面ヘラ削り。	外 黒灰色 内 淡灰褐色	6㎜以下の砂礫粒を含む(Ⅰa)	良	煤付着

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
223	甕 落ち込み7	口径 15.4	口縁部は外上方へ外反して伸び、端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(5本)後ヨコナデ、体部内面ヘラ削リ。	外 黒灰褐色 内 茶灰褐色	微砂粒を少量含む (Ⅰa)	良	
224	同上 落ち込み7	口径 17.8	体部からやや鋭く屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は肥厚し、凹面をもつ。体部上位に波状文を有す。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(7本)後ヨコナデ、内面ヘラ削リ。	乳灰褐色	微砂粒を少量含む (Ⅵ)	良好	煤付着
225	同上 落ち込み7	口径 16.8	内上方へ緩やかに内彎して伸びる体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾し凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(13本)、内面ヘラ削リ。	乳赤灰色	微砂粒を多量に含む (Ⅵ)	良好	
226 三十四	同上 落ち込み7	口径 12.0	直線的に上内方に伸びる体部から鋭く屈曲し、水平気味に外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、鋭く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ後ヨコナデ、内面ヘラ削リ。	淡灰褐色	精良	良	
227 三十四	同上 落ち込み7	口径 12.0	上内方へ内彎気味に伸びる体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまみ、鋭く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ヘラ削リ・指頭痕。	外 乳赤褐色 内 暗乳灰色	微砂粒を含む	良	
228 三十四	同上 落ち込み7	口径 13.0	227とほぼ同様。 体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(12本)、内面指ナデ・指頭痕。	乳灰褐色	精良 (Ⅱd)	良	
229	同上 落ち込み7	口径 14.8	226とほぼ同様。 体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ?、内面ナデ。	外 暗茶灰色 内 茶褐色	微砂粒を含む (Ⅱd)	良好	
230 三十五	同上 落ち込み7	口径 16.6	球形と思われる体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。端部外面に2本の沈線、体部内面上位に接合痕を有す。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ハケナデ後ヨコナデ、中位以下ハケナデ(10本)、内面上位ヘラ削リ後指ナデ、中位以下ヘラ削リ。	暗灰褐色	微砂粒を含む	良好	煤付着

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
231 三十五	甕 落ち込み7	口径 11.8	体部から丸く屈曲し、短く内彎して伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ヘラ削リ？。	乳褐色	微砂粒を含む (Ⅳ)	良	
232 三十五	同上 落ち込み7	口径 17.2	口縁部は上外方へ伸び、端部は内傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面磨滅の為不明。	乳茶色	粗砂粒を含む (Ⅵ)	良	
233 三十五	同上 落ち込み7	口径 11.4	口縁部は斜上方へ外反して伸び、端部は長くつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	乳茶色	精良	良	
234 三十五	同上 落ち込み7	口径 12.4	口縁部は水平気味に外反し、端部は長くつまみ上げる。外面に9本の沈線を有す。体部は欠損。吉備地方の酒津式土器の特徴をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ。	乳褐色	細砂粒を含む (Ⅱa)	良	煤付着
235 三十五	同上 落ち込み7	口径 12.8	234と同様。 外面に6本の沈線を有す。体部は欠損。吉備地方の酒津式土器の特徴をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削リ。	淡赤茶褐色	微砂粒を含む (Ⅱa)	良	
236 三十五	同上 落ち込み7	口径 14.0	234と同様。 外面に6本の沈線を有す。体部は欠損。吉備地方の酒津式土器の特徴をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削リ。	黒灰色	細砂粒を含む (Ⅱa)	良	煤付着
237 三十五	同上 落ち込み7	口径 14.0	234とほぼ同様。 体部は欠損。吉備地方の酒津式土器の特徴をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ヘラ削リ。	乳茶褐色	微砂粒を含む (Ⅱa)	良	
238 三十五	同上 落ち込み7	口径 14.9	234とほぼ同様。 外面に8本の沈線を有す。体部は欠損。吉備地方の酒津式土器の特徴をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ヘラ削リ。	外 乳茶灰色 内 暗灰色	細砂粒を含む (Ⅱa)	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
239 三十五	甕 落ち込み7	口径 15.6	234と同様。 外面に8本の沈線を有す。体部は欠損。吉備地方の酒津式土器の特徴をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡乳褐灰色	微砂粒を含む (Ⅱa)	良	
240 三十五	同上 落ち込み7	口径 15.8	234と同様。 外面に6本の沈線を有す。体部は欠損。吉備地方の酒津式土器の特徴をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡褐灰色	微砂粒を含む (Ⅱa)	良	
241 三十五	同上 落ち込み7	口径 12.6	体部から丸く屈曲し、斜上方へ短く外反した後上外方へ外反して伸びる複合口縁部となる。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡乳褐色	微砂粒を含む (Ⅱd)	良	
242 三十五	同上 落ち込み7	口径 14.0	241と同様。 体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	乳茶褐色	微砂粒を含む (Ⅲ)	良	
243	同上 落ち込み7	口径 17.7	半球形の体部から屈曲し、斜上方へ内彎して伸びる口縁部に至る。端部は外方に肥厚し、面をもつ。体部外面上位に5本の沈線を有す。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ヨコナデ、中位ハケナデ(9本)、内面ヘラ削り。	淡乳褐色	5mm以下の砂礫粒を含む	良	
244 三十五	同上 落ち込み7	口径 16.0	上内方へ内彎気味に伸びる体部からやや鋭く屈曲し、外上方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面磨滅の為不明、内面ヘラ削り。	淡茶褐灰色	4mm以下の砂礫粒を含む(Ⅳ)	良	煤付着
245 三十五	同上 落ち込み7	口径 13.6	楕円形の体部から屈曲した短い頸部をもち、斜上方へ内彎して伸びる口縁部に至る。端部は平坦な面をもつ。体部外面上位に5本の沈線を有す。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ナデ、中位ハケナデ後ヘラナデ、下位磨滅の為不明、内面ヘラ削り。	淡乳褐色	微砂粒を含む (Ⅳ)	良	煤付着
246	同上 落ち込み7	口径 13.9	体部から屈曲し、斜上方へ内彎して伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面磨滅の為不明、内面ヘラ削り。	外 淡茶灰色 内 淡茶色	5mm以下の砂礫粒を含む(Ⅵ)	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
247	甕 落ち込み7	口径 15.8	246とほぼ同様。 体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(7本)、内面ヘラ削り。	乳茶灰色	細砂粒を含む (Ⅴ)	良	
248	同上 落ち込み7	口径 15.0	246とほぼ同様。 体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ、体部内面ヘラ削り。	乳茶色	微砂粒を含む (Ⅳ)	良好	
249	同上 落ち込み7	口径 16.0	半球形の体部から丸く屈曲し、斜上方へ内彎して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(9本)、内面ヘラ削り。	乳茶褐色	微砂粒を少量含む (Ⅱb)	良	
250	同上 落ち込み7	口径 16.0	体部から丸く屈曲し、斜上方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ヘラ削り。	乳茶褐色	微砂粒を含む (Ⅱb)	良	
251	同上 落ち込み7	口径 17.6	体部から丸く屈曲し、上外方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡乳赤茶色	微砂粒を含む (Ⅵ)	良	
252	同上 落ち込み7	最大径24.1	丸底の底部から、張りのある球形の体部に至る。口縁部は欠損。 体部外面上位ハケナデ後ヨコナデ、中位ハケナデ(11本)、下位ハケナデ後ヘラナデ、内面ヘラ削り。	淡灰褐色	細砂粒を含む (Ⅰa)	良	煤付着
253 三十六	鉢 SK12	口径 14.0	上外方へ内彎気味に伸びる体部から屈曲し、外上方へやや外反して伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ヘラ削り。	淡黄茶色	1.5 mm以下の細砂粒を含む	良	
254	鉢 ? SK12	底径 4.6	底部は突出する上げ底で、端部は丸い。体部は欠損。 体部外面ハケナデ後指ナデ、内面ナデ、底部ナデ。	淡茶灰色	細砂粒を少量含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
255	坏 (土師器) SK12	口径 14.2	口縁部は斜上方へ内彎して伸び、端部はつまみ上げる。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶色	微砂粒を少量含む	良	
256	高坏 SK12	口径 14.0	浅い椀形の坏部から、上外方へ内彎して伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚し平坦な面をもつ。脚部は欠損。 坏部外面上位ヨコナデ、下位ハケナデ、内面ナデ。	茶褐色	微砂粒を少量含む	良	
257	同上 SK12	口径 15.1	256とほぼ同様。 口縁部は上外方へ内彎して伸び、端部は凹面をもつ。脚部は欠損。 坏部内外面ナデ。	外 茶褐色 内 淡褐色	微砂粒を少量含む	良	
258	同上 SK12	口径 13.7	256と同様。 坏部外面上位ヨコナデ、下位ハケナデ、内面ナデ後暗文。	外 淡茶灰色 内 茶褐色	微砂粒を少量含む	良	
259	同上 SK12	口径 26.2	平坦な坏底部から屈曲し、大きく外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外方へつまみ、丸い。脚部は欠損。 坏部外面上位・下位ヨコナデ、他磨滅の為不明。	外 茶褐色 内 乳茶褐色	細砂粒を含む	良	
260	同上 SK12	口径 12.0	体部から屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は内へ肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	淡灰褐色	微砂粒を含む	良	
261	同上 SK12	口径 13.4	口縁部は外上方へ直線的に長く伸び、端部は肥厚気味に丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶褐色	微砂粒を少量含む	良	
262	同上 SK12	口径 15.2	口縁部は上外方に伸び、端部は肥厚気味で内傾する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	外 淡灰褐色 内 茶褐色	精良、微砂粒を含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
263	甕 SK12	口径 18.8	体部から丸く屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ後ヨコナデ、内面ヨコナデ。	灰褐色	微砂粒を含む	良	
264	同上 SK12	口径 21.0	球形と思われる体部からやや鋭く屈曲し、斜上方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は内傾し平坦な面をもつ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(3本)、内面ヘラ削り。	淡茶褐色	2mm以下の粗砂粒を含む	良	
265 三十六	小型丸底壺 SK13	口径 7.2 器高 7.9	扁平な球形の体部からやや鋭く屈曲し、斜上方へ長く伸びる口縁部に至る。端部は鋭く尖る。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ,体部外面ヘラナデ、内面上位・中位ヘラ削リ、下位指ナデ。内面ヘラナデ。	乳灰褐色	微砂粒を含む	良	黒斑有
266	同上 SK12	最大径 8.0	扁平な球形の体部から鋭く屈曲し、上外方に伸びると思われる口縁部に至るが、口縁部は半ばで欠損。底部はやや丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位ハケナデ後ヘラミガキ、中位ヘラ削リ、下位ヘラ削リ後ヘラミガキ。	外 乳灰色 内 乳灰茶色	細砂粒を含む	良	
267	小型壺 SK13	口径 9.8	口縁部は上外方に伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ・一部ヘラ削リ、内面ヨコナデ。	茶灰色	微砂粒を少量含む	良	
268	甕 SK13	口径 14.0	体部から丸く屈曲し、斜上方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削り。	乳灰褐色	細砂粒を含む	良	
269	同上 SK13	口径 15.8	体部から屈曲し、斜上方に伸びる口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	乳灰茶色	微砂粒を含む	良	
270 三十六	大型器台 (須恵器) SK14	口径 36.2	椀形の受部をもち,口縁部は水平に外反し、端部は鈍く尖る。受部外面上位・中位に凸線をそれぞれ2条、下位に1条巡らし、その間には1帯10条の波状文を2帯有す。 受部内外面ヨコナデ。	外 灰青色 内 淡灰青色	細砂粒を含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
271 三十六	小型壺 SK14	口径 10.4	体部から鋭く屈曲し、上外方へ長く直線的に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部外面磨滅の為不明瞭（ヘラミガキと思われる。）、内面ヨコナデ、体部外面ヨコナデ、内面ナデ。	淡茶褐色	細砂粒を含む	良	
272 三十六	平底鉢 SK14	底径 9.5	平坦で大きな平底の底部から屈曲し、上外方に直線的に伸びる体部に至る。底部に方形の固定痕が認められる。上部は欠損。 体部外面中位格子タタキ、下位ヘラ削り、内面中位ナデ、下位ヨコナデ、底部ナデ。	外 淡茶灰色 内 淡灰茶色	微砂粒を少量含む	良	韓式系土器
273 三十六	高坏 SK14	口径 13.5 器高 10.2 底径 8.9	椀形の坏部から短く直立気味に立つ口縁部に至る。端部は外に面をもつ。脚部は長い中空の柱状部から外反する短い裾部に至り、裾端部は外傾する平坦な面をもつ。坏部と柱状部間に接合痕を有す。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後暗文、坏部外面ハケナデ(９本)後ヨコナデ、内面ナデ後暗文、柱状部外面ヘラナデ、内面しぼり目、脚部外面ヘラナデ、内面ハケナデ・指ナデ。	外 茶灰色 内 淡茶灰色	微砂粒を少量含む	良	
274 三十六	同上 SK14	口径 12.1 器高 10.5 底径 8.2	273とほぼ同様。 口縁部内外面ヨコナデ、坏部外面ハケナデ、内面ナデ後暗文、柱状部内外面ヘラ削り、脚部外面ヘラナデ、内面指頭痕後ハケナデ。	外 乳灰茶色 内 乳赤茶色	5㎜以下の砂礫粒を少量含む	良	完形 黒斑有
275 三十六	同上 SK14	口径 12.8 器高 10.5 底径 8.1	273とほぼ同様。 裾端部は丸い。 口縁部内外面剝離の為不明、坏部外面ハケナデ(８本)、内面剝離の為不明、柱状部外面ヘラ削り、内面くりぬき、脚部内外面剝離の為不明。	淡茶褐色	7㎜以下の砂礫粒を含む	良	
276 三十七	同上 SK14	口径 12.6 器高 11.3 底径 8.5	273とほぼ同様。 口縁部端部はやや水平な面をもつ。 口縁部外面ヨコナデ後ハケナデ、内面ヨコナデ、坏部外面ハケナデ(８本)、内面ナデ後暗文、柱状部外面ヘラナデ、内面くりぬき、脚部外面剝離の為不明、内面指頭痕後ハケナデ。	淡乳赤茶色	細砂粒を含む	良好	
277 三十七	同上 SK14	口径 14.0 器高 12.2 底径 9.0	273とほぼ同様。 口縁部内外面ヨコナデ、坏部外面ハケナデ、内面ヨコナデ・ナデ、柱状部外面ヘラ削り、内面くりぬき、脚部外面ナデ、内面ハケナデ後指頭痕。	外 淡茶褐色 内 乳灰褐色	細砂粒を少量含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
278 三十七	高坏 SK14	口径 13.6 器高 10.5 底径 9.5	273とほぼ同様。 柱状部中位はややふくらむ。 口縁部外面ヨコナデ、坏部外面中位指頭痕後ナデ、下位ヘラ削リ、内面ナデ、柱状部外面ヘラナデ、内面しぼり目、脚部内外面ナデ。	外 淡茶褐色（一部白色） 内 乳茶色	微砂粒を少量含む	良	
279	同上 SK14	底径 8.5	下外方へ伸びる柱状部から緩やかに屈曲して外下方へ直線的に伸びる裾部に至る。裾端部は丸い。坏部は欠損。 柱状部外面ヘラナデ、内面くりぬき、脚部外面ヘラナデ、内面指ナデ。	外 淡茶灰 内 茶褐色	微砂粒を少量含む	良	
280	同上 SK14	底径 9.0	279とほぼ同様。 裾端部は外傾する面をもつ。坏部は欠損。 柱状部外面ヘラナデ、内面しぼり目、脚部外面ヘラナデ、内面ハケナデ。	外 乳灰赤色 内 乳灰茶色	3㎜以下の砂礫粒を含む	良	
281	同上 SK14	底径 8.4	279とほぼ同様。 裾部上位二方に円孔を有す。 柱状部外面ヘラナデ、内面しぼり目後ヘラ削リ、脚部外面ヘラナデ、内面指ナデ。	淡茶赤色	微砂粒を少量含む	良好	
282	同上 SK14	底径 8.8	279とほぼ同校。 柱状部下位三方に円孔を有す。 柱状部外面ヘラ削り後ハケナデ、内面ヘラ削り、脚部内外面ナデ。	外 淡乳灰褐色 内 淡茶褐色	微砂粒を少量含む	良	
283	同上 SK14	底径 9.2	279とほぼ同様。 柱状部下位二方に円孔を有す。 柱状部上位ハケナデ、下位ヘラナデ、内面しぼり目、脚部内外面ナデ。	外 淡茶灰色 内 淡茶褐色	砂礫粒を少量含む	良	
284	甕 SK14	口径 17.5	体部から丸く屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面剥離の為不明。	淡茶灰色	5㎜以下の砂礫粒を含む	良	
285	同上 SK14	口径 20.0	体部から屈曲し、斜上方に伸びる口縁部に至り、中ほどで肥厚する。端部は内傾し凹面をもつ。頸部内面に接合痕を有す。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	淡茶灰色	微砂粒を多量に含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
286	甕 SK14	口径 20.5	体部から屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部はわずかに内傾し凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	淡茶褐色	細砂粒を含む	良	
287 三十七	同上 SK14	口径 18.0 器高 31.8	楕円形の体部から丸く屈曲し、上外方へ内彎して伸びる口縁部に至る。端部は平坦な面をもつ。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラナデ、内面ヘラ削り、底部内面指頭痕。	外 乳褐灰色 内 灰色	細砂粒を多量に含む	良	
288 三十七	同上 SK14	口径 18.6 器高 29.5	楕円形の体部から丸く屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部外面下位に焼成後の穿孔を2ヶ有す。体部内面に4ヶ所接合痕を有す。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ後ヨコナデ、体部外面ヘラナデ後ハケナデ(9本)、内面ナデ、接合痕上指頭痕、底部内面指頭痕。	外 乳灰褐色 内 淡茶灰色	4mm以下の砂礫粒を多量に含む	良	
289	高坏 落ち込み4	口径 22.9	平坦な坏底部から屈曲し、斜上方へ長く外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 坏部外面ヨコナデ、内面剝離の為不明。	乳灰褐色	微砂粒を多量に含む	良	黒斑有
290	甕 落ち込み4	口径 18.6	扁平な半球形と思われる体部から屈曲し、斜上方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は内に肥厚気味。体部外面上位に1帯1条の波状文を有す。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(4～8本)、内面ヘラ削り。	外 暗茶灰色 内 淡灰褐色	5mm以下の砂礫粒を含む	良	
291 三十八	坏蓋 (須恵器) 落ち込み5	口径 11.6 器高 4.6 稜径 11.2 天井部高 2.8	丸い天井部から短く外反して鈍い稜に至り、下外方に下る口縁部に至る。端部は内傾し、凹面をもち外側で接地する。 口縁部外面ヨコナデ、天井部外面¾回転ヘラ削り、内面回転ナデ。	外 乳灰色 内 灰色	粗砂粒を少量含む	良好	ロクロ 左方向
292 三十八	同上 落ち込み5	口径 12.8 器高 4.8 稜径 13.1 天井部高 2.6	丸味をもつ天井部から鈍い稜に至り、垂直気味に下る口縁部に至る。端部は内傾し、凹面をもち外側で接地する。 口縁部内外面回転ナデ、天井部外面¾回転ヘラ削り、内面回転ナデ。	青灰色	微砂粒を少量含む	良好	ロクロ 左方向
293	同上 落ち込み5	口径 13.0	丸味をもつ天井部から稜の痕跡有りと思われる稜に至り、下外方に下る口縁部に至る。端部は内傾し平坦な面をもち、外側で接地する。天井部外面½回転ヘラ削り、他回転ナデ。	淡青灰色	微砂粒を少量含む	良	ロクロ 左方向

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
294	坏蓋 (須恵器) 落ち込み5	口径 11.2 稜径 10.7	鈍い稜から垂直気味に下る口縁部に至る。端部は内傾し凹面をもち外側で接地する。天井部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ。	外 淡灰色 内 淡白灰青色	粗砂粒を少量含む	良好	ロクロ 灰がぶり
295 三十八	坏身 (須恵器) 落ち込み5	口径 10.6 器高 4.6 立ち上り高 2.0 受部径12.7 底体部高 2.7	平坦に近い底体部から斜上方へ外反して伸びる受部に至る。受部は外上方し、立ち上りは内傾して伸びた後直立し、端部は丸い。 口縁部内外面回転ナデ、底体部外面⅔回転ヘラ削リ、内面不定方向ナデ。	外 淡茶灰色 内 淡茶色	細砂粒を含む	良	ロクロ 右方向
296 三十八	同上 落ち込み5	口径 9.6 器高 4.6 立ち上り高 1.7 受部径12.7 底体部高 3.0	丸味をもつ底体部から斜上方へ外反して伸びる受部に至る。受部は水平気味で、立ち上りは内傾して伸び、端部はやや内傾し凹面をもつ。 底体部外面⅔回転ヘラ削リ、内面回転ナデ、立ち上り外面回転ナデ。	淡灰色	微砂粒を少量含む	良好	ロクロ 右方向
297 三十八	同上 落ち込み5	口径 12.0 器高 5.1 立ち上り高 1.7 受部径14.4 底体部高 3.6	平坦気味で凹凸のある内面の底体部から外反して伸びる受部に至る。受部は水平方向に伸び、立ち上りは内傾して伸び、端部は内傾し凹面をもつ。 底体部外面¼回転ヘラ削リ、内面回転ナデ、立ち上り外面回転ナデ。	外 淡灰色 内 淡灰青色	粗砂粒を少量含む	良好	ロクロ 左方向
298 三十八	同上 落ち込み5	口径 11.4 器高 5.2 立ち上り高 1.7 受部径13.5 底体部高 3.6	丸味をもつ底体部から外上方へ外反して伸びる受部に至る。受部は水平に伸び、上面に凸面を有す。立ち上りは内傾して伸び、端部は鈍く尖る。 底体部外面⅔回転ヘラ削リ、内面不定方向ナデ、立ち上り内外面回転ナデ。	淡灰青色	7mm以下の砂礫粒を含む	良好	ロクロ 左方向
299 三十八	同上 落ち込み5	口径 11.0 器高 5.2 立ち上り高 1.7 受部径13.5 底体部高 3.6	丸味をもつ底体部から外反して伸びる受部に至る。受部は外上方に伸び、立ち上りは内傾して伸び、端部は内傾し凹面をもつ。 底体部外面⅓回転ヘラ削リ、内面回転ナデ、底部内面一部タタキ、立ち上り内外面回転ナデ。	淡灰青色	細砂粒を少量含む	良好	ロクロ 左方向
300 三十八	同上 落ち込み5	口径 14.0 器高 5.6 立ち上り高 2.2 受部径16.4 底体部高 3.4	丸味をもち凹凸のある内面の底体部から外反して伸びる受部に至る。受部は水平方向に伸び、立ち上りは内傾して伸び、端部は肥厚気味に丸い。 底体部外面¼回転ヘラ削リ、内面回転ナデ、立ち上り内外面回転ナデ。	青灰色	細砂粒を少量含む	良好	ロクロ 左方向 ヘラ記号有
301 三十八	椀形鉢 (須恵器) 落ち込み5	口径 12.0	上外方へ緩やかに内彎して鈍い稜に至り、稜は短く水平方向に伸びる。立ち上りは直上して端部付近で外反し、端部は丸い。稜と沈線の間に1帯1条の波状文を有す。底部は欠損。 内外面回転ナデ。	灰色	微砂粒を少量含む	良	ロクロ 一部 灰かぶり

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
302	壺 (須恵器) 落ち込み5	口径 14.2	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は外に肥厚し、外端面に緩やかな凸面をもつ。外面中位に1帯1条の波状文を有す。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ。	淡灰青色	5mm以下の砂礫粒を含む	良	ロクロ
303	同上 落ち込み5	口径 18.0	口縁部は斜上方へ外反して伸び、端部は上方に肥厚し、外端面は凸面をもち、下方に1帯の凸線を巡らす。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ。	乳白灰色	微砂粒を少量含む	やや不良	ロクロ
304	壺 落ち込み5	口径 20.4	口縁部は斜上方へ外反気味に大きく開き、端部は内傾し凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ハケナデ(9本)後ヨコナデ、内面ヨコナデ。	外 黒灰色 内 淡灰褐色	微砂粒を含む	良	煤付着
305 三十九	同上 落ち込み5	口径 14.3 器高 26.7	球形の体部から丸く屈曲し、上外方へ外反して伸びた後短く立ち上る口縁部に至る。端部は内傾し平坦な面をもつ。底部は丸底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(5本)、内面ヘラ削り。	外 淡乳灰褐色 内 淡乳灰色	4mm以下の砂礫粒を含む	良	黒斑有
306 三十九	同上 落ち込み5	口径 17.8	楕円形の体部から屈曲し、上方に外反した後わずかに屈曲して外反する口縁部に至る。端部は丸い。頸部から体部上位の内面にかけて5ヶ所接合痕を有す。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面上位ナデ、下位ヘラナデ。	乳灰褐色	4mm以下の砂礫粒を含む	良	
307 三十九	坏 落ち込み5	口径 10.8 器高 5.6	扁平な半球形の体部からそのまま内彎して伸びる口縁部となる。端部は内傾し凹面をもつ。底部は丸底。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヘラ削り、坏部外面ナデ後ハケナデ(10本)、内面上位ヘラ削り、下位ナデ。	外 茶褐色 内 淡茶褐色	4mm以下の砂礫粒を少量含む	良	
308	同上 落ち込み5	口径 11.0	扁平な半球形と思われる体部から丸く屈曲し、短く上外方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、坏部外面ナデ、内面ヨコナデ。	淡茶黄色	微砂粒を少量含む	良	
309	器台 落ち込み5	口径 9.4	皿形の受部をもち、端部は内方へ肥厚気味に丸い。脚部は欠損。 受部外面ヘラミガキ・一部ナデ、内面ヨコナデ。	淡茶褐色	微砂粒を少量含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
310	高坏 落ち込み5	口径 13.8	浅い坏部をもち、口縁部は外上方に伸び、端部は外に平坦な面をもつ。脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、坏部内外面ヨコナデ・ナデ。	外 淡茶褐色 内 乳灰褐色	微砂粒を含む	良	
311	同上 落ち込み5	口径 15.8	浅い椀形の坏部から、そのまま内彎して伸びる口縁部に至る。端部は平坦な面をもつ。脚部は欠損。 坏部外面上位ヨコナデ、下位ハケナデ、内面磨滅の為不明。	淡茶褐色	細砂粒を含む	良	黒斑有
312	同上 落ち込み5	口径 12.6	椀形の坏部から直上する口縁部に至る。端部は凹面をもつ。 坏部内外面剝離の為不明。	外 淡茶褐色 内 茶褐色	微砂粒を含む	良	
313	同上 落ち込み5	口径 14.4	浅い椀形の坏部から内彎する口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 坏部内外面磨滅の為不明。	外 乳灰褐色 内 淡茶褐色	微砂粒を含む	良	
314	同上 落ち込み5	口径 14.2	椀形の坏部から内彎して伸びる口縁部に至り、端部は内傾する面をもつ。脚部は欠損。 坏部外面上位ヨコナデ、下位ナデ後ハケナデ、内面上位ヘラミガキ、下位ナデ。	淡灰茶色	微砂粒を少量含む	良	黒斑有
315	同上 落ち込み5	口径 15.2	坏底部が突起する椀形の坏部から内彎して伸びる口縁部に至る。端部は平坦な面をもつ。脚部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面暗文・ハケナデ、坏部内外面ナデ。	外 淡茶褐色 内 乳灰色	微砂粒を少量含む	良	
316	同上 落ち込み5	口径 17.8	平坦な坏底部をもつ深い椀形の坏部から緩やかに屈曲し、長く斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、坏部内外面ナデ。	外 乳灰褐色 内 淡茶褐色	細砂粒を少量含む	良	
317	同上 落ち込み5	口径 17.2	平坦な坏底部をもつ浅い椀形の坏底部から緩やかに屈曲し、そのまま長く斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、坏部外面ナデ後ハケナデ、内面ヨコナデ・ナデ。	茶褐色	3mm以下の砂礫粒を含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
318	高坏 落ち込み5	底径 9.6	長く下外方に伸びる柱状部から屈曲し、大きく外下方に外反して伸びる短い裾部に至る。裾端部は外傾し凹面をもつ。柱状部下位三方に円孔を有す。坏部は欠損。 柱状部外面ヘラナデ、内面上位しぼり目、下位くりぬき、裾部内面ハケナデ。	淡茶褐色	微砂粒を少量含む	良	
319	同上 落ち込み5	底径 7.8	318とほぼ同様で、やや小型。 裾端部は丸い。坏部は欠損。 柱状部外面ヘラ削り後ナデ、上位一部ハケナデ、内面しぼり目、裾部外面ナデ、内面ハケナデ。	乳淡茶褐色	微砂粒を含む	良	
320	同上 落ち込み5	底径 11.6	318とほぼ同様。 裾端部は外傾する面をもつ。柱状部下位三方に円孔を有す。坏部は欠損。 柱状部外面ヘラナデ、内面しぼり目、下位指頭痕、裾部外面ナデ、内面ハケナデ。	外 淡灰褐色 内 淡茶褐色	微砂粒を含む	良	
321	同上 落ち込み5	底径 8.5	平坦な坏底部から屈曲し、緩やかに内彎する椀形の坏部と思われる。口縁部は欠損。脚部は長く直線的に下外方する柱状部に至り、斜下方に内彎気味に伸びた後短く水平方向する裾端部に至る。裾端部は外傾する平坦な面をもつ。裾部中位一方に円孔を有す。柱状部と坏部の境に1条の沈線を巡らす。 坏部外面ハケナデ(6本)後ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ・暗文、柱状部外面ヘラナデ、内面しぼり目・ヘラ削り、脚裾部ヘラナデ、下位一部ヨコナデ、内面ハケナデ・ナデ・指頭痕。	乳茶褐色	1cmの礫と微砂粒を含む	良	
322	甕 落ち込み5	口径 14.7	上内方へ緩やかに内彎して伸びる張りのない体部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部・体部外面タタキ(3本)、内面ハケナデ(口縁部4本、体部8本)。	乳灰褐色	5mm以下の砂礫粒を含む	良好	煤付着
323	小型甕 落ち込み5	口径 11.0	張りのない体部から丸く屈曲し、斜上方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(7本)、内面ヘラ削り。	外 暗灰茶色 内 淡灰茶色	微砂粒を含む	良	
324	同上 落ち込み5	口径 11.4	張りがなく直上気味に内彎して伸びる体部から丸く屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(8本)、内面ヘラ削り。	黒灰色	3mm以下の砂礫粒を含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
325	甕 落ち込み5	口径 11.2	体部から屈曲し、上外方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。口縁部外面中位に接合痕を有す。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ナデ。	暗灰褐色	微砂粒を含む	良	
326	同上 落ち込み5	口径 10.2	体部から屈曲し、短く上外方した後直上する口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ナデ・ヘラナデ。	淡茶褐色	細砂粒を少量含む	良	
327	同上 落ち込み5	口径 14.0	体部から丸く屈曲し、斜上方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削リ。	外 淡茶褐色 内 淡灰褐色	微砂粒を含む	良	煤付着
328	同上 落ち込み5	口径 15.3	327とほぼ同様。 体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ナデ。	外 乳灰褐色 内 淡茶褐色	細砂粒を含む	良	
329	同上 落ち込み5	口径 18.2	体部から屈曲し、短く上外方した後上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は内傾し凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ナデ。	淡灰褐色	細砂粒を含む	良	煤付着
330	同上 落ち込み5	口径 18.6	体部から丸く屈曲し、上外方して伸びる口縁部に至る。端部は内傾し凸面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ、体部外面ヘラナデ、内面ナデ・指頭痕。	淡灰茶色	砂礫粒を多量に含む	良	
331	同上 落ち込み5	口径 13.6	体部から丸く屈曲し、斜上方して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。頸部内面に接合痕を有す。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(10本)、内面ナデ。	外 淡灰褐色 内 淡茶褐色	微砂粒を含む	良	
332	同上 落ち込み5	口径 20.2	体部から屈曲して斜上方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ・ヨコナデ。	淡灰茶色	微砂粒を含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
333 三十九	甕 落ち込み5	口径 15.4	張りのある体部から屈曲し、斜上方に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(6本)、内面剝離の為不明。	茶灰色	細砂粒を多量に含む	良	煤付着
334	同上 落ち込み5	口径 15.8	体部から丸く屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ハケナデ(5本)後ヨコナデ、内面ヨコナデ、体部外面ハケナデ後ヘラナデ、内面ヘラ削り。	乳灰茶色	微砂粒を含む	良	
335	高坏 落ち込み6	口径 17.2	坏部は上外方に長く伸びた後そのまま外上方に外反して伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。坏底部・脚部は欠損。 坏部外面ナデ、内面磨滅の為不明。	淡茶褐色	微砂粒を少量含む	良	
336	甕 落ち込み6	口径 14.2	上内方へ緩やかに内彎して伸びる体部から丸く屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラ削り。	淡灰茶褐色	微砂粒を少量含む	良	
337	坏蓋 (須恵器) SD17	口径 12.4 器高 4.6 稜径 12.4 天井部高 2.3	丸味をもつ天井部から鈍い稜に至り、下外方に下る口縁部となる。端部は内傾し凹面をもち、外側で接地する。 天井部½回転ヘラ削り、他回転ナデ。	外 淡灰青色 内 淡灰色	砂礫粒を少量含む	良好	ロクロ 右方向
338 三十九	同上 SD17	口径 13.0 器高 4.5 稜径 12.9 天井部高 2.3	上面平坦な天井部から鈍い稜に至り、下外方に下る口縁部となる。端部は内傾し凹面をもち、外側で接地する。稜の下方に沈線を有す。 口縁部内外面回転ナデ、天井部外面⅔回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ。	淡灰青色	細砂粒を含む	良	ロクロ 右方向
339	同上 SD17	口径 14.9 稜径 13.9	平坦に近いと思われる天井部から鈍い稜に至り、下方に沈線を巡らす。口縁部は下外方に下り、端部は内傾し凹面をもち、外側で接地する。天井部は欠損。 天井部外面⅔回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ、他回転ナデ。	乳灰色	微砂粒を少量含む	やや不良	ロクロ 左方向
340	同上 SD17	口径 12.8	稜の痕跡有りと思われるところから、下外方へ下る口縁部に至り、端部は平面をもつ。天井部は欠損。 天井部回転ヘラ削り。他回転ナデ。	淡灰色	微砂粒を少量含む	良	ロクロ 左方向

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
341	坏蓋 (須恵器) SD17	口径 11.6 稜径 11.6	鈍い稜から垂直に下る口縁部に至る。端部は内傾し段をもち、外側で接地する。天井部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ。	外 暗灰色 内 灰青色	微砂粒を少量含む	良	
342	同上 SD17	口径 16.0 稜径 15.3	平坦に近いと思われる天井部から鋭い稜に至り、下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾し段をもち、外側で接地する。天井部は欠損。 天井部1/3回転ヘラ削り、他回転ナデ。	淡灰色	砂礫粒を少量含む	良	ロクロ 右方向
343	坏身 (須恵器) SD17	口径 12.2 器高 5.0 立ち上り高 1.8 受部径13.5 底体部高 5.3	丸味をもつ底体部から内彎して外上方に伸びる受部に至り、端部は凹面をもつ。立ち上りは受部から内傾して伸び、端部は内傾し凹面をもつ。 底体部1/3回転ヘラ削り、他回転ナデ。	淡灰色	3mm以下の砂礫粒を含む	良好	ロクロ 左方向
344 三十九	同上 SD17	口径 11.2 器高 5.2 立ち上り高 1.8 受部径13.1 底体部高 3.4	丸味をもつ底体部から内彎してやや外上方に伸びる受部に至り、端部は鈍く尖る。立ち上りは内傾して伸び、端部は内傾し凹面をもつ。 底体部1/3回転ヘラ削り、他回転ナデ。	青灰色	砂礫粒を含む	良	ロクロ 左方向 ヘラ記号有
345	同上 SD17	口径 9.9 立ち上り高 1.9 受部径11.4	底体部から斜上方へ内彎して水平方向気味に伸びる受部に至り、端部は鈍く尖る。立ち上りは上内方へ内彎気味に伸び、端部は内傾し凹面をもつ。底体部は欠損。 底体部1/3回転ヘラ削り、他回転ナデ。	灰青色	砂礫粒を少量含む	良好	ロクロ 左方向
346	同上 SD17	口径 10.2 立ち上り高 2.1 受部径12.4	底体部から斜上方へ内彎して外上方に伸びる受部に至り、端部は鈍く尖る。立ち上りは上内方へ内彎気味に伸び、端部は内傾し段をもつ。底体部は欠損。 底体部回転ヘラ削り、他回転ナデ。	淡青灰色	微砂粒を少量含む	良	ロクロ 左方向 外面自然釉付着。 焼成時に口縁片が受部に付着。
347	同上 SD17	口径 10.4 立ち上り高 1.6 受部径12.5	底体部から上外方へ内彎して水平方向に伸びる受部に至り、端部は丸い。立ち上りは内傾して伸び、端部は内傾する平坦な面をもつ。底体部は欠損。 底体部回転ヘラ削り、他回転ナデ。	青灰色	砂礫粒を少量含む	良好	ロクロ 左方向
348	同上 SD17	口径 11.0 立ち上り高 1.8 受部径13.0	底体部から上外方へ内彎して外上方に伸びる受部に至り、端部は鈍く尖る。立ち上りは内傾して伸び、端部は内傾する平坦な面をもつ。底体部は欠損。 底体部回転ヘラ削り、他回転ナデ。	青灰色	微砂粒を含む	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
349	坏身 (須恵器) SD17	口径 10.4 立ち上り高 1.8 受部径12.4	底体部から斜上方へ内彎し、外上方へ伸びる受部に至り、端部は丸い。立ち上りは内傾して伸び、端部は内傾し凹面をもつ。底体部は欠損。 底体部回転ヘラ削リ、他回転ナデ。	淡灰色	微砂粒を少量含む	良	灰かぶり
350	同上 SD17	口径 10.0 立ち上り高 1.7 受部径12.5	底体部から上外方へ内彎し、水平方向に伸びる受部に至り、端部は丸い。立ち上りは内傾して伸び、端部は平坦な面をもつ。底体部は欠損。 底体部回転ヘラ削リ、他回転ナデ。	青灰色	砂礫粒を少量含む	良	ロクロ 左方向
351 三十九	小型壺 (須恵器) SD17	口径 7.6 器高 10.3 最大径 9.2	扁平な球形の体部から、屈曲して上外方に伸びる口縁部に至る。口縁部中位に凸線を1条巡らし、端部は丸い。体部上位一方に穿孔を有す。底部は丸底。 口縁部内外面回転ナデ、体部外面回転ヘラ削リ、下位ナデ、内面回転ナデ、下位ナデ。	淡灰色	4mm以下の砂礫粒を含む	良	ロクロ 左方向
352	大型器台 (須恵器) SD17	口径 31.4	椀形の受部をもつと思われる。上外方へ内彎気味に伸びる受部上位から水平に伸びる口縁部に至り、端部は凸面をもつ。受部には凸線を上位に2条、下位に1条巡らし、その間に1帯8条の波状文を2帯ずつ計4帯を有す。受部下位以下は欠損。 受部内外面回転ナデ。	淡灰色	微砂粒を含む	良好	
353 四十	壺 (須恵器) SD17	口径 19.4	体部から屈曲し、上外方へ長く外反して伸びた後斜上方へ短く伸びる口縁部に至る。端部は上方に肥厚し、下方に1条の凸線を巡らす。口縁部上位と下位に1帯7条の波状文を1帯ずつ2帯を有し、その間に1条の凸線を巡らす。体部は欠損。 口縁部外面下位一部ヘラナデ、他内外面回転ナデ。	淡灰色	微砂粒を含む	良好	ロクロ 左方向
354	鉢 SD17	口径 17.4	椀形と思われる体部から緩やかに屈曲し、短く外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部・体部内外面剝離の為不明。	外 茶褐色 内 淡茶褐色	7mm以下の砂礫粒を含む	やや不良	
355	同上 SD17	口径 24.3	上内方へ内彎気味に伸びる体部から屈曲し、短く外方に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	外 淡茶灰色 内 淡灰褐色	微砂粒を少量含む	良	
356	高坏 SD17	口径 12.5	平坦に近い坏底部から斜上方に内彎して伸びる坏部からそのまま直上気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	淡茶褐色	微砂粒を少量含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
357 四十	高 坏 S D17	口径 12.8	椀形の坏部からそのまま直上気味に伸びる口縁部に至る。端部は平坦な面をもつ。坏底部から屈曲して下外方に伸びる柱状部に至る。裾部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、坏部外面ナデ、内面剝離の為不明、柱状部外面ヘラナデ、内面しぼり目後くりぬき。	外 茶褐色 内 淡灰茶色	3mm以下の砂礫粒を含む	良	
358 四十	同 上 S D17	口径 15.0	357とほぼ同様。 脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、坏部外面ナデ後ハケナデ後暗文。	外 淡茶褐色 内 乳灰褐色	微砂粒を含む	良	
359 四十	同 上 S D17	口径 13.5	椀形の坏部から丸く屈曲し内彎して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、坏部外面ハケナデ後ナデ、内面暗文。	外 淡茶褐色 内 淡灰褐色	微砂粒を少量含む	良	
360 S D17	同 上	口径 13.6	357とほぼ同様。 坏底部・脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、坏部外面ハケナデ(6本)後ナデ、内面暗文。	外 淡茶褐色 内 乳茶褐色	微砂粒を含む	良	
361 四十	同 上 S D17	口径 14.0	359とほぼ同様。 脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、坏部外面剝離の為不明、内面ヘラナデ・ナデ。	外 淡灰褐色 内 淡茶褐色	微砂粒を含む	良	
362 四十	同 上 S D17	口径 13.2	357とほぼ同様。 端部は丸い。脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、坏部外面ナデ、内面剝離の為不明。	外 淡茶褐色 内 淡灰褐色	微砂粒を少量含む	良	
363 S D17	同 上	口径 15.6	浅い椀形の坏部からそのまま上外方に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。 坏底部・脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、坏部内外面剝離の為不明。	淡茶灰色	微砂粒を少量含む	良	
364 S D17	同 上	口径 13.2	浅い坏部から直上気味に伸びる口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。 坏底部・脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、坏部外面ヘラナデ後ナデ、内面ナデ。	外 黒灰色 内 淡茶灰色	微砂粒を少量含む	良	黒斑有

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
365	高 坏 S D17	口径 15.8	363とほぼ同様。 端部は内傾する面をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、坏部外面ハケナデ後ナデ、内面剝離の為不明。	外 淡灰褐色 内 淡茶褐色	3㎜以下の砂礫粒を含む	良	煤付着
366 四十	甑 S D17	口径 22.8	直上気味に伸びる筒形の体部から緩やかに屈曲し、短く外方に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部中位に牛角形の把手を2個有す。体部下位は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面剝離の為不明、体部内外面ハケナデ(6本)。	乳茶色	3㎜以下の砂礫粒を含む	良	
367	壺 S D17	口径 12.4	口縁部は斜上方に伸びた後水平に伸びる。端部は外に面をもち、上下に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ハケナデ後ナデ。	外 淡茶灰色 内 乳灰褐色	細砂粒を含む	良	
368	鉢 S D17	口径 10.8	内彎して上方に伸びる体部から屈曲し、斜上方に外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面上位指頭痕。	外 灰褐色 内 灰色	4㎜以下の砂礫粒を含む	やや不良	
369	甕 S D17	口径 15.4	上内方へ内彎して伸びる体部から緩やかに屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面磨滅の為不明、内面ヘラ削り。	茶灰色	4㎜以下の砂礫粒を多量に含む	やや不良	
370	同 上 S D17	口径 16.4	体部から屈曲し、直上する口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(6本)、内面ナデ。	外 灰茶色 内 茶灰色	粗砂粒を含む	良	
371	小型甕 S D17	口径 11.6	体部から屈曲して、上外方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ヨコナデ。	外 淡茶褐色 内 乳灰褐色	細砂粒を含む	良	
372	甕 S D17	口径 13.6	口縁部は上外方に伸び、端部は凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	外 茶灰色 内 淡茶灰色	2㎜以下の粗砂粒を含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
373	甕 SD10	口径 19.0	内上方へ内彎して伸びる体部から鋭く屈曲し、斜上方へ内彎して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラナデ、内面指ナデ・指頭痕。	淡茶灰色	微砂粒を少量含む	良	
374	同上 SD10	口径 19.0	体部から鋭く屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は内傾し凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(5本)、内面指ナデ。	外 淡茶灰色 内 淡灰褐色	微砂粒を含む	良	
375 四十	坏蓋 (須恵器) 落ち込み10	口径 12.4 器高 5.4 稜径 12.3 天井部高 3.3 つまみ径 2.8	丸味をもつ天井部から鋭い稜に至り、垂直に下る口縁部に至る。端部は内傾し凹面をもち、外側で接地する。天井部中央に上面凹状のつまみをもつ。 天井部1/3回転ヘラ削り、他回転ナデ。	淡灰色	3mm以下の砂礫粒を含む	良好	ロクロ 右方向 鉄粉付着
376 四十	小型壺 落ち込み10	口径 7.4 器高 9.4 最大径 9.7	扁平な球形の体部から鋭く屈曲し、斜上方へ内彎気味に長く伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。口縁部の上位に波状文1帯(5条)、下位に刺突文を有し、その間に凸線1条を巡らし、体部中位一方に穿孔を有す。底部は丸底。 口縁部・体部内外面回転ナデ、底部外面ナデ。	外 淡灰色 内 淡灰茶色	3mm以下の砂礫粒を少量含む	良好	ロクロ 左方向 ヘラ記号有 自然釉付着
377	甕 落ち込み10	口径 12.0	体部から丸く屈曲し、外上方に外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面磨滅の為不明、内面ナデ。	茶灰色	2mm以下の粗砂粒を含む	良	
378	小型壺 (須恵器) SE2	口径 9.0	口縁部は上外方に長く外反気味に伸び、端部は丸い。口縁部下位に2本の沈線を巡らす。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ。	灰色	1mm以下の細砂粒を含む	良好	ロクロ 自然釉 灰かぶり
379 四十一	壺 (須恵器) SE2	口径 15.2	口縁部は上外方に長く伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ。	灰色	精良 3mm以下の砂礫粒を含む	良好	ロクロ 自然釉 灰かぶり
380 四十一	土師椀 SE2	口径 11.9 器高 3.7	斜上方に内彎して伸びる体部からそのまま上外方へ内彎して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部外面ヘラミガキ、内面ヨコナデ、体部外面ナデ後指頭痕、内面ナデ後螺旋状暗文	乳灰褐色	微砂粒を少量含む	良好	完形

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
381 四十一	土師皿 SE2	口径 18.7 器高 4.0	広い平坦な底部から屈曲し、上外方へ外反気味に立ち上る口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。底部欠損。 口縁部外面ヘラミガキ、内面放射状暗文・螺旋状暗文。	外 乳褐灰色 内 淡褐灰色	微砂粒を含む	良	
382 四十一	鉢 SE2	口径 26.4	浅い椀形と思われる体部から上外方へ内彎して伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、上に凹面をもつ。底部は欠損。 口縁部・体部外面ナデ、内面ハケナデ。	淡灰褐色	5mm以下の砂礫粒を多量に含む	良好	
383 四十一	甕 SE2	口径 14.4	丸味をもつ体部から緩やかに屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラナデ。	外 茶褐色 内 乳茶褐色	微砂粒を少量含む	良好	煤付着
384 SE2	同上	口径 15.7	体部から丸く屈曲し、一旦短く斜上方した後外上方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方へ肥厚する。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ、体部外面ハケナデ(8本)、内面ヘラ削り。	乳茶褐色	微砂粒を少量含む	良好	
385 四十一	同上 SE2	口径 12.6 器高 13.1	下位に張りをもつ球形の体部から丸く屈曲して外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。口縁部は叙々に肥厚し、端部は外傾し凹面をもつ。底部は丸底。 口縁部外面ハケナデ後ヨコナデ、内面ハケナデ(7本)、体部外面ハケナデ(10本)・一部ヘラ削り、内面上位ヘラ削り、下位ヘラナデ。	外 淡茶灰色 内 淡灰色	微砂粒を少量含む	良好	
386 四十一	同上 SE2	口径 17.0	長胴形の体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。底部は欠損。 口縁部外面ナデ、内面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(10本)、内面ヘラ削り後ヘラナデ。	黒褐色	微砂粒を少量含む	良好	煤付着
387 SE2	同上 (須恵器)	口径 21.0	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は外傾し凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ。	灰色	微砂粒を少量含む	良好	
388 落ち込み8	壺 (須恵器)	口径 10.0	口縁部は長く上外方に伸び、端部は丸い。下位に2本の凹線を巡らす。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ。	暗灰色	精良	良好	自然釉付着

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
389 四十二	タコ壺 (須恵器) 落ち込み8		天井部に半球形の把手をもち、円孔（径約1.2cm)を有す。体部は欠損。 外面ナデ、内面回転ナデ。	外 暗灰色 内 淡灰色	微砂粒を少量含む	やや不良	
390 落ち込み8	甕 (須恵器)	口径 19.3	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は上下に肥厚して外端面に凸面状をなす。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ。	外 灰色 内 淡灰色	微砂粒を少量含む	良好	
391 四十二	土師皿 落ち込み8	口径 11.8 器高 3.3?	丸味をもつと思われる坏底部から斜上方へ内彎し、そのまま口縁部に至る。端部は外方に肥厚する。底部は欠損。 口縁部・坏部外面ヘラ削リ、口縁部内面ヨコナデ、坏部内面ハケナデ後ナデ。	乳灰褐色	微砂粒を少量含む	良	
392 落ち込み8	同 上	口径 16.2	平坦と思われる広い底部から斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外方へ肥厚する。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ後指頭痕、内面ナデ。	淡茶褐色	微砂粒を少量含む	良	
393 落ち込み8	同 上	口径 18.6	口縁部は上外方へ内彎して伸び、端部は内方に肥厚する。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、下位ヘラ削リ、内面ヨコナデ後暗文。	外 淡茶褐色 内 乳灰褐色	精良 微砂粒を少量含む	良	
394 落ち込み8	同 上	口径 14.0	平坦な底部から長く上外方に伸びる口縁部に至る。端部は外側へつまむ。底部一部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	外 淡茶褐色 内 乳灰褐色	細砂粒を少量含む	良	
395 落ち込み8	同 上	口径 15.6	全体的に半楕円形と思われる深い皿である。口縁部は上外方へ長く内彎し、端部は丸い。底部は欠損。 体部外面ヘラ削リ、内面ヨコナデ・ナデ。	淡茶褐色	微砂粒を少量含む	良	
396 落ち込み8	同 上	口径 16.6	平坦な底部から斜上方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は一部欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面上位ヘラミガキ、下位ヘラ削リ、内面ナデ。	淡茶褐色	微砂粒を少量含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
397 四十二	土師皿 落ち込み8	口径 16.4 器高 2.2	396とほぼ同様。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面ナデ後螺旋状暗文。	外 淡茶褐色 内 乳灰褐色	精良 微砂粒を少量含む	良	
398	同上 落ち込み8	口径 16.2	396とほぼ同様。 端部は外につまむ。底部は一部欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	外 乳灰褐色 内 淡茶褐色	微砂粒を少量含む	良	
399	同上 落ち込み8	口径 13.3	平坦と思われる底部から上外方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は内傾し凹面をもつ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ナデ・指頭痕、内面ナデ。	淡茶褐色	微砂粒を少量含む	良	
400	同上 落ち込み8	口径 16.0	椀形の体部から斜上方へ内彎して伸びた後短く直上する口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	外 乳灰褐色 内 淡茶褐色	微砂粒を含む	良	
401	同上 落ち込み8	口径 14.0	平坦に近いと思われる底部から緩やかに内彎して伸びる口縁部に至る。端部は内傾し凸面をもつ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	外 淡灰褐色 内 淡茶褐色	微砂粒を少量含む	良	
402	同上 落ち込み8	口径 13.9	口縁部は斜上方に内彎し、端部は外へつまむ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	外 淡灰褐色 内 乳灰褐色	微砂粒を少量含む	良	
403	同上 落ち込み8	口径 14.0	平坦と思われる底部から斜上方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は外につまむ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ナデ、内面ヨコナデ。	淡茶褐色	微砂粒を少量含む	良	
404 四十二	同上 落ち込み8	口径 15.8 器高 2.9	平坦な底部から斜上方へ直線的に伸びる口縁部に至る。端部は外につまむ。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ナデ・指頭痕、内面ナデ。	乳茶褐色	精良 微砂粒を少量含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
405	土師皿 落ち込み8	口径 17.2	外上方へ緩やかに内彎し、そのまま上外方へ器肉を減じて内彎気味に短く伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	外 淡茶褐色 内 乳灰褐色	微砂粒を少量含む	良	
406	甕 ? 落ち込み8	口径 13.8	口縁部は上外方に大きく外反して伸び、端部は肥厚気味で外傾し凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡灰茶褐色	3mm以下の砂礫粒を含む	良	
407	甕 落ち込み8	口径 14.6	上内方へ緩やかに内彎して伸びる体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(2本)、内面ナデ。	淡茶褐色	微砂粒を少量含む	良	
408	同 上 落ち込み8	口径 12.4	張りのない体部から丸く屈曲し、斜上方に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。体部は欠損。 口縁部・体部外面ヨコナデ、内面剝離の為不明。	外 茶褐色 内 暗灰褐色	3mm以下の砂礫粒を含む	良	
409	同 上 落ち込み8	口径 11.4	直上気味の体部から屈曲し、上外方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	外 暗灰褐色 内 淡茶灰色	微砂粒を少量含む	良	
410	同 上 落ち込み8	口径 17.6	扁平な球形と思われる体部から丸く屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は外傾し凹面をもつ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面剝離の為不明、内面ナデ。	外 茶灰色 内 暗灰茶色	微砂粒を含む	良	
411	同 上 落ち込み8	口径 15.4	上内方へ直線的に伸びる体部から鋭く屈曲し、水平に伸びる口縁部に至る。端部は外に面をもつ。体部は欠損。 口縁部・体部内外面剝離の為不明。	外 灰褐色 内 乳茶褐色	細砂粒を少量含む	良	
415	壺 河川3	口径 14.6	体部から丸く屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖り、外に面をもつ。頸部内面に接合痕を有す。体部は欠損。 口縁部内外面ヘラミガキ、体部外面ナデ、内面ナデ・指頭痕。	外 暗茶褐色 内 暗灰黒色	細砂粒を含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
416	高坏 河川3	口径 23.4	坏部は長く斜上方に伸びた後、端部付近で短く外反し、端部は外傾する平坦な面をもつ。坏底部・脚部は欠損。 坏部外面ハケナデ(8本)後暗文、内面上位ハケナデ後ヨコナデ、他ハケナデ後放射状暗文。	外 淡灰茶色 内 淡灰褐色	微砂粒を少量含む	良	
417	甕 河川3	口径 13.0	張りのない緩やかな体部から丸く屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(4本)、内面ナデ。	淡茶灰色	粗砂粒を少量含む	良好	煤付着
418	同上 河川3	口径 14.5	体部から丸く屈曲し、上外方に外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラナデ。	外 茶赤褐色 内 淡茶灰色	3mm以下の砂礫粒を含む	良	
419	同上 河川3	口径 17.0	口縁部は斜上方へ外反して伸び、端部は外傾する平坦な面をもつ。端面に刻み目を有す。体部は欠損。 口縁部外面ヘラミガキ、内面ヨコナデ。	外 乳黄茶灰色 内 乳灰褐色	細砂粒を含む	良好	
420	同上 河川3	口径 14.5	419とほぼ同様。 端部は外傾し凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶灰色	細砂粒を含む	良	
421	同上 河川3	口径 15.4	口縁部は外上方に伸び、端部は上につまむ。外面上位に接合痕を有す。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ後ヨコナデ。	灰茶色	1mm以下の粗砂粒を含む	良	
422	同上 河川3	口径 13.3	体部から屈曲し、上外方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内面ヘラ削リ。	乳灰茶色	微砂粒を含む	良	
423	同上 河川3	口径 16.4	体部から鋭く屈曲し、斜上方に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。口縁部外面中位に接合痕を有す。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(6本)後ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ヘラ削リ。	乳灰褐色	微砂粒を含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
424 四十三	つまみ付坏蓋 (須恵器) 河川3	つまみ径 2.8 つまみ高 1.0	天井部中央に上面凸状のつまみを付す。上面に「北」と墨書。口縁部は欠損。 天井部外面回転ナデ、内面ナデ。	淡灰色	精良 微砂粒を少量含む	良	
425	台付坏 (須恵器) 河川3	口径 14.0 器高 4.0 高台径 9.4 高台高 0.4	平坦な底部から屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。高台は断面方形で、内傾し凹面をもつ。 底部内面不定方向ナデ、他回転ナデ。	灰白色	精良	良	
426	同上 河川3	口径 16.5 器高 5.9 高台径11.4 高台高 0.8	口縁部は上外方へ内彎気味に伸びた後、短く外反し、端部は丸い。高台は断面方形で、端部は外傾し凹面をもつ。 内外面回転ナデ。	外 暗灰色 内 灰色	精良	良	
427	甕 (須恵器) 河川3	口径 17.0	体部から屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。 口縁部内外面回転ナデ。	淡青灰色	精良	良好	
428	台付甕? (須恵器) 河川3	高台径 8.8 高台高 0.4	平坦と思われる底部から緩やかに屈曲して、斜上方に伸びる口縁部に至るが、口縁部、底部は欠損。高台は断面方形で、端部は外に肥厚し、外端面は凹面をもつ。 体部外面下位回転ヘラ削り、他回転ナデ。	青灰色	精良	良好	
429	甕 (須恵器) 河川3	口径 18.2	体部から屈曲し、上外方へ長く外反して伸びる口縁部に至る。端部は短く直立し、下方に肥厚し外端面は凸面状を成す。体部は欠損。 口縁部外面回転カキ目、内面回転ナデ。	淡灰青色	精良	良好	
430 四十三	土師皿 河川3		平坦な底部のみ残存。 底部外面に墨書が認められるが、解読不明。 底部外面指頭痕、内面ヘラナデ。	外 茶褐色 内 淡灰褐色	精良	良好	
431	同上 河川3	口径 12.3	丸味をもつと思われる底部から外上方に伸びる口縁部に至る。端部は器肉を減じて外上方へつまみ、丸い。底部は一部欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部外面ナデ後指頭痕、内面ヨコナデ。	淡茶褐色	微砂粒を少量含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
432	土師皿 河川3	口径 15.2	底部から上外方へ内彎気味に立ち上がる口縁部に至る。端部は外へつまむ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	淡灰茶色	精良	良	
433 四十三	墨書人面土器 河川3		体部外面に墨書で人面が描かれていると思われる。 内外面ナデ。	外 暗灰茶色 内 茶灰褐色	微砂粒を少量含む	良好	
434 四十三	同上 河川3		433と同様。 外面ナデ、内面ナデ・ヘラナデ。	灰茶色	微砂粒を少量含む	良	
435	同上 河川3		433と同様。 内外面ナデ。	淡茶灰色	精良 微砂粒を少量含む	良	
436	甕 河川3	口径 20.6	口縁部は上外方に外反して立ち上がり、端部は水平につまむ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶灰色	微砂粒を少量含む	良	
437	同上 河川3	口径 22.8	張りのない直線的に伸びる体部から屈曲し、外上方へ伸びる口縁部に至る。端部は上方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(7本)後ハケナデ(10本)、内面頸部ハケナデ、他ナデ後ヘラ削り。	淡茶色	細砂粒を少量含む	良好	
438	同上 河川3	口径 38.4	体部から丸く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は下方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	外 暗灰褐色 内 淡灰褐色	微砂粒を含む	良	
442	同上 河川1	口径 16.7	体部から鋭く屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ、体部内面ヘラ削り。	外 灰茶色 内 暗灰褐色	微砂粒を含む	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
443	甕 河川1	口径 15.6	体部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ(6本)後ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラ削リ。	淡茶色	細砂粒を少量含む	良	煤付着
444	坏蓋 (須恵器) 河川1	口径 14.2 器高 4.4 稜径 14.2 天井部高 2.0	上面凹状気味で丸味をもつ天井部から鈍い稜に至り、下外方に下る口縁部に至る。端部は内傾し段をもち、外側で接地する。 天井部⅓回転ヘラ削リ、他内外面回転ナデ。	外 灰青色 内 青灰色	4mm以下の砂礫粒を含む	良	ロクロ 左方向
445	坏身 (須恵器) 河川1	口径 12.6 立ち上がり高 1.7 受部径15.0	丸味をもつと思われる底部から斜上方へ内彎し、外上方へ伸びる受部に至る。端部は丸い。立ち上がりは内傾し、端部は丸い。底体部は一部欠損。 底体部⅓回転ヘラ削リ、他内外面回転ナデ。	青灰色	微砂粒を少量含む	良好	ロクロ 左方向
446	台付鉢 (須恵器) 河川1	高台径 9.6	高台は断面方形で、端部は凹面をもつ。口縁部、体部は欠損。 底部内面ナデ、他内外面回転ナデ。	暗灰色	細砂粒を少量含む	良好	ロクロ 左方向
447	甕 (須恵器) 河川1	最大径12.9	やや平坦に近い丸底から上位に張りをもつ体部に至る。口縁部は欠損。 体部外面上位回転ナデ、中位回転カキ目、下位回転ヘラ削リ、内面回転ナデ。	暗青灰色	微砂粒を少量含む	良好	ロクロ 左方向
448	甕 (須恵器) 河川1	口径 23.0	口縁部は肩部に張りをもつと思われる体部から丸く屈曲し、上外方に外反して伸びる。端部は下方に肥厚する。体部は欠損。 口縁部・体部外面ハケナデ後回転ナデ、口縁部内面回転ナデ、体部内面同心円タタキ。	黒灰色	細砂粒を少量含む	良好	自然釉付着
449	同上 (須恵器) 河川1	口径 25.1	口縁部は斜上方へ大きく外反し、端部は外傾する平坦な面をもつ。下方に1条の凸線を巡らす。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ。	外 暗灰茶色 内 淡灰茶色	微砂粒を少量含む	良	灰かぶり
450	同上 (須恵器) 河川1	口径 40.4	口縁部は斜上方へ外反気味に伸び、端部は上方に肥厚し、外端面は凸面を成す。口縁部外面上位に1条、中位に3条の凸線を巡らし、その間と下位に1帯8条の波状文を有す。 口縁部内外面回転ナデ。	外 灰紫褐色 内 灰緑茶色	微砂粒を少量含む	良	自然釉付着

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
451	甕 河川1	口径 18.2	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は外方に肥厚し凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡灰茶色	微砂粒を含む	良	
452	同上 河川1	口径 26.4	張りのない上内方へ緩やかに内彎して伸びる体部から丸く屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は外傾し凹面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラナデ？。	淡灰褐色	細砂粒を含む	良好	煤付着
453 四十四	盾形埴輪 河川1		盾の先端部のみ残存。 ヘラ先で沈線の模様を施す。 外面ハケナデ、内面ナデ、側面ヘラ切リ。	淡茶褐色	細砂粒を含む	良好	
454 四十四	同上 河川1		453と同様。 外面ハケナデ、内面ナデ、側面ヘラ切リ。	淡乳褐色	4㎜以下の砂礫粒を含む	良好	
455 四十四	形象埴輪 河川1	タガ 上幅 0.9 下幅 1.0 高さ 1.7	底部の一部残存。下位から3㎝のところに高いタガ状をもち、底端部に半円状のスカシを有す。ヘラ先で沈線の模様を施す。 タガ部ヨコナデ、外面ハケナデ・ナデ、内面ナデ。	乳灰黄色	細砂粒を含む	良	
456 四十四	同上 河川1		スカシが認められ、両面にヘラ先で沈線の模様を施す。 内外面ナデ。	乳灰茶色	細砂粒を含む	良	
457 四十四	同上 河川1	タガ 上幅 0.8 下幅 1.6 高さ 0.7	「L」字形に曲がるタガをもち、四角と思われるスカシをもつ。ヘラ先で沈線を施す。 タガ部ヨコナデ、外面ハケナデ、内面ナデ、側面ヘラ切リ後ナデ。	淡赤茶褐色	8㎜～4㎜の砂礫粒を含む。細砂粒を多量に含む	良	
458 四十四	同上 河川1	タガ 上幅 1.1 下幅 2.7 高さ 0.7	家形埴輪と思われる断片の一部と思われる。低いタガをもち、スカシ2ヶ所認められる。 内外面ナデ。	淡灰褐色	微砂粒を少量含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
459 四十四	形象埴輪 河川1		断片の一部と思われる。 内外面ハケナデ。	淡茶褐色	9㎜以下の砂礫粒を含む	良	
460 四十五	朝顔形埴輪 河川1	タガ径14.8 上幅 0.6	頸部にタガをもつ。 タガ部ヨコナデ、外面ハケナデ、頸部内面ハケによるヨコナデ、他指ナデ。	乳黄茶色	3㎜以下の砂礫粒を含む	良好	
461 四十五	形象埴輪 河川1		断片の一部と思われる。ヘラ先で沈線の模様を施す。 内外面ハケナデ。	茶褐色	微砂粒を含む	良好	
462 四十五	円筒埴輪 河川1	タガ 上幅 1.7 下幅 2.6 高さ 0.9 胴径 21.5	タガ断面は台形を成し、側面は凹面である。器壁は厚い。内面に4ヶ所接合痕を有す。 タガ部ヨコナデ、外面ヘラナデ、内面指ナデ、指頭痕。	乳灰黄色	微砂粒を多量に含む	良好	
463 四十五	同上 河川1	タガ 上幅 0.8 下幅 2.2 高さ 1.1 底径 19.0	タガ断面は台形を成し、側面はやや凹面をもつ。底部端部は内方に肥厚し、平坦な面をもつ。器壁は厚い。底部端部付近に接合痕を有す。 タガ部上面ヨコナデ、側面ハケナデ後ヨコナデ、外面ハケナデ(11本)、内面ヘラナデ後指ナデ。	外 淡茶黄色 内 淡黄茶色	6㎜以下の砂礫粒を含む	良好	
464 四十五	同上 河川1	底径 19.0	タガ断面は台形を成し、側面は凹面をもつと思われる。底部端部は外傾気味で平坦な面をもつ。器壁は厚く、底部は肥厚気味である。接合痕を有す。 タガ部ヨコナデ、内外面指ナデ。	赤茶色	5㎜以下の砂礫粒を多量に含む	良好	
465 四十五	同上 河川1	タガ 上幅 1.2 下幅 2.0 高さ 0.4	タガ断面は歪んだ台形を成し、側面は平坦な面をもち、低い。器壁は薄い。スカシが認められる。接合痕を有す。 タガ部ヨコナデ、内外面ナデ。	淡灰褐色	細砂粒を含む	良	
466 四十五	同上 河川1	タガ 上幅 1.1 下幅 2.1 高さ 1.0	タガ断面は台形を成し、側面は凹面をもつ。スカシが認められる。ヘラ先で沈線の模様を施す。接合痕を有す。 タガ部ヨコナデ、外面ハケナデ、内面ナデ。	淡赤茶褐色	細砂粒を含む	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
467 四十五	円筒埴輪 河川1	タガ 上幅 1.2 下幅 2.0 高さ 0.9	タガ断面は台形を成し、側面は凹面をもつ。接合痕を有す。 タガ部ヨコナデ、外面ハケナデ、内面ナデ。	淡赤茶褐色	細砂粒を含む	良好	
468 四十五	同上 河川1	タガ 上幅 1.0 下幅 1.8 高さ 0.9	タガ断面は台形を成し、側面は凹面をもつ。スカシが認められる。器壁は薄い。 タガ部ヨコナデ、外面ハケナデ、内面ナデ。	外 灰色 内 茶灰色	細砂粒を含む	良好	
469 四十五	同上 河川1	タガ 上幅 1.2 下幅 2.2 高さ 0.7	タガ断面は歪んだ台形を成し、側面は凹面をもつ。接合痕を有す。 タガ部ヨコナデ、外面ハケナデ、内面ナデ。	乳灰褐色	細砂粒を少量含む	良好	
470 四十五	同上 河川1	タガ 上幅 0.9 下幅 1.8 高さ 0.8	タガ断面は台形を成し、側面は平坦な面をもつ。器壁は厚い。 外面ヨコナデ、内面ナデ。	乳灰褐色	5㎜以下の砂礫粒を含む	良好	
471 四十六	同上 河川1	タガ 上幅 1.2 下幅 2.0 高さ 0.8	タガ断面は歪んだ台形を成し、側面は凹面をもつ。 タガ部ヨコナデ、外面ハケナデ、内面ナデ。	淡茶色	4㎜以下の砂礫粒を含む	良	
472 四十六	同上 河川1	タガ 上幅 0.9 下幅 2.7 高さ 0.6	タガ断面は低く、裾に広がりをもつ台形を成し、側面は平坦に近い面をもつ。接合痕有す。 タガ部ヨコナデ、外面ハケナデ、内面ナデ。	乳灰褐色	細砂粒を含む	良	
473 四十六	同上 河川1	タガ 上幅 0.8 下幅 2.2 高さ 0.7	タガ断面は台形を成し、側面は平坦に近い面をもつ。器壁は薄い。 外面ヨコナデ、内面ナデ。	乳灰褐色	細砂粒を少量含む	良	
474 四十六	同上 河川1	タガ 上幅 1.0 下幅 1.8 高さ 0.6	タガ断面は低く、台形を成し、側面は平坦に近い面をもつ。接合痕を有す。 タガ部ヨコナデ、外面ハケナデ、内面ナデ。	淡灰褐色	微砂粒を少量含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
475 四十六	円筒埴輪 河川1	タガ 上幅 1.2 下幅 2.4 高さ 1.0	タガ断面は台形を成し、側面は凹面をもつ。内外面ヨコナデ。	茶褐色	微砂粒を少量含む	良好	
476 四十六	同上 河川1	タガ 上幅 0.6 下幅 1.3 高さ 0.5	タガ断面は小さく台形を成し、側面は平坦な面をもつ。器壁は薄い。接合痕を有す。 タガ部ヨコナデ、内外面ハケナデ。	外 淡茶色 内 淡灰茶色	細砂粒を少量含む	良好	
477 四十六	同上 河川1	タガ 上幅 1.1 下幅 1.8 高さ 0.9	タガ断面は台形を成し、側面は凹面をもつ。器壁は薄い。接合痕を有す。 外面ヨコナデ、内面ナデ。	淡灰茶色	細砂粒を含む	良好	
478 四十六	同上 河川1	タガ 上幅 0.8 下幅 2.0 高さ 0.8	タガ断面は台形を成し、側面は平坦な面をもつ。器壁は薄い。接合痕を有す。 外面ヨコナデ、内面ナデ。	淡灰褐色	5㎜以下の砂礫粒を含む	良	
479 四十六	同上 河川1	タガ 上幅 0.9 下幅 2.0 高さ 0.5	タガ断面は丸味をもつ台形を成し、側面はやや凸面をもつ。器壁は薄い。接合痕を有す。 外面ヨコナデ、内面ナデ。	淡茶褐色	2㎜以下の粗砂粒を少量含む	良	
480 四十六	同上 河川1	タガ 上幅 0.6 下幅 1.3 高さ 0.4	タガ断面は低く、歪んだ台形を成し、側面は平坦な面をもつ。器壁は薄い。接合痕を有す。 タガ部ヨコナデ、外面ハケナデ、内面ナデ。	乳茶褐色	細砂粒を少量含む	良	
481 四十六	同上 河川1	タガ 上幅 1.1 下幅 2.0 高さ 0.5	タガ断面は低く、台形を成し、側面はやや凹面をもつ。器壁は薄い。接合痕を有す。 タガ部ヨコナデ、外面ハケナデ、内面ナデ。	淡灰褐色	2㎜以下の粗砂粒を含む	良	
482 四十六	同上 河川1	タガ 上幅 1.2 下幅 2.1 高さ 0.4	タガ断面は低く、緩やかな台形を成し、側面は凹面をもつ。器壁は薄い。 外面ヨコナデ、一部ハケナデ、内面ナデ。	淡灰茶色	2㎜以下の粗砂粒を少量含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
483 四十六	円筒埴輪 河川1	タガ 上幅 0.9 下幅 2.1 高さ 1.1	タガ断面は台形を成し、側面は平坦な面をもつ。器壁は薄い。接合痕を有す。 タガ部ヨコナデ、外面ハケナデ、内面ナデ。	乳灰褐色	4mm以下の砂礫粒を多量に含む	良好	
484 四十六	同上 河川1	タガ 上幅 0.5 下幅 1.3 高さ 0.5	タガ断面は台形を成し、側面は平坦な面をもつ。器壁は薄い。接合痕を有す。 外面ヨコナデ、内面ナデ。	淡灰褐色	2mm以下の粗砂粒を含む	良	
485 四十六	同上 河川1		タガ断面は非常に低く、歪んだ台形を成し、側面は平坦な面をもつ。 外面ヨコナデ、内面ナデ。	乳茶褐色	細砂粒を多量に含む	良	
486	同上 河川1		器壁は薄く、中央に接合痕を有す。 外面ハケナデ、内面ナデ。	淡灰茶褐色	細砂粒を含む	良好	
487	同上 河川1		タガ部は欠損。 外面ハケナデ(タテ後ヨコ)、内面ナデ。	乳灰茶色	微砂粒を少量含む	良好	
488	同上 河川1		器壁は薄い。 外面ハケナデ(タテ後ヨコ)、内面ナデ。	外 茶灰色 内 赤茶灰	細砂粒を含む	良好	
489	同上 河川1		器壁は薄い。 外面ハケナデ、内面ナデ。	淡灰褐色	細砂粒を少量含む	良	
490	同上 河川1		タガ部は欠損。タガ部があったと思われる器壁に接合痕を有す。 外面ハケナデ(タテ後ヨコ)、内面指ナデ。	外 淡茶黄色 内 乳茶黄色	細砂粒を少量含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
491 四十六	灯明皿 河川1	口径 9.7 器高 2.4	丸底の底部から浅く内彎して伸びる体部に至り、そのまま斜上方へ内彎して伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。 外面ナデ、指頭痕、内面ナデ。	茶灰褐色	3mm以下の砂礫粒を含む	良好	煤付着
492 四十六	土師皿 河川1	口径 13.0	平坦に近いと思われる底部から浅く内彎して伸びる体部に至り、屈曲し短く上外方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヨコナデ。	淡灰茶色	微砂粒を少量含む	良	
493 四十六	同上 河川1	口径 10.2	やや平坦と思われる底部から斜上方から上外方へ内彎して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。底部は欠損。 外面ナデ・指頭痕、内面ナデ。	淡茶灰色	精良 微砂粒を少量含む	良好	
494 四十六	同上 河川1	口径 11.8 器高 3.6	ほぼ平坦な底部から緩やかに屈曲し、斜上方へ内彎気味に伸びる体部に至り、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 外面ナデ・指頭痕、内面剝離の為不明。	乳灰褐色	細砂粒を含む	良	
495 四十六	同上 河川1	口径 15.8	椀形の体部から短く内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は平坦な面をもつ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、外面指頭痕、内面ナデ後螺旋状暗文。	外 淡茶色 内 淡灰褐色	精良 微砂粒を少量含む	良好	
496 四十七	同上 河川1		平坦な底部のみ残存。 底部内面に墨書を有す。 底部外面ナデ、内面ヨコナデ後螺旋状暗文。	外 乳茶褐色 内 茶褐色	精良 微砂粒を少量含む	良好	
497 四十六	同上 河川1	口径 13.8	椀形の体部から中程で肥厚し短く内彎して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ・指頭痕、内面ナデ。	外 淡灰色 内 黒茶褐色	細砂粒を少量含む	良	
498 四十六	同上 河川1	口径 13.0	浅く外上方へ内彎して伸びる体部から屈曲し、外上方へ大きく外反して伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、外面ナデ・指頭痕、内面ナデ。	淡乳灰褐色	細砂粒を含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
499 四十六	小型椀 河川1	底径 3.2	上げ底の底部から丸く屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至り、傾斜をもつ。端部は上面に平坦な面をもつ。 体部外面ヘラナデ後ナデ、内面ヘラナデ、底部内外面ナデ。	淡灰茶色	精良 微砂粒を少量含む	良	
500 四十六	黒色土器 河川1	口径 16.1 器高 5.5 底径 8.6	平坦な底部から上外方へ内彎して伸びる口縁部に至り、端部は内傾し段をもつ。高台は断面逆三角形で、端部は鈍く尖る。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラミガキ後暗文、底部外面ナデ。	外 茶褐色 内 黒色	微砂粒を少量含む	良	
501	高台付坏？ （須恵器） 河川1	底径 14.0	平坦と思われる底部である。高台は方形で、端部は平坦な面をもつ。高台のみ残存で上部・底部は欠損。 内外面回転ナデ。	淡灰色	2mm以下の粗砂粒を含む	良好	ロクロ 右方向
502 四十七	黒色人面土器 河川1		体部外面に墨書で人面が描かれていると思われる。 内外面ナデ。	淡灰褐色	細砂粒を少量含む	良好	
503	土管 河川1	口径 12.6	体部はやや口縁部が上外方に伸びる長胴形で、端部は外傾する平坦な面をもつ。 口縁部外面ヘラナデ、内面ヨコナデ。	淡灰色	微砂粒を少量含む	良好	
504	同上 河川1	口径 17.0	長胴形の体部から屈曲して内彎して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する面をもつ。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラナデ、内面ナデ。	淡灰色	精良 細砂粒を少量含む	良	
505	甑 河川1		牛角状の把手のみ残存。 内外面ナデ。	乳灰茶色	細砂粒を含む	良	
506	同上 河川1		牛角状の把手のみ残存。 内外面ナデ。	灰褐色	3mm以下の砂礫粒を含む	良好	煤付着

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
507	羽釜 河川1	鍔径 28.6	鍔部は水平気味で、端部は肥厚する。 外面ヨコナデ、内面ナデ。	茶灰色	微砂粒を少量含む	良	
508	同上 河川1	鍔径 28.4	鍔部はやや外上方で、端部は丸い。 外面ヨコナデ、内面ナデ。	灰茶色	微砂粒を少量含む	良	煤付着
509	鉢 ? 河川1	口径30.4?	口縁部は内彎し、端部は短く直上気味に伸び、肥厚気味で上に平坦な面をもつ。体部は欠損。 端部内外面ヨコナデ、口縁部外面ヘラ削リ後ナデ、内面ヨコナデ。	淡灰褐色	精良 細砂粒を少量含む	良	
514	甕 包含層	口径 13.6	内上方へ直線的に伸びるやや張りをもつ体部から屈曲し、外上方に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ヘラ削リ。	灰白色	微砂粒を含む	良好	
515	同上 包含層	口径 15.0	514と同様。 体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ後ハケナデ、内面ヘラ削リ。	暗茶灰色	3㎜以下の砂礫粒を含む	良	
516 四十九	坏蓋 (須恵器) 包含層	口径 12.0 器高 4.8 稜径 12.3 天井部高 2.8	丸い天井部から鈍い稜に至り、稜から垂直に下る口縁部に至る。端部は内傾し凹面をもち、外側で接地する。 天井部3/5回転ヘラ削リ、他回転ナデ。	青灰色	粗砂粒を少量含む	良好	完形 ロクロ 右方向
517 四十九	坏身 (須恵器) 包含層	口径 10.4 器高 4.7 立ち上がり 高 1.8 受部径12.4 底体部高 3.2	丸い底体部から外反気味に受部に至る。受部は外上方へ伸び、端部は鈍い。立ち上がりは内傾して伸び、端部は内傾し段をもつ。 底体部3/5回転ヘラ削リ、他回転ナデ。	青灰色	微砂粒を少量含む	良好	酸化鉄付着 ロクロ 左方向
518	甕 (須恵器) 包含層	口径 23.2	口縁部は上外方へ外反して伸び、端部は上に凹面をもち、外傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ。	淡灰色	微砂粒を少量含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
519	壺 包含層	口径 22.0	口縁部は上外方へ外反して立ち上がり、端部は長く垂下し、先端部は丸い。垂下する口縁端部と口縁部の間に接合痕を有す。体部は欠損。 端部内外面ヨコナデ、口縁部外面ヘラミガキ、内面ヨコナデ。	暗灰褐色	微砂粒・細砂粒を多量に含む	良好	
520	小型鉢 包含層	口径 8.0 器高 8.7	球形の体部から屈曲し、上外方に長く伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は丸底。 口縁部外面ナデ、内面ヨコナデ、体部外面ヘラ削リ後ナデ、内面ナデ。	外 淡褐灰色 内 淡褐茶色	細砂粒を含む	良好	煤付着
521	鉢 ? 包含層	底径 4.3	上げ底の底部のみ残存。 外面ナデ、指頭痕、内面ヘラナデ、底部ナデ。	外 淡茶灰色 内 乳灰褐色	細砂粒を多量に含む	良	
522	坏 蓋 (須恵器) 包含層	口径 10.1 器高 4.6 稜径 10.3 天井部高 2.5	丸い天井部から稜の痕跡有りと思われるところへ至り、それより垂下する口縁部に至る。端部は段をもち、外側で接地する。 天井部⅔回転ヘラ削リ、他回転ナデ。	外 灰褐色 内 青灰色	精良	良好	
523 四十九	同 上 (須恵器) 包含層	口径 12.0 器高 4.5 稜径 11.9 天井部高 2.5	丸い天井部から稜の痕跡有りと思われるところへ至り、それより垂下する口縁部に至る。端部は外方へ肥厚し、内傾し凹面をもつ。 天井部½回転ヘラ削リ、他回転ナデ。	淡灰色	微砂粒を少量含む	良好	ロクロ 左方向
524	同 上 (須恵器) 包含層	口径 13.0 器高 4.1 稜径 13.0 天井部高 1.7	平坦な天井部から短く下る稜に至り、それより垂下する口縁部に至る。端部は丸い。 天井部回転カキ目？、他回転ナデ。	淡灰青色	微砂粒を少量含む	良好	ロクロ 左方向
525	坏 身 (須恵器) 包含層	口径 10.0 立ち上がり高 1.7 受部径12.2	底体部から外上方に伸びる受部に至る。端部は丸い。立ち上がりは内上方に伸び、端部は内傾し段をもつ。底体部は欠損。 底体部回転ヘラ削リ、他回転ナデ。	青灰色	4㎜以下の砂礫を少量含む	良好	
526	同 上 (須恵器) 包含層	口径 10.8 器高 4.5 立ち上がり高 1.9 受部径12.8 底体部高 2.2	平坦な底体部から内彎して水平に伸びる受部に至る。端部は鋭く尖る。立ち上がりは受部から内上方して伸び、端部は鈍く尖がる。 底体部½回転ヘラ削リ、他回転ナデ。	外 灰青色 内 淡灰青色	微砂粒を少量含む	良好	ロクロ 左方向

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
527	坏身 (須恵器) 包含層	口径 11.4 器高 3.7 立ち上がり 高 1.8 受部径12.8 底体部高 2.0	平坦な底体部から内彎して外上方へ伸びる受部に至る。端部は丸い。立ち上がりは受部から内傾して伸び、端部は肥厚して内傾し平坦な面をもつ。 底体部½回転ヘラ削り、他回転ナデ。	灰青色	精良 微砂粒を少量含む	良好	ロクロ 左方向
528 四十九	同上 (須恵器) 包含層	口径 10.7 器高 4.3 立ち上がり 高 1.7 受部径13.2 底体部高 2.6	平坦に近い底体部から緩やかに内彎して外上方へ伸びる受部に至る。端部は丸い。立ち上がりは受部から内傾して伸び、端部は内傾し凹面をもつ。 底体部½回転ヘラ削り、他回転ナデ。	外 淡灰褐色 内 淡灰色	微砂粒を少量含む	良好	ロクロ 右方向
529	同上 (須恵器) 包含層	口径 13.0 立ち上がり 高 2.0 受部径14.3	底体部から斜上方に伸びる受部に至る。端部は鈍く尖がる。立ち上がりは直上して伸び、端部は内傾し凹面をもつ。底体部は欠損。 内外面回転ナデ。	青灰色	精良	良好	ロクロ 右方向
530	同上 (須恵器) 包含層	受部径14.0 底体部高 3.0	平坦な底体部から内彎して水平に伸びる受部に至る。端部は純く尖る。立ち上がりは受部から内傾して伸びると思われるが欠損。 底体部½回転ヘラ削り、他回転ナデ。	灰青色	精良	良好	ロクロ 左方向
531	甕 (須恵器) 包含層	口径 26.0	口縁部は斜上方へ外反して伸び、端部は上に肥厚し、外端面は平坦な面をもつ。端部外面下に1条の凸線を巡らす。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ。	灰白色	精良	不良	
532	甕 ? (須恵器) 排水構		口縁部は上外方へ外反して立ち上がり、端部は外方へ肥厚する。体部は欠損。外面にヘラ先で沈線の模様を施す。 口縁部外面タタキ後回転ナデ、内面回転ナデ。	灰色	精良	良好	ロクロ 左方向
533	高坏 包含層	口径 15.2	平坦な坏底部から斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、坏部外面ハケナデ後ナデ、内面ナデ。	赤灰褐色	精良	良好	
534	甕 包含層	口径 14.0	口縁部は上外方へ外反気味に伸び、端部は器肉を減じ丸い。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ後ハケナデ。	淡茶灰色	細砂粒を含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
535	甕 包含層	口径 15.8	体部から丸く屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	淡茶褐色	細砂粒を含む	良	
536	同上 包含層	口径 17.0	体部から屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ナデ。	茶褐色	細砂粒を含む	良好	
537	土師皿 包含層	口径 13.2	浅い椀形の体部から、上外方へ内彎して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ・指頭痕、内面ナデ。	茶灰色	5mm以下の砂礫粒を含む	良好	
538	瓦器椀 包含層	高台径 5.0 高台高 0.4	平坦に近い底部から外上方へ緩やかに内彎して伸びる体部となるが、口縁部は欠損。高台は断面逆三角形で、その端部は平坦な面をもつ。 体部外面指頭痕、内面ナデ後暗文、高台ヨコナデ。	外 淡灰褐色 内 黒褐色	精良	良好	酸化鉄付着
539	同上 包含層	高台径 9.0 高台高 0.6	底部に垂直に下る高台は断面逆三角形で、その端部は丸い。体部は欠損。 底部外面ヨコナデ、内面暗文。	外 淡灰褐色 内 黒色	精良	良好	
541	壺 包含層	口径 21.9	口縁部は緩やかに屈曲した後外上方に伸び、端部は上につまむ。外端面に竹管押文を有す。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ・ハケナデ(10本)、内面ヨコナデ。	外 茶褐色 内 灰茶色	細砂粒を含む	良	
542	同上 包含層	口径 15.9	口縁部は外上方へ大きく外反して広がり、端部は外傾し凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヘラミガキ。	外 淡灰褐色 内 灰茶色	微砂粒を含む	良	
543 四十九	同上 包含層	口径 13.3	球形と思われる体部から丸く屈曲し、斜上方へ長く外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外面上位ヨコナデ、他ハケナデ(10本)後ヘラミガキ、内面上位ヨコナデ、他ハケナデ(7本)後ヨコナデ、体部外面上位ヘラミガキ、他ハケナデ(10本)、内面頸部ナデ、他ヘラ削り。	淡茶色	1cmの砂礫と微砂粒を含む	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
544	壺 包含層	口径 16.8	口縁部は外上方へ外反して広がり、端部は外に凸面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面磨滅の為不明。	外 淡灰茶色 内 淡茶灰色	砂礫粒を多量に含む	良	
545	同上 包含層	口径 17.8	口縁部は外上方へ大きく外反して広がり、端部は外に凸面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、下位指頭痕、内面ヨコナデ。	外 乳褐色 内 乳茶灰色	3㎜以下の砂礫粒を多量に含む	良	
546	同上 包含層	口径 8.0	口縁部は上外方へ長く伸び、端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	外 乳褐色 内 淡茶褐色	細砂粒を少量含む	やや不良	
547	同上 包含層	最大径12.1 底径 1.2	小さな突出する平底の底部から、扁平な球形の体部に至る。口縁部は欠損。 体部内外面磨滅の為不明、底部外面ヘラミガキ。	外 赤茶褐色 内 茶褐色	4㎜以下の砂礫粒を含む	良	
548	同上 包含層	口径 14.0	口縁部は外上方に外反して伸びた後立ち上がり、端部は内傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁端部内外面ヨコナデ、口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。	乳茶灰色	細砂粒を含む	良	
549 四十九	小型鉢 包含層	口径 8.6 器高 7.6	半楕円形の体部から緩やかに屈曲して、上外方する口縁部に至る。端部は丸い。底部は尖り底。 口縁部外面ヨコナデ、内面ヘラミガキ、体部外面ハケナデ後ヘラミガキ、内面ヘラナデ後ナデ。	淡茶赤色	微砂粒を少量含む	良	
550	同上 包含層	口径 10.6	扁平な半球形の体部から緩やかに屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ後ヘラミガキ、体部外面上位ハケナデ後ヘラミガキ、中位以下ヘラ削リ、内面剝離の為不明。	淡茶褐色	精良 細砂粒を少量含む	良	
551	高坏 包含層	口径 24.8	坏部は外上方に伸びた後屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至り、端部付近で内彎する。端部は外傾する平坦な面をもつ。脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、坏部外面ハケナデ後ヘラミガキ、内面上位指頭痕、他ヘラミガキ。	茶灰褐色	3㎜以下の砂礫粒を少量含む	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
552 四十九	土錘 包含層	径 3.4 長さ 6.4 孔径 1.5	管状形。 外面ナデ。	暗茶灰色	微砂粒を含む	良	
553	甕 包含層	口径 12.2	体部から鈍く屈曲し、斜上方に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	外 淡灰褐色 内 淡茶灰褐色	3mm以下の砂礫粒を含む	良	黒斑有
554	同上 包含層	口径 14.4	上内方へ緩やかに内彎して伸びる体部から鋭く屈曲し、外上方に伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	外 淡灰褐色 内 茶灰色	細砂粒を多量に含む	良	
555	同上 包含層	口径 15.4	体部から屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面剝離の為不明。	茶褐色	細砂粒を含む	良	
556	同上 包含層	口径 14.0	体部から丸く屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ナデ・指頭痕。	外 茶褐色 内 茶灰色	3mm以下の砂礫粒を含む	やや不良	
557	同上 包含層	口径 22.0	上外方に内彎して伸びる体部から屈曲し、外上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ。	外 赤灰褐色 内 黄灰褐色	3mm以下の砂礫粒を含む	やや不良	
558	同上 包含層	口径 18.0	上内方へ内彎して伸びる体部から丸く屈曲し、斜上方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面剝離の為不明、内面ナデ・指頭痕。	外 淡灰褐色 内 乳灰茶色	微砂粒を含む	良	
559	同上 包含層	口径 17.2	体部から屈曲し、外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。頸部内面に接合痕を有す。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶褐色	細砂粒を少量含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
560	甕 包含層	口径 16.4	上内方へ内彎して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ヘラナデ。	外 暗茶赤褐色 内 茶赤褐色	1mm以下の細砂粒を含む	良好	
561	同上 包含層	口径 16.8	上内方へ緩やかに内彎して伸びる体部から丸く屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。頸部内面に接合痕を有す。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ナデ・指頭痕。	外 茶灰色 内 淡灰褐色	2mm以下の粗砂粒を含む	良好	
562	同上 包含層	口径 17.0	上内方へ内彎して伸びる体部から丸く屈曲し、外上方へ外反気味に広がる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部内面上位に接合痕を有す。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(5本)、内面剥離の為不明。	外 茶褐色 内 淡茶褐色	5mm以下の砂礫粒を含む	良	
563	同上 包含層	口径 13.7	体部から屈曲し、斜上方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部はつまみ上げる。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ、内面ヘラ削り。	淡灰色	4mm以下の砂礫粒を含む	良	
564	同上 包含層	口径 16.8	体部から屈曲し、外上方に伸びる口縁部に至る。端部は上につまむ。頸部内面に接合痕を有す。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ後ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラ削り。	暗茶灰色	3mm以下の砂礫粒を含む	良	
565	同上 包含層	口径 15.4	体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、内傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヘラ削り。	乳灰褐色	4mm以下の砂礫粒を含む	良好	
566	同上 包含層	口径 16.9	体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(9本)、内面ヘラ削り。	灰褐色	細砂粒を含む	良	
567	同上 包含層	口径 14.6	上内方する張りのない体部から鋭く屈曲し、短く水平方向に伸びる口縁部に至る。端部は外に平坦な面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面剥離の為不明(内面はハケナデと思われる。)	茶褐色	微砂粒を含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
568	甕 包含層	口径 16.2	球形と思われる体部から屈曲し、長く上外方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。肩部内面に接合痕を有す。体部下位は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(6本)、内面ヘラ削リ、下位一部指頭痕。	外 淡茶褐色 内 乳灰褐色	3mm以下の砂礫粒を含む	良	
569	同上 包含層	口径 14.6	体部からやや鋭く屈曲し、上外方へ内彎して伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚し、内傾する凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(5本)、内面ヘラ削リ。	乳灰褐色	微砂粒を含む	良好	
570	同上 包含層	口径 12.6	上内方に内彎して伸びる体部から屈曲し、上外方へ内彎気味に立ち上がる口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(9本)、上位一部に櫛目有す、内面ヘラ削リ。	外 乳褐灰色 内 赤褐灰色	細砂粒を含む	良	
571	同上 包含層	口径 14.0	上内方に内彎して伸びる体部から丸く屈曲し、外上方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(5本)、内面ヘラ削リ。	外 淡灰褐色 内 乳灰褐色	細砂粒を含む	良好	
572	壺 ? 包含層	底径 3.7	底部は突出気味のくぼみ底。 体部は欠損。 体部外面タタキ?、内面ヘラナデ?、底部外面ナデ、内面ヘラナデ?。	外 淡灰茶色 内 暗灰褐色	細砂粒を含む	良	
573	鉢 ? 包含層	底径 3.1	底部は突出気味の平底。 体部は欠損。 体部外面タタキ、内面ヘラナデ、下位指頭痕、底部外面ナデ、内面ヘラナデ。	乳灰褐色	細砂粒を含む	良	黒斑有
574	同上 包含層	底径 5.6	突出気味のくぼみ底の底部から、半楕円形と思われる体部に至る。上部は欠損。 体部外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキ、底部外面ナデ、内面ヘラナデ。	外 暗茶灰褐色 内 暗灰茶褐色	精良 微砂粒を少量含む	良好	
575	同上 包含層	底径 3.8	大きく突出する平底の底部から、半球形と思われる体部に至る。内面上位に接合痕を有す。上部は欠損。 体部外面タタキ(5本)、内面ヘラナデ、底部外面ナデ、内面ヘラナデ。	外 暗茶灰色 内 乳茶灰褐色	細砂粒を含む	良	黒斑有

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
576	鉢 ? 包含層	底径 4.2	底部は突出するくぼみ底。 体部は欠損。 体部外面ナデ、内面ヘラミガキ、底部外面ナデ、内面ヘラミガキ。	外 淡茶褐色 内 乳茶褐色	精良 細砂粒を少量含む	良好	
577	同 上 包含層	底径 4.5	底部は突出しない平底。 体部は欠損。 体部外面磨滅の為不明、内面ヘラナデ、底部外面ナデ、内面ヘラナデ。	淡茶色	細砂粒を含む	良	
578	同 上 包含層	底径 4.8	底部は突出気味の平底。 体部は欠損。 体部外面タタキ、内面ヘラナデ、底部外面ナデ、内面ヘラナデ。	外 暗茶褐色 内 暗赤茶褐色	砂礫粒を少量含む	良	
579	甕 ? 包含層	底径 3.9	底部は突出気味のややくぼみ底。 体部は欠損。 体部外面タタキ、内面ヘラナデ、底部外面ナデ、内面ヘラナデ。	外 淡赤茶褐色 内 灰茶色	4㎜以下の砂礫粒を含む	良	
580	同 上 包含層	底径 4.6	底部は突出気味のくぼみ底。 体部は欠損。 体部外面タタキ、内面ヘラナデ、底部外面ナデ、内面指頭痕。	外 淡赤茶褐色 内 淡灰褐色	細砂粒を多量に含む	良	
581	同 上 包含層	底径 3.6	底部は突出する平底。 体部は欠損。 体部外面指ナデ、内面ヘラナデ、底部外面ナデ、内面ヘラナデ。	淡赤茶褐色	3㎜以下の砂礫粒を含む	良	
582	同 上 包含層	底径 5.1	底部は突出する平底。 体部は欠損。 体部外面タタキ、内面ヘラナデ、底部外面ナデ、内面ヘラナデ。	茶灰色	3㎜以下の砂礫粒を含む	良好	
583	同 上 包含層	底径 3.4	底部は突出する平底。 体部は欠損。 体部外面ヘラナデ、内面ナデ、底部内外面ナデ。	外 淡茶灰色 内 灰褐色	6㎜以下の砂礫粒を含む	やや不良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
584	甕 ? 包含層	底径 3.6	底部は突出する平底。体部は欠損。 体部外面指頭痕、内面磨滅の為不明、底部外面ナデ、内面磨滅の為不明。	外 茶灰褐色 内 淡灰褐色	5㎜以下の砂礫粒を含む	良	
585	同上 包含層	底径 4.4	底部は突出する上げ底。体部は欠損。 体部外面指ナデ、内面ヘラナデ、底部外面ナデ、内面ヘラナデ。	外 淡灰褐色 内 茶灰色	細砂粒を含む	良	黒斑有
586	同上 包含層	底径 3.5	底部は突出気味のややくぼみ底。体部は欠損。 体部外面タタキ、内面ヘラナデ、底部内外面ヘラナデ。	淡茶褐色	微砂粒を少量含む	良	
587	同上 包含層	底径 5.6	底部は突出するくぼみ底。体部は欠損。 体部外面タタキ(3本)、内面ナデ、底部内外面ナデ。	外 灰褐色 内 淡灰褐色	3㎜以下の砂礫粒を含む	良好	
588	坏蓋 (須恵器) 包含層	口径 12.7 稜径 12.7	短く鋭い稜から垂直に下る口縁部に至り、端部は平坦な面をもつ。天井部は欠損。 内外面回転ナデ。	外 暗灰色 内 灰青色	3㎜以下の砂礫粒を少量含む	良好	
589	同上 包含層	口径 12.0 器高 3.8? 稜径 11.6 天井部高 1.8	丸味をもつ天井部から鈍い稜に至り、稜の下方に沈線が巡る。口縁部は稜から下外方へ下り、端部はやや凹面をもつ。 天井部½回転ヘラ削リ、他回転ナデ。	外 暗灰色 内 淡灰青色	精良 細砂粒を少量含む	良好	ロクロ 右方向 自然釉付着
590	同上 包含層	口径 13.2 器高 4.6 稜径 12.6 天井部高 2.0	丸味をもつ天井部から短く鋭い稜に至り、稜の下方に沈線が巡る。口縁部は下外方へ下り、端部は平坦な面をもつ。 天井部¾回転ヘラ削リ、他回転ナデ。	外 淡灰色 内 乳灰青色	精良 細砂粒を少量含む	良好	ロクロ 右方向 灰かぶり
591	坏身 (須恵器) 包含層	口径 10.9 立ち上がり高 1.9 受部径 7.3	底体部から内彎して、外上方に伸びる受部に至り、端部は鈍い。立ち上がりは受部から内傾して伸び、端部は平坦な面をもつ。底体部は欠損。 底体部⅓回転ヘラ削リ、他回転ナデ。	灰青色	精良 細砂粒を少量含む	良好	ロクロ 左方向

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
592	高坏 (須恵器) 包含層	底径 8.6	脚部は下外方へ外反して伸び、端部付近で凸線を巡らし、端部は垂直に下り伸びる。長方形のスカシを有す。坏部は欠損。 脚部内外面回転ナデ。	淡灰白色	精良	良好	
593	壺 (須恵器) 包含層	口径 16.0	口縁部は上外方へ大きく外反して広がり、端部は斜上方につまみ、外に凹面をもつ。口縁部中位に凸線を巡らし、その上に1帯(12条～15条)、下に1帯(15条)の2帯の波状文を有す。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ。	外 淡灰青色 内 灰色	精良 細砂粒を少量含む	良好	
594	台付鉢? (須恵器) 包含層	底径 5.8	平坦な底部から屈曲し上外方して伸びる体部に至る。上部は欠損。高台は断面方形で、端部は外に肥厚し凹面をもつ。 体部外面下位・底部回転ヘラ削リ、他回転ナデ。	外 淡灰青色 内 灰青色	2mm以下の粗砂粒を少量含む	良好	ロクロ 右方向
595	甕 包含層	口径 13.4	口縁部は上外方へ内彎気味に立ち上がる。端部は内傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、頸部外面に一部ハケナデ、内面ヨコナデ。	外 茶灰褐色 内 淡茶灰褐色	微砂粒を含む	良好	
596	同上 包含層	口径 15.6	体部から丸く屈曲し、上外方へ内彎気味に立ち上がる口縁部に至る。端部は外方に肥厚し、内傾し凹面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	外 淡茶褐色 内 淡茶灰褐色	微砂粒を含む	良好	
597	同上 包含層	口径 15.6	体部からやや鋭く屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は内傾し凸面をもつ。口縁部は中位で肥厚する。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ。	茶褐色	微砂粒を含む	良好	黒斑有
598	同上 包含層	口径 16.0	上内方に内彎して伸びる体部から屈曲し、上外方に内彎して伸びる口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。体部中位以下は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ハケナデ(9本)。	外 茶灰色 内 淡灰茶色	微砂粒を含む	良	
599	同上 包含層	口径 23.6	体部から丸く屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ハケナデ(10本)、内面ナデ後一部ハケナデ。	乳茶灰色	2mm以下の粗砂粒・長石・石英等を含む	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
600	高坏 包含層	口径 12.9	椀形の坏部から上外方へ内彎して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。坏底部・脚部は欠損。 坏部外面ヨコナデ、内面上位ナデ後ハケナデ、下位ナデ。	外 淡赤茶色 内 乳赤茶色	精良 細砂粒を少量含む	良	
601	同上 包含層	口径 11.9	椀形の坏部から斜上方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。坏底部・脚部は欠損。 坏部外面ヘラミガキ後ヘラナデ、内面ヘラミガキ。	外 赤茶褐色 内 淡赤茶褐色	精良 細砂粒を少量含む	良好	
602	同上 包含層	口径 10.4	椀形の坏部から直上する口縁部に至る。端部は内傾する平坦な面をもつ。坏底部・脚部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、坏部外面磨滅の為不明、内面ヨコナデ。	淡赤茶褐色	微砂粒を含む	良	
603	同上 包含層	口径 12.9	602とほぼ同様。 坏底部・脚部は欠損。 坏部外面磨滅の為不明、内面ヨコナデ。	淡赤茶褐色	細砂粒を少量含む	良	
604	同上 包含層	底径 8.4	脚部は中空の柱部から屈曲し、外下方に外反して伸びる裾部に至る。裾端部は丸い。坏部は欠損。 脚部外面ヘラナデ、内面上位くりぬき、下位指頭痕、ナデ。	淡茶灰色	微砂粒を少量含む	良好	
605	同上 包含層	底径 8.7	脚部は中空の柱部から屈曲し、外下方へ外反気味に開く裾部に至る。裾端部は外傾し凸面をもつ。柱部下位の三方に円孔をもつ。坏部は欠損。 脚部外面磨滅の為不明、内面上位しぼり目、下位指頭痕・ナデ。	外 淡赤茶褐色 内 淡赤茶褐色	細砂粒を少量含む	良	
606	甑 包含層	口径 20.8	口縁部は外反気味に直上して立ち上がった後端部付近で短く外上方する。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 端部内外面ヨコナデ、口縁部内外面ハケナデ？。	淡赤茶褐色	細砂粒を含む	良	
607	土師皿 包含層	口径 9.0 器高 2.7	椀形の体部から上外方へ内彎気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 坏部外面磨滅の為不明、内面上位ヨコナデ、下位暗文。	外 淡灰茶色 内 赤茶褐色	精良	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
608	土師皿 包含層	口径 13.2	椀形と思われる体部から、上外方へ伸びる口縁部に至る。端部は外につまむ。坏底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ、内面ヨコナデ。	外 淡茶褐色 内 淡灰茶色	微砂粒を含む	良	
609	同上 包含層	口径 13.4 器高 3.3	平坦な底体部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は外反し、丸い。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ・指頭痕、内面ナデ。	赤褐色	微砂粒を少量含む	良好	
610	同上 包含層	口径 14.2	外上方へ直線的に伸びる体部から、緩やかに上外方へ内彎して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ・指頭痕、内面ナデ。	外 淡茶褐色 内 淡茶灰色	5㎜以下の砂礫粒を含む	良	
611	土師皿 包含層	口径 16.0	平坦な底部から屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は内方に肥厚する。底部は欠損。 口縁部・体部内外面ヨコナデ。	外 茶褐色 内 乳灰褐色	精良	良	
612	土師皿 包含層	口径 15.8	611とほぼ同様。 端部は外につまみ面をもつ。底部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ・指頭痕。	外 淡赤茶褐色 内 淡灰褐色	精良	良好	
613	黒色土器 包含層	高台径 7.6 高台高 0.9	高台は断面三角形で、端部は丸い。体部は欠損。 底部外面ナデ、内面ヘラミガキ、高台部ヨコナデ。	外 乳灰茶色 内 黒灰色	微砂粒を少量含む	良	
621	壺 包含層	口径 14.0	口縁部は上外方へ長く伸び、端部は鈍く尖る。頸部外面に凸帯を巡らし、刻み目を有す。体部は欠損。 口縁部内外面ナデ。	暗茶灰色	5㎜以下の砂礫粒を含む	良	
622	陶磁器 包含層	口径 9.5 底径 2.6	丸味をもつ底部から、外上方へ緩やかに内彎して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。 内外面回転ナデ。	淡灰褐色	精良	良好	内面に釉施す

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
623	形象埴輪 包含層		ヘラ先で沈線の模様を施す。 外面ハケナデ、内面ナデ。	灰褐色	4mm以下の砂礫粒を含む	良	
624 五十一	同上 包含層		ヘラ先で沈線の模様を施す。 内外面ハケナデ。	乳茶灰色	細砂粒を含む	良	
625	円筒埴輪 包含層	タガ 上幅 1.3 下幅 2.7 高さ 1.3	タガ断面は歪んだ台形を成し、側面は凹面をもつ。器壁は薄い。接合痕を有す。 タガ部ヨコナデ、外面ハケナデ、内面ナデ。	乳黄灰色	細砂粒を多量に含む	良	
626	同上 包含層	タガ 上幅 0.8 下幅 1.9 高さ 0.5	タガ断面は歪んだ台形を成し、低く、側面は平坦な面をもつ。 タガ部ヨコナデ、外面ハケナデ、内面ハケナデ後ナデ。	淡茶褐色	微砂粒を少量含む	良	
631 五十二	ミニチュアの壺 包含層	底径 3.8	球形の体部から緩やかに屈曲し口縁部に至る。口縁端部は欠損。体部内面に3ヶ所接合痕を有す。底部は突出しない平底。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面上位一部ヘラミガキ、他ナデ、内面ナデ。	外 淡茶灰色 内 茶灰色	8mm以下の砂礫粒を含む	良	内面に煤付のものが付着
632 五十二	同上 包含層	口径 6.9 器高 7.1 底径 2.9	球形の体部から緩やかに屈曲して直上気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は突出しない平底。 口縁部内外面ナデ、体部外面タタキ、内面ナデ。	暗茶灰色	4mm以下の砂礫粒を含む	良	
633	壺 上層包含層	口径 12.0	体部から屈曲し、上外方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ後ヘラミガキ、体部外面ヘラミガキ・ナデ、内面ナデ。	外 淡灰色 内 暗褐色	3mm以下の砂礫粒を含む	良	
634	小型鉢？ 包含層	底径 3.2	底部は突出しない平底。体部は欠損。 底部内外面剝離の為不明。	外 茶灰色 内 暗灰色	5mm以下の砂礫粒を含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
635 五十二	鉢 包含層	口径 13.6 器高 6.5 底径 7.9	半球形の体部から緩やかに内彎して伸び、そのまま口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は突出気味の平底。 体部内外面ヘラミガキ？、底部外面ナデ、内面ヘラミガキ？。	外 暗灰茶色 内 茶灰色	4㎜以下の砂礫粒を多量に含む	良好	
636 五十二	台付鉢 包含層	口径 16.1 器高 8.9 底径 5.4	半球形の体部から直上して立ち上がる口縁部に至る。端部は鈍く尖る。底部は突出する上げ底。 体部・底部内外面ナデ。	茶灰色	8㎜以下の砂礫粒を含む	良	
637 五十二	鉢 包含層	口径 11.8 器高 10.3 底径 3.4	半楕円形の体部から屈曲し、斜上方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部外面上位に粘土の補強痕をみる。体部外面中位に1ヶ所、頸部内面に1ヶ所接合痕を有す。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ(3本)、内面ヘラナデ、底部ナデ。外面ナデ、内面ヘラナデ。	茶灰色	4㎜以下の砂礫粒を含む	良	
638	同 上 包含層	口径 12.7	張りのない直上気味に内彎して伸びる体部から屈曲し、外上方して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部下位は欠損。 口縁部外面タタキ、内面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ナデ。	暗茶灰色	細砂粒を含む	良	
639	甕 包含層	口径 14.8	体部から鋭く屈曲し、斜上方した後外上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	外 灰褐色 内 淡灰茶色	細砂粒を含む	良	
640	同 上 包含層	口径 15.8	上内方に緩やかに内彎して伸びる体部から鋭く屈曲し、大きく外上方に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。体部内面上位に2ケ所接合痕を有す。 口縁部外面ヨコナデ後タタキ、内面ヨコナデ、体部外面ハケナデ後ヘラナデ、内面ハケナデ。	茶色	4㎜以下の砂礫粒を多量に含む	良	
641	同 上 包含層	口径 12.2	球形と思われる体部から丸く屈曲し、上外方へ外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。底部は欠損。肩部内面に2ヶ所接合痕を有す。 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケナデ、体部外面剝離の為不明、内面ナデ。	外 淡茶色 内 淡茶灰色	細砂粒を多量に含む	やや良	
642	同 上 包含層	口径 18.0	体部から屈曲して斜上方に外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾して凹面をもつ。頸部内面に接合痕を有す。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面タタキ、内面ヘラナデ。	外 茶褐色 内 茶灰色	3㎜以下の砂礫粒を含む	良	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
643	甕 包含層	口径 13.2	上内方へ緩やかに内彎して伸びる体部から屈曲し、斜上方へ外反して伸びる口縁部に至る。端部は外傾する平坦な面をもつ。体部は欠損。 口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ナデ。	外 淡茶灰色 内 乳灰褐色	砂礫粒を多量に含む	良	
644	同上 包含層	底径 4.4	突出気味のくぼみ底の底部から、下位に張りをもつ体部に至ると思われる。体部は欠損。 体部外面タタキ(3本)、下位指頭痕、内面ヘラナデ、底部外面ナデ、内面ヘラナデ。	茶褐色	細砂粒・微砂粒を含む	良好	
645	同上 包含層	底径 4.4	底部は突出するくぼみ底。体部は欠損。 体部外面タタキ、内面ヘラナデ、底部外面ナデ、内面ヘラナデ。	外 淡茶灰色 内 黒褐色	細砂粒を多量に含む	良	黒斑有
646	同上 包含層	底径 4.6	底部は突出気味のくぼみ底。体部は欠損。 底部内外面ナデ。	外 淡茶灰色 内 黒褐色	砂礫粒を含む	良	
647	同上 包含層	口径 13.0	体部から鋭く屈曲し、斜上方へ伸びる口縁部に至る。口縁部は中位で肥厚し、端部も内方へ肥厚する。体部は欠損。 口縁部外面ハケナデ(8本)後ヨコナデ、内面ハケナデ(6本)、体部外面ハケナデ(8本)、内面ヘラ削り。	暗茶灰色	細砂粒を少量含む	良	煤付着
648	坏蓋 (須恵器) 包含層	口径 10.8 器高 4.0 稜径 10.4 天井部高 1.7	丸い天井部から鋭い稜に至り、下外方へ下る口縁部に至る。端部は内傾し凹面をもち、外側で接地する。 内外面回転ナデ。	外 暗灰色 内 灰青色	3mm以下の砂礫粒を含む	良好	
649	坏蓋 (須恵器) 包含層	口径 12.0 稜径 11.6	鋭い稜から下外方へ下る口縁部に至る。端部は外方へ肥厚し、内傾して凹面をもち、外側で接地する。天井部は欠損。 天井部回転ヘラ削り、他内外面回転ナデ。	外 灰色 内 灰白色	細砂粒を少量含む	良好	ロクロ 右方向 灰かぶり
650	同上 包含層	口径 13.2 器高 4.1? 稜径 12.5 天井部高 1.7?	平坦に近い天井部から鈍い稜に至り、下外方へ下る口縁部に至る。口縁部は下位で肥厚し、端部は内傾し平坦な面をもち、外側で接地する。 天井部¼回転ヘラ削り、他内外面回転ナデ。	淡灰色	微砂粒を含む	良好	ロクロ 右方向 灰かぶり

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
651	坏蓋 (須恵器) 包含層	口径 13.3 器高 5.0? 稜径 13.4 天井部高 2.6?	丸い天井部から鈍い稜に至り、垂直に下る口縁部に至る。端部は外方に肥厚し、内傾し平坦な面をもち、外側で接地する。 天井部1/4回転ヘラ削リ、他内外面回転ナデ。	淡灰青色	3㎜以下の砂礫粒を含む	良	
652	同上 包含層	口径 15.0 稜径 13.8	650とほぼ同様。 天井部回転ヘラ削リ、他内外面回転ナデ。	外 淡灰青色 内 淡灰色	3㎜以下の砂礫粒を含む	良好	ロクロ 右方向
653	同上 包含層	口径 15.8 稜径 15.0	鋭い稜から下外方へ内彎気味に下る口縁部に至る。端部は内傾し凹面をもち、外側で接地する。天井部は欠損。 天井部回転ヘラ削リ、他内外面回転ナデ。	暗灰色	細砂粒を少量含む	良好	
654	坏身 (須恵器) 包含層	口径 10.4 立ち上がり 高 2.1 受部径12.6	底体部から外上方に伸びる受部に至る。端部は鈍く尖る。立ち上がりは内傾して伸び、端部は内傾し段をもつ。底体部は欠損。 底体部回転ヘラ削リ、他内外面回転ナデ。	外 暗灰色 内 灰青色	細砂粒を少量含む	良好	
655	無蓋高坏 (須恵器) 包含層	口径 14.2	椀形の坏部から、器肉をやや減じて斜上方に外反気味に伸びる口縁部に至る。端部は丸い。坏部外面中位に1帯(5条)の波状文を有し、その上に凸帯を1条巡らす。脚部は欠損。 内外面回転ナデ。	外 暗灰色 内 淡灰青色	3㎜以下の砂礫粒を含む	良好	
656	有蓋高坏 (須恵器) 包含層	受部径13.6	平坦に近い坏底部から緩やかに内彎して、水平方向に伸びる受部に至る。端部は丸い。立ち上がり、脚部は欠損。 坏底部1/2回転ヘラ削リ、他内外面回転ナデ。	灰色	2㎜以下の粗砂粒を含む	良	ロクロ 右方向
657	壺 (須恵器) 包含層	口径 15.4	口縁部は上外方へ長く外反して立ち上がり、端部は鈍く尖り下方に凸帯を巡らす。体部は欠損。 口縁部内外面回転ナデ。	淡灰色	5㎜以下の砂礫粒を含む	良	
658	皿 (須恵器) 包含層	口径 18.2 器高 2.2?	広く平坦と思われる底部から斜上方へ伸びる口縁部に至る。端部は平坦な面をもつ。 底部外面ナデ、他内外面回転ナデ。	外 乳灰色 内 灰黒色	精良	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
659	朝顔形埴輪 包含層		朝顔型埴輪の頸部の一部。タガ断面は丸味をもつ台形で器壁は厚い。 外面ヨコナデ、内面ナデ。	淡茶灰色	細砂粒を多量に含む	良	
660	同上 包含層		659とほぼ同様。 外面ヨコナデ、内面ナデ。	乳褐色	3㎜以下の砂礫粒を含む	良好	
661	円筒埴輪 包含層	タガ 上幅 0.7 下幅 1.3 高さ 0.9	タガ断面は台形を成し、側面は凹面である。接合痕を有す。 タガ部ヨコナデ、外面ハケナデ、内面ナデ。	乳灰褐色	微砂粒を含む	良好	
662	同上 包含層		器壁はやや薄い。 内外面ハケナデ。	淡赤褐色	2㎜以下の粗砂粒を少量含む	良	

瓦の観察表

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
413 四十二	平瓦 落ち込み8	厚さ 2.0	狭端部面は凹面側に斜方向のヘラ削りを行なう。粘土板を2枚1組による成形。 凹面布目、凸面縄目。	外 灰色 断 乳灰褐色	精良 少量の細砂粒(長石・雲母・石英他)を含む	良	
414 四十二	同上 落ち込み8	厚さ 2.0	端部面は直角に切る。 凹面布目、凸面縄目後板ナデ。	外 淡灰色 断 淡灰白色	精良 わずかに石英・長石他の細砂粒を含む	良好 堅緻	
510 四十七	同上 河川1	厚さ 2.5	広端部面は直角、狭端部面は斜方向に切り取る。 凹面布目、凸面縄叩き目後広端縁に板ナデ、狭端縁に指頭痕。	凹面 灰褐色 凸面 黒灰褐色 断 灰茶褐色	精良 わずかに石英・長石他の細砂粒含む	良好 堅緻	
511 四十七	同上 河川1	厚さ 2.5	広端部面は直角に切る。 凹面布目、凸面縄目。	凹面 灰褐色 凸面 黒灰褐色 断 淡灰色	粗砂粒を含む(長石・石英・チャート他)	良好 堅緻	
512 四十八	同上 河川1	厚さ 1.8	広狭端部面は直角に切り、狭端部面の凹面側は斜方向に切り取る。 凹面布目、凸面縄目。	凹面 暗灰茶色 凸面 灰色 断 淡灰色	少量の砂礫粒を含む(長石・石英他)	良好 堅緻	
513 四十八	同上 河川1	厚さ 2.0	狭端面は直角に切った後、両面側に斜方向の切り取りを行なう。 凹面布目、凸面縄目。	凹面 淡灰色 凸面 灰色 断 淡灰色	8mm以下の砂礫粒を少量含む(長石他)	良好 堅緻	
540 四十九	同上 包含層	厚さ 2.7	胴部中央のみの瓦片で、広端部の両側中央を削り破り凹みを施している。 凹面布目、凸面縄目。	両面 断 } 灰色	少量の細砂粒を含む(長石他)。	良好 堅緻	
614 五十	同上 包含層	厚さ 2.0	胴部のみの破片である。 凹面布目、凸面板ナデ。	両面 断 } 淡灰色	少量の微砂粒を含む	良好	

遺物番号 図版番号	器種 出土地点	(cm) 口径 法量 器高	形態・調整等の特徴	色調	胎土	焼成	備考
615 五十	平瓦 包含層	厚さ 1.8	胴部中央のみの破片である。 凹面布目、凸面ナデ。	外 淡白灰色 内 白灰色	精良	良	
616	同上 包含層	厚さ 1.7	広端面は直角に切った後、凸面側を斜方向の切り取りを行なう。 凹面布目、凸面縄目。	両面断 灰青色	微砂粒を含む	良好 堅緻	
617	丸瓦 包含層	厚さ 1.7	広狭端面は直角に切り取る。 凹面布目、凸面ナデ。	凹面 灰褐色 凸面断 茶灰色	少量の細砂粒を含む	良	
618 五十	平瓦 包含層	厚さ 2.0	胴部中央のみの破片である。 凹面布目、凸面縄目。	両面断 乳灰色	多量の細砂粒を含む(石英・長石他)	良	
619	同上 包含層	厚さ 1.8	広端部は直角に切り、凸面側をやや斜方向の切り取りを行なう。 凹面布目、凸面縄目。	両面断 乳灰色	多量の細砂粒を含む(石英・長石他)	良	
629 五十一	同上 包含層	厚さ 2.0	狭端部は直角に切る。 凹面布目、凸面縄目。	凹面 暗灰褐色 凸面 黒灰色 断 淡茶灰色	砂礫粒を含む(長石・石英他)	良好	
630 五十一	同上 包含層	厚さ 2.1	広狭端部は直角に切り、広端部の凸面側を斜方向の切り取りを行なう。 凹面布目、凸面縄目。	凹面 暗灰褐色 凸面 黒灰色 断 淡茶灰色	細砂粒を含む(長石・石英他)	良好	

第６章　土器胎土中の砂礫観察

第１節　はじめに

土器の表面に見られる砂礫種を裸眼と実体鏡（倍率30倍）によって観察した。表面に見られる砂礫の観察数量をなるべく多くするため、残存片の全体を観察するように心がけ、偶然性をなるべく除去するようにした。例えば、羽曳野丘陵の砂礫層中や石川の川原砂中に結晶片岩粒が認められるが、量的には極めて少量である。紀ノ川の川原砂中には比較的多く含まれる。量的には雲泥の差である。土器全体を裸眼で観察すれば数十個以上認められても、１㎠ぐらいでは全く認められない場合が多くある。土器中の砂礫の採取地を推定する上で、土器全体に１個ぐらいしか結晶片岩粒が認められなくて、結晶片岩分布域で採取された砂礫とは言いがたいが、数十個含まれていれば、結晶片岩分布域で採取された砂礫と言えるであろう。

観察した試料は土器の移動量の基礎となるため、一個体と確認できるもののみである。

観察した岩石種は、花崗岩・閃緑岩・斑糲岩・流紋岩・砂岩・チャート・ホルンフェルス・結晶片岩・蛇紋岩・珪岩・火山ガラスで、鉱物種は、石英・長石・雲母・角閃石・輝石・滑石である。花崗岩片としたものには、石英・長石、石英・雲母、長石・雲母がかみ合った粒も含めた。閃緑岩としたものは、石英・角閃石、長石・角閃石、雲母・角閃石の粒がかみ合ったものである。斑糲岩は、角閃石・長石、輝石の粒がかみ合ったものである。角閃石・長石のかみ合った粒では、量的に角閃石が長石よりも多い場合を斑糲岩とした。鉱物粒の外形から、結晶面がある又は自形である場合は鉱物の含まれる原岩が火山岩と推定され、他形であれば原岩が深成岩と推定されるため、鉱物片については結晶面の有無について注意した。

第２節　類型区分

土器胎土中に含まれる砂礫種構成と砂礫種の特徴から、７類型に区分される。

Ⅰ類型：結晶面が認められない角閃石が多く含まれ、砕屑岩類が含まれない。

Ⅰa類型：花崗岩片・石英粒が裸眼で認められない。

Ⅰb類型：花崗岩片・石英粒が裸眼で認められる。

Ⅱ類型：結晶面が認められる又は自形である角閃石が含まれる。

Ⅱa類型：結晶面が認められる又は自形である石英・石英と柱状の角閃石とがかみ合った粒が含まれる。

Ⅱb類型：結晶面が認められる又は自形である石英・石英と柱状の角閃石とがかみ合った粒・砂屑岩片が含まれない。

Ⅱc類型：流紋岩片・屑砕岩片が含まれる（Ⅱａ類型の条件も含まれる場合がある）。

Ⅱd類型：結晶面が認められる又は自形である輝石が認められる。

Ⅱe類型：結晶片岩が含まれる。

Ⅲ類型：結晶片岩が比較的多く含まれる。

Ⅳ類型：発掘地遺構面の砂礫種構成と砂礫種の特徴が一致又は酷似する。

Ⅴ類型：砂岩片・チャート片が比較的多く含まれる。

Ⅵ類型：Ⅰ類型～Ⅴ類型のいずれの区分にも属さない。

不　能：観察砂礫が細粒である又は量が少なくて類型区分が不能。

以上のように区分した。

第３節　類型の特徴

各類型の砂礫種とその特徴について述べる。

Ⅰａ類型：構成砂礫種は岩石片として、花崗岩・閃緑岩・斑糲岩、鉱物片として石英・長石・黒雲母・角閃石である。花崗岩が含まれる試料はわずかである。色は灰白色で、粒径が１㎜～３㎜で、粒形が角礫である。量はごくわずかである。造岩鉱物は石英・長石からなる。

閃緑岩が含まれる試料はわずかである。色は灰白色で、粒径が１㎜～３㎜で、粒形が角礫、量はごくわずかである。造岩鉱物は石英・角閃石、長石からなる。

斑糲岩が含まれる試料はごくわずかである。色は暗灰色～黒色で、粒形が角礫、粒径が１㎜～４㎜である。量はごくわずかである。造岩鉱物は角閃石・長石からなり長石がわずかである。

石英は無色透明で多くの試料に実体鏡下で認められる。粒形は角礫で、粒径は粗粒～細粒である。量はごくわずかの場合から多い場合まである。長石は白色で、ほとんど全ての試料に含まれる。粒形は角礫で、粒径は細粒～３㎜である。量はごくわずかの場合から多い場合まである。黒雲母はほとんど全ての試粒に量的には大差があるが認められる。色は黒色・金色で、粒形が粒状・板状である。黒色の場合は粒状の場合が多い。粒径は２㎜以下で、量が多い場合からごくわずかの場合まである。角閃石は全ての試粒に認められる。色は黒色・黒褐色で、粒形は角礫である。粒径は細粒～３㎜で、量は多い場合と非常に多い場合とがある。

Ⅰｂ類型：Ⅰａ類型に似るが、花崗岩・石英が量的に多い。石英は裸眼で認められ、粒径は細粒～２㎜で、量がごくわずかの場合から多い場合まである。

Ⅱａ類型：構成砂礫種は岩石片として、花崗岩・閃緑岩・火山ガラス、鉱物片として、石英・長石・黒雲母・角閃石である。花崗岩は多くの試料に認められる。色は灰白色で、粒形は角礫である。粒径は１㎜～４㎜で、量がごくわずか～わずかである。造岩鉱物は石英・長石である。

閃緑岩は全ての試料に含まれる。色は灰白・暗灰色である。細粒～２㎜で、量がごくわずか

～わずかである。造岩鉱物は石英・角閃石・長石である。角閃石は柱状、柱状自形である。火山ガラスはわずかの試料に実体鏡下で認められる。色は無色透明で、粒形は貝殻状である。粒径は細粒～中粒で、量がごくわずかの場合から多い場合までである。石英は無色透明で、全ての試料に認められる。粒形は角礫で、粒径は細粒～1.5㎜で、量は中程度から多い場合までである石英に結晶面が認められる場合、自形である場合がある。長石は全ての試料に認められる。粒形は角礫で、粒径は細粒～１㎜で、量がごくわずかの場合から多い場合までである。黒雲母はわずかの試料に含まれ、含まれる量には差がある。色は金色を示す場合が多く、まれに黒色である。粒形は板状で、粒径は細砂～１㎜で、量はごくわずかの場合から多い場合までである。角閃石は全ての試料に含まれる。粒形は角礫で、粒径は細粒～２㎜で、量は中程度から多い場合までである。角閃石は結晶面が認められる場合、柱状で自形である場合がある。

Ⅱb類型：Ⅱa類型に似るが、閃緑岩粒と結晶面がある石英、又は自形の石英が認められない。

Ⅱc類型：構成砂礫種は岩石片として、花崗岩・閃緑岩・流紋岩・砂岩・チャート・火山ガラス、鉱物片として、石英・長石・白雲母・黒雲母・角閃石・滑石である。花崗岩は多くの試料に認められる。色は灰白色で、粒形は角礫で、粒径が中粒～６㎜である。量はごくわずかの場合からわずかの場合までである。造岩鉱物は石英・長石・黒雲母からなる場合がある。閃緑岩は一試料にのみ認められる。色は灰色で、粒形が亜円礫で、粒径が粗粒で、量がわずかである。造岩鉱物は石英・角閃石からなる。流紋岩はわずかの試料に認められる。色は黒色・茶褐色・淡赤褐色で、粒形が亜角～亜円で、粒径が中粒～２㎜である。量はごくわずか～わずかである。石基はやや玻璃質で、石英の細粒斑晶がある。砂岩はわずかの試料に認められる。色は灰色・淡茶褐色・茶褐色・淡赤褐色・赤褐色で、粒形は角礫・亜円礫で、粒径は細粒～１㎜である。量はごくわずか～わずかである。チャートは多くの試料に認められる。色は灰色・暗灰色・灰黒色・淡茶褐色・淡赤褐色で、粒形は角礫・亜角礫・亜円礫である。亜円礫が多い。粒径は0.5㎜～５㎜で、量がごくわずか～わずかである。火山ガラスはわずかの試料に認められる。色は黒色・無色透明で、粒形は貝殻状・フジツボ状である。黒色透明の場合、フジツボ状をなすものが多い。粒径は細粒～中粒で、量はごくわずかの場合から多い場合がある。

石英は全ての試料に含まれる。色は無色透明で、粒形は角礫が多く、亜角礫はわずかである。粒径は細粒～２㎜で、量が中程度～多い場合がある。一試料であるが結晶面がある石英が認められる。長石はほとんど全ての試料に含まれるが量には差がある。色は淡灰色・白色・無色透明である。粒形は角礫・亜角礫で、角礫が多い。粒径は0.5㎜～２㎜で、量はごくわずかの場合から多い場合までである。白雲母は一試料にのみ認められる。色は無色透明で、粒形は板状である。量はわずかで、粒径は微粒である。黒雲母は半数の試料に含まれる。色は金色の場合が多く、黒色もある。粒形は板状で、粒径は細粒～２㎜で、量はごくわずかである。一試料にのみ

黒色で六角形板状の自形を示す黒雲母が認められる。角閃石は全ての試粒に含まれる。色は黒色で、粒形は角礫・亜角礫であり、角礫が多い。粒径は細粒～中粒で、量はごくわずかの場合から多い場合までである。結晶面がある柱状自形である角閃石が認められる。滑石は一試料にのみ認められる。色は灰白色で絹糸状の光沢がある。粒形は亜円礫で、粒径は4㎜である。量はごくわずかである。

Ⅱd類型：構成砂礫種は岩石片として、花崗岩・結晶片岩・ホルンフェルス・火山ガラス、鉱物片として、石英・長石・黒雲母・角閃石・輝石である。花崗岩は一試料に認められる。色は白色で、粒形は亜円礫である。粒径は細粒で、量がわずかである。造岩鉱物は石英・長石からなる。一試料にのみ認められる。粒形は角礫で、粒径は粗粒である。量はごくわずかである。

ホルンフェルスは一試料のみ認められる。色は暗灰色で、粒形は亜角礫である。粒径は細粒で、量がごくごくわずかである。火山ガラスは一試料にのみ認められる。色は無色透明で、粒形は貝殻状である。粒径は細粒で、量がわずかである。石英は全ての試料に含まれる。色は無色透明で、粒形は角礫である。粒径は細粒～1㎜で、量はわずかの場合から多い場合までである。二試料には結晶面が認められる。長石は全ての試料に含まれる。色は白色・無色透明で、粒形は角礫である。粒径は細粒～1.5㎜で、量はごくわずかの場合から多い場合までである。黒雲母は二試料に認められる。色は金色で、粒形は板状である。粒径は1㎜以下で、量はごくわずかである。角閃石は全ての試料に認められる。色は黒色で、粒形は角礫である。粒径は細粒～2㎜で、量はわずかの場合から多い場合までである。粒状や柱状をなすが、柱状の場合、自形であるものが多い。輝石は全ての試料に認められる。色は黒色で、粒形は角礫である。粒径は細粒～中粒で、量はごくわずかの場合からわずかの場合までである。粒状や柱状をなすが、柱状の場合、自形である場合が多い。

Ⅱe類型：構成砂礫種は岩石片として、流紋岩・砂岩・チャート・結晶片岩・蛇紋岩・火山ガラスであり、鉱物片として、石英・長石・黒雲母・角閃石である。流紋岩は一試料にのみ認められる。色は淡茶灰色で、粒形は亜角である。粒径は粗粒で、量はごくわずかである。砂石は二試料に認められる。色は灰色・淡茶灰色で、粒形は亜角礫・亜円礫である。粒径は中粒から粗粒で、量はわずかである。チャートは二試料に認められる。色は灰色・淡茶灰色で、粒形は角礫・亜円礫である。粒径は中粒・1㎝である。量はごくわずかである。結晶片岩は石英片岩・雲母片岩等で、全ての試料に認められる。色は淡灰色・灰白色・暗灰色・淡茶褐色で、粒形は角礫・亜角礫・亜円礫である。粒径は細粒～1㎜で、量はごくわずか～わずかである。蛇紋岩は一試料にのみ認められる。色は淡緑色で、粒形は亜角礫である。粒径は粗粒で、量はごくごくわずかである。火山ガラスは三試料に認められる。色は無色・無色透明で、粒形は貝殻状である。粒径は細粒～中粒で、量はごくわずかの場合からわずかの場合までがある。石英は全て

の試料に含まれる。色は無色透明で、粒形は角礫・亜角礫である。粒径は細粒～1.5㎜で、量はわずかの場合から中程度まで認められる。一試料にのみ結晶面のある石英が見られる。長石は一試料にのみ認められる。色は白色で、粒形は亜角礫である。粒径は細粒～３㎜で、量はわずかである。黒雲母は二試料に認められる。色は黒色・金色で、粒形は板状である。粒径は微粒～細粒で、量はわずかである。角閃石は全ての試料に認められる。色は黒色で、粒形は角礫・亜角礫である。角礫が多い。粒径は微粒～中粒で、量はごくわずかの場合から多い場合まである。結晶面がある又は柱状自形である角閃石が認められる。

Ⅲ類型：構成砂礫種は岩石片として、花崗岩・流紋岩・砂岩・チャート・結晶片岩、鉱物片として、石英・長石・角閃石である。花崗岩は二試料ともに認められる。色は灰白色で、粒形は角礫・亜角～亜円礫である。粒径は中粒～３㎜で、量はごくわずかの場合からわずかの場合がある。造岩鉱物は、石英・長石、石英・黒雲母からなる。流紋岩は一試料に認められる。色は淡赤褐色で、粒形は角礫である。粒径は３㎜で、量はごくわずかである。石基は玻璃質である。砂岩は一試料に認められる。色は淡茶色で、粒形は亜角礫である。粒径は中粒で、量はわずかである。チャートは一試料に認められる。色は灰白色・暗灰色で、粒形は亜角礫・亜円礫である。粒径は0.5㎜～2.5㎜で、量はわずかである。結晶片岩は石英片岩・泥質片岩で二試料に認められる。色は無色・黒色・暗灰色で、粒形は亜角礫・亜円礫である。粒径は0.5㎜～１㎜で、量はごくわずかである。石英は二試料に認められる。色は無色透明で、粒形が角礫である。粒径は細粒～３㎜で、量は中程度である。一試料には高温型自形の石英が認められる。長石は二試料に認められる。色は白色で、粒形は角礫である。粒径は0.5㎜～1.5㎜で、量がごくわずかの場合からわずかの場合がある。角閃石は二試料に認められる。色は黒色で、粒形は角礫である。粒径は細粒～１㎜で、量はごくわずかの場合からわずかの場合がある。

Ⅳ類型：構成砂礫種は岩石片として、花崗岩・閃緑岩・砂岩・チャート・ホルンフェルス・火山ガラス、鉱物片として、石英・長石・白雲母・黒雲母・角閃石である。花崗岩は多くの試料に認められる。色は灰白色で、粒形は角礫・亜角礫・亜円礫である。亜角礫が多い。粒径は細粒～７㎜で、量はごくわずか～中程度である。造岩鉱物は石英・長石・黒雲母からなる。閃緑岩はごくわずかの試料に認められる。色は暗灰色・黒灰色で、粒形が角礫・亜角礫である。粒径は細粒～粗粒で、量はわずかである。造岩鉱物は石英・角閃石である。砂岩はごくわずかの試料に認められる。色は淡灰色・暗灰色・黒色である。粒形は亜角礫・亜円礫で、粒径は１㎜～４㎜である。量はごくわずかである。チャートはわずかの試料に認められる。色は灰白色・灰色・暗灰色・赤褐色・茶褐色・黒色である。粒形は角礫・亜角礫で、粒径は細粒～６㎜である。量はごくわずかの場合からわずかの場合がある。ホルンフェルスは砂質で一試料にのみ認められる。色は暗灰色で、粒形は角礫である。粒径は中粒で、量はごくわずかである。火山ガ

ラスは無色・黒色透明で、粒形は貝殻状・板状・フジツボ状である。粒径は細粒～中粒で、量はごくわずか～中程度である。石英は全ての資料に含まれる。色は無色透明で、粒形は角礫・亜角礫である。粒径は細粒～3㎜で、量はわずかの場合から多い場合までである。長石はほとんど全ての試料に含まれる。粒形は角礫・亜角礫で、粒径は細粒～4㎜である。量はごくわずかの場合から多い場合までである。白雲母は一試料にのみ認められる。色は無色透明で、粒形は板状である。粒径は細粒～中粒で、量はごくわずかである。黒雲母は多くの試料に認められる。色は黒色・金色で、粒径は微粒～1.5㎜である。粒形は板状で、量はごくわずかの場合から多い場合までである。角閃石は多くの試料に認められる。粒径は細粒～中粒で、粒形は角礫・亜角礫で、量はごくわずかの場合からわずかの場合がある。

Ⅴ類型：構成砂礫種は岩石片として、花崗岩・閃緑岩・流紋岩・砂岩・チャート・ホルンフェルス・火山ガラス、鉱物片として、石英・長石・黒雲母・角閃石である。花崗岩は二試料に認められる。色は灰白色で、粒形は角礫である。粒径は中粒～5㎜で、量はごくわずかの場合からわずかの場合がある。造岩鉱物は石英・長石である。閃緑岩は二試料に認められる。色は黒灰色・暗灰色である。粒形は角礫・亜角礫で、粒径は中粒～粗粒である。量はごくわずかの場合からわずかの場合がある。造岩鉱物は石英・角閃石からなる。流紋石はこ試料に認められる。色は灰白色・灰色で、粒形は亜角礫・亜円礫である。粒径は1㎜～5㎜で、量がごくわずかである。石基は玻璃質で、石英の斑晶がある。砂岩は四試料に認められる。色は暗灰色・茶褐色である。粒形は角礫・亜角礫・亜円礫で、粒径は中粒～4㎜である。量はごくわずか～中程度である。チャートは全ての試料に含まれる。色は灰色・灰白色・暗灰色・茶灰色で、粒形は角礫・亜角礫・亜円礫である。粒径は0.5㎜～5㎜で、量はわずかの場合から多い場合までである。ホルンフェルスは一試料にのみ認められる。色は灰色・黒色で、粒形は角礫・亜角礫である。粒径は細砂粒～1㎜で、量はわずかである。結晶片岩は一試料に1個のみ認められる。火山ガラスは二試料に認められる。色は無色・黒色・茶褐色透明で、粒形は貝殻状・フジツボ状である。粒径は細粒で、量はごくわずか～中程度である。石英は全ての試料に認められる。色は無色・白色透明で、粒形は角礫・亜角礫である。粒径は細粒～2㎜で、量はわずかの場合から多い場合までである。結晶面がある。高温型の自形である石英が三試料に認められる。長石は五試料に認められる。色は白色で、粒形は角礫・亜角礫である。粒径は細粒～2㎜で、量はごくわずかの場合からわずかの場合がある。黒雲母は一資料に認められる。色は金色で、粒形は板状である。粒径は細粒で、量はごくわずかである。角閃石は五試料に含まれる。色は黒色で粒径は細粒～中粒である。粒形は角礫・亜角礫で、量はごくわずかの場合からわずかの場合がある。一試料にのみ結晶面がある角閃石が1個認められる。

Ⅵ類型：Ⅰ類型からⅤ類型のいずれにも属さない試料をまとめた類型であるため、特徴はつ

かめない。

第7表　砂礫による類型区分と器種

器種 / 類型	壷	カメ	鉢	高杯	器台	製塩	合計
Ⅰa	1	39	1				41
Ⅰb		26	1				27
Ⅱa	4	6					10
Ⅱb	2	1		3	1		7
Ⅱc	1	9	1	3			14
Ⅱd		2	1				3
Ⅱe		3			1		4
Ⅲ		2					2
Ⅳ	5	25	5	3	1	1	40
Ⅴ	2	3	1				6
Ⅵ	7	11	3	6	3	1	31
不　能	1	4	3	1			9
合　計	23	131	16	16	6	2	194

第4節　砂礫種構成から推定される砂礫の採取地

土器の出土した小阪合遺跡を中心として、近距離で求められる土器胎土中の砂礫種構成と同じ砂礫の分布を土器胎土中の砂礫の採取地とする。

各類型の砂礫の採取地について述べる。

Ⅰ類型：Ⅰ類型は砕屑岩類を含まず、深成岩類及び、その砕屑片と推定される砂礫からなることから、深成岩類の分布地域で、砕屑岩片の混入しないような地域が推定される。角閃石粒が多いことから角閃石が多く含まれる岩石が分布する地域が推定される。Ⅰa類型は石英が少ないことから斑糲岩の分布地から、Ⅰb類型は石英が多いことから斑糲岩の分布地からわずかに離れた花崗岩の分布地又は比較的多くの角閃石が含まれる閃緑岩の分布地から砂礫が採取されたと推定される。斑糲岩は生駒山を中心に広く分布する。また、角閃石を比較的多く含有する閃緑岩は八尾市服部川付近、大東市から東大阪市の北部にかけての山地部に小規模に分布する。Ⅰa類型の砂礫は生駒山西麓で採取されたと推定される。Ⅰb類型はⅠa類型の砂礫採取地から少し下流へ下った地点か、八尾市服部川付近か、大東市から東大阪市北部にかけての山地部のいずれかで砂礫が採取されたと推定される。

Ⅱa類型：角閃石•石英に結晶面があるか、自形であるものが認められ、閃緑岩中には柱状又は柱状自形の角閃石が認められることから、この砂礫種構成は岡山市足守川流域の加茂遺跡付近の砂礫構成と同じである。よって、Ⅱa類型の砂礫は岡山市北部、加茂遺跡付近で採集されたものである。

Ⅱb類型・Ⅱc類型：Ⅱb類型・Ⅱc類型の砂礫構成は岡山市から赤磐郡にかけて分布する古墳から出土する埴輪の胎土中の砂礫構成に似たものが多い。また、岡山市上東遺跡出土の甕にも同じような砂礫構成のものがある。砂礫の採取地は限定しがたい。

Ⅱd類型：Ⅱd類型は角閃石・輝石が結晶面をもつか又は自形であることから、安山岩・安山岩質凝灰岩が広く分布する地域が推定される。また、砂礫には花崗岩質的要素も認められるため、花崗岩が分布する地域でもある。このような条件を満たす地域としては山陰地方か、讃岐地方が推定される。

Ⅱe類型：Ⅱe類型は結晶面がある又は自形である角閃石・結晶片岩が含まれることから、安山岩・安山岩質凝灰岩と結晶片岩の分布地域が推定される。結晶片岩は三波川帯や三郡変成帯に広く分布することから、Ⅱe類型は山陰地方のいずこかで採取された砂礫であると推定される。

Ⅲ類型：Ⅲ類型は結晶片岩・花崗岩類を含むことから、結晶片岩と花崗岩類の分布域から流出した砂礫であると推定される。条件を満たす地域としては紀ノ川下流域の和歌山市付近が砂礫の採取地と推定される。

Ⅳ類型：Ⅳ類型は発掘地遺構面の砂礫構成と一致又は酷似することから、小阪合遺跡付近で砂礫を採取したと推定される。

Ⅴ類型：Ⅴ類型はチャートが多く含まれ、砂岩も含まれる資料があること、自形の石英が含まれる資料があることから、泉南地方の砂礫の可能性がある。

Ⅵ類型：Ⅵ類型の砂礫採取地は推定できないが、Ⅳ類型の砂礫構成とは異なるため、小阪合遺跡付近以外で採取された砂礫である。

土器胎土中の砂礫を観察した結果、小阪合遺跡付近の砂礫構成と異なる砂礫構成の土器が約8割あることが判明した。また、砂礫の採取地が土器の製作地であるとすれば、搬入土器の器種と砂礫構成には密接な関係があるが、小阪合遺跡付近で製作されたと推定される土器の器種は各種に及ぶ。

第８表　砂礫種の構成

その１

試料番号	岩石														鉱物										器種	類型
	花崗岩		閃緑岩		流紋岩		砂岩		チャート		結晶片岩		火山ガラス		石英		長石		雲母		角閃石		輝石			
	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍		
59	L-×	S ×							L ×						M-×	S □	M-×	S· ×	M-×	S ×		S ×			壷	Ⅳ
60	L-×	L-×													L-○	L-○	L-×	M ×	M ×	M ×					壷	Ⅳ
61									M ×							S ◎		S· □		SS○W		S □			壷	Ⅵ
62	L ×														L-×	L-△	M-△	L-×				S △			壷	Ⅳ
63				L △											L □	L-□E	L □	M-△	M-○	M □	L-○	L-○E			壷	Ⅱa
64	M-×	L-×			L ×										L-△	L-□	L-△		M ×			S ×			壷	Ⅳ
65		L ×		L ×	L-×		L-□	L-△	L-□					S □	L-△	L-△E	M ×					M ×E			壷	Ⅴ
66		L △							L △					S △		L □	S ○	M-□		S-○W		S □			壷	Ⅵ
67	L-□	L-△												M-×	L-△	M □	L-□	L △			M-×	S ×E			壷	Ⅱb
68	L-×	L △	M ×	M ×											L-△	L-□	M ×	M △			M-○	L-○E			壷	Ⅱa
69							L-□	L △	L □	L △				S· ×	M-△	L-△									壷	Ⅴ
70		L △													M-△	L △	L-◎	L-◎		S ×					壷	Ⅵ
71	L-×								L-□						L-△	L-○	M ×		M-×	M-△		M-△			壷	Ⅵ
72	L △								M △						M-□	L-○	M △	M □		S ○W	M-△	S □			壷	Ⅵ
73	L △														M-○	L ○	M-△	M-△	M-□	S ○		S ○			壷	Ⅵ
74									S △					S △	S ○	L-□E	S △			S-□W					壷	Ⅵ
75		M △					M-△	L △	M-×	M △				M-○	M-□	L-□	M-○	M-△		SS×W		M-○E			壷	Ⅱc
76																S ×	L-×	S △			L-○	L-◎			壷	Ⅰa
77	L ×									L ×				M ×	L-×	S □		S· △	M ×	S △		S △			壷	Ⅳ
78	L-△								L-×						M △	S ○	L-△	S □		S ×		S △			壷	Ⅳ
79															M-△	S △		S △	S △	S-◎	SS□	S □			鉢	Ⅵ
80									M △						M ×	M-○	M ×	S ×			M-×	S △			鉢	Ⅳ
81		L ×													S △	L-□	L ×	M-△		S □E					鉢	Ⅵ
82																S ×		S △	SS△	S ×		S □			鉢	不能
83																S △	S △	S △		SS△		S □			鉢	不能
84																SS×		SS×		SS×		SS×E			鉢	不能
85										M △						M □	SS△	S □		S· △		S △			鉢	Ⅳ
86	L-□	L-△					L ×								L-□	M-○	L-△	S △				S ×			鉢	Ⅳ
87				M △										S ○		L ○E	M-△	M ○	M-△	SS△		M-△E			鉢	Ⅱa
88	L △								L-×						M △	L △		S ×			M □	S △E			鉢	Ⅱc
89	L ×															S □		S △		S △		S ×			鉢	Ⅳ
90															M △	L-×	M △	M-□	S △	M-○W		S △			鉢	Ⅵ
91														S △	M △	M-□E	M △				L-○	L-□E		S ×E	鉢	Ⅱd
92								L △	L-×	M-△				S ×	M △	S □	M ×	S ×				S ×			鉢	Ⅴ

裸眼＝裸眼観察による記号：Ｌ＝粒径２㎜以上　Ｍ＝粒径２㎜未満0.5㎜以上　Ｓ＝0.5㎜未満　◎＝量が非常に多い　○＝量が多い　□＝量が中
△＝量が僅か　×＝量がごく僅か　30倍＝実体感の倍率が30倍　実体鏡下での記号：Ｌ＝粒径１㎜以上　Ｍ＝粒径１㎜未満0.5㎜以上　Ｓ＝粒径0.5㎜未満0.2㎜以上
ＳＳ＝粒径0.2㎜未満　量は裸眼と同じ　Ｗ＝白雲母を含む場合、Ｗのついていないのは、全て、黒雲母

試料番号	岩石														鉱物										器種	類型
	花崗岩		閃緑岩		流紋岩		砂岩		チャート		結晶片岩		火山ガラス		石英		長石		雲母		角閃石		輝石			
	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍		
93	L-△	L □							L-△						L-○	L ○	M-□	L □		S △					鉢	Ⅳ
94		L ×														S △	L-○	M ○	L-△	L △	L ○	M-◎			鉢	Ⅰa
95	L ×	L ×													S △	S △	M ○	S ○	M □	M □	M-◎	L-◎			鉢	Ⅰb
96	L △								L-△						M ○	M-◎	M-×			S ×		S ×		S ×	器台	Ⅵ
97	M ×	L ×													SS△	S □	M □	S □			SS×	S △			器台	Ⅵ
98	L ×	M ×							M ×							S ○	M ×	S △	M △	S ×		S △			器台	Ⅳ
99								L △	M ×		M △	L-□		S-△	M ×	M-△						M-×E			器台	Ⅱe
100														M ×	M ×	L-□		M ×		S ×		S-△E			器台	Ⅱc
101														S △		M-△		M-□	SS△			S □			器台	Ⅵ
102																M △E	S △	S □		M ×	SS△	M-○E			器台	Ⅱb
103		M ×							M ×					M △	M ×	S □						S ×			高杯	不能
104	M ×	M ×		M ×										M ×	L-△	M-□E	M ×	M-△		S ×		S △E			高杯	Ⅱa
105																SS○		SS□	SS□	SS○		S-○			高杯	Ⅵ
106															L-△	SS○	M-×	SS□	SS○	S ○	SS□	SS□			高杯	Ⅳ
107									L-□	M □						M ○		S △				S □			高杯	Ⅵ
108									M ×					M-□	M △	S ×		S ×				S ×			高杯	Ⅵ
109																SS○	M △	SS□	SS□	SS□	SS□	SS○			高杯	Ⅵ
110															S ○	S ◎	S ◎	S ◎			M-△	S ○			高杯	Ⅵ
111	L-△								L ×					M ×	M ×	S ×	L-×	S △		S ×		S △E			高杯	Ⅱc
112		M ×							L ×					S ×	L ×	M-□E	M ×	S ×		S ×		S □E			高杯	Ⅱc
113																S □	SS×	S □	SS×	S □		S ○			高杯	Ⅳ
114														S ×	M ×	S △	M △	S ×		S ×		S □E			高杯	Ⅱb
115	L-×	M ×				M ×								M ×	M ×	M-○	L-△	S ×				S △E			高杯	Ⅱb
116																S □		M-△	S □	M-△		S ○			高杯	Ⅳ
117	S ×								S ×							M-○	S □	L-○		M △		S ○			高杯	Ⅵ
118		L △													M △	L □	M-□	L-□				M-×			製塩	Ⅳ
119		M ×													M ○	L ○E	M ○	L □				M-×			製塩	Ⅵ
120				M △		L-△		L ×							M-○	M-○E	S-○	S △				S △			カメ	Ⅵ
121	L-×	L ×								M ×				M-×	M △	M-◎			M ×			S ×E			カメ	Ⅱc
122	L △	L-△													M △	L-△E	M ×	M ×				M-×E			カメ	Ⅱb
123		L ×					S ×							S ×	L-□	M-○	S △	L-○		S ×					カメ	Ⅳ
124	L-△	L ×							M ×						L-○	L-◎	M ×	S ×	M ×	S ×	M ×	S ×			カメ	Ⅳ
125		M ×								S ×				S △	S △	L-○	S △	M-○			S ×	S △			カメ	Ⅳ
126				M △				S □				S △			S □	L ○	S △					M △			カメ	Ⅵ
127				M △					M ○	L □					S ○	L ○E	S △	S △				S △			カメ	Ⅴ
128	L-△	L ×							L-△	L ×					L-○	L-□	M △	M ×		L-×E		S ×E			カメ	Ⅱc

試料番号	岩石														鉱物										器種	類型
	花崗岩		閃緑岩		流紋岩		砂岩		チャート		結晶片岩		火山ガラス		石英		長石		雲母		角閃石		輝石			
	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30 倍	裸眼	30 倍	裸眼	30 倍	裸眼	30 倍	裸眼	30 倍		
129							L ×								L-○	L ○E	L ○	L-□		S ×W					カメ	Ⅳ
130		L-△			L ×			M △	L-△	M ×		M ×			M ×	M △	M ×					S △			カメ	Ⅲ
131															L-○	S ○	L-□	S △		SS△W					カメ	Ⅳ
132	L-□	M △													L △	M-△	L △	S □	S △	M-△		S □			カメ	Ⅳ
133									L ×		M ×				M △	L-□E	L △	M-△	SS△		SS△	M-○E			カメ	Ⅱe
134	L-×	L ×			M ×				M-△						L-□	L-○	M ×	M △				M-×E			カメ	Ⅱc
135															M ×	M-△	L-○	L-△	L ×	L-○	L-○	L-◎			カメ	Ⅰb
136				L ×												M-□	M-△	S-□		S □	M-□	L-◎			カメ	Ⅰa
137															L ×	L-□	L △	L-□		M-□	M-○	L-◎			カメ	Ⅰb
138									L ×	M ×					M △	M-△			M ×	M ×	M △	S △			カメ	Ⅳ
139	L-△	L ×													L-△	L-○	L-△	M ×	M-×	S ×	L-□	M-○			カメ	Ⅰb
140															M △	M-○	M ×	M ×		S ×	M △	S ○			カメ	Ⅰb
141	L-×															S ×	M ×	M ×		M-□	M-○	M-○			カメ	Ⅰa
142	M ×															S △			M-△	M-□	M-○	M-○			カメ	Ⅰa
143		M ×														S ×	L-×	S △	L-×	S △		S ○			カメ	Ⅰa
144	L-△								M ×	M ×					L-○	L-○	M-×	M ×				S ×			カメ	Ⅳ
145	M △									M ×					L ○	L-○	M-○	L □				S □			カメ	Ⅳ
146																S △	L-△	L △	SS○	SS◎	M ◎	S-◎			カメ	Ⅰa
147															M-○	S ○	M-○	S ○	M-△	M-△	M-◎	S ◎			カメ	Ⅰb
148	M ×			L △											L-△	S-△	L-△	M-□		S △	M-○	M-○			カメ	Ⅰb
149	L-△														M ×	S ×	L-△	S △	M-△	M-△	L-○	L-◎			カメ	Ⅰb
150				L △											M-△	S □	M-△	L-△		S △	M-◎	L-◎			カメ	Ⅰb
151	L-□	M-△		L-×											L-△	L-□	M-△	M-×	M △	M ×	M-□	M-□			カメ	Ⅵ
152	L ×	L ×													M-○	S ◎	L-○	S ◎	M □	SS△	M-○	S ◎			カメ	Ⅰb
153	L-×															M ×	L-×	M-△	L-×	L-△	L-○	L-□			カメ	Ⅰa
154	L-×	M ×														L-×	L-△	M ×		M ×	L-○	L-◎			カメ	Ⅰa
155	L-△															L-□	L-□	M-△		M ×	L-△	L-□			カメ	Ⅰa
156	L ×	M ×														S ×	L-△			L-△	L-□	L-□			カメ	Ⅰa
157	L ×														M-△	S ○		S △		SS○		SS○			カメ	Ⅳ
158															M-△	S □	L-□	S □		S □	L-○	L-◎			カメ	Ⅰb
159															M ×	M-□	L-△	L-□		S ×	M-○	M-◎			カメ	Ⅰb
160															S ×	M-△	S △	L-○		S ○	S ○	L-◎			カメ	Ⅰb
161							M ×		M △	M △	M ×		L-×		M ×	M △						M-×E			カメ	Ⅱe
162		M ×														L-△	L-△	L-□	S △	SS×	M-□	L-○			カメ	Ⅰa
163	L-×		M-×													M ×	M-△	M △		S ×	M-○	L-◎			カメ	Ⅰa
164				M ×											M-△	M-○	L-○	M-△		M-△	L-□	L-◎			カメ	Ⅰb

試料番号	岩石														鉱物										器種	類型
	花崗岩		閃緑岩		流紋岩		砂岩		チャート		結晶片岩		火山ガラス		石英		長石		雲母		角閃石		輝石			
	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍		
165																	M ×	M ×		S ×	L-○	L-◎			カメ	Ⅰa
166	L ×		L-×													L ×	M △	L-△	M ×	SS×	L-○	L-◎			カメ	Ⅰa
167		M ×													M ×	M-△	L-×	M-△	M-×	M-△	M □	L-○			カメ	Ⅰb
168																L □	M-△	L △	M-□	L □	SS○	L-◎			カメ	Ⅰa
169				L △												S △		M-△	S ○	S ○	S ○	L-◎			カメ	Ⅰa
170															L △	S △	L △	M-□	M △	M-○		S ○			カメ	Ⅰb
171				L △												M △	L-□	L-○		M-□	L-◎	L-◎			カメ	Ⅰa
172	L-×	L ×														M ×	M-×	M △	M △	M-△	L-□	L-◎			カメ	Ⅰa
173															M □	S ○	L-○	L ○	M-□	S □	M-◎	S ◎			カメ	Ⅰb
174		L △														S ○	L-□	L □	M □	S □	L-◎	L ◎			カメ	Ⅰa
175																S △	M △	L-△	SS○	S ○	S ◎	M-○			カメ	Ⅰa
176		M ×	L-×	M ×												S ×	M ×	S ×	M △	M-△	L-○	L-◎			カメ	Ⅰa
177		L △													M-×	S ○	M △	L □	SS○	S ○	SS○	L ◎			カメ	Ⅰb
178	L ×	L ×													M-○	S ○	M-□	S □	M ○	SS○	SS□	S ◎			カメ	Ⅰb
179	L-×	M-×													L-×	M ×	L-△	M ×			L-○	L-◎			カメ	Ⅰb
180	L-×															M ×		M ×		L-△	L-○	M-○			カメ	Ⅰa
181	L-×	L-×							L-△						M-△	L-○	M ×	M ×	M ×	M-×		S ×			カメ	Ⅳ
182																	M ×	M ×		S ×	M △	L-◎			カメ	Ⅰa
183																L □	L □	L ○	M-□	L □	L-○	L ◎			カメ	Ⅰa
184	L-×	M-×		L ×												M-×	L-□	M-×		M ×	M-○	L-◎			カメ	Ⅰa
185	L-△		L ×													L-△	M △	M-△		S ×	L-○	L-◎			カメ	Ⅰa
186	L-×	L ×		L ×												M ×	M △	M ×		M △	L-○	L-◎			カメ	Ⅰa
187	L ×															S ×	L-×	S ×	M-×	M-△	L-□	M-◎			カメ	Ⅰa
188		L ◎						L-△				L △			M-□	S ×	M-◎	L ○			S □	S ○			カメ	Ⅵ
189	L-×	M ×		M ×											M ×	M-×	M ×	M ×	M-△	S △	L-□	L-◎			カメ	Ⅰb
190	L-△			L ×											M ×	M-△	L-△	M-△	L-△	L-×	L-○	L-◎			カメ	Ⅰb
191	L-×			L ×											M ×	M-△	M ×	M △	L-△	L-△	L-○	M-◎			カメ	Ⅰb
192																S △	S △	S △	S △	S □	L-○	S ◎			カメ	Ⅰa
193																S ×	M-△	L-△	SS□	S △	L-◎	L-◎			カメ	Ⅰa
194	M ×															S △		S △	S ○	S ○	S △	S ○			カメ	Ⅰa
195															M ×		L ×		SS○	M-◎	SS△	M-○			カメ	Ⅰb
196	L-×														M-×	M-×	L-△	S △	M-△	M-△	L-○	L-◎			カメ	Ⅰb
197																L △	S △	S △		S □	SS△	S ○			カメ	Ⅰa
198		M △														S △	M ×	S △	S ○	S ○	S △	L-◎			カメ	Ⅰa
199		L-△			M △	M-×		L-△	L-×					S ×	L-△	M △	M ×	S ×				S ×E			カメ	Ⅱc
200	L-×														L-△	L-□	M ×		M-×	S ×		S □E			カメ	Ⅱb

試料番号	岩石														鉱物										器種	類型
	花崗岩		閃緑岩		流紋岩		砂岩		チャート		結晶片岩		火山ガラス		石英		長石		雲母		角閃石		輝石			
	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍		
201		M ×														S ×						S ×E			カメ	不能
202	L-△		L-×												M ×	M ×	M △	M △	M-×	S △	L-◎	L-◎			カメ	Ⅰb
203	L-×	L ×							L-×	M ×				M-□	L-○	L-○	L-△	M-△	M-×	M-×		S ×			カメ	Ⅳ
204																L-○	M-△	M-□	M-×	M-○	M-◎	L-◎			カメ	Ⅰa
205		L ×													L-△	L-□	L-△	M ×		M-×W		S ×			カメ	Ⅳ
206				L △											L-○	L-□		S △				S ×			カメ	Ⅳ
207															M △	L-□	M □	L-○	SS△	S-○	M-○	L-◎			カメ	Ⅰb
208		L △													M-△	L-○	M-△	M □				S △			カメ	Ⅳ
209		M △		L △		M ×				M △					S ○	L ○	S ○	L-△		M △		S ×E			カメ	Ⅱc
210	M-△			M △													L-□	M □	M-×	S ◎	M-○	M-◎			カメ	Ⅰa
211	L-×	M-×			L-×			L-△	L-△	L-△		L ×			L-○	M-△	L-×	S ×				M ×			カメ	Ⅴ
212																M-×	L-□	M-△	SS◎	S-○	M-◎	M-◎			カメ	Ⅰa
213	L-×	M ×							L-×					S ×	M □	M-□	M ×	S ×		S ×					カメ	Ⅳ
214	L-△	M ×													L-△	M-○E	M ×	M-×				S ×			カメ	Ⅵ
216	L-×					M ×		M ×		M ×					L-○	M-□		S ×			L-×	S ×E			カメ	Ⅱc
217										S △					S ○	L-○	S △	L △	S △	L △	S △	S △			カメ	Ⅳ
218	L-×	M ×													L-□	L-○	L-×	M △				S ×			カメ	Ⅳ
218		L □													M-△	L-□	L-○	L-□				S ×			カメ	Ⅳ
219	L-×	M ×													L-○	M-○	M ×	M ×	L-△	M △		S ×E			カメ	Ⅱb
220		L ×								M ×					L-□	L-◎E	M △	M ×	L-△	M-×					カメ	Ⅵ
221			L ×												M-△	M ×	S △	S ×		M-□	SS○	S ○			カメ	Ⅰb
222	L-△																M ×	M-×	L-△	S ×	L-□	L-◎			カメ	Ⅰa
223																S ×			M-△	S-□	M-□	S-◎			カメ	Ⅰa
224										L ×					S □	L ○		L-△			S △	S □			カメ	Ⅵ
225		L-×			L-×				L-△	L △					L-△	L-□E	M-×	M ×	M ×	L-×					カメ	Ⅵ
226																M ×				SS×		S × E			カメ	不能
227																S ×						S ×			カメ	不能
228												M-△		M △		S △				SS△		S △E			カメ	Ⅱe
229																L-△	M △	S ×	M-×	S ×	M-○	L-○E		S ×E	カメ	Ⅱd
230																M □						M-×E			カメ	不能
231	M ×			L-△											M ×	L-□			M ×	M-×		M-△			カメ	Ⅳ
232		L △	L ×	M △											M-□	L ○E	M-○	L □		M △		S △			カメ	Ⅵ
233		S ×														S ×		S ×		SS×		SS×			カメ	不能
234	L-△		L-△	L-△											M △	M-□E	M △	M △	M-×	S ×	M-△	M-○E			カメ	Ⅱa
235				M-□											S ○	L ○E		L □			SS△	M-○E			カメ	Ⅱa
236		L △		M □												M □E	S □	L ○				M □E			カメ	Ⅱa

試料番号	岩石														鉱物										器種	類型
	花崗岩		閃緑岩		流紋岩		砂岩		チャート		結晶片岩		火山ガラス		石英		長石		雲母		角閃石		輝石			
	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍	裸眼	30倍		
237		M △		L △										S △	S △	L-◯E	S ◯	L-△	SS×			S □E			カメ	Ⅱa
238	L-×			M ×											M-×	M-□E	M-×	S △			M ×	M-□E			カメ	Ⅱa
239	L-×	M ×		L-△											M □	M-□E	M ×	M ×			S-△	M-□E			カメ	Ⅱa
240	L-×		L-×	M ×										M ×	M ×	L-◯E	M-×	S ×			M △	M-□E			カメ	Ⅱa
241		S △										L ×			S ◯	L ◯E	S ◯	L-△	SS×	M ×		M △E	S ×	M-△E	カメ	Ⅱd
242	L-×	L ×										L-×			L-△	M-□E	M ×	L-×			M ×	M-△			カメ	Ⅲ
243	L-×	M-×			L-×			M-×							L-◯	L-◯		L-×			M ×	L ×E			カメ	Ⅱc
244	L-△	L □													L-◯	L ◯	L-◯	L-◯				S △			カメ	Ⅳ
245	S ×	L □		M ×											L □	L-◯	S □	L-□		L △		S △			カメ	Ⅳ
246							L-×	L-×	M △	L-×					L-□	L-◯E	L-△	L-×				M-×			カメ	Ⅵ
247								L ×	S △	L □					S □	L-◯E	S △	L □		S ×		SS×			カメ	Ⅴ
248	L-×	M-×													M-×	M-△			M-□	M-◯		S △			カメ	Ⅳ
249	M ×									M-×					L △	L-×	M-×	L-×	M-×	M-×		S ×			カメ	Ⅳ
250		L-×													L-×	M-×	M-△	M ×	M-×	M-×		M-×E			カメ	Ⅱb
251				L ×											M-◯	L ◯E	M-□	L-△				S ×			カメ	Ⅵ
252																S △	M-×	S △	M-×	M-×	M ◯	M-◯			カメ	Ⅰa

表欄以外に認められる岩石種：斑レイ岩＝試料番号 94,110,149,158,159,160,162,207,222　ホルンヘルス＝試料番号 81,124,126,127,241　蛇紋岩＝試料番号 99　滑石＝試料番号 216
ケイ岩＝試料番号 246

第7章　まとめ

今回の報告は、八尾市が計画した南小阪合土地区画整理事業に伴う事前の発掘調査である。調査は第1章で記述したように4年ないし5年間に分割して行なうこととなり、昭和57年度第1次調査として青山線（A地区）・21号線・22号線の一部・中央線（C－Ⅱ地区）の一部である計画予定地の発掘調査を実施した。今回の調査総面積は約2000㎡を測る。しかし、最大幅6m～最小幅2mと幅が狭く細長いトレンチであるため、遺構の全容を検出できたものはわずかで、ほとんどは調査区外に至る。また一部の地区で拡張した箇所もあるが、遺構の性格・位置付けなど不明瞭な点が多多あった。だが、調査区で出土した遺物はコンテナ約78箱分を数える。

今回の調査で検出した遺構及び遺物は幾分かの時期差はあるが大まかに6時期に分けられる。弥生時代後期・古墳時代前期・古墳時代中期・奈良時代・平安時代・鎌倉時代以降である。この中で最も遺物の出土量が多かったのは古墳時代前期の時期のものである。そしてさらに庄内期新相～布留期古相に位置付けられるA－Ⅲb地区落ち込み7の堆積土内からの出土遺物が今回の調査で出土した遺物の約半数を占めていた。

以下、各時代毎に第1次調査で検出した調査の結果に基づいて、若干の考察を加えてまとめ要約しながら記述したい。

小阪合遺跡の変遷について

弥生時代後期

今回の調査で検出した遺構では最も古い時期であるが、遺物では弥生時代中期に比定されると思われる壺片（519）がA－Ⅱe地区の第5層内より1点を出土しているだけである。

さて、調査地区で検出した弥生時代後期の複元地形は、A－Ⅲ地区と22k～n地区で自然堤防の微高地が形成されている。この東部に位置するA－Ⅳ・A－Ⅴ地区は逆に微低地であると考えられる。西部に位置するA－Ⅰ・A－Ⅱ・21・22a～j地区は第7層下の砂層の著しい堆積をみる幅100m以上になると思われる自然河川が流れていたと推測される。

この時代の人々は、微高地上を生活の場として営まれていたと思われ、土坑・ピット群・溝等の遺構が掘り込まれている。だが、今回の調査では住居址と思われる遺構は検出されなかったが、A－Ⅲ地区で検出したピット群が掘立柱建物や竪穴式住居の削平された柱穴跡ではないかと推測できる。しかし限定された調査区内では規則性のある配列は見出せなかった。

古墳時代前期

この時代は、A－Ⅲ地区の微高地やA－Ⅳ・A－Ⅴ地区の微低地の状況は弥生時代後期から

あまり変化はないが、調査地区の西部に位置する自然河川の流れが砂層の堆積に因って停止している。この自然河川の上面をベースとしてA－Ⅰ地区では井戸・土坑等の遺構を検出している。井戸（ＳＥ１）は用途不明の板材を転用材として使用しているが、精巧に組み合せて構築している。これはこの時期に多い粗末な素掘り井戸と違い、集落の集団に於ける公共的機能をもつ生活用水としての中心的役目であったのではないかと推察されるが、隣接には住居址と考えられる遺構は今回の調査地区内で検出しなかった。

また、A－Ⅲ地区の微高地上では落ち込み７の堆積土内から多量の土器を出土しているが、ここでも同様に住居址と考えられる遺構は検出されなかったが、陸地化した自然河川上や弥生時代後期より安定した微高地上に人々が生活の場としていた可能性が強く、今後の調査で、この時期の集落遺構が検出されるであろう。

古墳時代中期

この時代は、弥生時代後期より安定したA－Ⅲ地区の微高地上で第６層弥生時代後期～古墳時代前期の遺物包含層上面をベースとして遺構が構築されている。遺構は炭・灰等を多量に含む焼土坑状のもの（ＳＫ12・ＳＫ13）や祭祀用に使用されたと思われる土器が出土した土坑（ＳＫ14）等を検出しているが、住居址の遺構は調査地区の微高地上では検出しなかった。

一方、微高地の西部に位置するA－Ⅱ・22地区は弥生時代後期の自然河川が埋没した砂層まで切り込まれた落ち込み状遺構が検出している。これは一時的な氾濫によってできた自然河道ではないかと考えられ、22g・h地区落ち込み10がA－Ⅱ地区で落ち込み２～落ち込み６・ＳＤ17・ＳＤ18に分流したと推測される。

調査地区の東部に位置するA－Ⅳ・A－Ⅴ地区・北西部に位置するC－Ⅱ地区は弥生時代後期からあまり変動もなく、安定した粘土層が堆積し、水田耕作の痕跡も認められないことから、低湿地帯の原野の風景を残していたのではないかと考えられる。

奈良時代～平安時代

この時代に入ると、低湿地帯であったと考えられるA－Ⅳ・A－Ⅴ・C－Ⅱ地区やA－Ⅰ・A－Ⅱ・22a～g地区で検出した古墳時代中期の落ち込み状遺構が埋没したのちの上面で、東西・南北の方向に至る小溝が数条掘り込まれているのが検出した。これは畦畔などの検出は認められないが、農耕作に関連する畝溝もしくは唐鋤による痕跡等の遺構と思われる。当遺跡に於いて農耕が行なわれたのは現在の調査ではこの時期からはじまるものと考えられる。

一方、A－Ⅲ地区の微高地上には古墳時代中期の遺構面とほとんど同一面に於いて、３×２間（ＳＢ２）と２×２間（ＳＢ１）の規模をもつ南北軸の掘立柱建物２棟とこの間に配置している状態で方形の木枠を構築した井戸が検出している。これらのことから判断して、この時期は調査地のA－Ⅲ地区の微高地を地盤として集落が営まれ、これを囲むように東西部の低湿地

帯が稲作等の耕作する生産地域として構成されているようである。

なお、奈良時代にはA－Ⅳ地区で氾濫によってできた河川3が耕作地を切って北流している。平安時代はA－Ⅰ・A－Ⅱ・21地区で河川3と同様に一時的な氾濫によってできた河川1が北流した状態で検出している。これらの2時期の自然河川は堆積した砂層に混入した遺物からみて上流に於いて耕作地とともに集落の一部が破壊されている可能性が考えられる。

鎌倉時代～近世

この時代は、調査地区の全域から東西・南北の方向に至る小溝が数十条掘り込まれているのが検出された。これらは農耕作によって掘り込まれた畝溝もしくは唐鋤による痕跡と考えられる。また、これらの小溝は現在の農地の方向とほぼ重なり合った状態であり、現在の土地区画の位置にほぼ固定されたのがこの時期からと考えられる。それ以後は安定した農耕地としての生産地域で現在に至っているようである。

出土遺物について

今回の調査で出土した遺物の時期は弥生時代中期～近世に至る多種多様の遺物であった。これらの遺物はできる限り実測図の作成を行い、図示するよう努めた。総数は井戸の木枠材を入れると約 700点にのぼる。これらは「第3章　調査の結果」で各時代の各遺構ごとに概説し記載した。また個々の遺物は形態・法量・調整等については「第5章　出土遺物観察表」に一括して掲載した。今回は多量に出土した弥生時代後期～古墳時代前期の土器について記述した。

弥生時代後期～古墳時代前期の土器は、近年、土師器の研究で話題の一つに成り続けている土器である。それは弥生時代から古墳時代へと移行する時期にあたり、文化（生活様式等）の変遷や時間（時代）の空間を埋める一つとして重要な意味をもつものと考えられるからである。

さて、この時期の土器は、既に各地で編年試案が試みられている。それは小林行雄氏『弥生時代土器集成』で行った西之辻遺跡に於ける弥生時代後期の細分案[註1]を先行として、佐原真氏・都出比呂志氏・森岡秀人氏・寺沢薫氏・石野博信氏等の先学諸氏[註2]によって幾つかの細分編年案が提唱されている。本市に於いても米田敏幸氏が『八尾南遺跡』で行った古墳時代前期の土器についての細分編年案[註3]を提唱している。また、近年、大阪近郊は大規模な開発の波が押寄せ、これに伴う発掘調査も数多く実施され良好な資料が増加し、各地域で細分編年案やこの時期についての論考が掲載されているのが散見されるようである。

では、今回の調査で出土した弥生時代後期～古墳時代前期にかけての遺構について記す。

弥生時代後期

ＳＫ23・ＳＫ36・ＳＫ37・ＳＰ31・ＳＤ26・ＳＤ28・ＳＤ109・ＳＤ110等で出土した土器は畿内第Ⅴ様式の形態に見られる様相を持つもので、煮沸用の容器と考えられる甕形土器が最も

多く含まれていた。甕の形態は突出する平底を持ち器壁が厚い。体部は外面荒いタタキ目、内面は指ナデ及びヘラナデによる調整が施されている特徴を持つものがほとんどである。また胎土は生駒山西麓の胎土をもつ搬入土器のものが大半であった。これらの土器は八尾市成法寺遺跡（ＳＷ１・ＳＷ２等の土器群）[註4]・東大阪市北鳥池遺構の下層出土土器[註5]・柏原市船橋遺跡第９トレンチ出土土器等[註6]と類似する資料と考えられる。また、この時期の資料は八尾市の弓削遺跡に於ける共同住宅の建設に伴う発掘調査で溝状遺構内から畿内第Ⅴ様式に類似する土器が完形に近い状態で多量に出土している。さらに当遺跡で実施した第３次調査の271地区の溝（ＳＤ321）からも一括土器[註7]が出土した。だが、これらは殆ど未整理であり、今後の整理作業の進行によって八尾市域に於ける土器の細分編年案の良好な資料となりうると考えられる。[註8]

なお、これらの畿内第Ⅴ様式の甕は庄内式土器に含まれている畿内第Ⅴ様式系の甕と類似し、形態的・技法的には見分けが付き難いのが現状である。よって、今回の調査で検出した遺構の時期については畿内第Ⅴ様式の土器だけを出土したもの、層位的にみて考えられるものを弥生時代後期の時期とし、庄内式～布留式の甕と畿内第Ⅴ様式の土器が共存して出土したものは古墳時代前期（庄内式～布留式）の土器として取扱った。

古墳時代前期

遺構はＳＥ１・ＳＫ１・落ち込み７を検出している。このうちの落ち込み７の堆積土内から庄内式新相～布留式古相に移行すると考える時期の土器が多量に出土した。器種は壺・鉢・鼓形器台・小型器台・高杯・製塩土器・甕等のセット関係を出土しているが、この中で大半を占めるのが煮沸用の容器と思われる甕形土器であった。

では、多量に出土した落ち込み７の出土土器について下記に触れることにする。本文で試みた個々の形態分類をした土器と胎土分析の結果を比較してまとめてみると、

Ⅰａ類型（生駒山西麓）：壺Ｎ類・鉢Ｆ類・甕Ｃ類・甕Ｅ類・甕Ｌ類・甕Ｓ類

Ⅰｂ類型（生駒山西麓の下流）：鉢Ｄ類・甕Ｃ類・甕Ｅ類・甕Ｋ類

Ⅱａ類型（岡山市北部）：壺Ｅ類・壺Ｈ類・鉢Ａ類・高杯Ａ類・甕Ａ類・甕Ｐ類

Ⅱｂ類型・Ⅱｃ類型（岡山市～赤磐郡）：壺Ｃ類・壺Ｎ類・鉢Ｂ類・器台Ｂ類・器台Ｃ類・高杯Ｃ類・高杯Ｄ類・高杯Ｅ類・甕Ａ類・甕Ｃ類・甕Ｄ類・甕Ｆ類・甕Ｉ類・甕Ｒ類・甕Ｓ類

Ⅱｄ類型（山陰地方・讃岐地方）：鉢Ｃ類・甕Ｍ類

Ⅱｅ類型（山陰地方）：甕Ａ類・甕Ｃ類・甕Ｍ類

Ⅲ類型（紀ノ川下流域）：甕Ａ類・甕Ｑ類

Ⅳ類型（在地）：壺Ａ類・壺Ｂ類・壺Ｄ類・壺Ｆ類・壺Ｏ類・鉢Ａ類・鉢Ａ類・鉢Ｃ類・壺Ｅ類・器台Ｂ類・高杯Ａ類・高杯Ｃ類・高杯Ｅ類・製塩土器Ａ類・甕Ａ類・甕Ｃ類・

甕Ｅ類・甕Ｉ類・甕Ｊ類・甕Ｎ類・甕Ｒ類・甕Ｓ類

Ⅴ類型（泉南地方）：壺Ｇ類・壺Ｊ類・甕Ｓ類

Ⅵ類型（小阪合遺跡以外）：壺Ｃ類・壺Ｇ類・壺Ｋ類・壺Ｈ類・壺Ｌ類・壺Ｍ類・鉢Ａ類・鼓形器台Ａ類・器台Ｂ類・高杯Ａ類・高杯Ｂ類・高杯Ｃ類・高杯Ｅ類・製塩土器Ａ類・甕Ａ類・甕Ｃ３類・甕Ｉ類・甕Ｊ類・甕Ｓ類

という結果が得られた。これらの形態分類したものには畿内第Ⅴ様式系（甕Ａ類）・庄内式（甕Ｃ類）・布留式系の甕（甕Ｅ類・甕Ｆ類・甕Ｇ類・甕Ｈ類・甕Ｉ類・甕Ｊ類・甕Ｌ類・甕Ｒ類）・布留式（甕Ｓ類）・酒津式系（甕Ｐ類）・東部瀬戸内系（甕Ｍ類）・山陰系（器台Ａ類・甕Ｑ類）・東海系（甕Ｎ類）などといった形態的特徴をもつ他地域の土器がみられる。それと、胎土分析の結果においても明確に他地域の胎土をもつ土器が含まれていた。胎土分析の結果の統計（観察した土器）によると中河内地域の土器が約55％（在地の土器が約20％、近隣する生駒山西麓の土器が約21％と生駒山西麓の下流が約14％の割合い）を占め、他地域からの搬入土器または粘土の採集地が約45％とほぼ半数近くを含んでいた。この内訳をみると、中部瀬戸内地方の土器が約18％（岡山市から赤磐郡にかけての土器が約11％と岡山市北部の足守川流域付近の土器が約７％の２箇所）と最も多い割合を占め、続いて山陰地方・讃岐地方の土器が約４％、泉南地方の土器が約４％、紀の川下流域の土器が約１％という割合いである（尚、地域は不明であるが当遺跡以外と考えられる土器が約15％と観察不能の土器が約３％である）。

これらの胎土分析の結果で得られた他地域の土器と形態的特徴で判断できる他地域の土器（特に煮沸用の土器である甕が顕著にみられる）と比較してみる。まず、当遺跡が所在する中河内地域の土器には庄内式甕（甕Ｃ類）がある。この庄内式甕は胎土によって３つに分けられる。第１は河内平野に位置する沖積地の胎土をもつ土器と第２は生駒山西麓の胎土をもつ土器とが存在する。第１は当該地に位置するもので在地の土器（Ⅵ類型）と考えられる。第２は近隣地域からの搬入土器又は粘土の採集地で、生駒山西麓（Ｉａ類型）と生駒山西麓の下流（Ｉｂ類型）の２箇所が存在する。この庄内式甕は胎土分析の結果においてほとんどが生駒山西麓の胎土をもち、在地の庄内式甕はごく少量であった。これは庄内式甕の製作地又は粘土（砂礫）の採集地が生駒山西麓であるということが窺える。また、この庄内式甕の時期は、現在の中河内地域の細分編年案によれば庄内式新相に比定されると思われる。八尾市においては「八尾南遺跡」の既往調査で米田氏によって古墳時代前期の細分編年案を試みてⅠ～Ⅴ期に区分している。これによると、Ⅳ～Ⅴ期の庄内式甕に類似するようである。他の資料では当遺跡の南部に接する中田遺跡[註9]（中田１丁目土坑一括土器）や近隣する成法寺遺跡[註4]（ＳＸ３・ＳＸ４出土土器）・東郷遺跡[註10]（第５次のＳＤ９・第16次ＳＫ４）・萱振遺跡[註11]（井戸一括土器）・美園遺跡[註12]（ＣＳＤ313・ＣＳＫ303）などがあげられる。しかし近年の調査において、庄内式土器が増加するにつれ極め

て複雑な様相を兼備えているように思える。

弥生時代後期の畿内第Ⅴ様式の系譜を引く甕Ａ類がある。胎土分析の結果では在地の土器と他地域（岡山市～赤磐郡に分布する）の胎土をもつ土器などが含まれていた。だが、弥生時代後期の時期として記載した遺構内からの畿内第Ⅴ様式の甕は殆どが生駒山西麓の胎土をもつ土器であったが、落ち込み７から出土した甕Ａ類には生駒山西麓の胎土をもつ土器は出土していない。また、この畿内第Ⅴ様式系の甕は各地で庄内式甕に伴って出土している。「八尾南遺跡」では庄内式土器に含む畿内第Ⅴ様式系の甕の量によって時期差がみられると解釈し、庄内式甕の形態の変遷などと合せて細分編年案を提唱している。しかし、当遺跡や各地で出土している庄内式土器と共に出土する畿内第Ⅴ様式系の甕は庄内式土器の細分編年に複雑な要因を持っているようである。

吉備地方（瀬戸内東部）の形態的特徴をもつ土器でいわゆる酒津式系甕（甕Ｐ類）がある。胎土分析の結果では岡山市北部（Ⅱａ類型）の足守川流域付近の胎土をもつ土器であった。また、その他の器種にもⅡａ類型の胎土をもつ土器が多く含まれていた。では、出土した酒津式甕は吉備地方の出土土器の資料と比較してみると、百間川遺跡[註13]や川入・上東遺跡[註14]などの出土土器の新段階のものに類似するようである。

山陰地方の形態的特徴は、口縁部が体部より丸く屈曲し、斜上方へ短く外反した後上外方へ外反するいわゆる複合口縁といわれる土器で、壺Ｆ類と甕Ｑ類がある。この土器は秋里遺跡[註15]・青木遺跡[註16]などの出土土器と類似する資料がみられる。だが、胎土分析の結果は当遺跡の南方に位置する紀の川下流域（Ⅲ類型）という地域などの胎土をもつ土器であった。また、山陰地方に特有の鼓形器台（器台Ａ類）の形態的特徴をもつ土器１点出土している。この鼓形器台は山陰地方の秋里遺跡の編年によると秋里Ⅰ式に類似する資料である。

東海地方の形態的特徴をもつ甕Ｎ類が１点みられる。口縁部が体部から丸く屈曲し、短く彎曲するもので、いわゆるＳ字状口縁甕と呼称する土器である。朝日遺跡の弥生土器編年[註17]では第Ⅵ形式～元屋敷形式に類似する資料と思われるが、胎土分析の結果では在地の胎土で製作されたものであった。

布留式系と思われる甕は、甕Ｅ２類・甕Ｆ類・甕Ｇ類・甕Ｈ類・甕Ⅰ類・甕Ｊ類・甕Ｌ類・甕Ｒ類の形態分類した甕がこれに相当するものと考えられる。これらの甕には形態や調整の技法などに共通性がみられ、布留式甕の形態的特徴が極めて酷似しているようである。これらの甕は布留式甕に関わる系譜を兼備えた土器ではないかと考えられる。この甕は、各地の調査において顕著に出土している。本市では米田氏により布留式甕の系譜を引くものと考え、布留式傾向甕と呼称している。他地域の資料をみると甕Ｃなどと呼称して、庄内式甕と布留式甕の間を埋める形式としている。胎土分析の結果はⅠａ類型・Ⅱｂ類型・Ⅱｃ類型・Ⅳ類型・Ⅵ類型

の胎土をもつ土器がみられ、在地の胎土をもつ土器はごく少量であった。殆どは他地域の胎土をもち、製作地又は粘土の採集地であった。

布留式の形態的特徴をもつ甕S類がある。特徴は丸底で球形した体部より屈曲し内彎しながら上外方へ伸びる口縁部で、端部が内側に肥厚する。体部内面は庄内式甕の系譜を引くものでヘラケズリにより器壁を薄くしているが、体部外面は庄内式甕と違い細かいハケナデ調整よりタタキ目を消しているもので、布留式古相の時期に相当するものである。この布留式甕は八尾南遺跡のV期[註3]・馬場川遺跡T地点出土の土器群[註18]・纒向遺跡の纒向4式[註19]に類似する資料であろう。胎土分析の結果はIa類型・IIb類型・IV類型・V類型・VI類型で各地の胎土をもつものが殆どである。

以上のように、形態的特徴と胎土分析による結果で得られた土器について簡単ではあるが記述してみた。これらは地域色をもつ土器が顕著にあらわれているようである。これは人又は人の集団などの移動に伴って持込まれた土器や当該地で製作された他地域の模倣品土器などがあり、この時期の当遺跡における社会的・文化的要因が他の地域との交流に深く関わりをもつものであろう。特に近隣する生駒山西麓地域や遠方に位置する吉備地方の土器の流動が顕著にみられる。これは当遺跡に位置する中河内地方の遺跡でも同じことが言えるようで、八尾南遺跡・中田遺跡・成法寺遺跡・東郷遺跡・萱振遺跡・美園遺跡・西岩田遺跡などから同様の結果が得られている。しかし、生駒山山脈で阻まれている大和地方（纒向遺跡）では東海地方の土器の割合いが多く、吉備地方の土器の割合いが少ないという結果が得られている。これは中河内地方とは逆のものであり、中河内地方と大和地方とは政治・社会的な要因などに相違が認められる。この点については今後に究明していかなくてはならない課題であろう。

なお、当遺跡で多量に出土した畿内第V様式から布留式にかけての土器は年々増加する開発に伴う発掘調査によって、この時期の資料は各遺跡で増え続けている。当遺跡もその後の調査で多量の土器が出土されている現状である。

また、今回は触れなかったが初期須恵器や韓式系土器などを出土した古墳時代中期の遺物や井戸等から出土した奈良時代の遺物からも良好な資料が出土している。これらについては今後の報告書で記述していきたい。

以上、当遺跡の変遷と出土遺物について記述した。今回の調査は最初の調査で、調査対象地が限られた道路敷面下の細長いトレンチ調査である。したがって、線的な調査での意味合いが強く、各時代の様相も限られた調査成果であったが、特に弥生時代後期から奈良時代にかけての遺構・遺物が多く認められ、当遺跡の様相を知る上で多大な成果を得ることができた。

その後の発掘調査でも数多くの遺構・遺物が検出している現状であり、当遺跡の様相がより明確に成って行くであろう。

註

註１　小林行雄氏「大阪府枚岡市額田町西ノ辻遺跡Ⅰ地点の土器、Ｅ・Ｄ・Ｈ地点」『弥生時代土器集成』資料編１　1958

註２　○佐原真「畿内地方」『弥生式土器集成』本編２　1968

○都出比呂志「古墳出現前夜の集団関係－淀川水系を中心に－」『考古学研究』第20巻４号　1974

○森岡秀人「畿内第Ⅴ様式の編年細分と大師山遺跡出土土器の占める位置」『大師山』所収　1977

○寺沢薫　奈良県教育委員会「大和におけるいわゆる第五様式土器の細別と二・三の問題」『六条山』　1980

○石野博信「奈良県纒向石塚古墳と纒向式土器の評価　－木下正史氏の批評に答える－」『考古学雑誌』第64巻１号　1979

註３　八尾南遺跡調査会『八尾南遺跡』－大阪市電気軌道２号線建設に伴う発掘調査報告書－　1981

註４　八尾市教育委員会「成法寺遺跡」－八尾市光南町１丁目29番地の調査－　1983

註５　大阪府立花園高等学校地歴部「北鳥池遺跡」『河内古代遺跡の研究』　1970

註６　(財)大阪文化財センター「船橋」－大和川環境整備事業柏原地区高水敷整正工事に伴う船橋遺跡試掘調査報告書－　1976

註７　(財)八尾市文化財調査研究会「弓削遺跡(第１次調査)」『昭和59年度事業概要報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告７　1985

註８　(財)八尾市文化財調査研究会「小阪合遺跡(第３次調査)」『昭和58年度事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告６　1985

註９　米田敏幸・奥田尚「土器の胎土分析方法について」『古代学研究』第99巻　1983

註10　八尾市教育委員会「東郷遺跡　第５次調査」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概報　1980・1981年度』1983

註11　大阪府教育委員会「萱振遺跡発掘調査概要Ⅰ」－八尾市緑ケ丘２丁目所在－　1983

註12　(財)大阪文化財センター「美園」－近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書－　1985

註13　岡山県教育委員会「旭川放水路（百間川）改修工事に伴う発掘調査Ⅰ」－岡山県埋蔵文化財発掘調査報告39　1980

註14　岡山県教育委員会「川入・上東」岡山県埋蔵文化財発掘調査報告16　1977

註15　鳥取県教育委員会「鳥取・秋里遺跡Ⅰ」　1976

註16　青木遺跡発掘調査団「青木遺跡発掘調査報告書Ⅲ」　1976

註17　愛知県教育委員会　編集「朝日遺跡Ⅰ（本文篇）」　1982

註18　東大阪市遺跡保護調査会「馬場川遺跡発掘調査報告」　1977

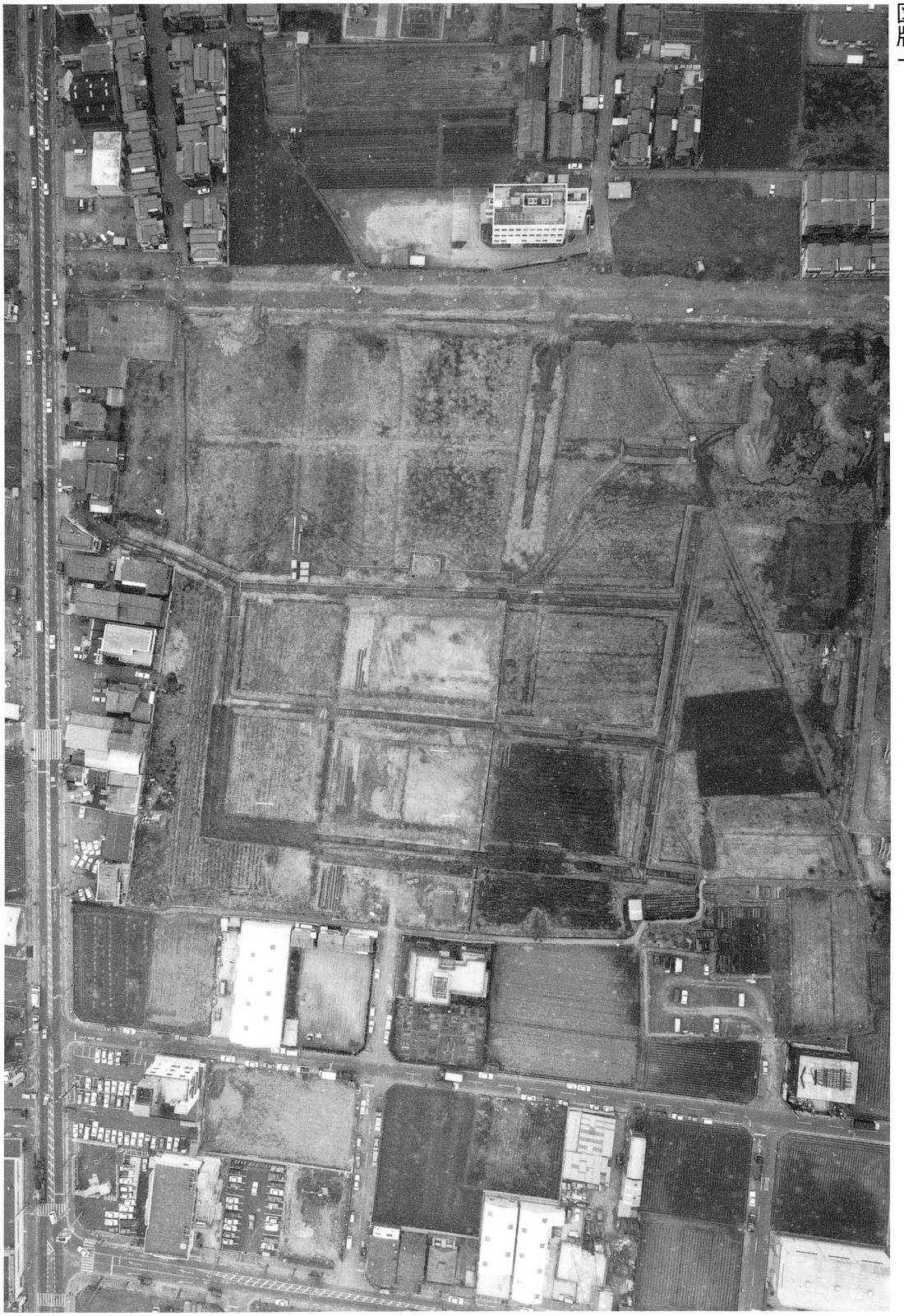
註19　橿原考古学研究所篇（石野博信・関川尚功他）「布留式成立に関わる覚書」『纒向』－奈良県桜井市纒向遺跡の調査－　1976

追　記

この報告書の発行は、諸事情により昭和61年度の印刷発行となり、この間には大阪府教育委員会・八尾市教育委員会・当調査研究会（昭和61年度までに第８次調査が行われている）により発掘調査が実施されている。また、この報告は第２次調査・第３次調査の報告と重なった形で同じ年度に発行することになったのである。

その後の発掘調査で新たな遺構・遺物が検出され、当遺跡の変遷が明白になりつつある状況である。

図　　版



調査地全景（航空写真）

図版二　A－I地区

1．第2調査面（東より）

2．SE1（東より）

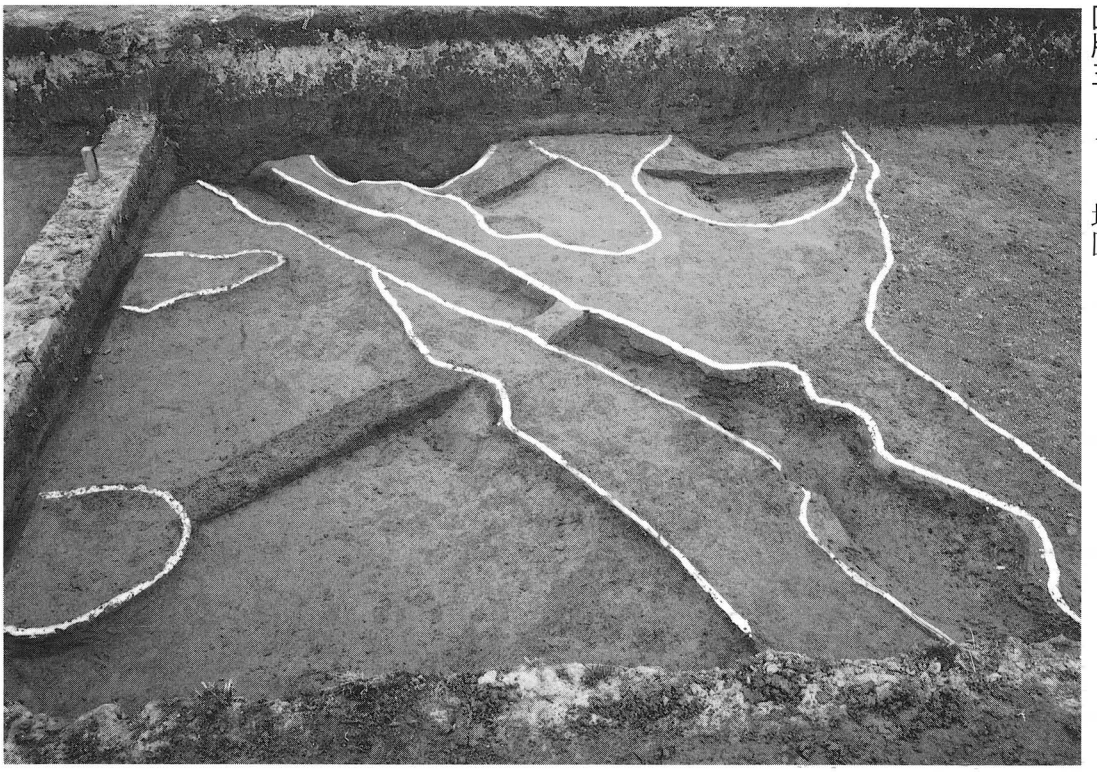
1．ＳＫ２（南より）

2．第１調査面（東より）

図版四　A－Ⅱ地区

1．全景（東より）

2．ＳＤ17（東より）

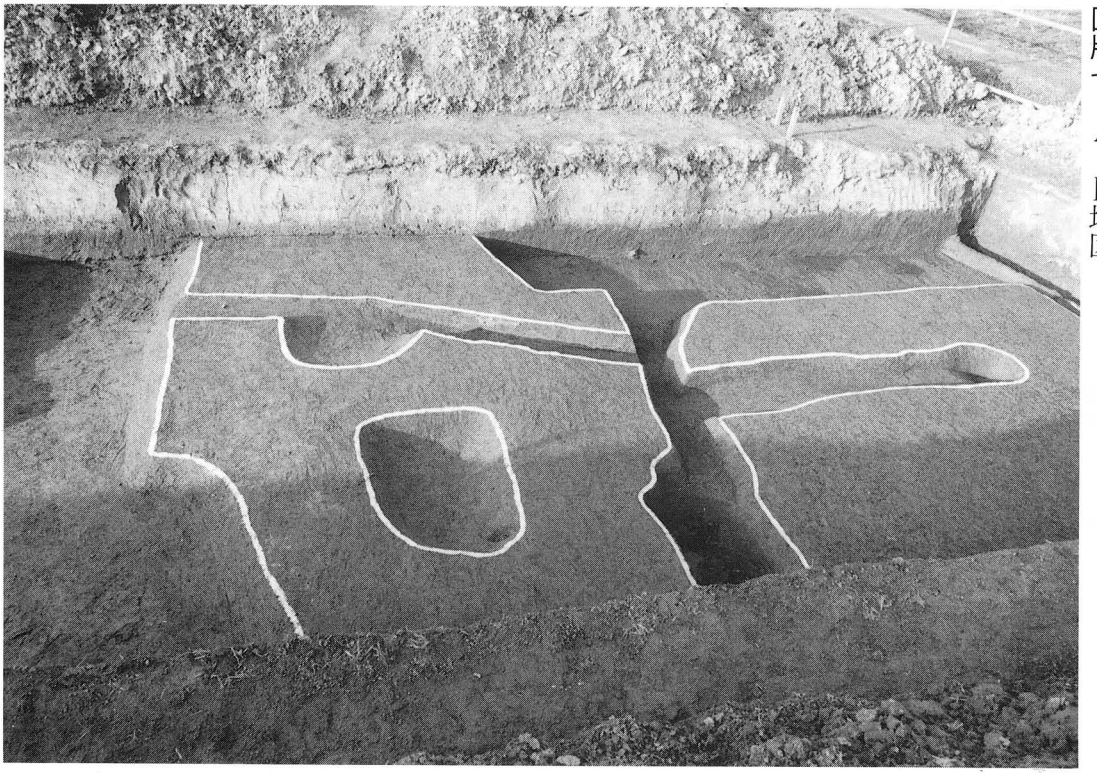


1．SK2・SK3・SD6・SD7・SD8（北より）

2．河川1（北東より）

図版六　A－Ⅲ地区

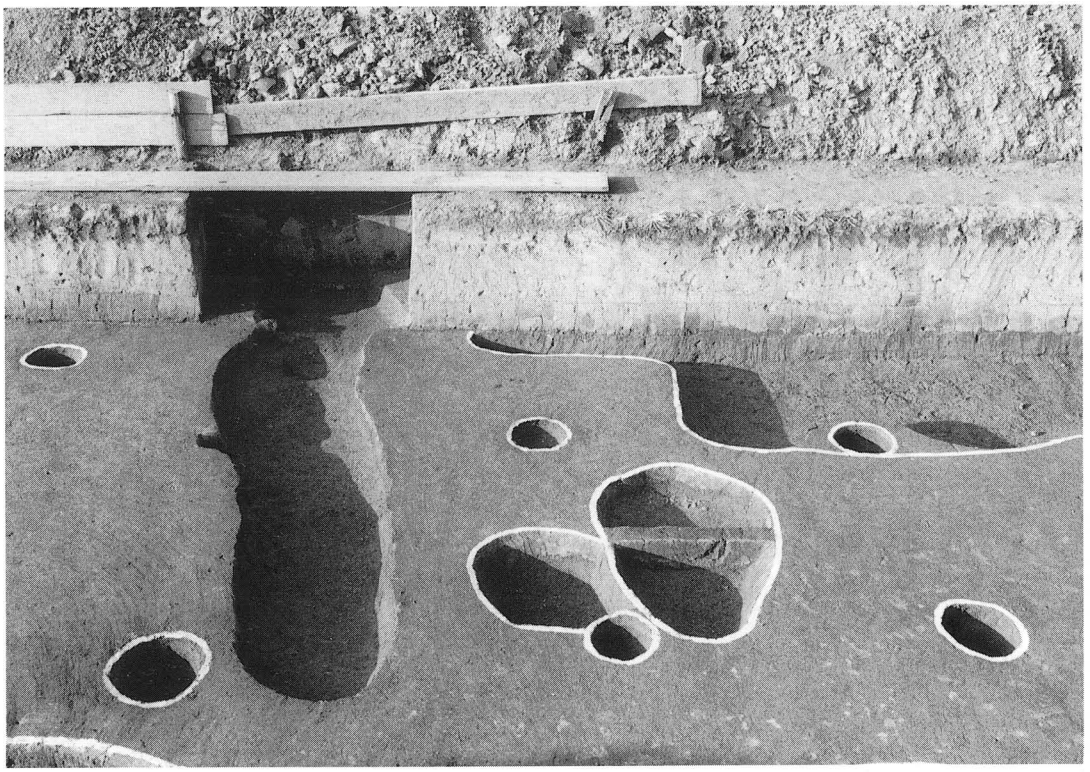
第２調査面全景（東より）



1．h 地区遺構状況（南より）

2．落ち込み 7（東より）

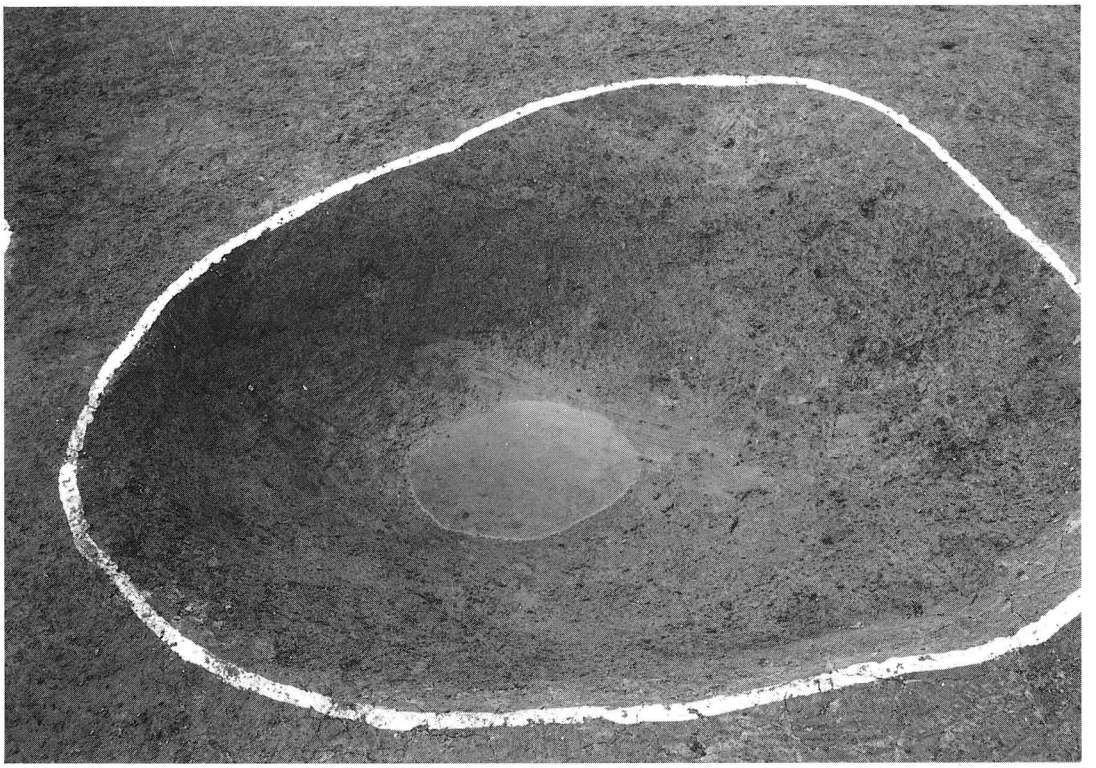
図版八　A－Ⅲ地区



1．e地区遺構状況（南より）

2．第1調査面全景（東より）

1．ＳＫ12（南より）



2．ＳＫ13（東より）